阿見町議会会議録

平成21年第4回定例会

(平成21年12月8日～12月18日)

阿見町議会

平成21年第2回阿見町議会臨時会会議録目次

◎招集告示	1
◎第1号(11月26日)	3
○出席, 欠席議員	3
○出席説明員及び会議書記	3
○議事日程第1号	5
○開 会	6
・会議録署名議員の指名	6
・会期の決定	6
・諸般の報告	6
・議員派遣報告	7
・議案第83号(上程, 説明, 質疑, 討論, 採決)	7
・議案第84号(上程, 説明, 質疑, 討論, 採決)	9
・議案第85号から議案第86号(上程, 説明, 質疑, 討論, 採決)	11
○閉 会	13

第 4 回 定例会

阿見町告示第166号

平成21年第4回阿見町議会定例会を次のとおり招集する。

平成21年12月1日

阿見町長 川 田 弘 二

1 期 日 平成21年12月8日

2 場 所 阿見町議会議場

平成21年第4回阿見町議会定例会

会 期 日 程

日 次	月 日	曜日	開議時刻	種別	内 容
第1日	12月8日	(火)	午前10時	本会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会 ・ 議案上程 ・ 提案理由の説明 ・ 質疑 ・ 委員会付託
第2日	12月9日	(水)	午前10時	本会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般質問
第3日	12月10日	(木)	午前10時	本会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般質問
第4日	12月11日	(金)	午前10時	委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総 務（議案審査）
			午後2時	委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生教育（議案審査）
第5日	12月12日	(土)	休 会		<ul style="list-style-type: none"> ・ 議案調査
第6日	12月13日	(日)	休 会		<ul style="list-style-type: none"> ・ 議案調査
第7日	12月14日	(月)	午前10時	委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業建設（議案審査）
第8日	12月15日	(火)	休 会		<ul style="list-style-type: none"> ・ 議案調査
第9日	12月16日	(水)	休 会		<ul style="list-style-type: none"> ・ 議案調査
第10日	12月17日	(木)	休 会		<ul style="list-style-type: none"> ・ 議案調査
第11日	12月18日	(金)	午前10時	本会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員長報告 ・ 討論 ・ 採決 ・ 閉会

第 1 号

[12 月 8 日]

平成21年第4回阿見町議会定例会会議録（第1号）

平成21年12月8日（第1日）

○出席議員

1番	諏訪原	実	君
2番	久保谷	充	君
3番	川畑	秀慈	君
4番	難波	千香子	君
5番	紙井	和美	君
6番	柴原	成一	君
7番	浅野	栄子	君
8番	藤井	孝幸	君
9番	千葉	繁	君
10番	久保谷	実	君
11番	吉田	憲市	君
12番	天田	富司男	君
13番	小松沢	秀幸	君
14番	倉持	松雄	君
15番	大野	孝志	君
16番	櫛田	豊	君
17番	佐藤	幸明	君
18番	細田	正幸	君

○欠席議員

なし

○地方自治法第121条の規定により説明のため会議に出席した者

町	長	川田弘二	君					
副町	長	大崎誠	君					
教	育	長	青山壽々子	君				
農	業	委	員	会	会	長	小泉由雄	君
総	務	部	長	坪田匡弘	君			
民	生	部	長	横田健一	君			
生	活	産	業	部	長	川村忠男	君	
都	市	整	備	部	長	桑田康司	君	
教	育	次	長	横田充新	君			

消 防 長	瀬 尾 房 雄 君
総 務 課 長	篠 原 尚 彦 君
企 画 財 政 課 長	篠 崎 慎 一 君
農 業 振 興 課 長 兼 農 業 委 員 会 事 務 局 長	大 塚 芳 夫 君
商 工 観 光 課 長	木 内 良 夫 君
都 市 計 画 課 長	菊 池 彰 君
建 設 課 長	浅 野 耕 一 君
水 道 課 長	坪 田 博 君
予 科 練 平 和 記 念 館 整 備 推 進 室 長	湯 原 幸 徳 君
学 校 教 育 課 長	黒 井 寛 君
学 校 教 育 課 副 参 事 兼 学 校 給 食 セ ン タ ー 所 長	柳 生 典 昭 君
生 涯 学 習 課 長	建 石 智 久 君
消 防 警 防 課 長	柏 崎 洋 一 君

○議会事務局出席者

事 務 局 長	小 口 勝 美
書 記	山 崎 貴 之

平成21年第4回阿見町議会定例会

議事日程第1号

平成21年12月8日 午前10時開会・開議

- 日程第1 会議録署名議員の指名について
日程第2 会期の決定について
日程第3 諸般の報告
日程第4 議案第87号 専決処分の承認を求めることについて（損害賠償の額を定めることについて）
日程第5 議案第88号 阿見町長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定について
日程第6 議案第89号 阿見町農業委員会の委員の定数に関する条例の制定について
日程第7 議案第90号 阿見町農業委員会委員選挙区設定条例の制定について
日程第8 議案第91号 阿見町附属機関の設置に関する条例の一部改正について
議案第92号 阿見町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について
議案第93号 阿見町工場誘致条例の一部改正について
議案第94号 阿見町公共施設の暴力団排除に関する条例の一部改正について
議案第95号 阿見町都市公園条例の一部改正について
議案第96号 阿見町立学校給食センターの設置、管理及び運営等に関する条例の一部改正について
議案第97号 阿見町立図書館の設置及び管理に関する条例の一部改正について
議案第98号 阿見町手数料徴収条例の一部改正について
日程第9 議案第99号 平成21年度阿見町一般会計補正予算（第6号）
議案第100号 平成21年度阿見町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）
議案第101号 平成21年度阿見町公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）
議案第102号 平成21年度阿見町土地区画整理事業特別会計補正予算（第3号）
議案第103号 平成21年度阿見町農業集落排水事業特別会計補正予算（第3号）
議案第104号 平成21年度阿見町介護保険特別会計補正予算（第3号）
議案第105号 平成21年度阿見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）
議案第106号 平成21年度阿見町水道事業会計補正予算（第3号）
日程第10 議案第107号 土地の取得について
日程第11 議案第108号 H21地経交第1-1号行政バス購入について

午前10時00分開会

○議長（諏訪原実君） それでは、定刻になりましたので、ただいまから、平成21年第4回阿見町議会定例会を開会します。

ただいまの出席議員は18名で、定足数に達しておりますので、会議は成立しました。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事については、お手元に配付しました日程表によって進めたいと思いますので、御了承を願います。

これより議事に入ります。

会議録署名議員の指名について

○議長（諏訪原実君） 日程第1、会議録署名議員の指名について、本定例会の会議録署名議員は、会議規則第120条の規定によって、

6番 柴原成一君

7番 浅野栄子君

を指名いたします。

会期の決定について

○議長（諏訪原実君） 次に、日程第2、会期の決定についてを議題にします。

本件については、去る12月1日、議会運営委員会が開かれ、協議されましたので、その結果について、議会運営委員会委員長より報告を求めます。

議会運営委員会委員長小松沢秀幸君、登壇願います。

〔議会運営委員会委員長小松沢秀幸君登壇〕

○議会運営委員会委員長（小松沢秀幸君） 会期の決定の件について御報告を申し上げます。

平成21年第4回定例会につきまして、去る12月1日、議会運営委員会を開催をいたしました。出席委員は4名で、執行部から総務課長の出席を得て審議をいたしました。

会期は、本日より18日までの11日間で、日程につきましては、本日、本会議、議案上程、提案理由の説明、質疑、委員会付託。

2日目、12月9日は午前10時から本会議で一般質問、6名。

3日目、12月10日は同じく10時から本会議で一般質問、4名。

4日目、12月11日は委員会で、午前10時から総務常任委員会、午後2時から民生教育常任委員会。

5日目から6日目までは休会で議案調査。

7日目、12月14日は委員会で、午前10時から産業建設常任委員会。

8日目から10日目までは休会で議案調査。

11日目、12月18日は最終日となりますが、午前10時から本会議で、委員長報告、討論、採決、閉会。

議会運営委員会といたしましては、以上のような会期日程を作成をいたしました。各議員の御協力をよろしくお願いを申し上げまして、報告といたします。

○議長（諏訪原実君） お諮りいたします。本定例会の会期は、ただいまの議会運営委員会委員長の報告どおり、本日から12月18日までの11日間としたいと思います。

御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認めます。よって、会期は本日から 12 月 18 日までの 11 日間と決定しました。

諸般の報告

○議長（諏訪原実君） 次に、日程第 3，諸般の報告を行います。

議長より報告いたします。今定例会に提出された案件は、町長提出議案第 87 号から議案第 108 号の 22 件であります。

次に、本定例会に説明員として地方自治法第 121 条の規定により出席を求めた者は、お手元に配付いたしました名簿のとおりです。

次に、閉会中における委員会、協議会等の活動状況は、お手元に配付しました参考資料のとおりです。

次に、平成 21 年度普通建設等事業進捗状況・契約状況報告について、12 月 2 日付で町長から報告がありました。内容はお手元に配付いたしました参考資料のとおりです。

以上で、諸般の報告を終わります。

議案第 87 号 専決処分の承認を求めることについて（損害賠償の額を定めることについて）

○議長（諏訪原実君） 次に、日程第 4，議案第 87 号，専決処分の承認を求めることについて（損害賠償の額を定めることについて）を議題といたします。提案者の提案理由の説明を求めます。町長川田弘二君，登壇願います。

〔町長川田弘二君登壇〕

○町長（川田弘二君） 本日は平成 21 年第 4 回定例会を招集しましたところ，議員の皆様には，公私とも御多用の折にもかかわらず，御出席をいただきまして，ここに定例会が開会できますことを心から感謝申し上げます。

早速であります。議案第 87 号の損害賠償の額を定めることについての専決処分の承認について，提案理由を申し上げます。

本案は，平成 21 年 9 月 26 日午後 3 時 50 分ごろ，阿見町大形 291 番地 2 地先町道第 5314 号線を美浦方面へ走行中，前方からの対向車とすれ違う際，対向車が寄ってきたため左へハンドルを切ったところ，路肩が崩れているところへ左前車輪を落とし，車両に損害を与えたので，地方自治法第 96 条第 1 項第 13 号の規定に基づき，損害賠償の額を定めるものであります。

以上，提案理由を申し上げましたが，慎重審議の上，承認いただきますようお願い申し上げます。

○議長（諏訪原実君） 以上で提案理由の説明は終わりました。

これより質疑に入ります。質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） これをもって質疑を終結いたします。

ただいま議題となっております議案第 87 号については，会議規則第 39 条第 3 項の規定により，委員会の付託を省略することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認め，さよう決定いたします。

これより討論に入ります。討論を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） これをもって、討論を終結いたします。

これより採決いたします。議案第 87 号については、原案どおり承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認めます。よって、議案第 87 号については、原案どおり承認することに決しました。

議案第 88 号 阿見町長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定について

○議長（諏訪原実君） 次に、日程第 5、議案第 88 号、阿見町長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定についてを議題といたします。提案者の提案理由の説明を求めます。町長川田弘二君、登壇を願います。

〔町長川田弘二君登壇〕

○町長（川田弘二君） 議案第 88 号の、阿見町長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定について、提案理由を申し上げます。

本案は、地方自治法第 234 条の 3 及び地方自治法施行例第 167 条の 17 の規定に基づき、物品の借り入れまたは役務の提供を受ける契約で、その性質上、翌年度以降にわたる契約を締結しなければ事務に支障を及ぼすようなものにつきまして、長期継続契約を締結することができる契約に関し、必要な事項を定めるものであります。

以上、提案理由を申し上げましたが、慎重審議の上、議決いただきますようお願い申し上げます。

○議長（諏訪原実君） 以上で提案理由の説明は終わりました。

これより質疑を行います。なお、本案については、委員会への付託を予定しておりますので、質疑は簡潔をお願いいたします。質疑を許します。

18 番細田正幸君。

○18 番（細田正幸君） 長期契約で、今、町長の説明で、複数年にわたるものっていうふうな説明がありましたけれども、阿見町では具体的にどういう例がある、この契約にどういう例があるのか説明をお願いしたいと。で、複数年以上っていうことは、例えば 2 年、3 年、まあ長期だと 10 年でも長期になるわけですけども、具体的にどういう項目がこの条例に適合するのか説明をお願いしたいと思います。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質疑に対する答弁を求めます。総務部長坪田匡弘君。

○総務部長（坪田匡弘君） はい、お答えいたします。

地方自治法のほうではですね、自治法のほうでまず電気、ガス、水の供給、電気、通信等の契約は、長期で契約の締結ができるというふうに盛り込んでございます。それで、今回はその他の政令で定めるものという部分ですけども、まずは、この条例のほうに書いてあります、物品の借り入れ契約、役務の提供等ということで考えています。

具体的に、電算業務ですか、機械の借り入れ、ソフトの借り入れ等、それと、施設の運転管理業務、それから徴収、収納業務などを考えております。

○議長（諏訪原実君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） これをもって質疑を終結いたします。

お諮りします。ただいま議題となっております議案第 88 号については、会議規則第 39 条第 1 項の規定により、お手元に配付しました議案付託表のとおり、所管常任委員会に付託することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認め、さよう決定いたします。

総務常任委員会では、付託案件を審査の上、来る 12 月 18 日の本会議において審査の結果を報告されるよう、お願いをいたします。

議案第 89 号 阿見町農業委員会の委員の定数に関する条例の制定について

○議長（諏訪原実君） 次に、日程第 6、議案第 89 号、阿見町農業委員会の委員の定数に関する条例の制定についてを議題といたします。提案者の提案理由の説明を求めます。町長川田弘二君、登壇願います。

〔町長川田弘二君登壇〕

○町長（川田弘二君） 議案第 89 号、阿見町農業委員会の委員の定数に関する条例の制定について提案理由を申し上げます。

昨今の社会情勢の中で、町も行財政改革を積極的に推進しておりまして、その中で、議員定数の削減や町職員の定数削減、経費・補助金等の削減を行い、健全な行財政運営に努力しているところであります。また、農業情勢の変化に伴う農地面積、農家戸数の減少等が進んでおり、行政に対する町民感情もいろいろな面で見方が厳しくなっております。

そういった社会情勢の変化や行財政改革の流れを踏まえ、農業委員の定数についても見直しをする必要があると判断し、本案は、その定数を削減するため条例を制定するものであります。

以上、提案理由を申し上げましたが、慎重審議の上、議決いただきますようお願い申し上げます。

○議長（諏訪原実君） 以上で提案理由の説明は終わりました。

これより質疑を行います。なお、本案については、委員会への付託を予定しておりますので、質疑は簡潔にお願いをいたします。質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 質疑なしと認めます。これをもって質疑を終結いたします。

お諮りします。ただいま議題となっております議案第 89 号については、会議規則第 39 条第 1 項の規定により、お手元に配付しました議案付託表のとおり、所管常任委員会に付託することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認め、さよう決定いたします。

産業建設常任委員会では、付託案件を審査の上、来る 12 月 18 日の本会議において審査の結果を報告されるようお願いをいたします。

議案第 90 号 阿見町農業委員会委員選挙区設定条例の制定について

○議長（諏訪原実君） 次に、日程第 7、議案第 90 号、阿見町農業委員会委員選挙区設定条例の制定についてを議題といたします。提案者の提案理由の説明を求めます。町長川田弘二君、登壇願います。

〔町長川田弘二君登壇〕

○町長（川田弘二君） 議案第 90 号、阿見町農業委員会委員選挙区設定条例の制定につきまして提案理由を申し上げます。

本案は、議案第 89 号の条例改正に伴い、阿見町農業委員会委員の選挙区の区域及び各選挙区の選挙すべき委員の定数について、条例の改正を行うものであります。

以上、提案理由を申し上げましたが、慎重審議の上、議決くださるようお願いいたします。

○議長（諏訪原実君） 以上で提案理由の説明は終わりました。

これより質疑を行います。なお、本案については、委員会への付託を予定しておりますので、質疑は簡潔をお願いいたします。質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 質疑なしと認めます。これをもって質疑を終結いたします。

お諮りします。ただいま議題となっております議案第 90 号については、会議規則第 39 条第 1 項の規定により、お手元に配付しました議案付託表のとおり、所管常任委員会に付託することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認め、さよう決定いたします。

産業建設常任委員会では、付託案件を審査の上、来る 12 月 18 日の本会議において審査の結果を報告されるようお願いいたします。

議案第 91 号 阿見町附属機関の設置に関する条例の一部改正について

議案第 92 号 阿見町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について

議案第 93 号 阿見町工場誘致条例の一部改正について

議案第 94 号 阿見町公共施設の暴力団排除に関する条例の一部改正について

議案第 95 号 阿見町都市公園条例の一部改正について

議案第 96 号 阿見町立学校給食センターの設置、管理及び運営等に関する条例の一部改正について

議案第 97 号 阿見町立図書館の設置及び管理に関する条例の一部改正について

議案第 98 号 阿見町手数料徴収条例の一部改正について

○議長（諏訪原実君） 次に、日程第 8、議案第 91 号、阿見町附属機関の設置に関する条例の一部改正について、議案第 92 号、阿見町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について、議案第 93 号、阿見町工場誘致条例の一部改正について、議案第 94 号、阿見町公共施設の暴力団排除に関する条例の一部改正について、議案第 95 号、阿見町都市公園条例の一部改正について、議案第 96 号、阿見町立学校給食センターの設置、管理及び運営等に関する条例の一部改正について、議案第 97 号、阿見町立図書館の設置及び管理に関する条例の一部改正について、議案第 98 号、

阿見町手数料徴収条例の一部改正について、以上 8 件を一括議題といたします。提案者の提案理由の説明を求めます。町長川田弘二君、登壇願います。

〔町長川田弘二君登壇〕

○町長（川田弘二君） 議案第 91 号から第 98 号までの条例改正について申し上げます。

まず、議案第 91 号、阿見町附属機関の設置に関する条例の一部改正について申し上げます。

まず、新給食センターの建設に伴い、新給食センター P F I 事業事業者選定審査委員会の設置が必要になったため、別表に加えるものであります。次に、阿見町予科練平和記念館の開館に伴い、予科練平和記念館運営協議会の設置が必要になったため、別表に加えるものであります。次に、阿見町地域福祉計画を策定するために、地域福祉計画策定委員会の設置が必要となったため、別表に加えるものであります。

次に、議案第 92 号、阿見町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について申し上げます。

まず、新給食センター P F I 事業事業者選定審査委員会については、附属機関の設置に伴い非常勤特別職として委嘱するため、別表に加えるものであります。次に、放課後子どもプランコーディネーター及び放課後子どもプラン学習アドバイザーについては、放課後子ども教室事業の開始に伴い非常勤特別職として任用するため、別表に加えるものであります。次に、予科練平和記念館運営協議会委員については、附属機関の設置に伴い非常勤特別職として委嘱するため、別表に加えるものであります。

次に、議案第 93 号、阿見町工場誘致条例の一部改正について申し上げます。

町では、阿見東部工業団地の企業誘致策として、現在、固定資産税相当額を立地奨励金として交付するなどの企業優遇措置を行っておりますが、昨今の経済不況などの影響により、企業進出が鈍化している状況にあります。つきましては、今後とも早期の企業立地を促進すべく新たな優遇措置である雇用促進奨励金を創設するため、今回、条例の一部改正を行うものであります。

次に、議案第 94 号、阿見町公共施設の暴力団排除に関する条例の一部改正について申し上げます。

本案は、予科練平和記念館の開館に伴い、使用を制限する対象施設として予科練平和記念館を加えるものであります。

次に、議案第 95 号、阿見町都市公園条例の一部改正についてであります。

本案は、予科練平和記念館敷地並びに廻戸地区近隣公園を併せて、霞ヶ浦平和記念公園として告示することに伴い、条例の一部を改正するものであります。

改正内容としましては、教育委員会が所管する予科練平和記念館を公園施設として位置づけるとともに、予科練平和記念館の使用料の減免並びに返還については、阿見町予科練平和記念館条例に規定されているため、都市公園条例から適用除外としたものです。また、総合運動公園の有料公園施設にかかる使用料の規定のうち、町内と同額の使用料の区域について、現在の稲敷郡に稲敷市を追加するものであります。

次に、議案第 96 号、阿見町立学校給食センターの設置、管理及び運営等に関する条例の一部改正について申し上げます。

本案は、根拠法である学校給食法の改正があり、引用条項の移動がありましたので、参照条項を改正するものであります。また、阿見町立学校給食センター運営委員会において、町立保育所所長及び保護者代表を委員とするため、運営委員会の定数を改正するものであります。

次に、議案第 97 号、阿見町立図書館の設置及び管理に関する条例の一部改正についてであります。

本案は、図書館の諮問機関である図書館協議会の諮問・具申について、現在の協議会運営に合わせ、図書館長から教育長に改正するものであります。また、協議会委員の委嘱について、委員の構成に合わせ、任命から委嘱に改正するものです。

次に、議案第 98 号、阿見町手数料徴収条例の一部改正について申し上げます。

本案は、危険物の規制に関する政令の改正に伴い、関連する条例を改正するものであります。

改正の主な内容としましては、危険物の位置、構造、設備の許可申請手数料を規定している総務省令の条項整理に伴い、準用している阿見町手数料徴収条例、別表第 2 について整理を行うものであります。

以上、提案理由を申し上げましたが、慎重審議の上、議決くださるようお願い申し上げます。

○議長（諏訪原実君） 以上で提案理由の説明は終わりました。

これより質疑を行います。なお、本案 8 件については、委員会の付託を予定しておりますので、質疑は簡潔をお願いいたします。質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 質疑なしと認めます。これをもって質疑を終結いたします。

お諮りします。ただいま議題となっております議案第 91 号から議案第 98 号については、会議規則第 39 条第 1 項の規定により、お手元に配付しました議案付託表のとおり、所管常任委員会に付託することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認め、さよう決定いたします。

各常任委員会では、付託案件を審査の上、来る 12 月 18 日の本会議において審査の結果を報告されるようお願いをいたします。

議案第 99 号 平成 21 年度阿見町一般会計補正予算（第 6 号）

議案第 100 号 平成 21 年度阿見町国民健康保険特別会計補正予算（第 3 号）

議案第 101 号 平成 21 年度阿見町公共下水道事業特別会計補正予算（第 3 号）

議案第 102 号 平成 21 年度阿見町土地区画整理事業特別会計補正予算（第 3 号）

議案第 103 号 平成 21 年度阿見町農業集落排水事業特別会計補正予算（第 3 号）

議案第 104 号 平成 21 年度阿見町介護保険特別会計補正予算（第 3 号）

議案第 105 号 平成 21 年度阿見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 3 号）

議案第 106 号 平成 21 年度阿見町水道事業会計補正予算（第 3 号）

○議長（諏訪原実君） 次に、日程第 9、議案第 99 号、平成 21 年度阿見町一般会計補正予算（第 6 号）、議案第 100 号、平成 21 年度阿見町国民健康保険特別会計補正予算（第 3 号）、議案第 101 号、平成 21 年度阿見町公共下水道事業特別会計補正予算（第 3 号）、議案第 102 号、平成 21 年度阿見町土地区画整理事業特別会計補正予算（第 3 号）、議案第 103 号、平成 21 年度阿見町農業集落排水事業特別会計補正予算（第 3 号）、議案第 104 号、平成 21 年度阿見町介護保険特別会計補正予算（第 3 号）、議案第 105 号、平成 21 年度阿見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 3 号）、議案第 106 号、平成 21 年度阿見町水道事業会計補正予算（第 3 号）、以上 8 件を一括議題といたします。提案者の提案理由の説明を求めます。町長川田弘二君、登壇願います。

〔町長川田弘二君登壇〕

○町長（川田弘二君） 議案第 99 号から第 106 号の補正予算について、提案理由を申し上げます。

まず、議案第 99 号、一般会計補正予算から申し上げます。

本案は、既定の予算額に 3 億 5,662 万円を追加し、歳入歳出それぞれ 144 億 2,291 万 4,000 円とするものであります。

2 ページの第 1 表、歳入歳出予算補正について、歳入からその主なものを申し上げます。

第 15 款国庫支出金では、次世代育成支援対策施設整備交付金及び子育て応援特別手当交付金を減額する一方、安全安心な学校づくり交付金及び地域活性化・公共投資臨時交付金を新規計上します。

第 16 款県支出金では、放課後児童クラブ整備費補助金を増額。障害者自立支援対策臨時特例交付金及び安心子ども支援事業費補助金を新規計上するものであります。

第 19 款繰入金では、財源を調整するため財政調整基金繰入金を減額。

第 22 款町債では、保育所整備事業債を増額。そのほか学校施設耐震化事業の追加に伴い、学校施設耐震化事業債を新規計上するものであります。

次に、3 ページからの歳出について、その主なものを申し上げます。

第 1 款議会費から第 9 款教育費まで、阿見町職員の給与に関する条例の一部改正に伴い、職員給与関係経費の補正を行うほか、第 2 款総務費では、地域安全対策費で警報システム整備工事を新規計上する一方、選挙費で衆議院議員総選挙及び茨城県知事選挙の事業費確定に伴い、事業費を減額。

第 3 款民生費では、社会福祉総務費で国民健康保険特別会計繰出金を減額する一方、後期高齢者医療特別会計の保険基盤安定納付金繰出金及び介護保険特別会計の介護給付費繰出金を増額。障害者福祉費で障害者介護給付費及び障害者訓練等給付費を増額。児童福祉総務費で子育て応援特別手当を減額。保育所費で保育所整備事業の社会福祉施設整備費補助金を減額する一方、安心子ども支援事業費補助金を新規計上するものであります。

第 4 款衛生費では、塵芥処理費で霞クリーンセンター運営費及び維持管理費の各種委託料を減額。

第 5 款農林水産業費では、農地費で農業集落排水事業特別会計繰出金を減額。

第 6 款商工費では、商工業振興費で阿見東部工業団地企業誘致事業の企業立地奨励金を増額するものであります。

第 7 款土木費では、公共下水道費で公共下水道事業特別会計繰出金を減額。

第 9 款教育費では、小学校管理費及び中学校管理費の学校施設整備事業で阿見小学校及び阿見中学校の学校施設耐震化事業関連の事業費を新規計上するものであります。

次に、5 ページの第 2 表、債務負担行為補正について申し上げます。

維持管理委託料、電算システム、業務委託料などの業務等が平成 22 年 4 月から円滑に進められるよう、3 月までに入札等を執行し契約を締結するため、債務負担行為の期間と限度額を追加設定するものであります。

次に、6 ページの第 3 表、地方債補正については、学校施設耐震化事業債を追加するほか、保育所整備事業債の起債限度額を変更するものであります。

次に、議案第 100 号、国民健康保険特別会計補正予算であります。

本案は、既定の予算額に 6,337 万 5,000 円を追加し、歳入歳出それぞれ 46 億 5,904 万 2,000 円とするものであります。

その主な内容としましては、一般会計と同じく職員給与関係経費の減額を行うほか、一般被保険者高額療養費、後期高齢者支援金及び国庫支出金等返還金を増額する一方、介護納付金を減額するもので、その財源として前年度繰越金を充てるものであります。

3 ページの第 2 表、債務負担行為につきましては、電算システムについて期間と限度額を設定するものであります。

次に、議案第 101 号、公共下水道事業特別会計補正予算であります。

本案は、既定の予算額から 114 万 9,000 円を減額し、歳入歳出それぞれ 22 億 7,776 万 9,000 円とするものであります。

その内容としましては、一般会計と同じく職員給与関係経費の減額を行うもので、その財源については一般会計繰入金を減額するものであります。

3 ページの第 2 表、債務負担行為につきましては、維持管理委託料ほか 2 件について期間と限度額を設定するものであります。

次に、議案第 102 号、土地区画整理事業特別会計補正予算であります。

本案は、既定の予算額から 31 万円を減額し、歳入歳出それぞれ 6 億 9,370 万 9,000 円とするものであります。

その内容としましては、一般会計と同じく職員給与関係経費の減額を行うもので、その財源については不動産売払収入を減額するものであります。

次に、議案第 103 号、農業集落排水事業特別会計補正予算であります。

本案は、既定の予算額から 32 万円を減額し、歳入歳出それぞれ 4 億 4,553 万円とするものであります。

その内容としましては、一般会計と同じく職員給与関係経費の減額を行うもので、その財源については一般会計繰入金を減額するものであります。

3 ページの第 2 表、債務負担行為につきましては、維持管理委託料ほか 1 件について期間と限度額を設定するものであります。

次に、議案第 104 号、介護保険特別会計補正予算であります。

本案は、既定の予算額に 6,973 万 2,000 円を追加し、歳入歳出それぞれ 20 億 4,191 万 6,000 円とするものであります。

その主な内容としましては、一般会計と同じく職員給与関係経費の増額を行うほか、居宅介護サービス給付費、地域密着型介護サービス給付費及び施設介護サービス給付費を増額する一方、介護給付費準備基金積立金を減額するもので、その財源として介護給付費負担金、介護給付費交付金及び介護給付費繰入金を充てるものであります。

4 ページの第 2 表、債務負担行為につきましては、電算システムについて期間と限度額を設定するものであります。

次に、議案第 105 号、後期高齢者医療特別会計補正予算であります。

本案は、既定の予算額に 322 万円を追加し、歳入歳出それぞれ 5 億 8,311 万 4,000 円とするものであります。

その内容としましては、一般会計と同じく職員給与関係経費の減額を行うほか、納付額の確定に伴い、保険基盤安定納付金を増額するもので、その財源として保険基盤安定納付金繰入金を充てるものであります。

3 ページの第 2 表、債務負担行為につきましては、電算システムについて期間と限度額を設定するものであります。

次に、議案第 106 号の水道事業会計補正予算であります。

本案は、水道事業会計予算第 3 条に定めた収益的収入及び支出について、それぞれ 72 万 6,000 円を減額するものであります。

その内容としましては、一般会計と同じく、条例改正に伴い職員給料、職員手当及び法定福利費を減額するものであります。

また債務負担行為につきましては、水道料金等徴収業務外 15 件の期間、限度額を設定するものであります。

以上、提案理由を申し上げましたが、慎重審議の上、議決いただきますよう、よろしく願いいたします。

○ 議長（諏訪原実君） 以上で提案理由の説明は終わりました。

これより質疑を行います。なお、本案8件については、委員会の付託を予定しておりますので、質疑は簡潔にお願いをいたします。質疑を許します。

9番千葉繁君。

○9番(千葉繁君) 一般会計補正予算(第6号)、議案第99号ですけれども、ページが34ページ、35ページ、学校管理費の耐震補強の工事についてなんですけれども、この辺の話は先ほど町長から少し説明ありましたけれども、内容について伺いたいと思います。

○議長(諏訪原実君) ただいまの質疑に対する答弁を求めます。

教育次長横田充新君。

○教育次長(横田充新君) はい、お答えいたします。

耐震補強の場所ということですが、阿見小学校、これが校舎とそれから屋内運動場、体育館になります。これと、それから中学校、阿見中学校でございますが、中学校の校舎一部とそれから屋内運動場、体育館の補強工事です。中学校の校舎一部っていうのは、補助の金額が当初予定より少ないということで全部できないということで、一部を補強するという予定でおります。

以上です。

○議長(諏訪原実君) 9番千葉繁君。

○9番(千葉繁君) そうしますと、阿見小学校はこれで全部完了ができると、耐震化、それから阿見中学校は一部残してできるんだというようなことですね。その回答と、それから工事完了のスケジュールというか、その見込みがあれば、いつごろまでに工事が終わるんだということを伺いたいと。

○議長(諏訪原実君) 教育次長横田充新君。

○教育次長(横田充新君) はい。現在ですね、耐震の設計審査のほうを進めておる段階でございますが、御存じかと思いますが、構造計算、これが指定の事業者が構造計算等を審査していただくということでございまして、これがかなり込んでるということで、現在順番待ちというようなことになっております。ですが、年内には何とかしたいとは思ってますが、この順番もかなり込んでるということで、来年度いっぱいには、来年度中には、この工事は完成したいと。ですから、繰り越しで事業を実施していくような形になるかと思っております。

以上です。

○議長(諏訪原実君) 9番千葉繁君。

○9番(千葉繁君) そうしますと、来年度いっぱいには必ず終わるといふようなことで思っていますので、考えてますので、あの、そういう理解でいいということですね、その辺のどこ、まず一つ回答いただきたいのと、それから、国からの交付金が歳入のほうで出ているようなんですけれども、町の持ち出し、今の現段階でどのくらいになるのか、両方、それぞれお尋ねしたいと。

○議長(諏訪原実君) 教育次長横田充新君。

○教育次長(横田充新君) はい、お答えいたします。

この起債の充当がかなり流動的な部分もございまして。そういうことで、単独費としては2,000万円から8,000万円。かなり幅があるんですが、もともとこれ、国の話では臨時交付金はほとんど町単独部分に充てられるということだったんですが、それがかなり事業の申請が多かったということで、事業費そのものが圧縮されているような状況でございまして。そうことですので、そういう形でちょっと幅がございまして、そういう形になろうかと思っております。

○9番(千葉繁君) それぞれっていうことで。

○議長(諏訪原実君) 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） まず、補助金でございますが、阿見小学校の校舎のほうの耐震補強、これが I s 値 0.3 以上ということで、I s 値っていうのは強度を示す割合でございます。その I s 値コンマ 3 以上の部分については補助率が 2 分の 1 ですから、阿見小学校の校舎の部分については 1 億 5,000 万円ほどですね。それから阿見小学校の体育館、これが I s 値が 0.3 未満ですので補助率が 3 分の 2 ということになります。それで 1,072 万円ほどが補助ということになります。阿見中学校の耐震補強、これ 1 期工事と、全部できませんので 1 期と 2 期に分けてということで、今回は 1 期部分、これが I s 値 0.3 未満ということで補助率が 3 分の 2 ですので 3,000 万円ほど、それから体育館、I s 値がこれも 0.3 未満ですので 3 分の 2 で 2,500 万円ほどを予定しております。

それから、交付金ですが、阿見小学校の校舎の耐震補強につきましては、現在のところ町負担額分の 55% ということで 7,800 万円、それから阿見小学校の体育館が 200 万円、阿見中学校の 1 期工事の校舎の耐震補強分、これが 800 万円、それから体育館、これが 500 万円を予定しております。

それと、起債の部分ですが、阿見小学校の校舎部分については 4,860 万円、それから体育館については 180 万円、中学校の校舎部分について 620 万円、それから阿見中学校の体育館 510 万円を予定しております。

○議長（諏訪原実君） 9 番千葉繁君。

○9 番（千葉繁君） 細かい説明ありがとうございました。まずはですね、この平成 22 年度までに必ず耐震化を終わらせるというようなことで、大変、心配もしているわけですね、地域、通わせる子供を持つ親の考えからすればですね、できるだけ早くやってもらいたいというところがこれまでも望まれてたことなので、平成 22 年度末までには完了するんだということですので、早急をお願いしたいというふうに思います。

○議長（諏訪原実君） ほかに質疑……。

18 番細田正幸君。

○18 番（細田正幸君） 校舎の耐震化について質問しようと思ったんですが、内容はわかりましたので、校舎の耐震工事については、ほかの地域つつうかね、阿見町以外でもいろいろな方法でやっておりますけれども、阿見町の耐震化の構造の補強工事はどういう方法でやるのか、ちょっとお伺いしたいというふうに思います。場所によっては、でっかい鉄骨を窓にバツェンやって、教室の中が暗くなるつつうかね、そういう例も見受けられますので、なるべく校舎の中が暗くなるとかね、外見上、格好悪いかそういうことのないようにやったらいいんじゃないかなというふうに思っているんですけども、その点はどうでしょうか。3 点質問しますんで、それが 1 点。

あと、それから、総務費で防災管理費、警報システム整備工事、14 ページですけども、302 万円とっておりますけれども、この設置する場所、内容について説明をお願いしたいと思います。

あと、それから、もう 1 点ですが、耐震の中でちょっと説明がありましたが、臨時景気対策の交付金ですね、これが圧縮されたっていう説明がありました。で、せんだって、当初は、阿見町に臨時交付金が 1 億 7,400 万円くるっていう話を聞きましたけれども、その後、民主党の仕分け、縮減の中で、国全体で 2 兆 8,000 億円ぐらいですか、縮減されたわけですけども、その中で、阿見町はどういう影響を受けたのか、事業別に概略を説明していただきたいというふうに思います。その 3 点です。

○議長（諏訪原実君） 学校教育課長黒井寛君。

○学校教育課長（黒井寛君） はい、ちょっと工学的な話なので、担当の課長黒井です。説明させていただきます。

現在、いろいろな工法を検討しております、基本的にはアウトフレーム工法といたしまして、建物の中に入らないで外から支えるような形で補強すると、そういう工法はいろんな特許がございます、それぞれの工法の利点、それから短点ですね、だめなところを今、比較検討しているところです。特に、コスト的な問題もありますので、今こんな形でやるというのは明確に申し上げられないんですけども、いながら工法ということで、子供たちが建物を使いながら、外から補強するという形を採用する予定でございます。

○議長（諏訪原実君） 次の、次、答弁。生活産業部長川村忠男君。

○生活産業部長（川村忠男君） それでは、2点目のですね、防災管理費、警報システムの整備工事 302 万円の内容と場所についてお答えをいたします。

これはですね、名称を全国瞬時警報システム、Jアラートというもので、ジャパンアラートという略称なんですけれども、その整備工事費であります。で、この整備につきましては、国の緊急経済危機対策に基づいて、今年度の補正予算において、全国の瞬時の警報システムを全額国費負担、10分の10で全市町村に配備すると、整備をするというものであります。

この内容につきましてはですね、Jアラートという内容につきましては、気象庁から送信される気象情報、それから内閣官房から送信される有事関係情報、それらを人工衛星を介して地方公共団体に送信すると。で、その内容ですね、送信される、伝達させる情報としては、かなり13項目ほどありますけれども、その中で特に、大津波警報あるいは津波警報、それから緊急時の地震速報、これは震度5以上のものと。それから、他国からの弾道ミサイルあるいは航空機の攻撃、それからゲリラ、特殊部隊攻撃ですか、そのほかですね、土砂災害警戒警報、そういった情報を瞬時にですね、各都道府県市町村のほうに送信をすると、配信をするという事業でありまして、これにつきましては、設置場所については、役場内にアンテナとそれから受信機を整備するものであります。

以上であります。

○18番（細田正幸君） それは何、テレビさ映んのどんなふう映るの。

○生活産業部長（川村忠男君） いや、これは受信機でそのままファクスとペーパーでもって送られてくるということであります。

○議長（諏訪原実君） 総務部長坪田匡弘君。

○総務部長（坪田匡弘君） 3点目のですね、国のほうで経済危機対策の交付金等、補正予算で組んだものについて、政権交代があって、かなり減額をされて、町のほうの影響がどうかという御質問にお答えします。

今回、いろいろな交付金、幾つか来ておまして、ちょっとわかりにくい部分があるんですが、まず最初に、麻生政権のときに緊急対策の補正で約15兆円を組んだわけですけども、そのときに町の、地方にですね、経済危機対策臨時交付金として配分するものということで、町で要求をして額が決まったものは、9月に補正予算を組みました。金額で約1億7,000万円ほどだったんですけども、その経済危機対策臨時交付金の市町村分、地方分については、今回、政権交代で国のほうで補正予算を見直した減額には入らない、影響を受けないというふうな情報を得ております。ですので、1億7,000万円近くですか、約1億7,000万円分の町で配分を受けたものは執行できるというふうに理解をして、今、その事務作業を進めております。

それで、今回の、先ほど学校の耐震化の部分で見直し等があったというようなお話の分は、今回の補正予算で上げております、ページで9ページにあります、款の15の国庫支出金の4の教育費国庫補助金のうち、小学校費補助金と中学校費補助金の中の地域活性化公共投資臨時交付金と、ちょっと名称が似ているのでわかりにくいかと思っておりますけれども、この交付金のことでございます。で、この交付金は

ですね、町が学校の建て替え、耐震化をやる場合に、通常の補助金がございますけれども、補助金は補助率が、例えば2分の1とか3分の1とか決まっています。で、それ以外は町が負担をしなければ、自主財源でやらなければいけないんですけども、その自主財源の部分に、ある程度補てんをしますというものです。ですから、通常決まった補助金のほかにも補助金をあげますよという部分が、この地域活性化公共投資臨時交付金というものでございます。ここの部分が多少流動的だというお話でございます。

ですので、最初に戻りますと、緊急対策で最初、国で補正予算を上げて、それで政権交代で3兆円近くを減額した部分に関して、最終的に町のほうに配分が決まったものには影響がないということでございます。

○議長（諏訪原実君） 8番藤井孝幸君。

○8番（藤井孝幸君） 議案の第104号、特会の介護保険ですね。これ私の付託案件ですけども、簡単に質問させていただきます。

今、介護施設で、処遇改善で総収入と人員とかいろいろ報告すれば、数字はちょっと定かでないけれども3%ぐらい交付金が国保連からいただけるという制度が、今あるんですね、処遇改善で、それは3年間の期間限定なんです。これと、ここにある特会の介護給付金との関係があるのかなのか、それだけちょっとお伺いします。

○議長（諏訪原実君） 民生部長横田健一君。

○民生部長（横田健一君） お答えをいたします。

今回の補正につきましては、やはり介護給付費の増ということでございます。これ、あの、当然、介護認定をされておる方が利用された、利用する率も当然増えておりますし、認定されている人も増えているというような状況から、給付の増ということになっております。当然、その中に給付費も、報酬が改定見込まれたということですので、その分も含まれているというようなことでございます。

○議長（諏訪原実君） 8番藤井孝幸君。

○8番（藤井孝幸君） それはわかっているんですけども、今、処遇改善でね、介護員、例えばヘルパー、こういう人たちの待遇が極めて給料が悪いということで、そこを処遇改善策として国が手当をしますと、請求すれば、期間限定で、しますという中で、これとそれとの関係があるのかという。直接施設に金が流れるんですよ、請求すれば。だけど、これは町は全く関係のない給付ですよ。そこだけ、私、ちょっと確認したかったんですよ。

○議長（諏訪原実君） 民生部長横田健一君。

○民生部長（横田健一君） はい、お答えいたします。

直接その介護事業に携わっている職員の待遇の改善ということについては、その事業者が直接国のほうに申請して、その手当をいただくというようなことでございます。ですから、今回この介護給付費のほうとは直接の関係はないということでございます。

○8番（藤井孝幸君） わかりました。

○議長（諏訪原実君） ほかに質疑ありませんか。

11番吉田憲市君。

○11番（吉田憲市君） 議案の99号、最後のページになるんですが、給食センターの整備事業費で、新給食センターPFI事業事業者選定委員会委員報酬というのがあるんですが、先ほどの92号にも出てきたんですけども、PFI事業で新給食センターをつくるというのは、阿見町にとっては新しい事業かなというふうに、新しい方式かなとは思いますが、このPFI事業で選定委員会の報酬を決めるということは、ある程度、計画的にも進捗しているんじゃないかと思えますんで、このPFI事業で新給食センターをつくる内容を、今後の町の進め方とかそういうものがわかれば、説明をお願いしたいと思います。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質疑に対する答弁を求めます。

教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） はい、お答えいたします。

P F Iでございますが、現在 21 年度に P F I のアドバイザー契約を進めております。そういう中で、21 年、22 年にこのアドバイザー契約をいたしまして、事業を進めているということでございます。現在の給食センターの状況ですが、用地の買収は完了してございます。それで、P F I につきましては、この P F I の委員会につきましては、P F I 法の 8 条に基づきまして、事業者を選定するに当たっては、きちんとした評価をなさいということがございますので、その選定委員会を新たに設置するものでございます。それで、本年度中に業者選定の基準を決定しまして、来年、その公募を予定しております。来年公募をいたしまして、それをこの委員会で裁定していただくということで、現在は予定どおり進んでおりまして、25 年度の 4 月開設を目指して進めているところでございます。

以上でございます。

○議長（諏訪原実君） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） これをもって質疑を終結いたします。

お諮りします。ただいま議題となっております議案第 99 号から議案第 106 号については、会議規則第 39 条第 1 項の規定により、お手元に配付しました議案付託表のとおり、所管常任委員会に付託することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認め、さよう決定いたします。

各常任委員会では、付託案件を審査の上、来る 12 月 18 日の本会議において審査の結果を報告されるようお願いをいたします。

議案第 107 号 土地の取得について

○議長（諏訪原実君） 次に、日程第 10、議案第 107 号、土地の取得についてを議題といたします。提案者の提案理由の説明を求めます。町長川田弘二君、登壇願います。

〔町長川田弘二君登壇〕

○町長（川田弘二君） 議案第 107 号の土地の取得について提案理由を申し上げます。

本案は、まちづくり交付金事業の採択を受けて整備を実施している都市計画道路荒川沖・寺子線の事業用地を取得するものであり、地方自治法並びに議会の議決に付すべき契約及び財産の取得または処分に関する条例の規定により、議会の議決を求めるものであります。

概要につきましては、お手元に配付いたしました概要書のとおりであります。

以上、提案理由を申し上げましたが、慎重審議の上、議決いただきますようお願い申し上げます。

○議長（諏訪原実君） 以上で提案理由の説明は終わりました。

これより質疑を行います。なお、本案については、委員会の付託を予定しておりますので、質疑は簡潔をお願いいたします。質疑を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 質疑なしと認めます。これをもって質疑を終結いたします。

お諮りします。ただいま議題となっております議案第 107 号については、会議規則第 39 条第 1 項の規定により、お手元に配付しました議案付託表のとおり、所管常任委員会に付託することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認め、さよう決定いたします。

産業建設常任委員会では、付託案件を審査の上、来る 12 月 18 日の本会議において審査の結果を報告されるようお願いをいたします。

議案第 108 号 H21 地経交第 1-1 号行政バス購入について

○議長（諏訪原実君） 次に、日程第 11、議案第 108 号、H21 地経交第 1-1 号、行政バス購入についてを議題といたします。提案者の提案理由の説明を求めます。町長川田弘二君、登壇願います。

〔町長川田弘二君登壇〕

○町長（川田弘二君） 議案第 108 号、H21 地経交第 1-1 号行政バス購入について申し上げます。

本案は、取得してから 18 年を経過し老朽化した平成 3 年式の行政バスについて、買い替えを行い、阿見町役場に配置するものでありますが、地方自治法並びに議会の議決に付すべき契約及び財産の取得または処分に関する条例の規定により、議会の議決を求めるものであります。

概要につきましては、お手元に配付いたしました概要書のとおりであります。

以上、提案理由を申し上げましたが、慎重審議の上、議決いただきますようお願い申し上げます。

○議長（諏訪原実君） 以上で提案理由の説明は終わりました。

これより質疑を行います。なお、本案については、委員会の付託を予定しておりますので、質疑は簡潔をお願いいたします。質疑を許します。

9 番千葉繁君。

○9 番（千葉繁君） 内容については大変いいと思います。それでね、私 2 つほど、要望になってしまいかもしれませんが、考えているならば、御答弁をいただきたいと思います。

まず 1 点は、皆さんも御存じかもしれませんが、いろんなところで行政バス走っていますよね。それには、かなり外装について、塗料、模様それから広告なんていうのを外側に入れてますね、その辺のところ、阿見町を PR できるような、そういった外装に外観にしていってほしいというふうに思います。ですから、その辺のとお考えであれば、お尋ねをしたいと思います。

それから、使用についてなんですけれども、これ、いろんなところでご意見が出されてまして、なかなか使用条件が厳しくて使いづらいというようなお話が出てます。せっかくなのでいいバスを取り入れるわけですから、できるだけ多くの方々に使っていただけるような、そういった条件の緩和というものも少し考えていただきたいというふうに思います。

その辺、お考えがあるならばお聞かせいただきたいと思います。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質疑に対する答弁を求めます。

総務部長坪田匡弘君。

○総務部長（坪田匡弘君） はい、お答えいたします。まず、外装でですね、広告もできたらいいんじゃないかという御提案でございます。で、私どものほうで全くそういう発想ありませんでしたので、そういったものが可能かどうか、今度……。

○9番（千葉繁君） 広告より模様ちゅうか、霞ヶ浦をバックにしてこうするんだとか、そういった阿見町がわかるようなそういうもの。

○総務部長（坪田匡弘君） はい、参考にさせて、検討させていただきます。

それと、使用の条件の緩和というお話が、要望がございました。で、町のほうでも担当でもさまざまな御意見をいただきまして、そのつど検討をして、できるだけ多くの方に使えるようにと検討しているところなんですけれども、そういうような町の検討のほうと要望のされている方とまだマッチングしていないとか、要望にこたえきれていないという部分があるかと思えますけれども、また、いろんな方の御要望をお伺いしまして、できるだけ使いやすく、多くの方に使えるようにというふうに進めていきたいと思えますけれども、ただ、あまり無条件というわけにもいかないというのは御理解いただきたいと思えます。いろんな目的の方がいらしたりしますので、そこはある程度の一定の制限は加えなければいけないということも御理解いただければと思います。

○議長（諏訪原実君） ほかに質疑はありませんか。

18番細田正幸君。

○18番（細田正幸君） バスについては、阿見のバス、ぼろぼろで、私も視察で古河のほう行って周り見て、14カ所ぐらい10センチぐらいの穴があいててびっくりしたんですけども、それが新しくなるちゅうことで結構だというふうに思うんですが、で、今、条件緩和の問題で、見てると、マイクロバスは出てるけど、ぼろバスはいつも車庫に入ってますよね。これは、条件が厳しくて、聞くところによると25人以上じゃないと使えないとかね、そういう条件があるために、私は、あそこにとまってんのかなっつうふうに思うんですけども、マイクロバスだと9人とか10人とかその辺で利用できるわけですけども、私は思うんですけども、マイクロバス2台ぐらいあるのかな、それで例えば1日3件の申し込みがあって、1件があいてしまったと、そういう場合には、遊んでるバスを使っても、私は、町民のためにはプラスになるんじゃないかなというふうに思うんですけども、条件緩和っていうのはそういうことだと思うんですよね、うんと利用すると。そういう点について、今、部長の答弁では、その住民の要望と合わなくてまずいっつうような話をしてましたけども、そのぐらいの、町民のために動かすっていう観点ならば、わざわざ、早く言えば、町民の税金、国の補助つっても町民の税金で買うわけですから、その辺は十分利用できるように考えてもらいたいと思っておりますけれども、どうなんでしょうか。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質疑に対する答弁を求めます。

総務部長坪田匡弘君。

○総務部長（坪田匡弘君） はい、お答えいたします。

町民の方が、要望に応じてできるだけ利用できるようにというふうには考えております。で、やっぱり大型のほうのバスが車庫に入っているという話がありましたけれども、どうしても土曜、日曜に団体の方が利用されるケースが多くてですね、平日はそういう団体の方の、かなり人数が多い方ですね、利用が少ない関係で、おそらく平日がちょっと車庫に入っているときがあるということだろうと思うんですけども、できるだけ多くの方が利用できるように、またマイクロバスとの関係も、2台がうまくこう、1台が利用できなかつたら、もう1台利用できるよというふうなことも考えていきたいと思えます。

○議長（諏訪原実君） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） これをもって質疑を終結いたします。

お諮りします。ただいま議題となっております議案第108号については、会議規則第39条第1項の規定により、お手元に配付しました議案付託表のとおり、所管常任委員会に付託することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認め、さよう決定いたします。

総務常任委員会では、付託案件を審査の上、来る12月18日の本会議において審査の結果を報告されるようお願いいたします。

散会の宣告

○議長（諏訪原実君） 以上で本日の日程はすべて終了しました。

本日はこれで散会します。

どうも御苦労さまでございました。

午前11時18分散会

第 2 号

[12 月 9 日]

平成21年第4回阿見町議会定例会会議録（第2号）

平成21年12月9日（第2日）

○出席議員

1番	諏訪原	実	君
2番	久保谷	充	君
3番	川畑	秀慈	君
4番	難波	千香子	君
5番	紙井	和美	君
6番	柴原	成一	君
7番	浅野	栄子	君
8番	藤井	孝幸	君
9番	千葉	繁	君
10番	久保谷	実	君
11番	吉田	憲市	君
12番	天田	富司男	君
13番	小松沢	秀幸	君
14番	倉持	松雄	君
15番	大野	孝志	君
16番	櫛田	豊	君
17番	佐藤	幸明	君
18番	細田	正幸	君

○欠席議員

なし

○地方自治法第121条の規定により説明のため会議に出席した者

町長	川田弘二	君
副町長	大崎誠	君
教育長	青山壽々子	君
総務部長	坪田匡弘	君
民生部長	横田健一	君
生活産業部長	川村忠男	君
都市整備部長	桑田康司	君
教育次長	横田充新	君
消防長	瀬尾房雄	君
総務課長	篠原尚彦	君
企画財政課長	篠崎慎一	君
秘書課長	佐藤吉一	君

社会福祉課長	岡田稔君
児童福祉課長	高須徹君
商工観光課長	木内良夫君
環境課長	大野利明君
町民活動推進課長	飯野利明君
都市計画課長	菊池彰君
建設課長	浅野耕一君
学校教育課副参事兼 学校給食センター所長	柳生典昭君
生涯学習課長	建石智久君
中央公民館長	篠山勝弘君
消防警防課長	柏崎洋一君

○議会事務局出席者

事務局長	小口勝美
書記	山崎貴之

平成21年第4回阿見町議会定例会

議事日程第2号

平成21年12月9日 午前10時開議

日程第1 一般質問

一般質問通告事項一覧

平成21年第4回定例会

一般質問1日目（平成21年12月9日）

発 言 者	質 問 の 趣 旨	答 弁 者
1 柴原 成一	1 「事業仕分け」の手法を予算編成に導入する考えはあるか？ その場合議員の役割は？	町 長
2 細田 正幸	1 阿見町の観光の目玉として霞ヶ浦湖岸の整備計画の具体化を 2 アウトレットから湖岸までのバイパス道路に桜並木の植栽を	町 長 町 長
3 藤井 孝幸	1 民生委員・児童委員の選任についての課題 2 公共施設の管理・運営について 3 防災計画での要支援者名簿作成の進捗状況は？ 4 町民活動センターとボランティアの育成について 5 「迷惑防止条例」「環境美化条例」の強化について 6 放課後子どもプランの進捗状況について 7 「危機管理体制」について	町 長 教 育 長 町 長 町 長 町 長 教 育 長 町 長
4 倉持 松雄	1 学校給食の食材（肉類）の納入業者選定について	教 育 長
5 吉田 憲市	1 当町の今後の町政運営について 2 農業委員会事務局の独立について	町 長 町 長
6 難波千香子	1 高齢者対策について 2 シルバー人材センターについて 3 子育て支援の環境づくりについて	町 長 町 長 町 長

午前10時00分開議

○議長（諏訪原実君） それでは、皆さん、おはようございます。定刻になりましたので、これから本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員は18名で、定足数に達しておりますので、会議は成立しました。

本日の議事については、お手元に配付しました日程表によって進めたいと思いますので、御了承願います。

これより議事に入ります。

一般質問

○議長（諏訪原実君） 日程第1，一般質問を行います。

質問の順序を通告順とし、質問時間を1時間といたしますので、御協力のほどお願いをいたします。

初めに、6番柴原成一君の一般質問を行います。

6番柴原成一君の質問を許します。登壇願います。

〔6番柴原成一君登壇〕

○6番（柴原成一君） 皆さん、おはようございます。

私の今回の質問テーマを、事業仕分けと議員の役割とさせていただきます。

事業仕分けというと、民主党への政権交代で今話題の中心となる注目ぶりです。けど、実は地方自治体のほうが先に取り組んで一定の成果を上げているものだといいことを、今回知りました。もっと言えば、民間では当たり前のようにやっている予算決めの作業なわけですが。採決までの持っていく方が強引過ぎるとか、いろいろ批判があるようですが、前年度の踏襲、踏襲でやってきた事業の弊害、無駄とか、公平性を欠くとかを断ち切るのに、ああした公開の場で議論し、行政も説明責任をきっちり果たした上で事業の継続をしていくというのは、ああ、なるほどなと思わせる手法のように思えます。

そうして見ると、これから阿見町の来年度の予算編成作業が本格化するわけですが、今年度では無理でも、来年度あるいは再来年度の今の時期には事業仕分けの手法が取り入れられていても不思議はないと考えています。町の財政、厳しき折、行財政改革特別委員会のメンバーでもある私としてはそう思わざるを得ないわけです。

議員というのは、これにどうかかわるべきかと考えたのが今回の質問です。町長はよく御自分のことを、私は町民の代表としてとよくおっしゃいます。では、議員は何なんですか。私はずっと思いあぐねていました。憲法の三権分立は司法、立法、行政だと学校で習いました。国はそれでいいのですが、地方はどうでしょう。地方行政に携わっているみたいな言い方をしますが、地方立法なんて表現は余り聞いたことがなくて、町会議員は三権のどれに属するのかあいまいになるときがあります。それで、議会は町政のチェック機関、議員は町政のチェック機能だと認識することにしました。そうすると、事業仕分けはまさに町政のチェックです。これが行われるとすれば、議員がもっとその役割を果たすべき舞台になるのではないかと思います。

しかし、議員には集落単位の地域代表、業界団体の利益代表という面がなくもなく、仕分け人としては不適格かなとも思います。事業仕分けの先行例として知られる栃木県足利市では、仕分け人は全員が市外からの第三者、しかも全員が全部ボランティアです。足利市の場合は、個々の事業を、まずそもそも必要かどうか、目的自体が役割を終えていないかどうかを問うた上で、2つ目、必要

ならばどこがやるか、民間に任せてもいい事業ではないか、国や県の事業ではないか、重複していないかと順次フィルターにかけていき、公開の場での議論で廃止、民間委託、改善、継続の結論を出していくというものです。この結論は市としての最終結論ではないものの、次の予算編成に最大限配慮しなければならない要件になります。なかなか合理的な進め方だと思います。少なくとも、今、町が行っている行政評価のシステムに比べ、住民への公開性というか、参加性が格段に高まっています。

問題は公平性の確保ですが、私としては仕分け人の人選こそが事業仕分けそれ自体の公平性を保つ上で最大のかぎを握っていると感じられます。この際、議員の扱いをどうするか。私個人としては、公平性確保のために議員を排除するというならば、それはそれでありかなとも思っています。

しかし、一方でこういうことに議会が主体的に動かなければ、何のためのチェック機関かという気もします。町政個々の事業について、議員はもっと精力的に勉強しなくてはなりません、事業仕分けという公開の場で議員もまた町民の皆様からチェックされるのですから、互いに緊張感を持って、仕事に励めるというものです。仮定の話かもしれませんが、近い将来の検討課題になることには間違いありません。

以下、質問をまとめます。

事業仕分けの手法に倣って、3つのフィルターで回答をいただきたいと思います。

まず第1のフィルター、町の行政改革や予算編成に事業仕分けの手法は必要か、不必要か。町長御自身が事業仕分けの手法など町政に必要なとお考えなら、以下の質問の回答は不要です。

第2のフィルター、近い将来、事業仕分けの手法を町の予算編成作業の一環に導入する前提で研究・検討に着手する考えはあるか。

3つ目、町長の一般論的な御見識で結構ですが、議会は町政のチェック機関という考え方でいいか。事業仕分けが行われるとしたら、議員はどういう役割を果たすべきか。議員の活用をいかに考えますか。

以上、質問を終わります。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。町長川田弘二君、登壇願います。

〔町長川田弘二君登壇〕

○町長（川田弘二君） 柴原議員の質問にお答えいたします。

議員の質問の事業仕分けにつきましては、国におきまして、行政刷新会議のワーキンググループによる事業仕分けが行われ、マスコミ等でも大きく取りざたされ、国民の関心の的となったところでもあります。この事業仕分けは、国や自治体が行っている事業について、予算項目ごとにチェックを行い、そもそもその事業が必要かどうか、必要ならば行政と民間のどちらがやるべきか。行政がやるなら、国、県、市町村のどこでやるのかなどについて、担当者と外部の評定者が議論し、事業の必要性や本来あるべき姿について、仕分けを行うことにより、事務事業の見直しを目的としております。

そこで、まず1点目の、当町における事業仕分けの必要性についてという質問であります。

当町での事務事業の見直しにつきましては、行政評価システムにより実施しております。平成16年度から部分的に導入を開始し、平成18年度からはすべての事務事業を対象に事務事業評価を実施しており、翌19年度には事務事業の上位目的となる施策評価を開始して、事務事業とあわせた一体的な評価を行っているところであります。その結果、これまでに、18事業の休、廃止や39事業の統合、見直しなどを進め、翌年度の予算編成にも反映しているところであります。

このように、現在のところ行政評価システムが予算編成の中に位置づけられており、一定の効果が得られておりますので、別の事業見直しの手法である事業仕分けについては、今すぐ必要だとは

言えない。そういうふうに判断しております。

しかし、住民の目線で予算に切り込むということは画期的なことですので、そういう考え方については、今後十分検討する価値があるものと考えております。

続きまして、2点目の導入の検討という質問であります。

近年、地方分権により地方自治体の役割が拡大するとともに、行政需要の多様化や法改正及び権限移譲などで事務事業が増加しております。一方で、従事する職員数は行政改革の職員削減計画で削減が進むとともに、財源は経済情勢の悪化なども含めて一層厳しい状況にあります。

こうした中で、行政改革により組織がスリム化し、さらには限られた財源の中で行政サービスの維持向上を図るには、町民や事業者との協働のまちづくりを進めるなど、1つ1つの事業について、根本から見直していくことが必要となってくるものと思われまます。そのためには、今後、事業仕分けのような手法も必要と思われまますが、導入を検討するには、仕分けの基準が明確化されるなど制度設計が構築されることが前提でありますので、その後に判断していきたいと考えております。

いずれにしましても、町としては事業評価ということで対応しているわけですが、これはあくまでも内部でやってる話でありまして、これを透明化する、そういうような方向を検討するということは、いずれ必要になってくると思います。

最後に、仕分け人といわれる事業評価について、その議員が果たす役割ということであります。国の評価者を見てみますと、国会議員を初め、民間有識者として大学教授や民間企業、NPO法人等の代表、及び地方自治体の職員等で構成されております。一方、先進的に実施している地方自治体においては、当該自治体の住民を初め、近隣自治体の職員や議会議員を評価者としている例が多く、当該自治体の議会議員を評価者に選出している例は余りないようであります。基本的には、当該自治体の外部から選出しているというのが実態でありまして、国と地方自治体における事業評価者選出には差異があるようであります。その作業結果については、国、地方自治体のいずれも予算編成の参考意見でしかなく、その意見をどのように判断するかは、自治体及び議会の役割であると考えております。そのため、事業評価者に当該自治体の議員が参加するということには違和感があるように思われまます。

今回、この事業仕分けというのが非常に注目されたのは、政権交代があつて、その中でああいう形での具体的なものが大きく報道され、そういう中で、特にこの事業仕分けという手法が注目されたわけですけれども、国の場合は、国の制度とか、国が直接やっているものじゃなくて、実際の事業は地方がやっているとか、そういうようなものであります。

ところが、例えば、町の予算とかそういうものは、その決めることがもう、直接町の事業そのものに直結する形になりますので、非常にその辺の扱い方が非常に難しさというのものがあると思うし、それぞれの地域から選ばれている議員さんが仕分け人になってやるという、その辺のところ非常に難しい要素があるんじゃないだろうか。まあ、そういう点で、先ほども必要性というものは、基本的に考え方としては、そういう考え方を導入することが必要であろうということは大体共通の理解になってきていると思いますけれども、その具体的なやり方について、かなり検討しなきゃならんんじゃないか、そう思います。

特に、議会のチェック機能という話であります。議会はチェック機能を持つと同時に、いろんな形で提案する機能もあるし、例えば、行財政改革特別委員会等でいろんな具体的な提言をいただいたりして、それを受け入れてある成果を出していく。そういうことは、これまでもあるわけですから。そういう形でのチェック機能プラス提案機能、いろんな機能というものを発揮できるわけです。その辺のところをぜひ議会側として、果たすべき役割というものを十分検討していただければ、かなりのところまで踏み込んだ形ができるんじゃないだろうかと思ひます。

いずれにしても、国における初めての事業仕分けが先月の27日に終了しましたが、今でもいろ

いろな方面から賛否両論の意見があるようであります。政治のパフォーマンスとしては成功したと言っているかと思えますけれども、国家予算編成の手法として疑問なしとはしないところであります。

この手法については、もう少し推移を見きわめながら、基本的な住民の目線で大事な予算等を考える。こういう基本のところ焦点を合わせて一緒に検討をしていきたいと考えますので、よろしく願いいたします。

○議長（諏訪原実君） 6番柴原誠一君。

○6番（柴原成一君） 答弁、ありがとうございました。

この質問に至った一番の原因というのは、議員になって5年がたちますが、3月の予算議会、このとき一番むなしさを感じるんです。というのは、執行部側から、例えば21年度、21年度予算内示がある。で、内示があった後、議会が始まる。すると、議会の中で審議をしてくださいということ言われます。ところが、もう3月議会に入った時点では幾ら審議しても、それを否決は形上はできますが、実際は否決できません。というのは、内容の確認だけに終わってしまって、その予算の金額が増やしたほうがいいのか、減らしたほうがいいのか、すべてもう議員には手だてがない。もう、お手上げというか。ですから、予算内示、発表したらすぐ新聞記者に発表してしまう。で、3月議会ではもむんですけれども、覆すことは99%無理である。ということは、予算内示する前に議会でもむ、チェックできる期間を設けていただければと。そこまですれば、当然事業仕分けまでは必要ないかもしれませんが、その辺のところまでを酌んでいただければうれしいと思います。特に、3月の予算議会ではすごいむなし気持ちになるのは私の考えでございます。

まあ、そういうわけですので、今後とも私たちも勉強しなければなりませんけれども、そういう意味で予算編成の際には時間をたくさんいただいて、事前に審議する場をつくっていただければと思います。そう要望しまして、私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（諏訪原実君） これで6番柴原成一君の質問を終わります。

次に、18番細田正幸君の一般質問を行います。

18番細田正幸君の質問を許します。登壇願います。

〔18番細田正幸君登壇〕

○18番（細田正幸君） 私は2点について質問をいたします。項目は2点ですけれども、霞ヶ浦の観光開発の共通の項目ですので、1点、2点もあわせて、最初質問したいというふうに思います。

1つは、阿見町の観光の目玉として、霞ヶ浦湖岸の整備計画の具体化をという問題でございます。昨年9月議会一般質問で、1つ、湖岸の堤防への桜並木の提案、2つ目に、現在ある湖岸の島津ミニ公園の枯れた桜の木の植え替えをしたらどうか。それから、3つ目に大室地先湖岸の砂浜化。4つ目に、湖岸サイクリングロードの整備を提案いたしました。1年以上経過したその後、どう執行部は具体的に取り組んできたのか、お伺いをしたいと思います。

あと、これは1つの新しい提案ですけれども、今、湖岸にある大室の菜の花公園、7ヘクタールの中に臨時駐車場と葉の花を見る観覧台の整備をしたらどうかということでございます。昨年より大室地内は菜の花が植えられて、NHKのテレビでも報道されておりました。その後、私、日曜日の朝早く、あの公園に行ってみたのですが、県西の方が三、四名写真を撮りに来ておりました。なぜこの菜の花畑を知ったのかということを知りましたら、昨日、NHKでそういうのが公園があるということで、写真を撮りに来たのだと言っておりました。写真を撮るのに、あの周りには木のくいと番線が張りめぐらされているわけですけれども、入るところがないので、その番線の間を広

げて中へ入っておりました。当然駐車場もないので、あの農道の端にとめて、花を見ていたわけでございます。そのことを見まして、私はやはり駐車場も必要ですし、また、花を見るのには目の高さよりも少し高いところから見たほうが花も見えるし、また霞ヶ浦、その向こうにある筑波山なども眺望できるのではないかというふうに思いました。

この点、今日改めて提案をしたいというふうに思います。

次に、2番目の質問ですけれども、今年の7月にあみアウトレットが開業いたしました。このアウトレットから湖岸までのバイパス道路に、新たに桜並木の植栽をしたらどうかという提案でございます。現在、阿見東インターから島津までのバイパスは追原の工事区間、これは来年3月開通を目指してやっているとありますが、工事区間を残して前後完成をいたしました。しかし、まだ歩道際に植栽がされておられません。アウトレットに来た300から400万人のお客さんを霞ヶ浦湖岸へ誘導するためにも桜並木は必要だと思います。県と実現の方向で協議したらどうなのかと思います。既に、アウトレットにはこの3カ月間で160万人の人が訪れたと支配人からお聞きをいたしました。目標の年間400万人という数も夢ではないというふうに思います。そのうちの10%を阿見町へ誘導すれば40万人、5%で20万人となります。そのためには、魅力ある霞ヶ浦湖岸にする必要があると思います。そして、桜並木などは植えても桜の花がきれいに咲くのは5年後、10年後というふうになるわけですから、今、直ちに行動をとる必要があるのではないかというふうに思います。

以上、2点について質問をいたします。

○議長（諏訪原実君） 町長の答弁の前に、ただいまの細田議員の質問が1番、2番と区分けしておりますけれども、質問が連続になりましたので、1番、2番と続けて川田町長のほうから答弁を願いたいと思います。

それでは、川田弘二君、登壇願います。質問に対する答弁を求めます。

〔町長川田弘二君登壇〕

○町長（川田弘二君） 細田議員の質問にお答えします。

これまで数回にわたり霞ヶ浦湖岸への集客を目的とした具体的事業について御提案をいただいているところであります。今回は、その提案された個別の事業の取り組み状況と大室ストックヤード跡地の整備についての御質問であります。これまでも申し上げており、霞ヶ浦湖岸の整備については、霞ヶ浦湖岸公園構想の中で国、県等の関係機関と連携を図りながら、長期的かつ計画的に進めていきたいと考えております。御承知のとおり、町は平成10年に霞ヶ浦湖岸の環境保全と観光資源としての活用及び恒久平和への寄与を目的とした霞ヶ浦湖岸公園構想、約40ヘクタールが対象になっておりますが、を策定し、長期的構想を持って、事業に着手したものであります。その第1段階となるのが、平成15年度から事業に着手し、来春完成予定の霞ヶ浦平和記念公園事業、約4ヘクタールであります。まずはこの事業を完成させ、そして予科練平和記念館のPRを積極的に行い、集客を図っていくということが最優先と考えております。その他構想には、議員御提案の堤防の桜並木植栽事業や湖岸の砂浜化事業、サイクリングの利用促進といったさまざまな事業が位置づけられております。

しかしながら、これらの事業は国や県と関係機関と長期にわたる協議調整を要するほか、施設整備及び用地の確保といった多額の財政支出を伴うこととなります。

具体的に堤防に桜並木を植栽する、桜つつみモデル事業を例に申し上げますと、当該事業は良好な水辺空間の形成と堤防強化及び土砂の備蓄等を目的とした市町村と河川管理者である国との共同事業になるわけであり、まず、整備計画を市町村が主体で、国と調整し作成し、国の認定を受けて事業化するという流れになります。その事業分担としては、堤防の盛土等は国が実施し、桜等の植栽や散策路等の環境整備及び維持管理については市町村が行うという内容となっております。

す。また、事業に必要となる用地についても、当該市町村が確保することとなっております。標準的な用地幅は桜の根の張りを考慮して、管理用道路を除き、10メートル以上確保するとともに、さらに2割勾配ののり面を加えますと、合わせて最低でも13メートルないし15メートル程度の事業用地幅が必要となります。この用地幅を満たさない箇所について、当該市町村が用地を確保するほか、または根の堤防内への進入防止のための工事を実施するといった費用はあわせて必要になるわけです。さらに、国直轄事業には必ず国の直轄事業には負担の問題が、今、国と地方自治体の間で問題となっておりますが、今の段階では必ず都道府県負担金が発生することになるわけで、当該事業でも3分の1が県負担となりますので、事前に県の承認が必要とのこととなります。

このように、1つの事業を例にとりましても、国、県との調整に時間を要するとともに、多額の財政支出が発生することから、計画的かつ中長期的な財源調整が必要になることは御理解いただけるかと思えます。

霞ヶ浦湖岸公園構想につきましては、第1段階の平和記念公園事業の完成が間近となり、次の整備計画立案の段階に来ていることは十分認識しております。しかし、島津ミニ公園もしかりですが、厳しい経済情勢の中であり、現時点で次の整備段階に着手するということは現実的とは思えないわけです。

そこで、構想が、構想樹立以来10年以上を経過していること、また、アウトレットモール等からの周遊観光を想定していなかったことから、ここは少し時間をかけて、構想内容を精査する必要があると考えます。事業内容等により現状にそぐわないものは見直すとともに、これからは大室地区のフラワーコリドール事業のような、地域住民等と一緒に取り組むソフト事業等についてもあわせて検討していくことが必要と考えます。事業実施時期については、その中で検討していきたいと考えておりますので、御理解いただくとともに御協力のほどよろしくお願いいたします。

質問が一緒にされたので、一緒に答えます。

次に、阿見東インターチェンジから島津方面への道路は、県道竜ヶ崎阿見線のバイパスとして位置づけられている路線であります。本年7月のアウトレット開業に伴い、東部工業団地から県道稲敷阿見線までの区間が新たに供用開始したことにより、インターチェンジ北側での未供用区間は、残すところ国道125号バイパスまでの追原地内約1.1キロメートルほどとなっております。

議員御指摘のとおり、現在は歩道の植樹帯部分に植栽は行われていない状況であります。県からは桜などを含む高木は沿道の土地所有者からの樹木の落葉等の苦情が多いことや、特に、維持管理面での困難性から植栽の計画はないと伺っておりますが、御承知のとおり、当路線の阿見東インターチェンジから県道土浦稲敷線との交差点までの約1.2キロメートルの区間は、土地区画整理事業による基盤整備が行われております。町としましては、インターチェンジの玄関口として、また、新市街地のメイン通りにふさわしい修景を目指すことは当然必要と考えております。

なお、現在アウトレット付近の歩道には、美しい町並みを形成するため、地上の電柱をなくした電線共同溝が埋設されておりますが、植樹帯の下に設置されているために、桜のような高木の植栽は困難であるわけです。

しかし、低木など植栽は可能であり、県や関係地権者などで組織しております阿見吉原地区まちづくり推進協議会においても、街路樹の必要性について御意見をいただいておりますので、今後事業化が見込まれます西南地区の道路とあわせて、区域全体で土地区画整理事業者である県と協議していく考えであります。

いずれにしても、阿見町にとって桜というのは非常に重要な花であります。したがって、いろんな形で桜を観光資源として位置づけるという議論が出ているわけでありまして、今度の茨城平和記念館整備とも関連して、桜をどういう形で取り扱うのかは1つの大きな課題になっています。

そういうことで、町としても現在の桜がどういう形で地域的に分布しているか。そういう調査を

今始めますので、町全体の桜の扱い方、その辺の基本的な考え方というものを整理して、やはりあそこへアウトレットができて、アクセス道路ができたから、そこへつくるというよりは、全体計画の、全体の考え方の中でどういうふうに位置づけるか、こういうことが非常に大事なんじゃないかと。

正直言いまして、アウトレットだけでいえば、桜の期間というのは幾ら長く見ても、せいぜい半月か20日、1カ月ぐらい、そういうことでもありますんで、そういうことも含めて、総合的に全体的に考える必要があるだろうと思います。

○議長（諏訪原実君） 18番細田正幸君。

○18番（細田正幸君） 再質問するわけですけども、町長の答弁を聞いておりますと、何か全体では重要だけれども、具体的には慎重にやる、慎重にやるとも言ってないけれども、検討する必要があると。そういうことになりますと、私は湖岸の整備については、予科練記念館が計画される前から、もう4年も前から言っているわけですけども、その間、具体的ににならないので、去年は、いわゆる堤防を管理する国土交通省霞ヶ浦事務所の土浦出張所ですけども、あそこへ行って具体的に聞いてきたわけですけども、じゃあ、その間、阿見町からどういう働きかけがあったのかと思ったら、ほとんど何もありませんつう話なわけですよ。だから、考えると言っても、私は具体的に行動してなかったの、私がかたまたま聞いていったら、そういうことがあったわけですけども。その中でわかったのは、今町長が言ったように、桜づつみ、堤防という国の事業計画がある。それは、今の霞ヶ浦の堤防に直接桜を植えることはできないけれども、いわゆる湖岸の田んぼ側ですね、そこへ、補助堤防ですか、膨らまして、桜の木の根が堤防へ届かないようにすれば、植えるようになることは可能だ。その中で、一番事業費がかかるのが、今町長が言ったように、10メートルから2割ののりをやれば最大15メートルになるわけですけども、現在、狭いところでも8メートルはあるんですよ、あののり下。だから、そこから15メートルといえば7メートル広げればいいわけですから。土地代、要するに今、大体、ハス田と田んぼですけども、土地代はいわゆる住宅地の土地を買収するよりははるかに安く済む。一番お金のかかるそこへ土盛りする工事費は国が出すということを言っているわけですよ。中には、県の3分の1負担もありますけれども、じゃあ、町はどれだけお金を出すかと思ったら、桜の木を植えるお金と土地を買収するお金があれば、桜づつみができるわけですよ。で、町長は財政厳しい折なら、大変だつうこと言ってますけれども、私はその桜づつみのことについて、具体的に予算をはじいてみたのかどうなのか、お聞きしたいというふうに思います。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。総務部長坪田匡弘君。

○総務部長（坪田匡弘君） 答えいたします。

昨年の12月だったと思うんですけども、6月も御提案いただきましたけども、6月と12月、細田議員の御提案を受けて、町でもですね、国土交通省霞ヶ浦工事事務所のほうと協議をしてきました。で、結果的に先ほど町長からお話ししましたとおり、また、細田議員からもお話があったとおり、桜を植えるために用地、堤防のほうの拡張する用地の確保が必要だというような話でした。また、水路、堤脚水路がありまして、その用地を拡張に、水路が変わった場合はそのつけ替えも必要だという話がありました。その場合の県の負担とかですね、町の負担もあるんですよという話がありまして、これをやるには、それを持ち帰って町で検討したんですけども、協議を持ったんですけども、これ実施するためにはかなりの費用とですね、期間も要するだろうという話にはなっています。その具体的に金額をですね、幾らかかるのかというところまではですね、実際、堤防の測量もしていませんので、具体的な金額はまだはじいておりません。

○議長（諏訪原実君） 18番細田正幸君。

○18番（細田正幸君） 既に、10年前以上に霞ヶ浦湖岸公園構想というのがあるわけですよ。それは、今建設中の予科練平和記念館から掛馬の防衛庁の技術研究ですか、失礼しました。大室の今、菜の花公園になっている、菜の花公園の7ヘクタールのところまで含まれているわけですよ。公園構想があるわけですから、お金がかかって大変だというのは具体的に試算して、例えば、何千万かかるとか。それが何千万かかるのが何億かかるということならばお金が大変だつうことが言えるわけですが、今、町長、それから部長の答弁では試算してないわけですよ。試算もしてないのにお金がかかるつうのは、私はちょっと納得いかないというふうに思います。これは、聞いている議員の皆さんも傍聴の皆さんもそのとおりではないのかなというふうに思います。

そういう点では、阿見町にとって、霞ヶ浦の自然というのは唯一の目玉になる観光地が、景観なわけですよ。霞ヶ浦を見た場合に、いわゆる阿見町から東つうか、北のほうを見れば太陽が南から向こうへ照るわけですよ。そうすれば、日陰にならなくて、霞ヶ浦の反対側の湖岸もきれいに見える。逆に、霞ヶ浦の反対側からこちらの南側、阿見町のほうを見ると、阿見町の景観というのは真っ暗、いわゆる日陰になるわけですよ。全然、霞ヶ浦の景観のよさつうのはないわけですよ。逆に言えば、阿見町のほうから、東北ですか、それから北のほうを見るつうのが私は景観としては一番いい位置にあるんじゃないかなと。そして、その向こうには筑波山の双方が見えるわけですから。また、町には40ヘクタールの湖岸公園構想が既に10年前にできている。当然、それらの1つ1つについては、どのくらいかかるかつうこと、アウトレットが出てきた以上、それから、予科練平和記念館で最大年間、将来は10万、20万の人を入館させたいと、そういうことを町長言っているわけですよ。そのためにはやはり、今一番大事なことは、既に、アウトレットに年間400万人の人がたまたま訪れるわけですから、その人を霞ヶ浦へ誘導して、湖岸で遊ばせる。また、その先には予科練平和記念館があるということになれば、私は予科練平和記念館の入場者にとってもプラスになるんじゃないかなというふうに思います。

そういうことをやらなければ、私は、今、町民の間でささやかれているのは13億もかけた予科練記念館、果たして人が来るのかなと。あれ失敗じゃないのというような声も上がっているわけですよ。これは議員の中でも、そういう危惧をしている人がいるわけですから、私はやはり阿見町の目玉として早急に霞ヶ浦の湖岸の景観をよくするということが大事なことじゃないかなというふうに思います。

町長は長期に考えるしかないつうことを言っていますけども、町長の任期は来年3月までしかないわけですよ。それで、長期につうたら、ちょっと無責任じゃないかなと私は思います。

あとそれから、具体的に聞きますけれども、金かからなくて一番早くできるのは、2番目の現在ある島津ミニ公園の桜の木、これは枯れたままですよ。2回目に植栽したんですけども枯れちゃった。これは、下の土壌改良をしなければ、3回目植えても枯れるわけですが、そのための工事費つうのが、私は100万以内でできるんじゃないかなというふうに思います。この公園については、町が管理しているわけですから、来年、桜の木を植えるっていうのは冬の間、春先に植えないとまた次の年になってしまうわけですよ。この島津ミニ公園の桜はすぐ植えてもらいたいというふうに思うんですけども、その点どうなんでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 総務部長坪田匡弘君。

○総務部長（坪田匡弘君） お答えいたします。

島津地区の桜の植栽につきましては、その経過ですね、10年ぐらい前なんですけれども、この経過については以前もお話したかと思うんですけども、寄附によって、植栽をどうかしてくださいという寄附をいただきまして、それでその土地を探しまして、島津のところに植栽をしたということでございます。一度植栽をしたものが枯れてしまって、2度目に桜になったということでございます。

当時が、突発的にお話があったものをですね、町が受けて植栽をしたということで、その後、町のほうで引き継ぎもですね、きちんと行われてなくてですね、これをどういうふうに進めていこうかということも協議しなかったというような経過の中で枯れてしまったと。そのままになってるといようなことでございます。

占用ということで、国土交通省からお借りはしているわけで、その期限がですね、御存じのように来年の3月までですか、になっています。そういったことを含めまして、桜ということはどうするかということになりますと、先ほど町長が申しましたとおり、これからですね、町全体の桜を調査しまして、マップをつくって、町全体の桜の配置をどうしようかという基本的な考え方をまとめていくということでございますので、その中で、現況と、それから不足しているものがあるとするれば、どこに桜を配置したらいいのかというようなお話にもなってくるかと思えます。ですので、桜についてはそういった方向で考えていきたいということでございます。

また、霞ヶ浦沿岸湖岸公園構想から発展したものもあります、考え方もありますけれども、それにつきましても、湖岸公園構想がですね、第1段階の霞ヶ浦平和記念公園、予科練平和記念館ができて、それから10年も経過して、いろんな環境の変化もあるので、これも見直ししていくというような考え方を持っておりますので、その中で湖岸の方向性というものも検討していくということございまして、最終的に結論を申し上げますと、占用の更新は今のところ考えていないということと、もちろん、更新を考えておりませんので、桜の植え替えも考えていないということでございます。

○18番（細田正幸君） 何ですか。桜何つったの。

○総務部長（坪田匡弘君） 占用ということで、お借りをして、島津のところですね。桜を植えたということですので、桜を植えないということと、占用の更新も今のところ考えておりませんということでございます。

○18番（細田正幸君） 意味がわかんねえな。ちゃんと日本語わかるように言ってよ。

○総務部長（坪田匡弘君） 島津地区のあの桜を植えた、細田議員がおっしゃるミニ公園ですよ。そこを、あのところは町の用地では……。

○18番（細田正幸君） 要するに町は借りたやつを返すつうことなの。

○総務部長（坪田匡弘君） そういうことです。

○議長（諏訪原実君） 18番細田正幸君。

○18番（細田正幸君） 今の坪田部長の答弁を聞いてあきれたつう話ですよ。町長は阿見町は桜は大事だと。町の木は桜でしょうよ。自分たちが寄附をもらって桜を植えたんでしょ。その管理もできないで、今度は返すつうのは、自分たちの役割を放棄しているようなものでしょうよ。まあ、お話にならないつう感じですよ。私はここにイラスト、これ書いてもらって持っているんですけども。要するに、青いところ、上は霞ヶ浦ですよ。霞ヶ浦の堤防に桜並木と。今、4メートルに去年舗装されたところは、土浦から美浦までサイクリングロードに、既にそれは使えるわけですから、そこはサイクリングロードにする。で、ここにアウトレットがありますけれども、アウトレットの脇には町の特産品を売るようなお店もつくと。アウトレットから、いわゆる島津までの真っすぐの道路には霞ヶ浦湖岸公園構想の誘導路として桜並木をつくる。そうすれば、アウトレットへ来た400万人の人は、あ、この町は桜が有名なんだなど。で、霞ヶ浦もあるんだなど。そしたら、そっちへ行ってみようということになるでしょうよ。それでその先には、予科練平和記念館というものもあるんだなど。じゃ、見てみようかつうことになるわけでしょう。

私は、総合的にそれが阿見町の観光にとっては一番いいと思ってっから提案しているわけですよ。それを総務部長はせっかくあそこのミニ公園はちょうどね、この阿見町の左側の三角の駐車場と同じ広さがあるんですよ。その周り桜並木すんののに、私、はかってみたんですが、約150メートルぐ

らいあるんですね。そこへ周りを植えれば、1つの桜のミニ公園になるわけですよ。そういうことにもなるのに、今度は自分らで管理できないで返すなんて、とんでもない話ですよ。

この公園の桜の木について、国交省に聞いたんですけども、これは阿見町が管理しているのですが、しかし実際はやってないと。桜の木を植える場合はどうしたらいいんですか？ かつたならば、私どもへは桜の木を植えますという報告だけしてもらえば別に構いません。何の制限もないわけですよ。何の制限もない土地を返すなんてとんでもない話ですよ。そういうのは取り消してもらいたい。

町長、どうなんですか。こういう自分で桜の木は大切だと言いながら、自分らで植えた桜の木の管理もできない公園を返すんですか。これは部長じゃなくて、町長から答弁してもらいたい。まあ、来年の3月19日までがあなたの任期でしょうけれども。それまでに、結論つけるしかないでしょう。

○議長（諏訪原実君） 町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 基本的には、基本的な霞ヶ浦湖岸公園構想、これは非常に重要なものであるから、このもともとの基本的な考え方、こういうものを活かしながら、やれるものはやるということは大事です。そういう点で、ただ、私も答弁したし、総務部長からも話したように10年もたった。それから、アウトレットということを含んでは言いますが、アウトレットというような条件というのは前はなかったわけですから、そういう条件も入れた上で霞ヶ浦湖岸公園構想について、今の時点で見直しをする。見直しをするについては、そんなに悠長にということじゃなくて、できるだけ速やかにやるというそういう考え方で。島津のミニ公園、これの扱い方も、あれ、そこをやればそれで公園構想の大きな部分が実現するということでもありませんので、全体の見直しの中で、そこも含めて考えるというようにしたいと思います。

○議長（諏訪原実君） 18番細田正幸君。

○18番（細田正幸君） 町長の答弁はね、昨年と同じ、見直しをするという答弁をいただいているんですよ。じゃあ、1年たって、その見直しの具体的な手はずはどんなふうにしたんですか。来年度予算の中に入っているんですか。速やかにやるって今答弁をいただきましたけど。1つそれなんですけども、あと、そのほかに湖岸のサイクリングロードの整備、これは県の計画でも国の方針でも、霞ヶ浦周囲ですよ、大体240キロぐらいあるそうですけども。既に、湖岸の反対側はサイクリングロードになっているわけですよ。これは、国でも県でも霞ヶ浦の堤防はサイクリングロードにするという方向だと思いますが、じゃあ、その阿見地内の具体的なサイクリングロードの計画、私は商工観光課にも、今年ですね、経済対策で国から10分の10補助で1億7,000万円が来ると。じゃあ、その中に入れたらどうかという提案もしているわけなんですけども。そのとき私が湖岸を歩いて調べて、サイクリングロードにするのに一番これはまずいなというふうに思うのは、島津と掛馬の間にある技研のところですよ。そこの入り口が、いわゆる湖岸に沿って、道路が開けてないわけですよ。そのほか、その先は舗装になっているんですけども、その距離を調べたら、下4メートルの幅で土地改良で土地は取ってあるんですが、たまたま砂利だけ敷いて、草が出ている。舗装になっていないわけですよ。だから、サイクリングロードにするためにはその舗装をしないと。それから、霞ヶ浦へ島津のほうから流れている高位部水路というのが、2メートル50ぐらいのコンクリートの水路がありますけども、そこへ橋をかけると。そうすれば、125号のほうに行かなくても、美浦のほうに抜けるサイクリングロードになるわけですから、その点なんかも、お金が余りかからないで整備できるわけですよ。このサイクリングロードについてはどんなふうに考えているんですか。

○議長（諏訪原実君） 総務部長坪田匡弘君。

○総務部長（坪田匡弘君） お答えいたします。

湖岸はですね、御存じのように、4メートルですか、で、舗装はもうほぼ今、細田議員が言われ

ましたような、技研のところがちよつとつながってないですけども、ほぼ護岸は舗装されてまして、通常の散策ですね、散歩とかサイクリング、町民の方がちよつと自転車で乗ると、乗って歩くというような整備はもう既にされて、利用できているかと思えます。

さらに、今おっしゃるような霞ヶ浦の護岸で、今、県で進めていますサイクリングロードのようなものをつくらせるとすると、やはり車道と歩道をきちんと分けてですね、整備してって、かなり安全性というものもきちんと確保された中で、整備されなければいけないということになるかと思えます。

さらには、美浦村とかですね、それから土浦市との連携もよくしてですね、125号の道路にも出ないようなサイクリングロードがネットワークされれば一番理想的かなというふうに思いますが、そういう面の安全性とかですね、ネットワーク性というのはまだまだ確保されておられません。そういったことも考えながらですね、最終的には先ほど申し上げましたとおり、湖岸公園構想の見直しをやってまいりますので、その中でどこまで可能かというような検討になるかと思えます。

○議長（諏訪原実君） 18番細田正幸君。

○18番（細田正幸君） 今、執行部の話を聞くと、まず第1番目には、その湖岸公園構想の見直しが先だというふうに聞こえますけれども、私は、島津のミニ公園は見直しをしなくても自分で桜を植えて枯れているんだから、それは町が管理して、植え直せば桜の公園になるわけですよ。それから、湖岸のサイクリングロードも、既に4メートルの舗装が昨年3月過ぎにできたわけですから、それに125号の旧道へ抜けられないような道路を私は今提案したわけですよ。その距離が90メートルでそこを舗装して2メートル50に橋をかければ、これは何も車が通るわけじゃないですから、そんなにお金がかからないでしょう。それは、湖岸公園構想とは切り離してできるものは私は先にやるべきだというふうに思いますが、その点はあくまでも湖岸公園構想が先だと言うんですか。それならば、具体的に速やかに湖岸公園構想の見直しをやると。速やかにつうことは、じゃあ、来年始まるというふうに理解していいんですか。

答弁願います。

○議長（諏訪原実君） 総務部長坪田匡弘君。

○総務部長（坪田匡弘君） お答えいたします。

湖岸がほぼ舗装されていまして、町民の方が簡単にサイクリングしたり、散策したりできる道路は確保されているというふうに今考えております。本格的な、先ほど申し上げましたとおりサイクリングロードですね、車道と歩道を分離したもの、私もこんなところでしゃべってあれですけども、自転車一時好きで、本格的なロードレーサーで乗ったことがありますけれども、そういった本格的に乗るものを整備するとすると、かなりの費用、安全面の施策も必要になってくるというふうに思えます。ですので、そういったものをちゃんと切り分けてですね、やっていくべきだというふうに考えます。本格的なものが本当に必要なのか、やるべきなのかと。また、ネットワークもちゃんと図られるのかということに関しましては、先ほどから申し上げてますとおり、湖岸公園構想の見直しの中で考えていくということで、具体的にはその時期がいつかということはまだ今年度は取りかかっておりませんので、来年度以降ということになると思います。

○議長（諏訪原実君） 18番細田正幸君。

○18番（細田正幸君） 今の部長の答弁で、来年度以降つうふうになるということは、来年度つう話が入っているわけですから、先ほど町長の答弁にあったように、いわゆるアウトレットの構想というのはなかったと。これは当然ですよ。しかし、今年、去年から計画していたわけですけども、もう1年前からアウトレットができるつうことが決まったわけですから、それでは、じゃあ、

その新しく1つの阿見町にとっては目玉だと思うんですね。年間その計画で200万から400万人の人が阿見町を訪れるっていう計画がなされているわけですから、じゃあ、それを阿見町はその人をどうすかっつうのはその当時から私は考えなければ行政の、まあ、行政マン、それからトップとしては失格になるんじゃないかなっつうふうに思うんですね。

既に、アウトレットは3カ月で160万、もう4カ月ですけども、恐らくもっとの人が訪れているわけですから、総務部長が言うような、町長が言うようなのんびりしたやつでは、阿見町の特徴を出させるっつうことにはならないと思うんですけども、町長に改めて聞きます。その湖岸公園構想の見直し、桜、それから町の桜の位置の調査、それを速やかにやっていうことは来年度予算に計上して、これはそんなに予算はかからないと思うんですけども、やるつもりなんですか。再度伺いたします。やらないならばやらないっていいですよ。頭をかえればいいんですから。簡単ですよ。

○議長（諏訪原実君） 町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 今、総務部長が答弁したとおり、来年度直ちにというわけにはいかないと思います。いずれにしても、これまでですね、あくまで湖岸公園構想ということで来たわけで、その中の霞ヶ浦平和公園についてまず重点的に整備するというので、これまでやってきたわけですね。これの見通しがついた。それを受けて、そういう意味で、正式な調査費を計上してということはやりませんが、予備的な検討、そういうことはやはり早目に始める必要があるんじゃないだろうか、そう考えております。

○議長（諏訪原実君） 18番細田正幸君。

○18番（細田正幸君） その点については、早目に構想の見直しをやってもらいたい。見直しをしなくてもできる分については、実現してもらいたいというふうに思います。町長は自分のやったことについては別に言わないんですね。湖岸公園構想の中に、霞ヶ浦予科練平和記念館の構想はなかったわけですね。それなのにやっていながらね、片方は自分の思ったことはやりたいけども、私どもが言ったことは後回しだというふうに私は聞こえるんですけども、私は町全体を考えれば、それではまずいんじゃないかなというふうに思います。できることは早目にやってもらいたい。もう、この論議も3年ぐらいたるわけですね。3年前に植えれば桜の木だって、3年後は大きくなるわけですから、こういう論議よりもやっぱり木は早く植えると、植えられるところは植えるということが必要だというふうに思います。

その点で、2番目の阿見東インターから125号、旧道までのバイパスですね。都市計画で開発したところは下に水道管か何かが埋まって、無理だという話をしておりましたけれども、県の竜ヶ崎土木事務所に聞いてみたら、今、バイパスをつなげることが優先で植栽については考えてないと。じゃあ、植栽をする場合はどうしたらいいんですかと聞いたならば、町が桜の木を植えると。あと、管理を町がやるということならば県のほうでは別に問題はないというようなこともっております。

それから、先ほど、町長がその道路の沿線に人家があると迷惑だっつって苦情が来るという話がありましたけれども、今、アウトレットから島津までの間、隣接する人家といわれるような、それで落ち葉が落ちるような人家は私はあそこを通ってみても、1軒もないというふうに思いますので、この2点目のバイパスへの桜並木については早急に県と協議をして、これ、町ができるわけですから、まず桜の木を植えることが大事だと。その桜が早くいけば鑑賞にたえるのには少なくとも3年、5年という年月がかかるわけですから、計画をやるやんない、やるやんないっつってやっているうちに、もう2年も3年も経過しちゃうわけですね。私はそういう点では具体的に、もう既にインターチェンジのところにアウトレットが開業したんですから。それは町は、それに伴って、その先のことはやったほうがいいというふうに思うんですが、その点、県と協議して桜並木をつくるつも

りがあるんでしょうか。再度質問します。

○議長（諏訪原実君） 都市整備部長桑田康司君。

○都市整備部長（桑田康司君） お答えいたします。桜並木という御提案でございます。

道路の街路樹というものは、非常に全国でも非常に愛されている並木道が方々でございます。また、茨城県内にもそういった並木道も確かに多数ございます。ただ、街路樹につきましては、そして市民の皆様にも愛されているというようなこともありますけれども、一方でまた、いいことばかりではなくて、デメリットもあるということも事実でございます。先ほど、町長の答弁の中で、落ち葉という話もありました。全国では確かに、県内でもそうですけれども、落ち葉が困ると言われる苦情もあります。また、その落ち葉が今度は側溝などに詰まって排水を悪くするというような問題が起きるとか、その他、高木を植えますと高木の根っこが今度は歩道に、歩道をです、下から持ち上げて段差をつくと。普通の方、歩くにはその程度の段差は問題ないかと思いますが、中にはそういった段差が妨げになる方もあると、そういった問題。それからさらには、その枝が落ちる、倒木があるとかいったこともありまして、管理するに当たってはなかなかいろいろと難しい問題が出てくると。そういったことがございます。

県のほうで、私も県のほうとちょっと話を、その件につきましてはしたわけでございますけれども、確かに議員おっしゃられるとおり、町のほうで植えて、町のほうで管理すればそれは可能だというようなお話につきましては、確かにそういった見解であろうかと思いますが、町で管理するということは、植栽の剪定作業にとどまらず、例えば、歩道がそれによって壊れたらばその歩道についてどうするのかとか、いろいろな問題点が出てきます。そういったメリット、デメリットを考えて、県のほうとしては植栽はしないというようなお考えでありますので、その考えを重く受けとめなくちゃならないなということを考えた上で、町のほうでどうなのかといったときには、やはり経費の面もございまして、それから、その後の管理の面もございまして、現段階ではそういったことで、県のほうと協議をして植栽をするという考えはございません。その辺につきましては、今後の議論が盛り上がってくればというふうなこともありますけれども、現段階としましては、そういったことを考えておらないということでございます。

○議長（諏訪原実君） 18番細田正幸君。

○18番（細田正幸君） 今、部長の答弁がありましたけれども、これは町長の答弁として置きかえて聞いてもいいんですか。要するに、来年3月までですね、それから来年度中つつうか、今はつきりと植栽をする考えはございませんつつうふうに答弁したわけですね。それが、まあ、町長の考えだとすれば、私は、まあいいです。それが町長の考えかどうかを確認したいというふうに思います。

○議長（諏訪原実君） 町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 正直言って、私は桜並木についてどうするか、最終判断というのをしております。ただ、細田議員の持論として、あそこへ桜並木をつくれればアウトレットからお客さんがたくさん来るんだ。そら、そういう要因になるでしょう。桜が咲くというのは、そういう意味でせいぜい20日か、半月か、長くてやっぱり1カ月ぐらいですか。あそこへ桜並木をつくれれば、即アウトレットへ来た人たちが予科練平和記念館に来るんだ。そういう短絡的な……。

○18番（細田正幸君） 即来るつつうことは言ってないでしょう。

○町長（川田弘二君） 考え方だけでも、それについてはやっぱり十分検討する必要があるんだろうと思うんです。費用対効果の問題もある。始めればずっといつまで管理しなきゃなんないんですから。そういうことも含めて、まだまだ検討の余地があるということだと思います。

○議長（諏訪原実君） 18番細田正幸君。

○18番(細田正幸君) 今のやりとりでわかったことは、要するに、私は、阿見町をもっと活性化させようと思って全体的に質問をしているわけですね。で、町長ないし、執行部の考え方は、その考えはわかるけどもすぐにはやれないと。徐々にやっていきましょう。私はそういう点では、徐々にやっていくつつうのは1つの何ていうかね、その怠慢だつつうふうに思うんですね。既にアウトレットはできたっているわけですから。それから、来年の2月には予科練、2月1日ですか、2日ですか、記念館オープンするわけでしょう。そのために、予科練記念館だって、人が来なければ来ないだけ赤字になるわけでしょう。じゃあ、どんなふうにご利用したらいいかつつたら、既に3カ月で阿見町に160万人も来て、トンボ返りですけども、帰っているわけですから。その何%かでも、阿見町に流れるようにすれば、プラスの要因というのは私はあるというふうに思うんですね。そういうことについて、あんまり真剣に考えないという執行部の考えはわかりましたので、それを考えてもらう、来年の3月以降は新しい町長を望むしかないなというふうに思いますので、そのことを発言して私の質問は終わります。

以上です。

○議長(諏訪原実君) これで18番細田正幸君の質問を終わります。

次に、8番藤井孝幸君の一般質問を行います。

8番藤井孝幸君の質問を許します。登壇を願います。

[8番藤井孝幸君登壇]

○8番(藤井孝幸君) 皆さん、おはようございます。通告に従い質問をいたします。

私は議員になって5年9カ月が経過をいたしました。この間、すべての議会で一般質問をしてきましたが、質問をして答弁をいただいて、議員として無力感を感じたことが多々あります。しかし、議員は町民から負託を受けて、執行部と対等の立場に立ち、町民の意思を執行部に届け、町政に反映することが議員の使命であると認識し、その無力感を払拭してきました。その根源は、何でも執行部の言うとおりで車の両輪にもなり得ず、チェック機能も果たせない。そんな議員であってはならないと。そう常々自分に言い聞かせてきたからであります。

そこで、今回の私の質問は、過去私が質問した中で、あるときは町長が、あるときは教育長が、そしてあるときは部長、細かい話になると各課の課長が御答弁をしております。その答弁の内容をこれまで検証することは少なかった。つまり、執行部の皆様は言いつばなし、我々は聞きつばなしという事項が多々あります。これは過去の議事録を読み返して判明したことであります。そこで、これまでの答弁のうち、検討します、やりますのその後はどうなったかを検証する重要性に気づいたわけでありです。そこで今回の質問に至ったわけです。

私のこれまでの質問に対し、答弁をいただいた中で、既にスタートをしているものもあります。全く手つかずの事項もあります。また、全員協議会で説明をいただいた事項もあります。しかし、私は今回質問をした内容については、再度御答弁をいただきたいと思えます。中には、各担当者、担当部局に行って聞けばいいじゃないかというような人もおりますが、それでは、私個人と担当者との二人だけの話になります。そのことが執行部の皆様、議員の皆様全員が情報を共有したことにはなりません。よって、あえてこの本会議で質問をし、答弁を求めるものであります。

まず、大きく1番目の質問です。

私は平成16年の6月、この定例会において一般質問をいたしました。それは、民生委員・児童委員の選任であります。思いもよらない方が選任をされました。え、あの人が、なぜと。これは私一人ではなく、事情を知っている方々の多く人の声として届いてくる言葉であります。そこには、選考過程に問題があるからではないでしょうか。民生委員は福祉の最前線で活躍されている方です。その方がなぜあの人がと思われるようであれば、一生懸命民生委員をやっている全体が不信感を持た

れるわけでございます。そこで質問です。民生委員・児童委員の選考基準、選考過程に問題はないのでしょうか。

2番目です。

執行部、特に、民生部長、社会福祉課長は選考過程でどのように関与しているか。また、すべきかをお尋ねいたします。

以上でこの壇上での質問は終わります。残りの6つの質問は質問席で行います。

終わります。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。町長川田弘二君、登壇願います。

〔町長川田弘二君登壇〕

○町長（川田弘二君） 藤井議員の質問にお答えします。

民生委員・児童委員の選任についての課題についてであります。民生委員・児童委員につきましては、民生委員法により社会福祉の精神を持って、常に住民の立場に立って相談に応じ、及び必要な援助を行い、もって社会福祉の増進に努めるものとするがあります。この民生委員・児童委員にふさわしい方としましては、その地域に相当期間居住し、地域の実情をよく知っているだけでなく、地域の住民が気軽に相談に行けるような方であり、社会福祉の仕事に理解と熱意があり、これを行うための知識と技術を持ち、実行力のある方で、民生委員・児童委員活動に相当な期間を割くことができる健康な方々であります。非常に一般論ですが。

現在、当町では民生委員・児童委員として76名の方々に御活躍をいただいておりますが、その任期は3年間と定められております。民生委員・児童委員の選考に当たりましては、地域の実情に精通していることが望ましいことから、平成16年12月の一斉改選により、地域の区長さんに選考基準をお示ししまして、その地域にとって、適切な方を推薦していただくようお願いしているところであります。その選考方法、選考過程につきましては、各地区の区長さんに選考基準を御提示し、御推薦いただいた候補について、町の民生委員推薦会に諮り、県の社会福祉審議会の意見を聞いた上で、知事が推薦し、厚生労働大臣から委嘱されるという形をとるものであります。

前回、平成19年12月の一斉改選では、再任者48名、新任者28名が選出されております。その際には、町としましては各行政区の区長さんに説明会を開催し、民生委員・児童委員の資格及び活動内容について詳しく説明を申し上げ、あわせて民生委員・児童委員候補者調書という選考ポイントを確認する文書等を配付して、区長さんが対応しやすい方法をとったことでスムーズな推薦ができたものと思います。また、新任の候補者につきましては、区長さんから御推薦をいただいた後、御自宅を直接訪問して、プロフィール等を聴取し、その際、本人に活動内容の説明を行い、御理解をいただいております。

しかしながら、福祉ニーズの多様化や急速に進む高齢化社会に伴い、何らかの援護を必要とされている方からの相談等も増えまして、民生委員・児童委員の方々の負担が増大している傾向にあり、その選考には大変御負担をかけている地区もあるのが実情であります。民生委員・児童委員の仕事は大変御苦労があることは承知しております。特に、休日、夜間等の緊急や事故等の対応につきましては、職員の緊急連絡網を活用し、関係機関との連絡体制の強化を図りながら、なるべく御負担がかからないよう支援してまいりたいと考えております。

次回の一斉改選は平成22年12月となっております。町としましては、前回同様スムーズな改選ができるよう、各地区に協力しながら進めてまいりたいと思います。今後、当町としましては、民生委員・児童委員の方々が相談支援活動に大きな負担感を感じないよう努めていくことが重要であると考えますので、御理解のほどよろしく申し上げます。

そうはいつでも、現実的には、これはどうしても地域差というものもありますけれども、なかなか大変な地域もあるという状況を聞いております。

○議長（諏訪原実君） 藤井孝幸君。

○8番（藤井孝幸君） 大体通り一遍の答弁で、前回の答弁と同じでございまして、ありがとうございます。

ただね、私、この内容は自分なりに精通しているつもりなんですよ、選考過程とかね。だけど、どうしてもね、選考過程に私は疑問があるんです。なぜかという、町長が先ほどいろんなね、基準をわたして、また民生委員のところに行って説明をしてという話ですけども、中にはね、私はちょっと時間がないんでね、後々のほうが大切なんで。中には、区長さんがだれにも相談しなくて選ぶというところがあるんですよ。そして、そういうところに限ってね、あの民生委員さんには絶対相談したくないというところがあったんですよ、現実的に。だから、私が前にも言ったように、区長一人の判断ではなく、地区に役員がおるでしょうから、その人たちとよく相談をしてから決めてくれというふうに介入をしてくださというふうにお願いしたんです、私は。

だから、これは問題提起です。区長一人ね、民生部長と福祉課長、高須課長、区長一人任せしないで、説明するときにはちゃんと地区の皆様方を、さっき言ったように、地区をよく知っている人、人格、識見もね、それにふさわしい人と言っているわけでしょう。だから、そういう人を皆さんで探してくださいということもまず言うてください。それと選考委員の話ね、推薦委員と言いましたけれども。選考委員会というのはあれは追認機関なんです。区長が持ってきた推薦したやつを、区長が悪いと言いませんよ、区長が推薦したやつを、この人だめだとか言って返すような組織じゃないんですよ。そんな権限はないんですよ。ただ、はい、わかりました。あと名簿が上がってきてわかりました。それで終わりなんです。それは完全に追認機関なんです。そんな機関、あってもなくても、費用弁償払うだけ損なんです。それを役場としてはね、こうやって選考委員会を開いたから、ここで承認を得られましたつうのは、一番ほら、何となくこう、そういうのを経てきたんだなということで安心はするでしょうけども、そういう追認機関であるということ、町長もまず承知をしておいたほうがいいと思います。

で、そういうもの、問題提起をして、次の質問に行きます。

2番目の質問です。

教育長所管の公共施設の管理運営についてお尋ねをいたします。

まず初めに、公共施設は、教育長所管ですからね、だれのための施設なのか。このことをですね、教育長以下しっかり認識しておれば、おのずと町民サービスは向上するんですよ。だから、まず1つだれのための施設なのかをしっかりと答えてください。

次に、図書館、公民館を公設民営にしたかどうかということです。例えば、1個の公民館を公設民営、今、公設ですかね、それを民営して地域の人に運営をさせる、モデルケースとして。そして、経費は同じでね、経費は同じで、経費を削ろうとするから、だれも参入しないんですよ。経費は同じにして、今と経費は同じにして、地域の人に運営をさせる公民館を1個つくる。そうすると、サービスが必ずよくなりますよ。今、役場の職員がやっているからね、8時、5時になっちゃうわけ、当然。8時、5時じゃないけどもね、そういう考え方になっちゃう。だから、1つだけモデルケースをつくって、この地区は、よし、地域の人でみんなで一遍やってみてくれべというふうに、モデルケースでやってみるということですね。これは提案です。

それと、図書館についても同じ予算規模で民営、募集をしてですね、運営をさせる。こうしますとね、私が再三言っている利用時間を延長してくださいよと言っているけれども、小出ししてきているわけですよ、小出し。1年間金曜日の1日だけ延長しましょうといった、そういう小出しにし

てくるわけですよ。試行期間と言いながらね。そういうことじゃなくって、やっぱり町民のための施設と私は認識しておりますので、町民が利用しやすいように、便宜を図るべきだというふうに私は思うので、以上2件ね、答弁を求めます。お願いします。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。教育長青山壽々子君。

○教育長（青山壽々子君） 公共施設の管理運営についてお答えします。

まず1点目の、公共施設はだれのための施設かについてですが、一般的に公共施設というのは道路、公園、下水道、学校、図書館など公共事業によって供給される施設をいいます。そのうち、教育委員会が所管する施設としましては、公民館、コミュニティセンター、図書館、各学校、給食センター、教育相談センター、総合運動公園、町民体育館があり、それぞれ用途目的が異なりますが、各施設とも地域住民ための施設といえます。

次に、2点目の図書館、公民館を公設民営にすればサービスは向上するのではについてですが、まず図書館における指定管理者を含む民間活力の導入につきましては、平成18、19年度の2カ年にわたり利用者サービスの拡充と経費節減のバランスのとれた運営を図るために、調査検討を行った結果、指定管理者と直営での運営経費の比較をすると、運営経費が約1,000万円安価であることが確認できたことから、当面は現状の直営方法で運営することと判断いたしました。

また、サービスの拡充につきましては、平成19年度より平日を18時まで時間延長するとともに、従来の開館日から15日増の283日を開館し、サービス向上に努めてまいりました。さらに、平成20年10月から毎週金曜日について、19時まで時間延長を試行的に実施しております。その試行結果を受けて、平成22年度からは平日19時までの時間延長を行うとともに、開館日についても祝日が重なる月曜日と年末、年始以外の祝日を開館することで、8日増の291日を開館し、さらなるサービス向上に努めてまいりたいと考えております。

次に、公民館及びふれあいセンターにつきましては、図書館同様に検討を重ねた結果、平成21年4月から効率的な館の運営を図るために、組織の再編を行い、君原公民館、かすみ公民館、本郷ふれあいセンター、舟島ふれあいセンターに正職員は配置せず、中央公民館に正職員を配置することで、各館と連携を図りながら運営を行っております。

今後も社会教育委員会及び公民館運営審議会の意見等を聞きながら、現状の運営方法を検証してまいります。いずれにしましても、図書館、公民館の運営につきましては、住民ニーズを的確に把握するとともに、民間活力の導入について、調査検討を継続的に行ってまいりますので、議員各位の御理解と御協力をお願いいたします。

○議長（諏訪原実君） 藤井孝幸君。

○8番（藤井孝幸君） そうですか。22年から午後7時までやるということですね。なかなか積極的でありありがとうございます。

でですね、これまた、要望等になりますけれども、要は、先ほど開館時間を8日昨年より多くしたとかね、それはあるんですけども、要はね、公民館でね、木曜日にね、何か私わからないんですけども、毎月木曜日にね、平日、そのときはたまたま、何だ、祭日もあるんですけども、休みのときがあるのね、休館。月曜日の休みはわかる。月曜日の休みはわかるんですけども、木曜日に毎月、4月、5月、6月、8月かね。木曜日に休んでいることがあるのよ。これはちょっと、要は私は開館、休館日を少なくしてくれということなのね。それを言っときます。

それと、図書館も同じなんですよ。9月にはね、何か知らんけど、13日間休んでいる。休館日を含めてよ。これは何なのか。いろいろ事情があるから13日間休んだんでしょけれども、これもまたちょっと理由を述べていただきたいし、これも休館日を少なくしてほしい。時間延長だけじゃなくってね、そういうふうをお願いいたします。

それで、図書館は7時までというふうに今言いましたけれども、私は提出しているように、議会の要望でもしてるようにね、民教の常任委員会ですしているように、夏時間を設けてくれつうて言ってるのよ。5月から9月までね、8時ぐらいまでは。大体7時半ぐらいまでは明るいからね。それを要望してこの件は終わります。なかなか、前向きな答弁でね、ありがとうございました。時間が延長するということは、これまで時間がかかったけども、大変前向きで結構でございます。よろしくをお願いします。

では、次に行きます。

次にですね、防災計画です。これが私の本腰なんです。防災計画で、要援護者名簿の作成の進捗状況についてお伺いいたします。

この質問はですね、16年の12月と17年の12月と2回質問してるんですね。阿見町は皆さん御承知のように、南関東直下型の地震のエリアに指定をされております。ということは、常に危険地域であるということなんです。よってですね、いつでも中越地震のような惨状がこの町に、この阿見町に発生するというおそれがあるわけですね。その問題をですね、しっかりととらえて、その被害を最小限にするというのが防災計画だというふうに私は思っているんですね、惨事があったときに。

で、私は次のような内容を確認させていただきます。要援護者の名簿作成は平成17年の12月に私の質問の中の個人情報の保護と防災計画について質問をしております。次のような答弁がありました。これ間違うといかんからね、議事録を読んで1字1句漏らさず私は読みますからね。

「個人の生命、身体または財産の安全を守るため、緊急やむを得ないと認められたときについては、個人情報の目的外利用できると明記しています。昨年の中越地震において、障害者世帯、母子世帯等の要援護者に関する個人情報が、情報を共有している福祉部局と防災関係者との間で連携が不十分であったために、救出避難所等の確保がおくれたことが問題になりました。町としてもこれを教訓とした対応策として、災害時要援護者、弱者への支援につきましては、平時から要援護者と接している民生委員等の福祉関係者との連携のあり方などの調査を行い、対応のあり方、また要援護者個人情報の共有、活用する方法などについて調査を行い、対応のあり方について検討しているところであります」というふうに答弁しています。ところでありますよ。

そこで、質問いたします。どのように、いつ、調査をし検討をしたのか、明確にお答えをいただきたいと思えます。この答弁からいくと、とっくに名簿ができてはいるはずなんです。とっくにね。調査研究してやると言ってるだもん。ほいで、平成17年12月のことですよ。もう4年経過しているんです。で、この名簿の作成、調査研究検討はどうなったのかをお伺いします。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 防災計画での要援護者名簿作成の進捗状況についてお答えいたします。

災害時要援護者とは、災害時において自力での避難が困難な高齢者や要介護者、障害者等であります。こうした方々の情報は福祉関係の各課が保有しておりますが、実際の避難に関しては、自主防災組織や民生委員等の地域の方々の協力が不可欠であります。したがって、平常時からこうした機関の間で、災害時に援護を必要とする方々の情報を共有化し、避難支援体制を整備することが非常に重要であります。こうしたことから、国においては、平成17年3月の災害時要援護者の避難支援ガイドラインを初め、平成18年3月には災害時要援護者の避難支援ガイドラインを改定するとともに、平成19年12月には災害時要援護者の避難支援対策の推進についての通知の中で、市町村は平成21年度までを目途に避難支援プランの全体計画を策定することとしております。また、21年3月には、災害時要援護者名簿の作成や避難支援プランの個別計画等、災害時要援護者対策を進めていくために、茨城県から災害時要援護者対策推進基準が示されたところであります。

町におきましては、民生委員・児童委員協議会が「民生委員・児童委員発 災害時一人も見逃さない運動」により、先行して平成18年度より要援護者支援のための災害緊急時連絡票作成に取り組んでいるところであります。

要援護者の把握方法につきましては、自発的意思により支援を希望する手挙げ方式、戸別訪問により本人の同意を得る同意方式、福祉関係部局等が保有する要援護者情報等を防災関係部局も共有する関係機関共有方式の3方式があります。しかしながら、町の災害時要援護者対策として、防災部局と福祉部局の間で、名簿の作成や関係機関との情報共有化などについて、今まで十分な検討がなされてこなかったというのが実情であります。このようなことから、現在見直しを行っている地域防災計画に災害時要援護者避難支援プランの作成や避難誘導のための関係機関との情報共有化等を盛り込んだところであります。

また、現在、町内関係機関が一体となって、要援護者対策の取り組み方針である災害時要援護者避難支援プラン全体計画の策定に取り組んでいるところであります。

今後、国や県が示したガイドラインや基準を踏まえ、互いに助け合い、支え合う地域づくりを目指し、災害時要援護者名簿避難支援プラン個別計画の策定を進め、災害時要援護者対策の充実を図ってまいりたいと考えております。

○議長（諏訪原実君） 藤井孝幸君。

○8番（藤井孝幸君） 私の質問はここに、質問書に書いているようにね、今からのことを言っているわけじゃないんですよ。今まで、調査をする、検討をしているところでありますと。だから、その調査を検討したあかしを見せてくださいと言っているんですよ。

私は、質問したときからですね、各担当、もとは総務課がやっていたからね、防災。今は町民活動推進課ですけども。行ったけども、調査とか検討とかしている節は全くないんですよ。それをなぜこうやって議会で答えているのに、検討します、調査します、答えているのに、何で今までできてないのかというその理由を聞いているんですよ。もう一度お願いします。

○議長（諏訪原実君） 生活産業部長川村忠男君。

○生活産業部長（川村忠男君） お答えします。

確かに、17年の12月の藤井議員の質問の回答の中で、町長答弁の中でですね、対応のあり方を検討しているところでありますという、これを確かにそういった答弁はしております。

その後ですね、次に、副町長の、その当時は助役でしたか、助役の質問として、今現在はボランティア調査対応については、事務レベルでは一応社協が、そしてボランティアセンターとの話し合いはしているところであるということで、少しの動きがあったというのは事実であります。

○8番（藤井孝幸君） 内容が違うよ。ボランティアセンターじゃないよ。次の質問じゃないか。

○生活産業部長（川村忠男君） ボランティアセンターとの話し合いをしたということですね。という17年12月以降からのこの分に対するこれまでの対応ということで、正直言いまして、その間、その後のきちんとした形での協議がなされてなかったということで、これは本当に反省すべきことだと思います。事実である以上はそういう形で協議がなされなかったということでもあります。答弁のとおりでございます。

○議長（諏訪原実君） 藤井孝幸君。

○8番（藤井孝幸君） そうなんですよ。だから、議会の答弁に対してね、いかに皆さん方が真剣に、まあ考えているんでしょうけど、結果的には考えてないという結果が出るわけですよ。

なぜ、私がね、過去のことを言うかということ、今からやります、今からやりますと言ったって、過去なぜできなかったのかをしっかりと受けとめないと、今からやりますと言ったって信用できないわけよ。だって原因がわかってないんだもん。やれなかった理由をしっかりとね、私は聞きたい

わけ。そして、こうこうこういう理由でできなかったと。こういうところを排除して、乗り越えて、クリアして、今回21年度からの今の防災計画にはこういうことでやりますというなら、私は納得ですよ。何にもしないで今からやりますやりますでは、これね、何を信用すればいいんですかね。温故知新ですよ。歴史をたずねてねえ教育部長、新しきを知る。そういうことなんですよ。だからね、昔、過去のことをやっぱりね、やっぱり今部長から反省の弁は聞いたけども、そういうことの積み重ねが今回の防災計画に出ることになんですよ。それで今から、今からではね、ちょっとなかなかね。時間、次の質問に入りたてただけけれど、やりますか。

○議長（諏訪原実君） 答弁いいですか、今の。

○8番（藤井孝幸君） いや、だからね、皆さん方、考えられる範囲でやらなかった理由を答弁願います。

○議長（諏訪原実君） 生活産業部長川村忠男君。

○生活産業部長（川村忠男君） なかなかこの本会議で、なかなか言いづらい部分もちょっとございますので。

○8番（藤井孝幸君） おれが言ってやる、そしたら後で。私の思うことを言ってやるよ。

○生活産業部長（川村忠男君） そういうことで、これまではこうだったよと。しかし、今後ですね、さきの全協の中でも御説明しましたように、防災計画も10年以上も経過して、新たなですね、見直しをかけております。これはどうしても、その中にこの位置づけ、名簿等の位置づけは必ずもうしていかなくちゃならないということになっていきますので、これまでのことは御容赦願いまして、今後についてはきちっとした形で、防災計画の中には位置づけていきたいという、こちらからの希望、要望で御理解いただければと思います。

○議長（諏訪原実君） 8番藤井孝幸君。

○8番（藤井孝幸君） まだ、さらに私、危惧するのはね、担当者が総務課から町民活動推進課に行っただけなのね。そこに人員を投入したとか、防災のために、投入したとかいう形跡は全くないわけですよ。だから、それで今回、確かに今の課長はですね、優秀だし、やる気もあるし、前向きなんだけど、物理的にできるかどうかつつう話なんですよ。だって、今まで過去ずっと平成8年から今まで防災計画を1回も見直してないんだもん。だから、そこを言うんですよ。だから、何にも変わってないのに、やります、やりますでは、これはね、なかなか我々としても一概に、ああそうですか、やってくれと言うわけにはいかないのよ。ということをし添えて、次の質問に行きます。

議長、いいですか。

○議長（諏訪原実君） ここでね、暫時休憩をしたいと思います。

○8番（藤井孝幸君） 一挙に行きたいところですけど。

○議長（諏訪原実君） 乗ったところだけでも、時間なのでここで。

○8番（藤井孝幸君） この防災計画ちゅうのはね、4万7,000の町民の命を預かるんですよ。ね。それで、真剣に考えてほしいという私の願いなんです。よろしく願います。まあ午後でね。

○議長（諏訪原実君） それでは、ここで暫時休憩といたします。会議の再開は午後1時からいたしますので、よろしく願いをいたします。

午前11時59分休憩

午後 1時00分再開

○議長（諏訪原実君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

その前に、ただいま12番天田富司男君、16番櫛田豊君が退席いたしました。

したがいまして、ただいまの出席議員は16名です。

それでは、8番藤井孝幸君。

○8番(藤井孝幸君) では、午前中に引き続き質問させていただきます。

これもですね、今から言うことも、名簿、要援護者の名簿作成がなぜできなかったのかというふうなことと関連をしますのでね、質問をさせていただきます。

まずですね、防災計画の見直しですがですね、平成8年に作成をして1回も見直してないという、これは現実的にあるわけですね。まあ、そのときには美浦との合併のときにやります。それから、国民保護法の条例ができたならやりますというお答えをこれはしているわけですよ。けども、国民保護法というのはもう18年にできていますから、もちろん美浦との合併もできませんでした。それから、国民保護法ができたなら、防災計画を見直すというお話でしたけども、国民保護法は18年に条例ができました。それから、3年たってもいまだに防災計画はできていないという。こういう現実があるわけですよ。それで、これはですね、やっぱり防災計画も、町民、さっき言った要援護者の保護も同じなんですけども、結局、町長自身がですね、やるやるというふうにして答えて、部下が全然動いていないという現実。これね、4万7,800人の生命、財産を守るという使命が執行部にあるわけですね。そういうことで、非常に私心配なんです。だから、災害がないと思っているから悠長な行動になるのか、危機管理意識が極めて薄いのでそういうことになるのかね、非常に私も本当に心配しているんですよ。

でね、こういう17年の12月の答弁に町長はこのように答えてるんですよ。「防災会議は重要な組織ですが、幸い当町においては、これまで大きな災害もなく、地域防災計画の修正も行っていない。しかし、これからは地域防災計画の見直しの検討とあわせて、防災会議開催について考えていきたい」。そしてまた、こうも答えているんですよ。「地域防災計画を見直す必要性というものは、これはないという認識ではないんだけど、それは緊急的にやるまでのものではないか」。この辺の表現が私、議事録どおり読んでんですけども、ここはちょっとあいまいな表現ですけども、「緊急的にやるまでのものではないか、そういう認識であったということですね。そういうことで、私はぜひやれという形での指示はしなかったというのが実態です」と、こう答えているわけですよ。それで、なぜすぐやれというふうに言わなかったのか。これを私は町長にお尋ねしたいんですよ。緊急的にやる意思を示してないわけですよ。これ、非常に重要なことなんです。まあ、悠長にゆっくりやれよというみたいなことを言葉では言っていないんですけども、町長、こう答弁すると役場の職員だって、緊急的にやらんでいいんだなという判断をするんですよ。何で、そのときに緊急的にやれと指示しなかったのか、それをちょっとお尋ねします。

○議長(諏訪原実君) 町長川田弘二君。

○町長(川田弘二君) この地域防災計画というのは非常に膨大な計画ですので、その中でいろんな要因があるんだけど、全体を改正するとなると非常に時間もかかる。で、そういう状況の中で、やはり答弁の内容もそういうような受けとめ方をされたということなんだけど、その辺については、本当の意味での危機意識が足らなかった点もあったということもあると思います。

○議長(諏訪原実君) 8番藤井孝幸君。

○8番(藤井孝幸君) そういうことなんです。危機意識っちゃうのがですね、後から質問をいたしますけれども、やっぱりリスクマネジメントというのは非常に大切なんです。最悪のことを考えて、常に役場の職員を叱咤激励するという、こういうことはぜひですね。

それで議会というのはですね、言葉の遊び場所じゃないんですよ。遊び場所と思っている人はだれもいないと思うんですけども、結果的にはね、そういうふうになっているわけですよ。で、法令やらですね、条例に基づき質問、答弁をして、その答弁することにどこに責任があるのかわからないのか。答弁に責任があるのかわからないのか。議会の答弁をですね、これからも今からも質問の中に出てく

るんですけども、議会の答弁をどのように考えているのか、ちょっと私ね、その点を町長の真意をお伺いしたいんですよ。それで部下が何で動かないのか。よろしくお願いします。

○議長（諏訪原実君） 町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 答弁する以上は、答弁したことについては責任を持ってという、そういうことでやっております。

○議長（諏訪原実君） 8番藤井孝幸君。

○8番（藤井孝幸君） ということでですね、やはり責任を持っていただくということでね、役場の職員の皆さんもね、こうやって町長も答弁しているんだから、検討します、調整します、研究しますというようなことについては、町長がああ言ってんだから、おれたちも一生懸命やって、町長の言ったことを具体化しようという気持ちにならないと言っぱなし、言われっぱなし、聞きっぱなしになっちゃうわけですよ。その点はですね、副町長以下、役場の職員、部課長がですね、町長の答弁を真剣に議事録を見てこれから対応するように、重ねてお願いをしときます。

で、先ほどね、名簿がね、要援護者の名簿ができない理由を何でできなかったんですかっつってお尋ねしたですよ。そのときはなかなかやっぱり担当執行部としては答えづらいですよ。だから、私が教えてあげますよ。答えますよ。やはりね、この大事な4万7,800のね、町民の生命、財産を守るというのであればね、やっぱり真剣に考えないかんとということだけは共通認識になりましたからね。では、なぜできないかというのはね、1つはね、今、先ほど町長が言われたように、危機管理意識がね、リスクマネジメントができていないということなんですよ。それと、これがね、これが最大の理由なんですけども、町として何かマンネリ化に陥っているんじゃないかという、そういう気がしてならないんですよ。町長がやるっちゅってのにだれも動かない。そこにね、緊張感が足りないというふうに私は思うわけ。

でね、まずなぜできないかっちゅうのは全体に危機管理意識がないということと、それから、担当者ね、専門家がないわけですよ。担当者ね。この膨大な、今先ほど町長が言っている膨大な防災計画の中で、それを1つ1つ検証するという、計画はできた方がいいが、ほうっ放しという、検証するというような専門家がない。それとですね、担当者はね、いつ来るかわからない防災の関係よりも、目の前の仕事に追われちゃうわけですね。だから、防災まで行きつかないというのがもう8年から21年まで全く見直してない、防災計画には全然手をつけていないという結果になるわけですよ。だから、常にですね、目の前の仕事に追われて後回しになるという、そういう結果になっているわけね。原因の1つ。

それから、できていないことを先ほど言いましたけれども、だれも、何でやらねえんだ、おまえ、町長こう言っているじゃねえかということ指導しない。町長も含めてね、上司が。防災計画、おまえ何をやっているんだ、おまえ。1回も見直してねえだろ、やれっちゅって言う人がいないということなのね。

そして、担当者がいっつも2年おき3年おきにかわる。置き去りに、置き去りに、置き去りにされていつまでも置き去りにされているというのが今の結果なんですよ。

そういうことなんでね、どうですかね。今、私が4つ挙げた理由は間違ってますかね。いや藤井、そこは違うよと。間違っているんだったら教えてください。

○議長（諏訪原実君） 生活産業部長川村忠男君。

○生活産業部長（川村忠男君） お答えします。

今ただいま、藤井議員のほうから、これまで進まなかった理由として3点ほど挙げられました。確かに、1、2点についてはそういうところもあるかなということもございますし、一応、防災担当は今、所管部は生活産業部の町民活動推進課のほうで所管しております。やはり、こういった天災というのはいつ来るかわからない。やはり備えあれば憂いなしということで、やはりできること

であれば担当部局のほうとしてはですね、そういった専門員の配置をしていただければさらにきちんとした計画もつくれるだろうし、そういった災害に遭った場合の対応もできるのではなかろうかと。仮に、消防長なり、それから自衛隊のOBさんなり、いろいろそういった専門的なプロパーがいるわけですから、そういう方たちをですね、配置というのも担当部局では考えております。これは町全体の話で協議することですので、担当部としてはそういった要望的なもので終わってしまいますけれども。てなことで、1, 2, そういうこと。3番について、上司の責任というかそれもありますけども、やはり専門員の配置もこれからは今後は必要ではなかろうかと。これは私の個人的な意見でもありますけども、はい、思っております。

○議長（諏訪原実君） 8番藤井孝幸君。

○8番（藤井孝幸君） 時間もないんでね、1つ提案をしときますよ。今、先ほど部長が言われたようにね、やっぱりこの膨大な計画をつくって検証するにはね、専門家が必要なんですよ。だから、専門官を期間限定でね、この体制が整う、今のつくっている防災計画が整う、訓練もやる、検証をするの整うまでの期間でもいいですから、専門家にゆだねておるといふ。だから、専門家を配置するという案を提案をして、私の今の防災の関係の質問は終わります。

じゃあ、次の質問に行きます。次に行きます。

町民活動センターとボランティアの育成についてであります。まず初めに、町民活動センターの役割、これ今、タイヨーストアの3階にあるんですけどね、タイヨーストアでよかったっけ、の3階にあるんですけども、現在のままで、あの住民活動センター、現在のままでいいのか、場所も含めてお尋ねをいたします、それが1つ。

それから、町長もおっしゃってますように、過去の質問に答えてますように、ボランティアセンター的役割を果たすことを期待してつくったものですよということを答えています。まだ、ほかにですね、現在各担当部署に分散しているボランティア活動を一元化して、町民の方々が利用しやすい組織をつくる必要性を認識しておりますと答弁しております。

それで、今の現在、こういうふうに一元化したボランティアセンターをつくりたいというふうには、これは平成14年の3月の紙井議員の質問に出ているんですね。一元化した各担当、ばらばらになっているやつを一元化したボランティアセンターをつくりたいと言って、今の住民活動センターができていますね。そういう町長の思想と考え方と今の住民活動センターの実態が私としては大きくかけ離れていると思ってるんですよ。それがどう、こういうふうになったのか、違って来たのかを質問するのが2つ。

それで、もう1つはですね、町長、同じような質問の中でですね、私の考えとして、町民活動センターの機能というものをもうちょっと、もうちょっとならず、かなり強化する形で対応するのがいいんじゃないかと、そういうふうを考えてますというふうに答えているわけね。だからこれは、どう強化して、どう評価したのかをお尋ねするのが3つ目ですね。

それから、4つ目に現行のボランティア関連組織でですね、大災害に対応可能なかどうか、対応可能にするためにはどうすればいいのかをお尋ねいたします。

5つ目、ボランティアの育成のあり方について町として何をなすべきかをお尋ねをいたします。

以上、町民活動センターとボランティアの育成について5つ質問をしております。5つの御答弁をお願いいたします。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 町民活動センターとボランティアの育成についてお答えいたします。

1点目の町民活動センターの役割と場所についてであります。町民活動センターはボランティアなど町民の社会貢献活動を支援する拠点施設として、平成15年10月にマイアミショッピングセンターの3階に開設したものであります。

ここで町民活動センターの現状の役割について説明いたします。まず、大きな役割の1つとして、ボランティア活動をこれから始めたい人の育成、支援があり、NPO設立支援を初めとし、活動を行っていく上で必要な情報の提供、分野ごとの意見交換を進めることでその役割に努めております。

2つ目の役割として、ボランティアを行う人たちが利用できる打ち合わせスペースや活動に必要な備品を有し、それらを気軽に利用できる環境をつくることで活動の場となる役割が挙げられます。

以上が現在の主な役割となっておりますが、今後はそれに加え、既存のボランティア団体の情報把握、集約に努めながら、団体間の結びつき強化や町への協働事業提案を進められるようなコーディネート機能を充実させていきたいと考えております。

また、場所については、これまでの活動をさらに充実させていくには現在のところではスペースの問題等もあることから、活動センターの機能充実を図るためにも、他の施設の活用も含めてNPOやさまざまなボランティア団体等の意見を踏まえながら、今後検討をしております。

2点目の実態との比較についてであります。実態としてはすべてのボランティア活動を一元的に管理するまでには至っていないというのが現状であります。そのようなことから、現在、町民活動センターが情報の一元化を図るため、社会福祉協議会や関係課と協議検討を重ねているところであります。

3点目の強化・評価については、これまで町民活動センターの機能の強化や評価は必ずしも十分ではありませんでした。さきの町民活動センターの役割でも述べましたが、今後も機能の強化を図り、町としてもきちんとした評価をしていきたいと考えております。

4点目の現行のボランティア組織で大災害に対応可能かという点についてであります。大規模な災害によって、救援活動が長期または広範囲に及ぶ場合などで、ボランティアの活動が必要となる場合は、県、町の地域防災計画に基づいて、社会福祉協議会の協力を得て、災害ボランティア全般の受け入れ窓口を開設することとなっております。現時点では十分な対応が困難な状況ですので、今後、災害発生時にその活動が円滑に行われるような組織、機能の充実を図ってまいりたいと考えております。

5点目のボランティア育成のあり方について、町として何をなすべきかは、町としてはさきにも述べたとおり、情報や場の提供、さらに団体間でのコーディネートを積極的に図ることでボランティア団体の育成へつなげたいと考えております。また、ボランティア活動に関する講座や講話を実施し、ボランティア団体の活動を町として積極的に広報することで、町民のボランティア意識を醸成し、少しでも多くの町民が公共の担い手となれるよう、町民活動センターがボランティア活動の拠点となるよう、さらなる機能の充実を図ってまいります。

○議長（諏訪原実君） 8番藤井孝幸君。

○8番（藤井孝幸君） 町長も多分感じていると思うんですけども、町長のイメージするボランティアセンター、一元化したいというそういうものをつくるべきだということはわかっているんですけども、実態は違うということなんですよね。それは町長も認識したと思うんですけども、やはりその町長の理想に合わせた、理想とは言いません、現実的にね、町長がこんなものにしたいというのであれば、皆さんが一致団結してやらないと、理想に近いものを。全く今みたいにかけ離れたものでは具合が悪いわけ。今の町長が答えたのはこれからこうするという話ですけども、なぜそれができなかったのかちゅうって、先ほどのあれと同じですよ、名簿づくりと同じ。なぜできなかったのかちゅうのを、だれもちょっと町長の言っていることと違うじゃねえかという人がいないから、そうなっちゃうわけですね。だからよろしく。皆さん方、担当者、汗をかいてください。お願いします。

じゃあ次、本当はまだもうちょっとしたかったんだけど、時間が30分かちゅうね。

5番目の質問です。

迷惑防止条例の制定、環境美化条例の強化についてお尋ねをいたします。

私はここ3年、過去3年ね、これ、町民が迷惑、18年、19年、20年と、3年、3回質問しているんですよ。町民が非常に迷惑して苦情が来ている。その苦情の処理をどうしているのかということ。現実に私が見ている間で、私が何回も行って、各担当課に行って、課長と話をし、これはうちではありません、建設課です、環境課ですとたらい回しをされている。私ですよ。いい度胸をしますよ、みんなね。この私をたらい回しするんだもん。で、それで、迷惑は町民にいっぱい来ているよ、苦情が。来ているんですよ。私が平成20年に質問したときには、200件ぐらいあったんですから。そういう苦情を、私に言わせれば放置をしているわけですよ、町民の苦情を。それは少しずつは解決してつかもしれませんよ。だけど、その放置している原因がどこにあるかちゅうことなんですよ。

そこで私が質問しますよ。口でね、過去の答弁の中で、これは今のある条例で強化をしてやりませう。それから、地域のコミュニティを活用してやるべきだと。それとかですね、役場の職員が行って空き地の草刈りをね、やるとか。こんなこと本末転倒なんですよ。根本的にやれるようにしないと。ということでね、現在、町全体で町民からの苦情で未解決な事項は累積で何件あるのか、それが1つの質問です。

それから、苦情等で改善するための処置として、勧告・命令は何件出したのか。これは町全体ですよ。道路だけじゃありませんよ。

それから3番目に、罰則付きの条例はできないのかをお尋ねをいたします。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 迷惑防止条例、環境美化条例の強化についてお答えいたします。

1点目の、現在町民からの未解決な苦情は累積で何件あるか、また、2点目の、このうち勧告・命令は何件出したのかについては関連しておりますので、一括してお答えいたします。

まず、最初に環境課に届いた空き地の雑草駆除の対応についてお答えいたします。平成20年度4月から11月までに344件、平成21年度11月までに279件、平成21年度に入りまして、悪質な空き地の土地所有者及び占有者に対して、指示19件、勧告7件、措置命令1件の行政指導を強化した結果、苦情件数が減少に転じております。また、未解決な苦情につきましては、現在、追跡調査等を行い、悪質な土地所有者にはさらなる指導を強化してまいります。

次に、建設課に届いた道路にはみ出している樹木、雑草の苦情は、平成21年度で17件あります。苦情連絡を受けた箇所については町が所有者に連絡をとり、所有者が樹木の剪定を行います。また、所有者が高齢者などの理由から処理ができない場合は、了承を得られた箇所については町が剪定しております。しかし、所有者が剪定を行うと不十分な場合があります。そのような場合については、引き続き所有者に改善するよう指導してまいります。さらに、広報あみに境界線からはみ出した枝により事故が発生した場合、樹木所有者の責任となります旨のお知らせを年に2回掲載するとともに、ホームページにより啓発を行っております。

次に、空き家になっている敷地内の枯れ草等による火災等に対して、近隣住民が危険、不安を感じている件についてであります。空き家の敷地内の枯れ草等からの出火等につきましては火災予防の観点から、空き家調査を実施しております。調査は町民からの通報及び独自調査になります。平成21年度は独自調査を112件行いまして、このうち、通報による調査は1件だけであります。112件行いまして、うち22件の管理不良の空き家所有者に対しての指導を年内に予定しております。指導内容は、建物周囲の枯れ草の除去など火災予防上必要な措置を講ずるよう、封書による通知指導となっております。

また、はがきによる管理報告書を同封しており、対策を施した場合報告をお願いし、報告書を受領した場合、再度現地調査を行い確認することとなります。本通知には強制力はありませんが、未

報告分につきましては再度通知指導をしている状況であります。今後とも、空き家調査及び指導については町民の安全安心確保のため、継続的に行ってまいりたいと考えております。

次に、3点目の町民が日常生活で危険・迷惑と感じている事例が見られるが、罰則規定付きの条例は制定できないかという点についてであります。御質問の迷惑防止条例の罰則規定につきましては、全国の都道府県が迷惑防止条例、あるいは公衆に著しく迷惑をかける暴力的不良行為等の防止に関する条例などの名称で制定し、主として、痴漢行為や暴力行為等を規制しているものであり、執行は警察署が行っております。町としての行政代執行の制定については行政代執行法の第1条、第2条、行政事業上の強制執行手段は法律によって定めることになっており、その手段としては直接強制、代執行、執行罰、行政上の強制徴収が挙げられますが、法律の根拠がない限り、執行ができないこととなります。そのため、個人の所有権等を制限する強制執行の条例制定は、法律が改正されない限り、町では制定することはできないこととなります。そのようなことから、今年度、勧告及び措置命令の指導強化により苦情件数が減少に転ずる成果があったことから、今後の未解決苦情調査の結果も参考にしながら、悪質な土地所有者等に対し、現行の道路法や環境美化条例、火災予防条例により、粘り強く指導していきたいと考えております。御理解のほどお願いいたします。

○議長（諏訪原実君） 8番藤井孝幸君。

○8番（藤井孝幸君） まず指摘をしときます。先ほどの苦情の累積、計算すると500件以上あるんですね。その中で、勧告・命令、勧告が7件、命令が1件、昨年私が12月に質問したときには命令はゼロ件ですよ。勧告・命令ゼロ件ですよ。担当者がかわったからかどうかわかりませんが、7件と1件という。これでもまだ生ぬるいんです。300件以上、500件近くあるんだから。その間、町民はずっと不安とか危険を感じているわけですよ。勧告・命令が出せるようになってるんだから、長くかかって、やらないところのあっちの所有者とか何とかちゅうのは、ちゃんと勧告・命令を出す。何回もお願い文書を出したって、対応をしない人がおるんですから、現実に。そういうことですよ。だから、町民の迷惑とかそんな危険を冒して、皆さん方にも家族がおるでしょう、心配している。その家族がいつも不安とか、危険と感じたら何とかするでしょう。してあげてくださいよ。お願いします。

それと罰則付きの条例ね、これ環境美化条例でできるでしょう、空き地の管理で。だって、空き缶のポイ捨て3万円ですよ。これ命も全然関係ない、空き缶をポイ捨てされたって。だけど、その環境美化条例の中でちゃんと空き地の管理ちゅうのがあるじゃないですか。そこで空き地を管理してこっちが勧告・命令を出してもやらない人ちゅうのは、勧告・命令を出してやらない人には罰則をつければいいじゃないですか。できないことはないでしょう。空き缶のポイ捨てだってあるんだもん。それはぜひ研究してください。実施してください。お願いします。

それと既存の条例にこういうことがあるんですよ。答えているのはね、「既存の条例に基づく対応がまだまだ不十分だった点があるので、その辺も十分踏まえた形で対応を強化して取り組む。その取り組みの成果を見て、条例なりについては今後の課題として検討する」。対応の強化なんか、全然してねえんだもん。だから、町長もね、これもちゃんとやっぴりおれが言ったことをちゃんとやれちゅうて言わないかんのだけでも、ぼくは、皆さん方もちゃんと町民のことだからしっかりと対応してください。お願いしときます。これは、この件は私はしつこいけれども、何回もやりますからね。

その次、大室のレイクサイドの木が入りに木がこうなっているのね。これをその住民がいつこの木が倒れてくるかわからないちゅうて心配しているんですよ。そんなときに、私が行ったら、必ず調整しますとちゃんと部長が答えてんのよ。関係課で調整が必要なものは私のほうから指導して必ず、必ず調整するようにしています。今何か言ったって、土地の地主がわからないちゅうのよ。だから、どこも言えないちゅう、何も放置しているわけですよ。これも1つ早く解決してく

ださい。よろしくお願ひします。

次に、時間がないので、次の質問に移ります。

放課後子どもプランの進捗状況についてお尋ねします。これは、放課後子どもプランは私もこれ20年の12月にね、質問をしております、これ、教育委員会主体でやるということでございますので、この質問は教育委員会主体のプランは作成したのか。このプランの内容とスケジュールはどうなっているのかお尋ねします。

○議長（諏訪原実君） 教育長青山壽々子君。

○教育長（青山壽々子君） 放課後子どもプランの進捗状況についてお答えします。

まず、1点目の教育委員会が主体となりプランを作成したかについてですが、放課後子どもプランにつきましては、平成19年第2回、第4回定例会、及び平成20年第4回定例会において、基本的な考え方を説明してまいりました。その後も関係部局と協議を重ね、検討をしました結果、今年度中に教育委員会生涯学習課がプランを作成し、平成22年度から導入してまいります。

次に、2点目のプランの内容と実行のスケジュールについてですが、プランにつきましては、既に実施されている放課後児童クラブと新規に開設する放課後子ども教室をあわせて、総合的な放課後児童対策として位置づけております。また、プランの実施場所につきましては、放課後子ども教室が実施可能な学校から段階的に導入することとし、平成22年度より阿見第一小学校と舟島小学校の2校をモデル校として実施してまいります。

具体的内容につきましては、新規に開設する放課後子ども教室を平日週2日、運動場や体育館、特別教室等の学校施設を利用して、スポーツや自主学習及び創作体験等の活動などを1年生から6年生までの全児童を対象として授業終了後から午後4時45分まで実施する予定であります。さらに、既に実施されている放課後児童クラブにつきましては、従来どおり実施するとともに、その連携につきましては、子ども教室が行われる時間帯は子ども教室のカリキュラムに参加することを基本とし、子ども教室終了後、児童クラブの子どもたちは専用施設にて従来どおりの児童クラブ活動を行うことを考えております。

次に、来年度実施に向けてのスケジュールでございますが、12月から1月にかけて、安全管理員ボランティアを地域の保護者を中心に募集いたします。また、来年1月にはプランの計画決定機関として運営委員会を設置するとともに、2月には小学校ごとに実行委員会を設置し、事業に取り組む上で、学校ごとの具体的な協議を行います。さらに実施地区においては、PTA説明会等での事業啓発を経て、4月から申し込み受付を開始し、5月連休明けの子ども教室開設を予定しております。今後はモデル地区の実績を検証した上で、全小学校区での開設に向けて、段階的に導入してまいりたいと考えておりますので、議員各位の御理解と御協力をお願いいたします。

○議長（諏訪原実君） 8番藤井孝幸君。

○8番（藤井孝幸君） 着実に計画を進めておると、教育委員会が主体でプランを作成してですね、まことに結構でございます。ただ、要望するのは2校のモデルではなくて、早急に全町に展開をしていただくように、子どもプランを展開していただくように要望しておきます。お願いします。

次、最後です。

危機管理体制についてのお尋ねをします。

私が今年の3月に町の危機管理体制はどうなっているのかという質問をいたしました、その後の対応策についてを質問いたします。

阿見町で過去10年間で5件の職員の不祥事が起きております。これは、新聞報道でね、御存じかと思えますけれども、最近、水道課長のことが起こりました。これで、執行部のね、対応のまずさ、危機管理意識の希薄さが露呈をした結果になったわけですね、あの新聞とかでは。だから、事件が起こるたびに、町長はもう二度としませんっちゅって減給しながらですね、しているわけですよ。

二度と起こさないのは当然ですけども、再発防止をどうしてやるか。それから、起こったときにどうするかということを考えるのがリスクマネジメントなんですね。だから、どっちが欠けても困るんですよ。

そこで質問をいたします。職員の不祥事、事件事故について再発防止検討委員会はできたのかどうかですね。これをお願いをいたします。これはもう一度全協でね、簡単に説明をしていただきましてけれども、ここで皆さんのおる前でどうなったのかを教えていただきたいと思えます。

次に、危機管理対応マニュアルはできたのかどうかお尋ねします。これ、町執行部の皆さん、町長にですね、傷口に塩を塗るようでもことに申しわけないんだけど、やっぱりね、ここをはっきりしとかなないと、また同じことが起こる。また、対応のまずさができますのでね、しっかりと御答弁をいただきたいと思えます。阿見町でですね、警察が入ってきて、40人体制で警察が入ってきて、庁内をしているときに、町長が宴席に出るとかね、酒飲みの席に出るとか、そういうこと。それから、テレビでそれを報道するとか、いろんな対応のまずさがね、出てきたわけですよ。これね、本当にね、マネジメントがされてないということなんですよ。だから、私が3月にね、この3月に危機対応マニュアルを、もちろん再発防止検討委員会もつくったらどうですかということ、危機対応マニュアルをつくったらどうですかという質問をいたしまして、対応マニュアルというのは、その答弁ですよ、「対応マニュアルというのは確かにあったほうがいいというふうに認識しております。今回の事件に対するマニュアルは現在ありません。町として危機管理意識が少し足りないのではないかとというものであれば」、これ、何となく人ごとみたいに言っているんだけど、「足りないのではないかとというのであれば、それは反省して、今後そういうものについて体制をさらに検討していく必要があると認識しています」と答弁しているわけね、これ。

対応マニュアルをつくるって言っているわけですよ。それで、あれから9カ月を経過しております。この対応マニュアルができたのかどうかをお尋ねをいたします。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問の中で、不祥事の件で水道課長と言われましたけども、下水道課長です。

○8番（藤井孝幸君） 下水道課長、はい、済みません。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 危機管理体制についての御質問にお答えいたします。

まず1点目の職員の不祥事、事件事故についての再発防止検討委員会の発足期日とメンバー及び検討内容についてお答えします。

阿見町職員不祥事再発防止対策検討委員会は、平成21年4月1日に設置要綱を定め、4月10日に発足いたしました。メンバーにつきましては、副町長を委員長として、教育長、消防長、各部長及び教育次長の8名であります。

次に、検討内容であります。職員の不祥事、事件等について、二度と繰り返してはならないとの決意から、不祥事再発防止対策の検討を全職員参加型で行うことがより効果的であるとの判断をし、不祥事発生の変因となり得る危険因子や防止策等について各部署ごとに意見集約を行い、また、他自治体の事例等の調査研究を行い、今年5月22日に「公務員倫理の確立をめざして」という表題で不祥事再発防止の報告書として取りまとめました。その後、6月10日の全員協議会でその内容等について説明したところであります。

次に、2点目の危機管理対応マニュアルはできたのかという点についてであります。

危機的な事態が阿見町及びその周辺に発生した場合において、町民の生命、身体及び財産を保護するとともに、町民の安全及び安心を確保するため、各分野で想定される危機管理について情報収集や連絡経路等の初動体制や危機の段階に応じた対策組織等、基本的に必要な事項を阿見町危機管理要綱（訓令）として今年5月1日に決めました。この危機管理要綱は阿見町の危機管理の総体と

しての基本的枠組みを示すものであります。したがって、個別の危機に対しては個別の計画により具体的な対応策を示すものであり、既に、個別計画等が策定されているものについては、その計画等に従い各担当部署が対応するものとして、危機管理要項の中で明示しております。

○議長（諏訪原実君） 8番藤井孝幸君。

○8番（藤井孝幸君） ちょっと、私の質問の内容をよく把握をしてないようですね、今の答弁は。阿見町周辺のこととか言っているわけではない。職員の不祥事に対することを問うてるわけですよ。私が質問したときにはちゃんとつくります、検討をしますと言っているわけね。町の全体のことだって、それじゃないんですよ、私が言っているのは。個別のものをできないっちゃうけれども、これね、あんな事件が起こって、対応がまずいから町長が謝罪したり何だりせないかんわけですよ。もともとリスクマネジメントっちゃうのはね、予防と対応なのよ。予防は何だ、その検討委員会ができたから、これはそれであるけど、その対応がそのマニュアルなの、マニュアル。それをつくったらどうですかっつうて、つくります、検討しますと言っ、できてないっちゃうことなんですよ。そこをね、私は言っているんで、今で言う私の質問に対して、そういう不祥事に対する対応マニュアルね、をつくる必要性を感じているか、持っているかどうか、だれか教えてください。

○議長（諏訪原実君） 総務部長坪田匡弘君。

○総務部長（坪田匡弘君） お答えいたします。

今、町長のほうから答弁いたしましたとおり、不祥事防止の体制というのは報告書で取りまとめて議員の方にも御報告したとおりということでございます。で、今御質問の危機管理対応のマニュアルということなんですけれども、先ほど、町長のほうが答弁しましたとおり、危機管理要綱ということで、町で想定されます危機について、その対応について基本的なところをいろんな部署でも応用できるような基本的な部分というところで、取りまとめたものでございます。ですので、この危機管理要綱に基づいて、それぞれ対応を図っていくと。応用を図りながら対応を図っていくということでございます。

ちなみに危機管理要綱の内容をちょっと申し上げますと、危機として予想される事象ですね、自然災害を初め、職員の不祥事もありますけれども、こういったものを並べまして、それぞれの対応の部署も別紙なんですけれども決めております。その中で、例えば、自然災害だと、個別の計画ですね、地域防災計画で対応できるものはそこで詳しく対応するんだというふうに決めてあります。その危機管理体制の中で危機の主幹部をまず決めて、そこで初期の対応を図るんだというふうに定めております。ですので、個別の危機の事件ごとに、おおむね主幹部を決めています。で、それに基づきまして、対応の手順ということで、初期の対応、その後、2段階目として緊急事態連絡室を設置します。最終的にはその危機の状況、大きさに応じて、対策本部を設置していくという段取りで対応手順をとっています。

そのほか、危機終息時の対応、それと、危機発生時の広報の対応、広報も基本的なものですけれども、というものをそろえましたので、それが町の基本的な危機管理マニュアルということで考えております。

○議長（諏訪原実君） 8番藤井孝幸君。

○8番（藤井孝幸君） ぼつぼつ時間もなくなるころですが、要はですね、私が7件の質問をしました、今回ね。時間の関係で皆さん方に私の真意が伝わらなかったこともあると思いますが、要は、この場で質問をして調査します、検討します、やります、調整しますと言ったことが、私に言わせればほとんどできていないということなんですよ。今の危機対応マニュアル、これはね、できたということでしょうけれども、防災にしても、ボランティアセンターにしても、できていないということが、私もこの場で今の答弁を聞いてはっきりしました。それで、やはりやるべきことは、町長として、それから執行部の皆さん方として、しっかりとやっていただきたいというふうに思います。

町長も議会での答弁つちゅうのは責任が思いというふうに言ってますからね、この点を十分考えていただきたいと思います。

で、やっぱりここにはね、町長も一生懸命やっていると思う、わかりますよ。わかるんだけどもね、リーダーシップというのはね、常に目を光らせて、引っ張っていくというこれがリーダーシップなんです。でね、町長がやっぱりリーダーシップを発揮しないと、役場の職員はついてこないんですよ。そうとなるとね、結局、リーダーシップを発揮できないとマンネリ化になったりとかね、業務の停滞、それから職員の意識も低下するということになるわけです。だから、川の水つつうのはね、御存じのように流れないと必ずどこかでよどむわけです。それで、今後の町長の今までの16年間の中で、リーダーシップを本当に発揮していただきたいのはわかりますけれども、今後ね、それが継続することができるのかどうか、私は非常にね、ちょっと心配している。ここではね、私は今までの質問の中で、ちょっとなかなかね、マンネリ化してなかなか進まないような気がしてならないので、やっぱりね、これからのね、阿見町の行く末をどうするのか。聞くところによりますと、町長よりはるか若い方が、はるかつちゅうか若い方が立候補するように、なんか運動しているつちゅう話をままた、漏れ聞きますけどもね、差し支えなかったら、質問の内容とは違いますけども、町長の抱負をちょっと聞かせていただきたいんですけども、いかがでしょうか。

○議長（諏訪原実君） いいですか。町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 今のは、次の吉田憲市議員の質問にありますので、そちらのほうで答えますので、そこから真意を酌み取っていただきたい。

○議長（諏訪原実君） 8番藤井孝幸君。

○8番（藤井孝幸君） はい、それでわかりました。それでですね、最後に改めて要望とします。トップのリーダーの議会で答えた答弁、これをしっかりと皆さん方も把握して、おれんとこのリーダーは何がしたいんだというようなことを具体的に実現するのは副町長以下ですからね。それを今後ぜひ、検討する、検討する、調整するじゃなくて、1歩も2歩も前に進めて、阿見町をいい町にしてほしいと思います。町長は後で決意を語るとらしいですけども、ぜひ町長がだれになっても、皆さん方はかわらないんだから、しっかりとしたことをやっていただきたいというふうに思います。

ということで、10分まだあるようですけども、皆さん方の今後を期待をして私の質問を終わります。

○議長（諏訪原実君） これで8番藤井孝幸君の質問を終わります。

次に、14番倉持松雄君の一般質問を行います。

14番倉持松雄君の質問を許します。登壇願います。

〔14番倉持松雄君登壇〕

○14番（倉持松雄君） 大変、皆様お疲れさまでございます。

それでは、私の質問が始まりますので、今しばらく御清聴をお願いします。

私は、学校給食の食材納入業者の選定についてと題してお伺いをいたします。

食料自給率約39%という我が国の実情におきましては、大半のものが輸入されているものと思われれます。しかし、学校給食だけは安全性を考えて、国内産が使われているものと思われれます。過去に中国からのギョーザ事件とか、牛肉の偽装事件、また過日11月27日の新聞報道によりますと、筑波大学付属病院では食肉調達に絡み、贈収賄事件があったとかであります。幸いにして、当町ではこのような事件には巻き込まれたことはございません。

しかし、過去に給食の焼肉用豚ロースが原価割れの価格で納入されていたことがあります。当時の枝肉相場は550円ないし600円のときに、ローススライス700円くらいだったと思います。当然、国内産とは考えられない値段であります。賞味期限が迫り、どうしても処分しなければならない品物だったのか、それにしても1カ月も前に納入契約をするのですから、どれが在庫になっていま

のか、投げ売りしなければならないものか、わからないと思います。当時、納入された肉は生産履歴証明書によれば、小美玉市の豚を青森県三沢の屠場で処理して、2つの業者を通して、町の給食センターに納入されたと記憶しております。

また、手元にある資料では、小美玉市の豚を郡山まで処理したものとか、岩手県の豚を三戸食肉処理センターで処理したもの、あるいは青森県の豚を三沢で処理したものとかが使われていることになっていますが、いずれにしても、納めるところが決まっていて、品物の生産履歴がはっきりしている品物は投げ売りしなければならないような品物ではありません。

そこで、納入された肉と生産履歴証明書は本当に一致しているものなのでしょうか。どのように確認しているのかお伺いいたします。

一般人の考え方では、原価割れの肉などあるはずがない。安いものは輸入肉。しかし、国産として使用されているのはどういうわけなのか。給食費を安く抑えるためなのか。けさの新聞報道によれば、フカヒレスープはフカヒレ混入量ゼロとか、チキンナゲットは増量剤が30%入っているとか。その他、成型肉と称して、混ぜ物圧縮肉など紛らわしいものがたくさんあります。給食センターが自信の持てないものは町民の推測が発展する前に、取引を停止すべきと思いますが、いかがでしょうか。

次に、米について伺います。米は、生産地からどのような経過のもとに、当町の給食センターに納められているか、確認はどのようにしているのか、お尋ねをいたします。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。教育長青山壽々子君、登壇願います。

〔教育長青山壽々子君登壇〕

○教育長（青山壽々子君） 倉持松雄議員の学校給食に使用する食材、肉類の納入業者選定についてお答えいたします。

現在、町では町内小中学校及び保育所の児童生徒、教職員を対象に毎日約5,000食の給食を提供しております。町給食センターでは米、パン、めん類の主食、及び牛乳を除く主菜、副菜について食材の調達、調理、配送を行っております。

議員御質問の食材納入に関しましては、安全で安心な給食を提供する上で非常に重要なことです。近年の食品偽造問題もありますので、特に、慎重に選定していかなければならないと考えております。

現在の食材納入方法につきまして御説明します。食材の納入業者の選定ですが、まず食材納入希望業者は町に一般または指名競争入札参加資格の申請を行い、一定の条件をクリアした業者に対し、入札参加資格が与えられます。センターではこれらの参加要件を満たしたすべての業者に対し、必要な食材の見積もり依頼を行っております。平成21年度、この入札参加業者は36業者となっております。また、見積もり依頼を行う食材については、食材ごとに異なりますが、見本や成分表の提出、色、大きさ、形、鮮度、産地の指定等、それらの条件を付しています。

次に食材の決定方法につきましては、入札時に、先ほど申し上げた条件の確認及び試食を行いながら決定しています。この決定に関しましては、センター所長と専門知識のある栄養士4名の計5名でそれぞれを確認し合いながら決定しているところです。入札回数、時期につきましては、野菜類は毎月2回、約2週間先の使用分、その他の食材については毎月1回、約1カ月先の使用分の入札を実施しています。

また、食材納入時には栄養士が品質、鮮度、数量、品温、異物混入や異臭等の点検を行い、問題がないことを確認するとともに、2週間冷凍保存を行い、不測の事態に備えております。

議員御指摘の2年半前の豚肉につきましても、このような形で入札を行い、決定してまいりました。この豚肉は、平成19年7月にショウガ焼きとして使用した豚ロース切り身で4,700枚を購入し、

調理後給食として提供いたしました。この給食に使用した豚は納入業者により提出された生産履歴情報で青森県及び岩手県で飼育され、青森県の加工工場で肉処理をされたものであることが証明されています。このような経緯で納入された食材であることから、安全に使用できると判断し、使用したものであります。最初に申し上げましたように、児童生徒に提供する食材については安全安心に使用できる食材を慎重に吟味しながら決めておりますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

○議長（諏訪原実君） 14番倉持松雄君。

○14番（倉持松雄君） 大変、所長と栄養士4人で厳しく見ているようでございます。

過去に私も農業委員をしている時代に横浜税関の食料品輸入現場を視察してまいりました。そのとき聞いたお話では、輸入食材というのは書類はビルディングの中を通過してきて、品物は船からトラックに積んで持つぐから、物は見なくて判こを押してるんだと。それが大半だという、これは本当の話ですから。そういう話を伺ってます。

この生産履歴証明書というのは、どこの豚をどこの屠場で屠殺処理したという証明書であって、その処理工場からどのような過程を踏んで、阿見の給食センターに持ち込まれたというのは書いてないんです。ですから、これは持ってきた品物とこの履歴は別なもんでも通るんです。通んです、これは。別物でも。同じものという証明はないんです。この点について何かございますか。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） お答えいたします。

我々、教育委員会としましてはその辺を信用しないと何を信用していいのかという部分がございますので、先ほど教育長から答弁がありましたように、それを信用して、納入品については国内産ということを経験つております。それを信用して購入しているという状況でございます。

○議長（諏訪原実君） 14番倉持松雄君。

○14番（倉持松雄君） 信用しても原価割れの肉などあるはずがないんです。原価割れ。どんなとこしたって原価割れで納める人はいないですから。学校給食が一番率がいいんですから。それはローズのいいものは原価すれすれにはくると思います。すれすれには。それは小間とかほかのものがありますから。ですから、この生産履歴が、信用したと言ったって、このものこのものは違うことがはっきりとわかりますよね。納められた肉とこの証明書が違うということは、一体ものでないことはわかるでしょう。どうですか。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） お答えします。

まあ、うちのほうとしましては、その履歴と肉は同じものだと解釈しております。

以上でございます。

○議長（諏訪原実君） 14番倉持松雄君。

○14番（倉持松雄君） これは履歴とはこういうことをしましたというだけであって、そっから納めるときはだれも立ち会ってないでしょう、これ。この証明があつたって、これ豚20トンも1回30トンも入ったわけじゃないんだから、その中の一部と思つたのかもしれないよ。それでも、その持ち込まれた品物とこの証明書が一体ものという証拠はどこにもないんです。で、その持ち込まれたもの、どこでも保健所が全部検査しているわけですから。肉は保健所が全部検査してますから、その検査しているかどうかは確かめましたか、納められた肉は。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） お答えいたします。保健所のほうの確認はしてございません。

○議長（諏訪原実君） 14番倉持松雄君。

○14番（倉持松雄君） これは、確認してなくたって仕方がないですよ。やっぱり、これは教

育次長ですから、その先は別に私も追及いたしません、私もこれはやっぱり本当の保健所の検査を確認しないと、このものが一致してっかしてないかはわからないんだ。

それで、それから私質問したいんですが、次は、輸入物と国産物、これはどうやって区別しているのか。わからなければそれで結構ですよ。一応、聞かせて。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） お答えいたします。

基本的には先ほどの履歴、それとあと、町のほうで国産肉ということで指定しております。それを信用しているということでございます。

○議長（諏訪原実君） 14番倉持松雄君。

○14番（倉持松雄君） 確かにこれを信用しているだけしかないと思うんですけども、これと品物が一体になっているという証拠は全然ございませんから、これ。それからですね、国産物と輸入物を見分けているということではなくて、ただ、これを信用しているということですね。それでは、やはり皆さんもこれ素人だと思いますから、そういうときはやっぱりプロに頼ったほうがよろしいんです。保健所の検査、保健所の検査は全部やっていますから、保健所の検査に立ち会った、検査に立ち会ってみれば一番わかると思いますが、立ち会ったことはございますか。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） お答えいたします。

立ち会ったことは、残念ながらございません。

○議長（諏訪原実君） 14番倉持松雄君。

○14番（倉持松雄君） 枝肉というのは、わかると思いますけれども、枝肉っていうのは骨つきなんです。骨つきで約600円したときは骨を抜いたら700円でとてもおさまりません。明らかに損害しています。で、1回損害したから、この次、儲けらせてくれるという内々の取引があるならいいんですけど、そんな取引はございませんから、ほかに、その次に回は、次のやっぱり業者で入札するんですから。やっぱり損したものはずっと損が残っちゃうんです。だから、損するような業者はいませんよ。ですから、私が言えば、国産と値段から見て、値段から見て輸入物、しかし、もう前のことでありまして、そのとき確認してませんから、だから今日、私が聞きたいことは、過去のことを私も裁判所じゃございませんから、あんたが何でわかんねんだと、そんなことは申し上げません。もし、そういうことがわからなければ、今後はその肉はどうして町内給食センターに納められているのかと、そういう経過をさかのぼって見学してはいかがだと思います。どうですか。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） 貴重な御意見、ありがとうございます。そのように検討したいと思います。

以上です。

○議長（諏訪原実君） 14番倉持松雄君。

○14番（倉持松雄君） 保健所は毎日病気の検査をしていますから、保健所の検査した肉というのは輸入肉でございますから、保健所の検査したのを見て、そしてまたそれは8カ所に判こを押してありますから。その落札した業者、そこへ行ってローズならローズ、ももならもも、それを見て、そこでカットをしてもらって、阿見の給食センターに納めるまで、これは毎回は行けませんから、皆さん、そんなに暇じゃございませんから、毎回は行けないと思いますよ。ですから、これは安いとか、高いとか関係なく、覚えちゃって輸入物でも高く納めれば信用されるのかなって思われたんでは困りますから。抜き打ち的に、もう1カ月前に契約をするんですから。ですから、抜き打ち的に年に2回ぐらいそのカットの現場を見学させていただいて、ほんで、その肉を給食センターに来るまで、今から持っていく、詰め込むまで見届けたほうが間違いはないと私はこのように

思います。毎回行けませんから、多分年に2回ぐらいだと思いますよ。そう私は提案しておきます。この点について、教育長はどう考えますか。

○議長（諏訪原実君） 教育長青山壽々子君。

○教育長（青山壽々子君） 貴重な御意見ありがとうございます。教育委員会全員で検討してまいります。ありがとうございました。

○議長（諏訪原実君） 14番倉持松雄君。

○14番（倉持松雄君） それから、米についても同様かと思いますが、どのような経路を通して納められているのか。これも調査はしたことがあるかないか、お尋ねします。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） お答えいたします。

学校給食に提供している米でございますが、県の学校給食会のほうと阿見町は契約をしております。流れとしましては、当然JAの全農いばらきが集荷したものを搗精工場に回しまして炊飯工場、吉田炊飯工場、阿見の場合はそこですが、そこから各学校に届くというようなことでございます。これは農協が集荷したものを全農のほうに持ってっているということと認識しております。

以上でございます。

○議長（諏訪原実君） 14番倉持松雄君。

○14番（倉持松雄君） 学校給食会を通してということですが、農協の米を直接給食センターに入れて、そこで御飯を炊く、吉田ベーカリーですか、給食センターが農協から直接持って行って炊いてもらったのと、学校給食センターを通して、同じ、茨城かすみ農協ですか、その米を子供に供給したので、学校給食センターには幾らか天引き、取られるんですか、どうなんですか。お金は。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） お答えします。

そのバックマージンとっては、それはないと思いますが、基本的に給食センターでございますが、保管する場所がございません。そういうことで、全農のほうにその保管倉庫とかございますので、保管、年間の米を、町のほうではコシヒカリを入れてくれということで地元産の、できるだけ地元産のコシヒカリを入れてくれということで、お願いしているということでございます。

○議長（諏訪原実君） 14番倉持松雄君。

○14番（倉持松雄君） 学校給食センターを通すのと通さないの、どのぐらいお金が違うんだろう。ちょっと聞きたいんですけど。

○議長（諏訪原実君） 倉持松雄君に申し上げます。これは通告にね、ないので……。

○14番（倉持松雄君） そうですか。わかりました。じゃあ後日。じゃあちょっと別な質問をします。

栄養士さんがこれ4人もいるんですから、栄養士さんって、いろいろな特殊な資格を持っているわけですから、この食材にはこんだけの何とか成分とか、たんぱく質だか、脂肪だか知りませんが、そういう成分が入っているだとか、どのくらいカロリーがあるのか、そういうのを1つ1つ計算して、プラスして、1人前幾らのカロリーになったって計算するのか。それとも、一覧表があって、ジャガイモには何カロリーたんぱく質には幾つとか、米には幾つと出て、その計算基準があって、その計算基準に従って計算してんのか、それとも品物を分析して計算してんですか、どちらですか。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） お答えいたします。

品物によって、食材によって、カロリーが計算できるものはそれを積み上げるというようなこと。

あと、一般的に1つ1つ、季節によっても栄養価は違うでしょうから、そういうことを積み上げたものと、それからでき上がったもので何グラムのカロリーと、そういうことを合わせて、両方併用して計算しているということでございます。

○議長（諏訪原実君） 14番倉持松雄君。

○14番（倉持松雄君） それは一般職員でもできる仕事か。分析でもして、専門的な技術が要るならば栄養士しかできないと思いますが、ただの計算だけだったら一般職員にでもできるような計算かなと思いますけど、いかがでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） 基本的には栄養士は1つの資格でございますので、その資格によって計算して児童生徒に給食を提供しているということでございます。

○議長（諏訪原実君） 14番倉持松雄君。

○14番（倉持松雄君） 栄養士さんというのは計算のほかに品物を見る目というのはどの程度あるんですか。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） 当然、栄養士の資格を持っている方でございますので、ある程度は物の見方が、食材の見方がわかっているのかなという思っております。

以上でございます。

○議長（諏訪原実君） 14番倉持松雄君。

○14番（倉持松雄君） 所長にお伺いします。

所長もこれ試食に携わっているわけですから。4人の栄養士が味見たのはやっぱりうまいと思ったか、いやここはうまくなかったと思ったか、今までなんて確認した。4人よりあんたのほうがべろが確かだとしたら、栄養士いらなくてもいいですから。

○議長（諏訪原実君） 柳生典昭君。

○学校教育課副参事兼学校給食センター所長（柳生典昭君） それではお答えいたします。

合計、私を含めて5名の者で試食等を行っているわけでございますが、これは個人によって味の感覚の違いというのがございますけれども、ほぼ多数決で決めていくというのが実態でございます。

○議長（諏訪原実君） 修正申し上げます。ただいま答弁者、学校教育課副参事兼学校給食センター所長、ちょっと長いからですね。

倉持議員に申し上げます。これも通告外というような感じなのでよろしく。

14番倉持松雄君。

○14番（倉持松雄君） 通告外でも大変議長には特別な取り計らいをいただきましてありがとうございます。

次に、最後ですけれども、学校給食を調達するに当たっては、1人分の金額を決めてから人数を、いや、全体の金額が決まっていて、それを人数で割って、割った金額で食材を調達するのか。それとも、1人当たりの金額を決めて人数を掛けて、それで品物を調達するのか、どちらにしますか。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） お答えいたします。

給食費につきましては、毎月の四千幾らということで給食費が決まっております。それに合わせて、その食材、あとはそのメニューとですね、その四千何がしかでできるメニューを考えて食材を調達しているということでございます。

○議長（諏訪原実君） 通告外でございますので、倉持議員に申し上げます。もう一回、終了。

○14番（倉持松雄君） いや、関連だから、通告外だって、それは議長だめですよ。それは、別にまるっきり別なものを持ってきて聞くわけじゃねえから。だから、だめなんですよ。全体の、1

人当たりの金額決めて、金額、それを人数を掛けねえから、だから、もう安けりゃいいや。じゃあ、だって、原価割れの肉入れちゃうとかあるんですよ。だけど、子供たちの栄養をよく考えて、今後お金と栄養とよく考えていい給食をつくっていただきますよう、お願いをいたしまして、質問を終わります。

○議長（諏訪原実君） これで14番倉持松雄君の質問を終わります。

次に、11番吉田憲市君の一般質問を行います。

11番吉田憲市君の質問を許します。登壇願います。

〔11番吉田憲市君登壇〕

○11番（吉田憲市君） 今日は傍聴席が満員だそうです。御苦労さまです。

それでは、事前に通告をしておきました2点について質問をさせていただきます。

1点目、当町の今後の町政運営についてであります。

本年8月に、茨城県知事選挙並びに解散に伴う衆議院議員選挙が同日に行われたことは、まだ記憶に新しいことかと思えます。さて、茨城県知事選挙におきましては、現職橋本知事の多選の問題、同じ人が長く職を務めることはいかかなものであろうかという空気の中で、5回目の出馬でありました。実態は自民党が二分した形となり、実質、新人候補との一騎打ちとなったわけですが、結果的には40万票という票差をもって、現職橋本知事が圧倒的勝利を果たしたわけであります。

また、衆議院選挙におきましては、早くからマスコミ等の民主党勝利との予想はあったものの、まさに戦後六十数年の歴史を持ち、そのほとんどの期間が一貫して責任政党として、与党の立場にあった自民党とそれを下支えをする公明党の自公連立政権が幕を引く結果となったわけであります。300を超える議席を獲得した実質民主党政権が多く国民の期待を背負い、本年9月に発足したわけであります。しかし、全く新しい政権下での地方自治行政の運営は先行き不透明感が募り、予測のできない情勢下にあることが現状かと思われまます。

そこで、当町を考えてみますと、川田町政が4期目の後期に来ております。川田町長は当初、就任以来、清潔、公平、公正、そして対話の政治を基本とし、みんなの声が活きるまちづくりをスローガンに掲げ、町政発展のために全力で取り組んでこられました。

また、町内の均衡ある発展と圏央道を活かしたまちづくりを推進し、都市基盤の整備を重点事業として、幹線道路の整備、土地区画整理事業の推進及び一部完成を見、また、東部工業団地の立地と企業誘致と吉原周辺開発事業によるプレミアム・アウトレットの誘致、そしてオープン並びに予科練平和記念館の来年2月のオープンを控え、着実なる町発展の礎を築いてこられましたことは、多くの町民が知るところであります。

また、他方面では町民の健康を考慮した福祉のまちづくり、学校教育と生涯学習のまちづくり、そして、行財政改革の推進を図り、長年の県職員として培われきた経験を活かし、その手腕を十二分に発揮され、町政発展に努力してこられました。こうしたいろいろな功績が評価をされ、本年7月には全国町村1,000弱の代表として、全国町村会副会長に就任されたことは、既に、皆様御承知のことかと思えます。

しかし、現在の日本経済は既にデフレが起こり始め、実質金利の上昇に伴う円高状態となっております。どれを見ても、景気の浮揚が望めない要因が現実として出てきております。サブプライム問題に端を発した金融危機、百年に一度と言われる経済危機と今まさに早急なる政府の財政金融政策が望まれるところであります。また、新政府下での行政刷新会議の3兆円削減を目標とした事業仕分けによる公共事業等さまざまな分野における予算のカット等は、地方自治体にも少なからず影響が出てくると思われまます。特に、雇用問題が深刻さを増し、失業率の悪化が懸念されまます。なお、近日にあっては、ドバイショックが拍車をかけ、さらに円高株安が進み、日本経済に打撃を与えております。

このような不況状態は、いつまで続くのでありましようか。町民の不安は募るばかりであります。経済専門家の見解もさまざまであり、2011年初めごろまでと言い切っている方もあれば、今後10年ぐらいはこのままの状態推移するだろうと言う方もあります。いずれにしても、この不況下の中で、町民の高度化、多様化する行政需要にいかにか答えていくかという地方自治行政運営はいろいろな面で正念場を迎え、難しいかじ取りを要求されることと思われまます。

またさらに、もう一步進んだ行財政改革が必要であり、今後は首長である町長の果たす役割は大変重要であると思われまます。そこで、今までの実績並びに行政経験の豊富な川田町長に寄せる町民の期待は大きなものがあるかと思いまます。来年の2月に行われるであろう町長選挙を控え、川田現町長はどうなのかという町民の声も聞こえておいまます。今後の川田町長の町政に対する思い、お考えをお尋ねいたしまます。

よろしくお願ひいたしまます。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めまます。町長川田弘二君、登壇願ひまます。

〔町長川田弘二君登壇〕

○町長（川田弘二君） 吉田憲市議員の質問にお答ひいたしまます。

私が町長として、阿見町政に取り組んできた4期15年9カ月の実績、さらには現在の社会経済情勢、残された課題を踏まえて、今後の町政運営に取り組む上での私の所信についてのお尋ねでありまますが、これは来年2月下旬、2カ月半後に迫った改選について、どういう考えを持っているかということでもあろうかと思いまますので、これらについてお答ひいたしまます。

早いもので、私が町長に就任してから、既に15年9カ月、4期に入ってからでも3年9カ月が過ぎまました。この間、常に私の公約である清潔、公平、公正な町政を目指して、多くの町民の皆さんの意向の把握に努めながら、精いっぱい努力してまいりまました。私が4期目をスタートした平成18年は、ようやくバブル崩壊後の景気回復が見られ始めた時期ではありまましたが、まだまだ安心できる情勢ではない中、数々の課題を解決しながら、まずは順調な町政の進展を見ることができまました。そして、先ほど吉田議員が挙げられまましたように、ハード、ソフト両面にわたり一定の成果を上げることができまましたと思ひておいまます。

ここ四、五年に限って挙げてみれば、都市計画道路等の幹線道路や都市公園の整備推進、工業団地への企業誘致、土地区画整理事業地内の商業施設誘致、予科練平和記念館の建設などのハード事業、また民間保育所誘致や放課後児童クラブの全校実施など、子育て支援事業の推進、地域の大学とのさまざまな分野における連携協力などのソフト事業、それに加えて行政改革として事務事業の見直しや職員定数削減による歳出削減及び企業誘致による自主財源の確保等でありまます。

これはひとえに議員各位、多くの町民の皆さん、町職員の皆さん、また県の関係者等々、多くの皆さん方からいただいた御理解、御協力のおかげでありまして、改めて心からの感謝を申し上げまます。しかし、今、これまでの期間を振り返り、将来の展望を考えると、残された課題の大きさと百年に一度と言われる世界同時不況による経済状況の厳しさを強く実感せざるを得ません。

ところで、町長という立場で町政のリーダーシップを取り続けるのはなかなか厳しいものがありまます。時間的余裕のない中で、数々の困難な課題と取り組み、頭を悩ますことは多々ありまますが、その中でときには疲れを覚えまして、そろそろ自分のやりたいことを伸び伸びやれる立場になりたいという気持ちが生ずることがないわけではありません。しかし、改めて現在の町政を取り巻く情勢の厳しさ、当面の具体的課題の対応、次なる行財政改革の具体化による財政の安定化とか、あみプレミアム・アウトレット効果の早急な地域への定着、近くオープンする予科練平和記念館の安定的運営の確立等々を考えると、自分だけの都合で直ちに今後の生き方を決めるわけにはいかないという責任意識が強く働くのでありまます。さらに、これまでいろいろな形で私を支えてきてくれた信頼する多くの皆さんから行政の継続性、安定性を維持し、現在の厳しい状況を乗り切るために、

これまでの経験と人脈等を活かして、引き続き努力してほしいという強い要請を受けるとき、その責任意識はより強く働かざるを得ません。

考えてみれば、私が町長に就任して以来、私心を捨てて、精いっぱい町政に取り組んできた基本には、この町の将来に対する、また地域の人々に対する責任意識があったのであります。一方で町長としての職務を全うするための条件として、体力、気力、判断力を適正に保持することが重要な要件であります。この中で最も問題になるのは年齢による体力、気力の衰えであります。幸い日ごろの意識的、継続的な健康管理によって健康を維持し、気力も充実しております。

参考までに申し上げますと、この16年近くの間、体調不良を理由に公務を休んだことは1回もありません。もう1つの重要な要素である判断力については、さまざまな試練を受け、経験を重ねることによって磨かれるものと考えております。

以上のことを述べた上で、阿見町にとってこの重要な時期に行政の継続性、安定性を確保し、極めて困難な客観状況の中で、当面の基本的課題に見通しをつけ、町の将来展望をより確かなものにするという責任を果たすために、来年2月に予定される町長選挙に5度目の出馬をする決意を表明いたします。

なお、町民の皆さんも御承知のように、私の3期、4期目の町政はいずれも無投票当選という形で実現しました。今回は現在の厳しい状況の中で、町民の皆さん方からぜひ直接の審判をお受けしたいと考えております。ただし、この場合、町政の長期化に対する批判は当然あると思っておりますので、マンネリズムに陥ることを絶対に避け、常に、意識改革、発想の転換を心がけて、他人からの適切な意見を取り入れる柔軟性を持つべきだと考えます。

さらに、これまでの経過を踏まえて申し上げれば、私の政治信条の基本である清潔、公正、公平な町政をなお一層のレベルアップを図りながら、堅持することも特に重要であります。

最後に、私が考える今後の課題等について述べてみます。当面の基本的課題は、結局は財政問題に集約されます。現在、国でも予算編成の取り組みがなされています。その状況を見ると、決定的な財源不足があります。それと、町の場合は、状況は違いますが、町の場合でも世界同時不況や円高等の影響で町税収入が減少し、歳入不足が見込まれるのは同様であります。

したがって、限られた財源の効果的配分とか、公有財産の有効活用、収納対策の強化による財源の確保など、要はこれまでも進めてきた行財政改革をより効果的に進めるということが基本にならざるを得ません。

ただし、阿見町の場合、これまで進めてきた事業効果、これを正當に評価し、これを活用する。また、阿見町の持つ地域特性と発展可能性を正確に認識し、これらの要素を十分に活用しながら、今後の町政を進めていくのが重要だと考えます。

ちょっとつけ加えますと、先ほどもう既に、吉田議員の質問の中にもありましたが、圏央道の開通効果、あるいはアウトレットの効果、こういう形で非常に明るい要素があるわけでありまして、こういう要素というものを十分に活用しながら、今後の町政を進めていくということが非常に重要であると考えます。

また、町民と行政が相互に理解し合いながら、真の意味での協働のまちづくりの体制を確立するということが非常に重要でありますので、この体制確立についても努力をしてまいりたいと考えます。

一方、このような厳しい状況の中でも、取り組むべき具体的課題はたくさんあるわけでありまして。そのうちの幾つかを挙げてみれば、少子高齢化対策、健康づくり対策、環境保全対策、地域防災対策、学校の耐震化対策、耕作放棄地対策等々、既にいろんな形で具体化されておりますので、緊急的課題は山積しているわけでありまして、これらについては本年度からスタートしている第5次総合計画後期基本計画に織り込まれたこれらの計画を着実かつ効果的に実施していくことが基本で

あると考えるところであります。

なお、これまでの事業全体の流れとして、おかれていた都市基盤整備に重点を置かざるを得なかった点があるわけでありました。しかし、この点についてはある程度の見通しがついてきましたので、これからは従来から進めてきた健康と福祉のまちづくりを加速させ、特に少子化対策、健康づくり対策を重点的に進めていきたいと考えております。

以上、まだまだ言葉足らずの点もありますが、議員各位、町民の皆様の御理解のほどをよろしくお願い申し上げます。

もう一度最後に言いますが、厳しい状況であることは確かですが、それと同時に阿見町の場合には、これまでの成果によりまして非常に明るい発展的な要素もあるんだということ、このことを常に忘れずに、これを活かすような形で今後のまちづくりを進めるということが非常に重要であるということをお認識をいただきたいと思っております。

○議長（諏訪原実君） 11番吉田憲市君。

○11番（吉田憲市君） ただいま、詳細な答弁をいただきましてありがとうございます。町長の5回目の挑戦、要するに出馬をするという決意がここで表明されたわけでございます。阿見町の発展と町民に対する熱い思い、それから責任意識等の強さ、それが今しみじみわかりました。また、ぜひとも出馬をなされて当選をしていただきたいと思っております。今後、非常に厳しい局面に遭遇する機会が多々あるかと思っておりますが、川田町長の豊富な行政経験手腕を活かして、我々町民のために、そして、町発展のために尽くされることをお願いいたします。また、本日お見えになっている傍聴者の皆様方を初めとする多くの町民が望んでいることと思っております。頑張ってください。要望をいたします。

それでは、次の質問に移ります。

第2問は農業委員会事務局の独立についてであります。

機構改革については、平成20年に阿見町第5次総合計画並びに阿見町行政改革大綱を実現するためには、経営的視点に立った行政運営を確立するとともに、経営を実行とするための基盤となる組織機構の改革が必須条件であるという理由から、平成19年12月3日に、全庁において機構改革の素案が示され、平成20年4月1日から施行になったわけでありました。その際に、従来独立していた農業委員会事務局が生活産業部の中に入り、事務局長が農業振興課長との兼務となりました。

その後、1年半が経過をしました。農業委員会定例会の主要議題となる農地法の許認可事務処理件数の過去10年間の推移を取り上げてみますと、平成14年度をピークにその後減少傾向にあり、平成20年度と比較対照してみますと3割強の減少となっておりますが、近年の許可申請案件は非常に複雑で専門的要素が強く、かなりの時間を要する調査研究が必要であり、1回の定例会議ではとても判断が付きにくいものが増えてきており、翌月継続審議となることも往々にしてあります。この事務処理業務は、農業委員の業務というよりは大半が事務局職員の業務となっているものが現実であります。事務局長及び担当官の業務の煩雑さは想像以上のものがあります。また、許可の可否の判断であり、その責任は重大なものがあると思っております。農業委員会事務局が阿見町と同様な形をとっているのは、近隣では河内町、利根町であり、農業人口を比較対照してみますと、阿見町が1,139人に対し、河内町は834、利根町は414と、阿見町の半分以下となっております。

農林水産省では農地法の改正に伴い、市町村農業委員会事務局の業務が増大することから、地方交付税交付金のうち、農業委員会の職員給与費の基準財政需要額について、現行の3人、1,911万円から、5人約3,800万円増額することを総務省に対して要求しております。増員要求においては、現行の農業委員会事務局の人数が平均4.4人となっていることから、実態に合わせ、課長1名と係長1名の増員を求めるもので、財務省への予算概要要求と同様に年末に決定されることとなっていることとあります。農地法の改正を期に、農業を取り巻く行政及び経済環境は農業経営支援と

いう形で確実に変化をしていくことと思われま。この際、農業委員会事務局の独立を考えてはいかがでしょうか。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） お答えいたします。

ただいまは農業委員会事務局について、農業振興課の課内事務局ではなく、従来の単独部署として独立するということと、刻々と変化する農業環境に対応するため、事務局員の増員が必要ではないかという趣旨の御質問と思いますので、その内容についてお答えいたします。

まず、行政の組織機構の基礎となるのは職員であります。その定数の状況について申し上げます。議員も御承知のとおり、現在、国を挙げて行財政改革に取り組んでいるところで、職員定数についても、全自治体において削減計画を策定し、毎年目標値を設定して推進しているところがあります。そのため、今後も職員数の削減傾向は続くということをおまづ御理解願いたいと思います。そして、このような状況下にあっても、行政としては高度化、多様化する行政事情に対応した行政サービスの提供や法改正並びに国、県からの権限移譲による新規事務についても対応しなければならないということです。そのためには、職員数の減少に応じた組織機構の見直しを図るとともに、限られた人員を効果的かつ重点的に配分することが、今の行政に求められているということになります。

御質問の平成20年度に農業委員会事務局を農業振興課内に統合したのは、1つにはこのような基本的な流れがあったからであります。具体的に申し上げますと、双方の事務事業の内容が農業施策であり、共通かつ重複するものが多く、協業体制がとれるということになります。

また、もう1つには連絡調整の強化であります。農地法にかかわる申請案件の多くは、町部局の各部署との協議調整を要することが多くありましたが、必ずしもスムーズに調整がされていなかったという問題がありました。そのため、事務局を町部局に統合し、部長を中心として関係部署との調整を図ることで、申請案件の適正な処理を行うというねらいもあったからであります。統合効果は現在においても継続されており、職員間の協業や連絡調整においてもスムーズな執行体制となっておりますので、当面は現状の体制を維持していきたいと考えます。

一方では、効率的配分によって生み出された人員を重点事業等に重点的、または期間的に配分し、事業の拡充を図っているところでもあります。

本年度は重点事業である収納対策事業の強化を図るため、収納課に職員4名を3年間の期間限定で増員したところでもあります。

議員御質問の農業施策についても、当町にとっては基幹産業であり、大変重要な施策と考えております。特に、耕作放棄地対策については、平成22年度の重点的事业と位置づけ、係の新設も指示したところでもあります。

以上のようなことから、組織体制としてはただいま申し上げましたように、現状維持であります。耕作放棄地対策等の農業施策を重点事業に位置づけております。

したがって、担当する農業振興課と農業委員会事務局の機能については、専任事務局長を配置するなど職員の増員等によって強化し、事業の拡充を図るよう検討しているところでありますので、御理解をいただきたいと思います。

○議長（諏訪原実君） 11番吉田憲市君。

○11番（吉田憲市君） ただいま詳細な答弁をありがとうございました。

農地法の改正に伴い、さまざまな活動メニューが用意されておるようであります。その中には、要するに農地に関する相談員の設置とか、または農業経営のですね、ことについての相談とか、そういう施設を設けるとか、そういうたぐいのもので、大きく取り上げて5こですか、あるようであります。

この改正の目的の1つは、私は思うんですが、農業経営者の支援ということかなというふうに思っております。とりわけ、農業後継者の育成、この問題が大きなものなのかなと思います。現実、何をさておいて、農家の所得水準がですね、ほかの業種に対して低いと。こういうことで、後継者も農業に対する魅力がないということで、先ほど町長がおっしゃられましたけど、放棄地が増大していくという、これを解消するための農地法の改正、1つの目的かなというふうには認識しております。そこで、その体制がですね、1年半を過ぎまして、どうしても使い勝手が悪いというような今現状にあらうかと思っております。この体制がまだ1年半ですから、まだこれから2年、3年、5年をかけてですね、見ていかなければわからない問題だと思っておりますが、この体制の中でもやはり必要な国の定数の削減ということの要請があるということなんですが、必要な部署にはですね、必要な人員をかけていくと。これがですね、まあ、内部の増員をしないで、その中でやりくりしていくというのが今のできる範囲かなというふうに思っております。そういう面では、町長の先ほどの答弁はありがたいなというふうに思っております。専任のですね、事務局を置いて、それでなおかつ、そこにですね、振興課と委員会は共通する面があるだろうというところで、大いにですね、縦割りじゃなくてですね、横のつながりの連携を密にして、そしてできればですね、あそこに大野課長いますけれども、環境課とですね、農業委員会の許認可というのは非常に密に関係してきます。ですから、それ、お互いにですね、協力し合って、連絡を密にしてですね、理解の程度を同じぐらいにしてほしいんです。

というのはですね、環境課ではいい、農業委員会ではだめ、農業委員会ではいい、環境課ではだめというような、こんなことがありますとね、やはり町民はですね、迷ってしまいますんでね。その辺はしっかり、共通の認識をね、レベルを一定にしてほしいというふうにつけ加えておきます。

余計なことになりましたけども、今後ですね、町長もですね、覚えているかどうかわかりませんが、県南のソフトボール大会がありました。そのときに、開会のあいさつの中で、農業の大事さをお話されてました。また、農業委員会が独立という面もですね、視野に入れているようなお話を私はちょっと聞いたんですが、そういうふうに私が理解したんですが、今後、農業という問題が私たち人間の生きるですね、食、要するに根幹でございますので、ぜひとも、御理解を願いまして、それで農業委員会事務局のですね、働きやすいそういうような職場にしていきたいなというふうに要望をして終わります。

○議長（諏訪原実君） これでは11番吉田憲市君の質問を終わります。

ここで暫時休憩といたします。会議の再開は3時10分からといたします。よろしくお願します。

午後 2時59分休憩

午後 3時10分再開

○議長（諏訪原実君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、4番難波千香子君の一般質問を行います。

4番難波千香子君の質問を許します。登壇願います。

〔4番難波千香子君登壇〕

○4番（難波千香子君） 通告に従いまして質問をさせていただきます。

それではまず初めに、高齢者対策についてでございます。

現在、阿見町の高齢化率は平成14年7,162人、15.3%でございます。現在、10月現在、9,326人、19.9%、また、単身高齢者、おひとり暮らしの高齢者は約800人、介護保険制度の介護認定を受けている方は現在1,000人前後、厚労省の国民生活基礎調査によれば、家族の介護者6割が60歳以上、介護するその家族の負担を支えることのできる地域社会づくりの充実、生活とともに医療や介護などのサービスを組み入れる通所介護や、夜間訪問介護などを備えた小規模で多機能な施設や往診を

行う在宅支援診療所などを地域の中にきめ細かく整理し、これまでの生活の継続を尊重しながら、必要な介護を受けられる地域づくりを目指す必要がございます。

阿見町におきましては、福祉計画第4期介護保険事業計画を策定し、みんなで支える優しいまちづくりを目指して、利用者のニーズにこたえようと制度の改革を行いながら、充実が図られてきていることは大変に評価するものでございます。町内の介護現場を訪問させていただき、介護施設からのスタッフから出てくる御意見、御要望をお聞きしながら、介護現場では多くの問題を抱えながら、地域の高齢者を支えていることを痛感させられております。中でも、意見として介護保険はもともと住みなれた地域の在宅で自立した生活をする目的で平成12年にスタートした制度でございますが、9年経過の現在は、在宅から施設へと制度が逆行しているのではないかとということであり

ます。地域住民110名からアンケートをいただきながら、その中の例でございますけれども、1つです。50歳代の男性は、お嫁さんが介護を嫌がり離婚、一人で施設に入所の認知症の母親の介護を、洗濯物を持ち帰り、面倒を見ておられます。仕事もパートに切り替えなければならなくなってしまい、収入も激減で時々母親に殺意さえ抱いているという悲しい相談も受けました。子供は成長して手が離れるけれども、介護には終わりが見えませんと、苦悩しておられる実情がございます。

超高齢化、家族の崩壊、貧困、制度の不安など、さまざまな問題が絡み合う介護社会、高齢者が地域で暮らしていくには介護保険だけで高齢者を支えることには無理があり、医療、地域、福祉との連携を図りながら、さらに、整備していく必要があります。

そこで、介護現場の現状と課題について、6点お伺いいたします。

1点目、独居老人、老婦人世帯や認知症の介護は介護保険では制度設計されていないため、地域の介護力の開発が不可欠であります。当町の取り組みについてお伺いいたします。

また、孤独死対策についてであります。住民からでありましたが、様子が変わると。部屋のドアをたたいても応答がなかった。管理人さんに警察の立ち会いのもとで入室すると、60歳代の男性が亡くなっていた。死後数週間たっており、介護サービスも受けていなかった。無念さを語っておいりましたが、男性と交流があった住民は皆無であったと伺い、だれにも頼れなく、孤独する高齢者住民も多く、少しでも多くの方々がかかわり合いを持つことが大切であります。現状と課題についてお伺いいたします。

2点目、介護をめぐる事件が後を絶ちませんが、男性介護者が6割を占め、加害者の約4割も息子という現実から、男性ならではの悩みの傾向など深刻な課題もございます。今の介護保険制度では、家族介護が評価されておらず、家族介護者の生活支援が重要と思われませんが、その認識と対応についてお伺いいたします。

3点目、24時間対応高齢者介護家族の電話相談についてであります。

地域包括支援センターが3年前より阿見町も開設され、介護サービスに関する総合的な相談窓口として、中心的な役割を果たしているところでございます。特に、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみ世帯、また常時注意が必要な高齢者がいる世帯が年々増加している中で、24時間365日対応の地域における相談体制の整備が全国的にも大きな課題となっております。体調の急変、身体の異変が重篤であるのかどうか、本人やその家族の日ごろの悩み事や心配事を休日や夜間でも気軽に相談できる仕組みがこれからはますます望まれるところであります。御要望もいただいておりますが、お隣の牛久市におきましては、在宅介護支援センターを設置し、夜間体制とした相談業務を特別養護老人ホーム2カ所に協力を仰ぎ、今年4月から立ち上がりましたが、高齢者が自宅で安心して介護生活を送れるようにする取り組みの一環として、当町ではいかがでしょうか。考え方と対応について、お伺いいたします。

4点目、小規模多機能型居宅介護は、通所、訪問、宿泊の3つのサービスを同時に提供すること

で、在宅中心の介護を支援するものでありますが、平成18年からスタートし、今年9月末時点で全国に2,192カ所がございます。団塊の世代が75歳を迎える2025年には3万カ所の整備が必要とされておりますが、当町の小規模多機能型居宅介護地域密着型サービスの現状と課題、設置目標についてお伺いいたします。

5点目、高齢者人口の7%が認知症高齢者であるといわれております。そのうち、7割が在宅であり、家庭内虐待のうち45%を占めているといわれております。認知症を患ったお年寄りを地域全体でサポートする、見守り支援体制の強化も近々の課題であります。現状と対策についてお聞かせください。また、認知症になっても安心して暮らせる地域をつくろうと、県において平成18年9月に、認知症サポーター養成講座が開設されたところを受け、当町の取り組みについてお聞かせください。

6点目、緊急時、災害時の要援護者の対応についてであります。阿見町では災害時要援護者避難支援計画の策定を進めているところでありますが、国でも全体プランを2010年までとしているところでありますが、災害時の場合どのように支援するのか。また、具体的にその内容を理解していただけるための情報をどのように今後地域におろして、そして地域の方々の協力を得ながら、要援護者を守るための施策として阿見町は取り組んでいくのか、お伺いいたします。

また、緊急医療情報キットの配布についてであります。高齢者や障害者、健康上不安を抱える人が対象で港区から開始し、全国に導入が進んでおります。キット中に透明のプラスチック筒であります。個人の医療情報や緊急連絡先、介護情報、避難支援カルテなども入れて、冷蔵庫に保管します。救急隊員が駆けつけたとき、冷蔵庫をあければキットがあり、情報を知ることができ、より迅速に搬送ができます。災害時にも有効です。自宅の玄関の内側にはステッカー、冷蔵庫にもステッカーを張ります。予算もさほどかからず、自治体によっては希望者全員に、また有料200円にしているところもございますが、命のカプセルとして全国に導入が広がっているところでございます。当町の見解をお伺いいたします。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。町長川田弘二君、登壇を願います。

〔町長川田弘二君登壇〕

○町長（川田弘二君） 高齢者対策について申し上げます。

町の平成21年4月1日現在の65歳以上人口は9,326人であり、全人口4万6,781人に対する高齢化率は19.9%となっており、65歳以上人口は平成19年度から毎年350人程度増加しております。また、60歳以上の人口で見た場合は、1万2,962人となり、その割合は全人口の27.7%にもなり、全町民の3割近くが高年齢者ということになります。町におきましても、高齢社会は着実に進行している状況にあります。こうした急速な社会構造の変化に対応していくためには、高齢者対策として健康づくり、就労及び老人クラブ活動を含めた生きがいづくりや社会参加機会の創出、認知症対策を含めた介護予防事業など、総合的な観点から施策を実施していく必要があります。

また、高齢社会において、これまで住みなれた身近な地域で安心して生活していくためには、住民同士がお互いに助け合い、支え合う地域社会づくりが大変重要なことであります。

まず、地域の介護力の開発についてお答えいたします。議員御指摘のとおり、すべての要支援高齢者を介護保険制度だけで支えることは難しい場合があります。そこで、町では地域ケアシステム推進事業として、保健、医療、福祉の各種在宅サービスを提供するため、要援護者一人ひとりについて、地域住民や民生委員、ケアマネジャー等を含めた在宅ケアチーム、11月末現在でケアチームの数は76あります。この在宅ケアチームを組織し、地域社会全体で取り組む総合的なケアシステムの構築を進めており、高齢者だけでなく障害者や難病患者、認知症高齢者等、だれもが安心して暮らせる福祉コミュニティづくりを推進しております。このほかにも、家族介護支援事業や地域支え

合い事業として生活管理指導員派遣事業、在宅福祉有償サービス事業、家族介護教室、家族介護者交流会、生活管理指導短期宿泊事業等を実施して、主に家族の介護負担を軽減する各種の施策を展開しております。

次に、孤独死対策についてであります。孤独死に関する明確な定義がないため、人口動態や警察署等における孤独死の統計的な数値の把握も行われていないのが現状であります。孤独死とは事件性の認められない変死であり、周囲の住民がその人が亡くなったことを長期間にわたって知らなかった場合には、死因特定によらずに、孤独死と呼ばれています。自殺や突然死はこの孤独死には含まれないと考えられています。この孤独死が発生するにはさまざまな原因が考えられますが、その主な要因としまして、地域コミュニティの希薄さに起因するものが大きいと考えられます。町では町内66行政区に73名の民生委員・児童委員が町社会福祉課と連携して福祉活動を行っており、要援助者の実態把握及び戸別訪問等の見守りや必要に応じて、町社会福祉協議会との連携を図りながら、適切かつ効果的な支援活動を行っております。

日ごろの民生委員の活動で、支援が必要と判断された場合には、先ほど申しあげました地域ケアシステム推進事業に設置された町の附属機関であるサービス調整会議に図り、個別ケースについて在宅ケアチームを組織して、要支援者一人ひとりに適切な対応に努めているところであります。

このほか、特に高齢者については、緊急通報システム推進事業、設置利用者が189名です。ひとり暮らし高齢者愛の定期便事業、利用者が193名、給食サービス事業、利用者が134名、ふれあい電話事業、202名等のさまざまなサービスをひとり暮らし高齢者に実施することにより、地域住民やボランティアが定期的に戸別訪問を行うことで、高齢者の安否確認と孤独感の解消を図りながら、安心して暮らしていただくことができるよう、サービスの提供を図っているところであります。

次に、家族介護者の生活支援についてですが、1カ月に利用した介護保険のサービスの利用者負担が高額になった場合に、世帯の所得状況等に応じて、上限額を設け、その上限額を越えた分が高額介護サービス費として支給されます。さらに、今年度から介護保険と医療保険の両方の利用者負担を年間で合計し、高額になったときに限度額を越えた分が支給される高額医療高額介護合算制度が創設されています。また、要介護3以上の認定を受けているにもかかわらず、介護保険のサービスを利用されていない方についても、在宅で常時介護をしている方に対し、在宅介護慰労金を支給しております。また、家庭において、高齢者を介護している方々にリフレッシュ及び介護する者同士の交流や情報交換の機会を提供する場として、家族介護者交流事業を実施しております。

次に、現在、家族介護者や認知症高齢者等の悩みをお持ちの方からの相談は、社会福祉協議会の中に設けられた阿見町地域包括支援センターにおいて、電話や窓口でさまざまな相談にお答えしております。24時間体制の対応ということにつきましては、専門の知識と経験を有する職員による対応が必要とされる業務ですので、人員の関係上、非常に困難な状況でありますので、開館時間内で御利用いただくとともに、お手紙やメール等でも対応させていただきますので、御理解をお願いいたします。

次に、小規模多機能型居宅介護を含む地域密着型サービスの現状につきましては、町の介護保険事業計画において、利用者の見込み数を想定し、必要な施設及びその定員数を算出した上で公募により事業所の誘致を行っております。認知症対応型グループホームは平成18年度から20年度までの第3期計画の中で、目標数の5施設、90床の目標を達成しており、これまで長期の待機者もなく、計画どおり利用者のニーズに対応している状況であります。また、小規模多機能型居宅介護につきましても、今年4月に1事業所が新設され、登録定員が25名で通所を中心に宿泊や訪問系のサービスを組み合わせ、多機能なサービスを受けられるようになり、順調に利用者の受け入れが進んでおります。このように、地域密着型サービスの提供体制はおおむね目標どおり整えられたものと考えております。

また、地域密着型の事業所に対しては、市町村が直接指導や監査を行うことが義務づけられており、阿見町においても定期的な実地指導等を通じて、サービスの向上に努めております。今後も要介護者数の伸びやサービスの利用状況に合わせて、事業計画の中で整備を図ってまいります。

次に、認知症サポーターについてであります。厚生労働省及び県が推進している認知症サポーターとは、認知症を正しく理解し、地域で認知症の人や家族を温かく見守る応援者が認知症サポーターであります。厚生労働省では認知症サポーターを全国で100万人養成することを目的とした認知症サポーター100万人キャラバンを実施しています。町では認知症サポーター養成講座を平成20年度から地域包括支援センターにおいて実施しております。平成21年度は既に3回実施され、延べ167名の方、受講者は地域ケアチーム員や民生委員等ですが、167名の方が認知症サポーター養成講座を受講されています。今後も継続して地域の集まりなどへの出前講座としても対応しながら、事業実施を図ってまいりたいと考えています。

次に、緊急時災害時における要援護者の対応についてであります。

平成18年度より町民生委員・児童委員協議会独自で、自然災害時にひとり暮らし高齢者や高齢者だけの世帯、障害がある方、その他、自力であるいは家族だけで避難などをすることが困難な方々を見逃さないようにしなければならないということで、災害時一人も見逃さない運動を展開しております。各民生委員・児童委員が所有している福祉票の中で、災害時に援護を要すると思われる方をピックアップし、本人の同意のもとに名簿を作成し、その名簿を有事の際に安否確認、救助等をするときに活かしてもらうよう行政関係機関等に提出し、援護に役立てるものであります。平成21年5月1日現在で577件となっております。

また、町として、災害時要援護者の避難支援プランを作成していく中で、民児協と町福祉部局及び町防災部局がお互いに連携をとりながら、災害時一人も見逃さない運動で収集したデータ等を反映させ、有事の際の要援護者に係る情報の伝達、管理体制や安否確認、避難誘導の指揮、命令系統を明確に位置づけして自主防災組織等の地域コミュニティや福祉関係団体と連携をとり、災害時の協力体制を確立していくこととなっております。

次に、緊急医療情報キットの配布についてであります。緊急医療キットは高齢者や障害者の安全安心を確保するためかかりつけ医や持病などの医療情報、薬剤情報等を専用の容器に入れ、この家にもある冷蔵庫に保管し、消防との協力で救急医療に活かすものです。東京都港区では平成20年度から全国初の試みとして、東京消防庁の協力のもと、もしもの時の安全と安心を守るため、救急情報の活用支援事業を始めております。

町としまでも、医療機関、消防等、広範囲な連携が必要となりますので、今後、先進事例の調査、研究をしていきたいと考えております。

○議長（諏訪原実君） 4番難波千香子君。

○4番（難波千香子君） 阿見町といたしましても、さまざまな施策を取り組んでおられることの御説明をいただきまして、大変にありがとうございます。

6項目御質問いたしましたけれども、その中で、本当に詳細に御答弁いただきましたので、その中でも孤独死対策ということで、民生委員が見守りに歩いている。その御努力の御答弁がございましたけれども、やはり民生委員さんも行政区で一人、多くて二人という状況でございますので、お一人にどれだけ面倒を見ていただけるのか。やはり多くの人の見守りがこれからは必要ではないかなと思います。そういった中で、住民の方からも、郵便配達員、また新聞配達員が常時いるけれども、そういった方はどうなのかという御要望もいただいているんですけれども、その辺、協力を願っているのかどうかお聞きしたいと思いますけれども、お願いいたします。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。民生部長横田健一君。

○民生部長（横田健一君） お答えいたします。

高齢者の見守りというようなことでございますが、以前にも一般質問にもあったかと思えます。そういうところで答えていたかと思えますが、以前は郵便局の配達員が配達の際にそういう高齢者のお宅を見守りといいますか、伺ったときにどういう状況かとかいうことをやるサービスがあったというようなことでございます。これは、有料ということになります。今回、郵便局も民間に移行したということで、現在はそういうサービスは行ってないというような状況でございます。ただ、新聞配達員のほうですね、新聞配達に関しましては、そういうサービスも検討しているというような新聞販売店もございます。そういうところに、協力をお願いするという方法もあろうかと思えます。この点については、あくまでも新聞販売店との契約に基づいて、そういう安否確認をする場合にはどこに連絡をするかとか、そういうような情報について、契約の際に取り交わしていただくというようなことが必要になろうかと思えます。この点について、なるべくそういうサービスをほかの販売店でも協力していただけるように、町のほうでもお願いしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（諏訪原実君） 4番難波千香子君。

○4番（難波千香子君） 大変にありがとうございます。

ぜひそういった方向でやっていただければと思いますので、御努力よろしくお願い申し上げます。

それからですね、毎年、高齢者は350人ずつ増加しているというようなお話がありましたけれども、その中で、2番目のほうに移らせていただきますけれども、家族介護者の生活支援ということで、介護交流事業も行っているということでありましたけれども、その人数をちょっと聞きはぐっちゃったんですけれども、何人ぐらい現実にはこの交流事業に参加していらっしゃるのか。また、その男女比等も教えていただければ、行った方がとてもこの事業で救われたという御意見も出ましたので、その辺、どういった形で今進んでいるのか、御説明をお聞かせ願えればと思います。

○議長（諏訪原実君） 民生部長横田健一君。

○民生部長（横田健一君） お答えいたします。

家族介護交流事業につきましては、平成19年度には10回ほど開催しておりまして、参加者が146名でございます。平成20年度には7回開催しておりまして、参加者が54名というような状況で、男女比の内訳については把握してございません。

以上です。

○議長（諏訪原実君） 4番難波千香子君。

○4番（難波千香子君） わかりました。やはりこういったことを進めていくことも大切ではないかなと思います。なかなか出られない方もいるんですけれども、そういった方は、先ほどもケアチームを組んで訪問介護を相談もしているという御答弁でありましたけれども、男性が特に、急に掃除、洗濯という、そういった方が現実的には虐待をしたりとか原因性がありますので、地域におきましては男性をターゲットにしたというか、男性のための介護者と交流会、男性介護者と支援者の全国ネットワークというのが、いよいよ今年の3月8日に立ち上がりまして、やはり男性介護者を支援する組織をつくらうということで、今、各地で1市町村ではできないけれども、三、四ぐらいでとかで、やろうということでその取り組みが随分進んでおります。そういった中で、男性ならではの本音が出てきて、とても救われている。また、安心だという。そういったことも今後ぜひ研究課題に入れていただければと思います。

また、24時間対応も、こういったことも安心ホットライン、フリーダイヤルというような形で、阿見町におきましても、どうか先駆的な先進例をいただきまして、研究課題に入れていただければなと思います。実は、これは大変に何回も何回も夜になると、昼と夜が介護者は逆転しているという御要望をいただいています。本当に夜になると、おしっこ、いろいろございますけれども、ある

という現実にもそういう要望に対して、これからやはり考えていく課題でありますので、御要望いたしたいと思います。

また、先ほどの小規模多機能型ということで4番目なんですけれども、かなり順風に阿見町も受け入れをして進んでいるという御答弁がありましたけれども、よく聞かれるのが、どこが空いているのかわからないという、そういった、あと小規模多機能型もようやく算入したばかりのそういう施設でありますので、そういった紹介、周知、その空き情報はこういった形でやっておられるのか。県のほうで特別養護老人ホームはインターネットを開きますと、ばつと今何名ということで茨城県のホームページでは確認することができますけれども、そういったことをどのようにされているのか、お聞かせ願えればと思います。

○議長（諏訪原実君） 民生部長横田健一君。

○民生部長（横田健一君） お答えいたします。

先ほども町長の答弁にありましたように、小規模多機能型の居宅介護につきましては、最近開設されたということで、こちらは岡崎にあります、すみれというようところが、小規模多機能型の居宅介護になります。その情報等につきましては、そういう相談を受けた場合には、ケアマネ会とか、そういうところで情報を提供しているというようなことでございます。

○議長（諏訪原実君） 4番難波千香子君。

○4番（難波千香子君） わかりました。ケアマネ会というと、一般の方は社会福祉課とか、そういったところでは情報公開していただけないのかという、はい。

○議長（諏訪原実君） 民生部長横田健一君。

○民生部長（横田健一君） ちょっと答弁漏れして済みません。

こういう町内の施設については当然広報紙とか、そういう町の介護保険情報等で周知をしております。本当にそういう施設に行かれたのがいいとかいうような場合に、そういうケアマネ会とか、そういうところで情報を提供しているというようなことでございます。

○議長（諏訪原実君） 4番難波千香子君。

○4番（難波千香子君） わかりました。そういったことで、広報に随時載せていただいているということで、空き情報も載らせていただいているということで、よろしいんでしょうか。空き情報ですね、やはりかなりいっぱいだという。

○議長（諏訪原実君） 民生部長横田健一君。

○民生部長（横田健一君） お答えいたします。

空き情報というのは随時変わってくるものですので、その必要な方に対するケアプランを作成するとかいう場合に、そういうケアマネ会、そういうときにこういう施設があいているとかいうような情報を提供するというようなことでございます。

○議長（諏訪原実君） 4番難波千香子君。

○4番（難波千香子君） わかりました。ありがとうございます。

また、続きましてですけれども、藤井さんのほうからもございましたけれども、最後の緊急時、災害時における要援護者ということで、577件を今掌握されて、民生委員を中心にということで、心配していることは民生委員さんが本当によくやったださって、大変評価するものでございますけれども、今後、実際に災害に遭ったときに、やはり現実的には民生委員さんお一人では本当に厳しいかなと思いますので、そういった今後受け皿ですね、そういった自主防災組織等、実際やっていくそういった組織の育成強化をする。そういった現実的なものが今答弁ではほとんど見えてこないんですけれども、そういったことはこれから、ようやく阿見町もそういった計画が進んでいるということですので、ぜひまた、そのところは1日も早くそういった各行政区で擁護者を囲んで、支援者をやっていくという現実的な見えるような方向でぜひ御努力をお願いしたいと思います。

また、緊急医療情報キットの配布でございますけれども、これは今後の課題ということでありませぬけれども、これはむしろ擁護援護者の登録制度をつくる場合においても、とても有効になっているということをお聞きしました。それは、安定になる、不安を取り除いてくれるものだ。どこのうちにもひとりの数、家にはそういうものがあるということで、とても評判がいいものでありますので、そういったこれから、擁護者の登録制度も始まってくるかと思っておりますけれども、ぜひ1つの成果に取り加えていただければなと思っておりますので、これは今後の課題だということだと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。何かあれば済みません。

○議長（諏訪原実君） 答弁。つけ加えて何か答弁。要望。

○4番（難波千香子君） じゃあ、答弁、今後の……。

○議長（諏訪原実君） 民生部長横田健一君。

○民生部長（横田健一君） ただいまの要望というか、内容につきましては先ほど町長の答弁にもありましたように、災害時の要援護者避難支援プランというものを今作成しているということでございます。その中で、町、民児協、福祉部局、防災部局がお互いに連携をしながら、実際どういうふうに使っていくかという分を十分協議しながら、進めていくというようなことでございます。また、緊急医療情報キットの配布につきましても、今、同じようにそういう関係部局が同じ共通認識を持って、今後そういうものを導入した場合に実際どういうふうを活用できるのか、していかなければなんないのかというようなことについて協議、今後進めていきたいというふうを考えております。

○議長（諏訪原実君） 4番難波千香子君。

○4番（難波千香子君） よろしくどうぞお願いいたします。かなり、これからこれからという事項が多いんですけれども、本当に阿見町はかなりやっけていただいておりますので、さらに今後期待するものとして、今回は質問させていただきました。

○議長（諏訪原実君） いいですか。質問、4番難波千香子君、質問は終わりですか。

○4番（難波千香子君） いいですか。

○議長（諏訪原実君） 4番難波千香子君。どうぞ質問してください。終わり。どうぞ。

○4番（難波千香子君） 済みません。続けまして、シルバー人材センターについてでございます。

高齢者の就業ニーズに応じた地域社会の日常生活に密着した臨時的かつ短期的な就業機会の提供を促進している公益法人であります。全国で平成20年3月末時点、1,332団体、その契約金額は年々増加し、阿見町においても平成20年度には関係者の御努力もありまして、歳入は2億6,000万円と伺っております。シルバー人材センターの仕事は単に労働の場を提供してきたと見るだけでなく、当事者が入会動機に明確にしていけるように、健康を維持し、高齢者の医療費抑制にどれだけ貢献してきたか、はかり知れないものがあります。しかし、政府行政刷新会議の事業仕分けでは補助金の見直しが行われ、概算要求の136億円に対してセンターの活動そのものは一定の役割を担っているとしつつも、補助率が高過ぎて効率的な運営がされていないと指摘、結果は予算を3分の1程度削減を判定しました。今後、シルバー人材センターを取り巻く環境は国からの公益法人に対する財政援助も厳しくなることから、自主財源の確保や新規就業機会の開拓など、センターみずからの努力が求められております。そこで、御回答ください。

1点目、当町におけるシルバー人材センターの現状について、現在の会員数と1人当たりの就業出勤日数、職種別に作業延べ人数、補助内容について。

2点目、今後見直しの影響について御見解をお伺いいたします。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 町シルバー人材センターは、地域社会の日常に密着した臨時的かつ短期的またはその他軽易な仕事を組織的に把握して提供することを目的として、平成3年度に設立された

社団法人であります。これにより、現役をリタイアした方々は何らかの就業を通じて自己の労働能力を活用し、みずからの生きがいの充実や社会参加ができることとなり、結果的に高齢者の健康増進、医療費の抑制、介護予防、介護保険給付費の抑制へとつながっていくこととなります。

シルバー人材センターの会員数の状況についてであります。平成21年4月1日から10月30日までに新たに町シルバー人材センターへ入会した人は40名、自己都合等による退会者が34名あり、平成21年10月30日現在の会員数は男性226名、女性112名の合計338名であります。毎月第3火曜日は、町シルバー人材センターにおいて入会説明会を実施しております。例年、50名程度の入会者がおりますが、ほぼ同数の退会者がいるため、会員数は全体として横ばいの人数が続いているというのが現状であります。1人当たりの就業出勤日数は、4月から10月までの就業日数の延べ人員累計2万6,214人を、先ほど申し上げました10月30日現在の会員数338名で割り返したもので、77.5日となり、月平均では11日となります。

また、職種別の作業の延べ人数についてであります。職種は全部で7職種あります。この7つの職種はシルバー人材センターへ入会する際に、入会者の就業能力に応じて登録時に就業できる職種をあらかじめ区分して登録しておくものです。平成21年4月から10月までの実績として、職種別の作業延べ人数を申し上げますと、技術職198人、技能職4,393人、事務職31人、管理職4,629人、折衝外交職287人、一般作業職1万5,916人、サービス職514人、その他246人となっています。

町シルバー人材センターの運営に関しては、国庫補助金及び町の補助金が支出されております。国庫補助金は高年齢者等の雇用の安定等に関する法律に基づいて、高年齢者就業機会確保事業費等補助金として支出されており、町補助金はシルバー人材センター事業の目的を安定的に実施するため、町シルバー人材センター設立時より、阿見町補助金交付規則に基づいて交付しているものであります。実績としましては、平成19年度1,453万8,000円、平成20年度1,597万9,000円、平成21年度1,582万8,000円となっています。

また、町補助金の算定は国庫補助金額を基礎として、人件費、一般運営費、就業開発費等に要する経費から算出してありますが、このたび、監査委員による今年度の決算審査意見書において、補助金の算定基準が経営努力を促す仕組みはなっていないとの指摘を受け、今後は補助金交付要綱の見直しを行い、より効率的かつ効果的な事業経営を行うように、適切な指導をしてまいりたいと考えております。

次に、行政刷新会議、事業仕分けにおける見直しの影響についてお答えいたします。

11月13日に実施されました行政刷新会議事業仕分けにおいて、検討及び評価されているのは全国シルバー人材センター事業協会への国庫補助事業（補助率2分の1）についてであります。全国シルバー人材センターは、全国の市町村にあるシルバー人材センターの情報交換・経験交流等を図ることを目的としたシルバー人材センターの全国組織であります。今回の行政刷新会議におきましては、厚生労働省から全国シルバー人材センター事業協会への国庫補助金支出の予算要求3分の1程度を縮減するという検討結果が公表されているところであります。しかしながら、全国シルバー人材センター事業への予算要求3分の1縮減が、直接的に町のシルバー人材センターへの運営に対してどのような影響を与えるかについては、現段階では不明確の部分も多く、それに対する厳しい対応が求められることも予想されます。今後の厚生労働省及び県、全国シルバー人材センター事業協会等の動向を踏まえながら、対応していかねばならないという状況でありますので、議員の御理解をお願いいたします。

○議長（諏訪原実君） 4番難波千香子君。

○4番（難波千香子君） 大変にありがとうございました。

そうしましたら、今後国の動向を見据えてということで、国庫補助金事業が3分の1になるのかどうかという御答弁でございましたけれども、こういったことは町から発信して県、国のほうへも

ぜひ声は届けていただきたいと御要望するものでございますけれども、今後、町とシルバー人材センターとのかかわりの中で、どういった計画をこういった厳しい環境というか、そうなるわけですので、計画とか、そういう考え、中長期的な町としてのかかわりとして、何か持っているのかどうか、こういったことをやっていくという、そういう展望があればぜひお聞かせ願いたいと思いますけれども、よろしく願いいたします。

○議長（諏訪原実君） 民生部長横田健一君。

○民生部長（横田健一君） お答えいたします。

シルバー人材センターにつきましては、今までは阿見町のシルバー人材センターにおきましては、かなり右肩上がりに実績を伸ばしてきたところでありますが、昨年度よりこういう経済不況ということで、その仕事を確保するというのが大変厳しくなっております。これは民間のほうからなかなか仕事がないというようなことです。またあと、個人のほうからそういう仕事之余り取れないと。そういうことで、町もできるだけ町の仕事をシルバーのほうに委託できるものは、シルバーのほうに委託しているというようなこともございます。

そういう中で、シルバー人材センターもこれ、全国の組織でございますが、厚労省のほうから、シルバー人材がみずから企画提案をして、そういう事業の創出をしていく、仕事を提案していくというようなことをすると。それによって、収益を確保していくというような事業が取り入れられています。そういうことで、近年、町にもそういうシルバーからもそういう企画提案というようなことが示されている案件がございますが、その辺については、担当部局とよく調整をしながら、シルバーに協力できる事業、町がシルバーに委託できる事業、そういうものを検討して、今後進めていきたいというふうに考えております。

○議長（諏訪原実君） 4番難波千香子君。

○4番（難波千香子君） ぜひ連携をとっていただいて御支援をよろしく願いするものであります。ますます高齢者の増大となりますので、よろしく願い申し上げたいと思います。

聞いたところによると、国の支援対策事業という、とてもそういったものがある現場の知恵を活かした仕事、また企業提供、事業効果が見込まれるといった、そういったほうからも補助金が出るというようなことを聞いておりますので、何か、そういうのが最後にそういうものがあればお聞かせ願って御質問を終わりたいと思います。

○議長（諏訪原実君） 民生部長横田健一君。

○民生部長（横田健一君） ただいまの質問につきましては、具体的にそういう通知なり、そういうものがこちらにまだないと、確認がとれてないということで、現時点ではちょっとわからないというような状況でございます。

○議長（諏訪原実君） 4番難波千香子君。

○4番（難波千香子君） わかりました。ありがとうございます。さまざまなシルバーのほうからいろんな企画が持ち込まれるというときには、ぜひ御支援のほどをよろしく願い申し上げたいと思います。

続きまして、子育て支援の環境づくりについてでございます。

最後に2点でございますけれども、1点目、赤ちゃんの駅の設置についてであります。

これは、平成17年3月作成の阿見町次世代育成支援行動計画の中に、就学前の児童の保護者に行ったアンケート、子供と外出する際困ることの質問項目では、トイレがおむつ替えや親子での利用に配慮されていないが40%と最も多く、また授乳する場所や必要な設備がないも24.8%に上っております。この赤ちゃんの駅というのは、乳幼児を連れのお母さんが外出ときに気軽に立ち寄って、おむつ替えや授乳ができるスペースが確保されている公共施設などをいいますけれども、長いすに座布団、あとタオル、目隠しがあれば少しのスペースで予算もかからないものでございます。これ

は企業も子供連れの方のサービスに大変乗り気だそうということを伺っております。

まず、埼玉県の本城市でも公民館や保育所等、また市の施設35カ所に、また春日部市でも45カ所、赤ちゃんの駅が登録されていると伺っております。また、隣の牛久市におきましては本庁舎、保育所等の公共が21施設、スーパー、自動車販売店等、民間が23施設、計44施設が登録されていると。また、龍ヶ崎でもレストランや美容室等々、23カ所が登録、市では協力店を随時募集していると聞いております。保護者の方から外出しやすくなり安心と好評を得ているということだそうです。

また、赤ちゃんの駅の設置場所には、入りやすく、一目でわかりやすいように絵やネーミングがつけてあるそうでございます。

当町におかれましても、ぜひ乳幼児を抱える保護者の子育て支援をする取り組みの一環として、公共施設や民間施設にわかりやすいネーミングをつけていただき、赤ちゃんの駅をぜひ設置してはどうかと思う次第でございます。お考えをお伺いいたします。

続きまして、2点目としてチャイルドシートの補助についてでございます。

交通安全母の会の御協力もいただきまして、平成12年から貸し出し事業を開始しておられますけれども、現在貸し出されているのは乳児用、体重が10キロ未満、身長も70センチメートル以下という対象のものでございます。乳児は生後半年くらいで使えなくなり、戻されている現状を伺っております。子供の成長に合わせて、1台3万円から4万円、高価なものは10万円を超えるチャイルドシートをその都度買いかえる必要がございます。子育ての親にしてみれば、本当に経済的負担がかなりございます。その中で、町の事業といたしまして、貸し出しは大変評価するものでございますが、貸し出し当初より既に10年が経過しようとしておるわけでございますけれども、チャイルドシートも損傷してきている、そういう箇所もあるようでございますので、安全性、衛生上の問題なども、観点からも、貸し出しから補助に変更する時期ではないかと考えます。

お隣の牛久市では子育て日本一を掲げて、平成19年、2年前の4月から補助事業を開始しておりますが、補助額5,000円、また常総市では1万円、また、神奈川県茅ヶ崎市などは2人目以降の子供から5,000円の補助を行っているということでもあります。

阿見町の新生児、出生なんですけれども、平成18年は403名、平成19年度は375名、20年度は385名と横ばいではありますけれども、子供と子育てに優しいまちづくりを掲げている阿見町でありますので、当町は財政的にも厳しい中ではございますけれども、親御さんの経済的負担の軽減を初め、少子化対策のためにも購入費用の一部補助はいかがでしょうか。お伺いいたします。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 質問事項の3、子育て支援の環境づくりについてお答えいたします。

まず、赤ちゃんの駅の設置についてであります。赤ちゃんの駅とは、先ほど説明がりましたが、乳幼児連れの母親等が外出時に安心して移動ができるよう、公共施設や商業施設などの一部を活用し、授乳やおむつ交換の場を提供するシステムの呼び名で、東京都板橋区が平成18年に導入したのが始まりと聞いております。

当町の施設においても、乳幼児連れのお客様の利用に配慮して、役場本庁舎においては、1階北口玄関脇の女子トイレ入り口に授乳やおむつ交換ができる専用スペースと、1階の児童福祉課前におむつ交換ができるスペースを設置しております。このほか、総合福祉会館さわやかセンターと図書館内におむつ交換スペースを設けているとともに、申し出に応じて、授乳に対応できる部屋を提供しております。

町内の民間施設においても、大型商業施設、ファミリーレストラン、スーパーマーケットや医療機関などを中心に乳幼児連れのお客様への対応や配慮が見られます。現在町では、平成22年度から26年度までの5カ年間における町の子育て支援対策の計画となる、阿見町次世代育成支援対策行動計画の後期計画策定に取り組んでいるところであり、この中で、子育てを支援する生活環境づくり

の視点からあわせて検討してまいりたいと考えております。

続きまして、チャイルドシートの補助についてお答えします。

平成12年の道路交通法の一部改正により、チャイルドシートの着用が義務づけられたことに伴い、当町においてもチャイルドシートの利用促進と交通安全意識の高揚を図るため、平成12年度から1歳未満用チャイルドシートの貸し出し事業を開始しました。事業開始から10年目を向かえ、チャイルドシートの着用が広く町民へ浸透し、事業開始時の目的が達成されたこと、また、現在のチャイルドシートが老朽化してきたことから、チャイルドシート貸し出し事業については平成21年度をもって、事業を終了する予定であります。

また、御質問の購入費用の一部補助につきましては、貸し出しから購入費補助導入に向けて検討しておりましたが、平成22年度から新たに子供手当が創設される見込みであることから、現時点では新たな補助導入の予定はありません。今後は、チャイルドシートの正しい着用の徹底を図るため、牛久地区安全協会阿見支部や交通安全母の会等、関係機関と協力して、広報啓発活動、街頭活動に取り組んでまいりたいと思いますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

○議長（諏訪原実君） 4番難波千香子君。

○4番（難波千香子君） 大変に御答弁ありがとうございました。

ぜひ、次年度の赤ちゃんの駅でございますけれども、計画が次世代育成支援の計画の中に繰り入れていただきたいと思っております。その中で、阿見町でも子育てハンドマップということで、課長さんのほうから見せていただいたり、あと、日ごろとても地域の方が喜ばれておりますので、ぜひこういった中にも、この赤ちゃんのマップとか、そういうものもぜひつけ加えていただきたいと思うわけでございます。ネーミング等もすばらしいものと考えていただければと思います。ちなみに、牛久市では「ママと赤ちゃんのほっと・すぺーす」、春日部ではクレヨンしんちゃんのポスター、龍ヶ崎では「たつのこ育て応援の店・施設」、柏市では、「あかちゃんほっとステーション」、「赤ちゃんの小部屋」、もうさまざま地域に合わせたそういうものをぜひつけていただいて、住みやすい阿見町をぜひ今後つくっていただければと御要望いたします。

また、チャイルドシートは今回で終了ということでございますけれども、先ほど子供手当が来るということですが、これは6月だということで伺っておりますけれども、これは計算してみました。

1人の方、また、住民税が均等割のみ世帯の方、これは今までよりも増税になります。住民税の所得割が急に増えまして、保育料が上がります。こういった低所得者に対しては高額所得者より恩恵が少ないわけでございますので、こういった理由はちょっと成り立たないのではないかなと思う次第で、そういった低所得者に対しては、やはり先ほども町長が次期立候補するに当たりまして、これから阿見町は健康と福祉、ソフトな面にも力を入れるという先ほどお話がありましたので、そういった中で、急に打ち切られる中で、ちょうど打ち切られるというか、10年をもってその辺ございますけれども、ぜひそういったわずかな300名足らずの方でありますけれども、そういったことも、ぜひ阿見町ならではのものをお願いしたいなと思うんですけれども、考えは変わらないでしょうかと引き下がらない。どうでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 今日の答弁でもこれから子育て、健康づくり、そういうことに対する重点的に考えるという言い方を言いました。ただ、このチャイルドシートについては御承知のとおり、先ほどの答弁でも説明しましたように、こういう形をとったのは、やっぱり普及を図ること、そういうことで、基本的にそういう当初の目的は達成された。だから、何かの形で対応したものが、すべてそのままどこまでも行くということじゃなくて、たまにやっぱり、スクラップするようなことも考える必要があるんだろうと。だから、これからいろいろ議論することになるわけですが、

本当の意味で支援にどういう支援が必要なのか。そういうことについて、十分協議しながら具体的な対応を考えていくわけだけでも、チャイルドシートについては今の時点ではこういう考え方で整理をしたということですので、御理解をいただきたいと思うんです。

○議長（諏訪原実君） 4番難波千香子君。

○4番（難波千香子君） 大変にありがとうございました。

今のところはというところに、かすかな望みを託したいとは思いますが、ぜひ今回の御丁寧な説明をいただきました。期待することばかりでございますけれども、本当に町長におかれましては、本当に子供の次世代のことに關しまして、本当に今後とも力を入れていただいて、そういうまちづくりにぜひ反映いただくことを御期待申し上げて、質問を終わらせていただきます。

○議長（諏訪原実君） これで4番難波千香子君の質問を終わります。

ここで総務部長坪田匡弘君から、発言を求められておりますので、坪田部長お願いします。

○総務部長（坪田匡弘君） 先ほどの細田議員の質問に対する私の答弁で、一部訂正をさせていただきます。

内容は、島津のミニ公園、いわゆるミニ公園の国土交通省からの占用の許可の期間で、先ほど答弁では来年の3月までに占用の期間が切れてですね、それ以降、更新する考えはないというような申し上げたんですけども、実は、今年の3月で以前の期間が切れてまして、さらに、10年間延長して許可申請を受けていたということで、平成21年4月1日から平成31年3月31日まで許可を受けておりましたので、訂正をさせていただきます。ただ、今後の湖岸の進め方につきましては、基本的な考えにつきましては、先ほど申し上げたとおりでございますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上です。

散会の宣告

○議長（諏訪原実君） それでは、以上で本日の日程はすべて終了しました。

本日はこれで散会します。どうも御苦労さまでございました。

午後 4時22分散会

第 3 号

[12 月 10 日]

平成21年第4回阿見町議会定例会会議録（第3号）

平成21年12月10日（第3日）

○出席議員

1番	諏訪原	実	君
2番	久保谷	充	君
3番	川畑	秀慈	君
4番	難波	千香子	君
5番	紙井	和美	君
6番	柴原	成一	君
7番	浅野	栄子	君
8番	藤井	孝幸	君
9番	千葉	繁	君
10番	久保谷	実	君
11番	吉田	憲市	君
12番	天田	富司男	君
13番	小松沢	秀幸	君
15番	大野	孝志	君
16番	櫛田	豊	君
17番	佐藤	幸明	君
18番	細田	正幸	君

○欠席議員

14番	倉持	松雄	君
-----	----	----	---

○地方自治法第121条の規定により説明のため会議に出席した者

町長	川田弘二	君
副町長	大崎誠	君
教育長	青山壽々子	君
総務部長	坪田匡弘	君
民生部長	横田健一	君
生活産業部長	川村忠男	君
都市整備部長	桑田康司	君
教育次長	横田充新	君
消防長	瀬尾房雄	君
総務課長	篠原尚彦	君
企画財政課長	篠崎慎一	君
農業振興課長兼 農業委員会事務局長	大塚芳夫	君
環境課長	大野利明	君

町民活動推進課長	飯野利明君
予科練平和記念館 整備推進室室長	湯原幸徳君
指導室長	富田耕太郎君

○議会事務局出席者

事務局長	小口勝美
書記	山崎貴之

平成21年第4回阿見町議会定例会

議事日程第3号

平成21年12月10日 午前10時開議

日程第1 一般質問

日程第2 休会の件

一般質問通告事項一覧

平成21年第4回定例会

一般質問2日目（平成21年12月10日）

発 言 者	質 問 の 趣 旨	答 弁 者
1 紙井 和美	1 男性も女性も共に豊かに生きる「阿見町男女共同参画社会」の実現にむけて	町 長 教 育 長
2 浅野 栄子	1 「農業再生の鍵を握る」農業振興課について 2 阿見町の教育の方向について	町 長 教 育 長
3 川畑 秀慈	1 地球温暖化防止対策について	町 長
4 千葉 繁	1 予科練平和記念館の運営と霞ヶ浦湖岸公園構想について 2 地産地消の推進について	町 長 町 長

午前10時00分開議

○議長（諏訪原実君） それでは、皆さん、おはようございます。定刻になりましたので、これから本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員は16名で、定足数に達しておりますので、会議は成立しました。

本日の議事については、お手元に配付しました日程表によって進めたいと思いますので、御了承を願います。

これより議事に入ります。

一般質問

○議長（諏訪原実君） 日程第1，一般質問を行います。

質問の順序を通告順とし、質問時間を1時間といたしますので、御協力のほど、よろしく願いをいたします。

初めに、5番紙井和美君の一般質問を行います。

5番紙井和美君の質問を許します。登壇願います。

〔5番紙井和美君登壇〕

○5番（紙井和美君） 皆さん、おはようございます。通告に従いまして一般質問させていただきます。

男性も女性もともに豊かに生きる阿見町男女共同参画社会の実現に向けて。

1999年の6月、男女共同参画社会基本法が成立いたしました。間もなく10年になろうとしている近年、女性の意識やライフスタイルは大きく変化したとの印象があります。しかしながら、国連開発計画の人間開発報告書によりますと、女性が政治や経済活動や意思決定に参加できるかどうかをはかる指数、すなわち各国女性の活躍度をあらわす指数においては、109カ国中、日本は57位に甘んじており、先進国においては低い位置にあります。その背景には、女性の社会進出に対する拒否感がいまだ根強く残っていることも事実でありまして、男女共同参画の理念から見れば、日本はまだまだ発展途上国と言えるのであります。

男女共同参画社会は、単に女性が男性と平等の権利を勝ち取るだけでなく、性別にかかわらず、その個性と能力を自由に発揮し、男性と女性が共同して住みよい社会を構築することであると考えます。

そこで、当町における男女共同参画の取り組みを、以下の8点について伺います。

まず初めに、阿見町におけるこれまでの総括と今後の計画について伺います。

平成17年3月に、阿見町男女共同参画プランが策定されました。さらに、今年度は条例の制定に向け、男女共同参画プラン推進委員の皆さんを中心に条例案づくりが進められています。去る11月19日には、阿見町男女共同参画社会基本条例案について意見交換会があり、大変に有意義な時間をいただきました。条例の制定が速やかに実現し、その後それを軸として、男女ともに住みやすい町の構築を願うところであります。

さて、そこで、当町におけるこれまでの男女共同参画の動きをどのように総括し、今後、計画はどのように反映させようとしているのかをお尋ねいたします。

次に、阿見町職員の育児休業の取得について伺います。

厚生労働省が発表した2007年度の雇用均等基本調査によりますと、日本の男性の育児休業の取得率は、2005年には0.5%であったのに対し、2007年には1.56%に上がっております。わずか1ポイントではありますが、見方を変えれば3倍強になったとも言えます。ちなみに、女性の育児休業取得率は、2005年の72.3%に比べ、2007年度は89.7%と大きく上昇をしております。法律上、この育

児休業は男女を問わず、原則として、子供が1歳になるまでの間に一度とることができることとなっております。また、地方公務員の場合には、子供が3歳に達する日まで育児休業をすることができるとされております。当町における実態、特に男女共同参画をリードすべき役所における実態についてはどのようになっているのかお尋ねいたします。

3点目、政治や経済活動、意思決定に参加できるなどの女性の地位向上や女性の活躍を向上させる取り組みと、各種審議会などへの女性登用の促進と管理職への女性登用促進プログラムについてお伺いいたします。

女性の管理職登用は、多くの民間企業でも課題になっているようであります。働く女性からの相談が多いある専門家は、女性管理職登用の流れをチャンスととらえる女性とちゅうちょする女性とで二極化傾向がある、モデルとなる女性管理職が少ないなど、女性特有の問題もあり、管理職によるイメージを描けないことも大きいと分析しています。こうした中、管理職志向の女性のすそ野を広げたり、動機づけを後押しするための研修などに力を入れる企業も登場しているとのことであり

ます。

当町では、女性登用のためにどのような取り組みがなされているのか、また、男性と同様に研修が行われているのかお尋ねいたします。

4点目、少子化対策とワーク・ライフ・バランスについてお伺いいたします。

少子化が進む原因を尋ねた場合、経済的負担に続き、子育てと仕事の両立が難しい、子育てや高齢者の介護に夫の協力が足りないとの回答が目立っております。日本では、母親ひとりが家事から育児、仕事までを担っている場合が多く、その負担を軽くしなければ出生率が上がらないのは当然であります。国際的に見て、男性の家事の割合は、カナダやノルウェーが40%、スウェーデンやアメリカが30%なのに対し、日本は12.5%とのこと。さらに、興味ある分析として、男性の家事労働が長い国のほうが労働生産性も高い傾向が顕著に出ております。ある雑誌の記事に「昔は景気が悪くなれば、お父さんの残業は減るものだった。だが、今はこうした物理的な仕事量は非正規社員によって調整される。そして、正社員はこの厳しい状況を打破するために、新しい知恵を要求され、より質の高い労働を強いられる。不況下における非正規社員の悲哀はよくニュースになるが、現在は、正規社員も肉体的、精神的に疲弊している」とありました。育児は女性に任せ、男性ひとりが早朝から深夜までくたくたになるまで働く社会と、男女が互いに8時間ずつほどほどに働き、二人で家事や子育てをする社会とでは、どちらが生産性が高くまた幸せな社会か、今こそ真剣に考えるべきときではないかと思うのであります。

そこで、活力ある社会を形成し維持していくためには、男女ともにみずから希望して、仕事、家庭生活、地域活動や趣味などさまざまな活動をバランスよく楽しめる社会を目指す、仕事と生活の調和、すなわちワーク・ライフ・バランスの推進が重要であると言われております。特に、住民に身近な地方公共団体の積極的な取り組みが極めて重要であると思われ。また、ゆとりある安心の子育てのためには、保育所の整備や学童クラブの充実も絶対に切り離せないものであります。当町の男女共同参画の理念、特にワーク・ライフ・バランスをこの不況の中で後退させてはならないと思いますが、そのための取り組みについてお伺いいたします。

5点目は、男女共同参画社会の学校教育の状況について伺います。

初等教育すなわち小学校や、思春期を迎える中学校の教育の中で、男女共同参画社会の意識を学んでいくことは大変重要であると考えております。男女共同参画社会について、学校教育の現状と今後の取り組みについての考えをお聞かせください。

6点目、男女共同参画社会の中で、さまざまな相談を受けたり活動を行うに当たっては、活動拠点となるセンターの充実が大切な基軸であります。男女共同参画社会の構築に向け、男女共同参画センター等、基盤整備となる総合的な拠点施設の整備についてのプランはどのようになっているの

かお伺いたします。

7点目、農業委員の女性の登用について伺います。

日本では、女性が農業就業人口のおよそ6割を占めています。女性は農林水産業生産に重要な役割を果たしていますが、女性が貢献していることが、報酬や政策決定過程における女性の役割に適正に反映されていません。日本では、農業は家族経営のため、夫が経営主となることが多く、従来男性を中心とした社会活動が維持されてきたということもあり、農協など、女性の社会活動への参加は低調であります。例えば、1999年では、女性は農業委員のわずか1.6%しかいません。農山漁村男女共同参画推進指針では、男女共同参画目標の設定などの地域レベルにおける取り組みを強化することとし、各種委員会に女性を2名以上にすることを目標にしていました。そこで、農業委員においては、近隣市町村は2人ずつ入っているものの、当町の農業委員の中には、いまだ女性はいません。当町の現状についてお伺いたします。

最後に8点目、将来的に考え、男性と女性と同様に、料理を初め家事全般を学ぶ機会があればとの男性からの要望があります。第2の人生をスタートするとき、家事の経験がほとんどない人は路頭に迷うことは必至であります。女性と同様、男性にもひとりで生きていける家事全般を学ぶ場はないのか、これは男性から実際に寄せられた要望であります。各市町村で講習会を行うところが増えていきます。当町でも何件か行っているようにお聞きしましたが、当町の現状をお聞かせください。

以上、8点についてお伺いたします。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。町長川田弘二君、登壇を願います。

〔町長川田弘二君登壇〕

○町長（川田弘二君） 紙井議員の、男性も女性もともに豊かに生きる阿見町男女共同参画社会の実現に向けての質問についてお答えいたします。

男女共同参画社会に関して、非常に多面的ないろいろな面での御質問であります。5点目の男女共同参画の小学校及び中学校での意識の啓発はどのようになっているかという点につきましては、教育長からお答えいたします。

1点目の、阿見町におけるこれまでの総括と今後の行動計画についてであります。

まず、総括につきましては、町におけるこれまでの経緯を含めて御説明申し上げます。

平成11年6月に、国で男女共同参画社会基本法が施行され、茨城県では平成13年4月に男女共同参画推進条例が制定されたことを受け、町では、平成14年9月に男女共同参画社会推進会議の設置、平成15年8月、阿見町男女共同参画推進計画策定委員会を設置いたしました。

平成17年3月に、「ともに生き、ともにつくるまち、阿見」を基本理念とした阿見町男女共同参画プランを策定し、女性も男性もそれぞれの考え方や意思が尊重され、ともに支え合い、ともに責任を担い、一人ひとりが個性や能力を最大限に発揮して、多様な生き方を選択できるような社会を実現するためさまざまな施策を推進してまいりました。

しかしながら、まだまだ性別による役割分担意識やそれに基づく社会習慣は依然として根強く残っていることなどから、今後、当町において男女共同参画を推進するためには、行政、町民、事業者が協力連携し、計画的に取り組んでいくことが必要であると考えております。そこで、今年度は、プランに基づき、男女共同参画プラン推進委員会を中心に、（仮称）阿見町男女共同参画社会基本条例（案）を作成し、男女共同参画社会の推進に関して基本となる条例の制定を目指しているところであります。

私も、一度この共同参画社会の委員会に出席しまして、その状況、一緒に話にも加わりながら、一緒に議論に参加させていただいたこともありました。それぞれ非常に真剣に、いろいろな立場から議論しているということが強く印象づけられました。

今後、条例（案）が可決・施行後については、現在の阿見町男女共同参画プランの後継となる基本計画の策定に取り組み、総合的かつ計画的に男女共同参画社会の推進を図ってまいります。その間、新計画ができるまでは、現在の計画の推進を図りながら、講演会やセミナーの開催等、啓発事業を進めていきたいと考えております。

2点目の、阿見町職員の育児休業の取得に関してであります。職員の育児休業等に関する条例に基づき、男女の区別なく取得は可能となっておりますが、直近10年間において、女性職員の取得率は100%で、男性職員の取得率はゼロ%であるのが現状であります。

3点目の、女性の管理職登用のための取り組み及び庁舎内研修についてであります。平成21年3月に改訂した人材育成基本方針において、女性職員が多様な分野でその能力を十分に発揮できるよう、役職登用、幅広い職務経験の付与、研修参加の機会の拡大など、女性の登用に積極的に取り組むことが必要であると定めております。この方針にのっとり、新しい人事評価制度の試行を通じて、職員能力の把握と向上を目指しております。また、能力の向上を図るための各種専門研修に、積極的に女性の参加を呼びかけて実施しております。

4点目の、ワーク・ライフ・バランスについてであります。ワーク・ライフ・バランスとは、仕事と生活の調和であり、国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択、実現できることを指すものであります。

これまで取り組んだ事例としては、だれもが仕事、家庭生活、地域活動、個人の自己啓発など、さまざまな活動を自分の希望するバランスで実現できるよう、昨年度は、山田亮氏による「きっと毎日が楽しくなるスーパー主婦のワーク・ライフ・バランス提案」を演題としまして、かすみ公民館において講演会を開催したところであります。

これからの取り組みとしては、今後、企業など事業者を含めて基本計画を策定し、さらなるワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでまいりたいと考えます。

いずれにしましても、仕事と家庭の両立支援環境が整い、男性の家庭への参画も進むことによって、男女がともに子育てや教育に参加できるよう、引き続きいろいろな機会を通して啓発活動に努めてまいりたいと考えます。

6点目の、総合的な拠点施設の整備については、現在検討している（仮称）阿見町男女共同参画社会基本条例（案）の中で「町は、町民及び事業者が男女共同参画社会の推進に関して行う活動を支援するため、情報の提供、総合的な拠点施設の整備を図るものとする」と位置づけております。今後、拠点施設については、基本計画を策定していく中で具体的に検討してまいりたいと考えております。

7点目の、女性農業委員の現状についてお答えします。

現在、規制改革や地方分権、さらに新たな農政展開と農地政策の見直しが進められる中で、優良農地の確保と有効利用、担い手の確保・育成に向けた農業委員会の役割・機能の十分な発揮が求められております。こうした中、明るく生きがいのある暮らしと魅力ある農業と地域づくりに向けて、地域に根差した視点を持つ女性農業委員の活躍が期待されるところであります。

しかし、女性が地域づくりに積極的に参画できる男女共同参画社会が進められる中、全国の女性農業委員数は少なく、平成20年7月現在で、全農業委員数3万7,506人に対し1,744人で、割合は4.6%であります。

また、女性農業委員のいる農業委員会数は、全農業委員会1,794委員会に対し905委員会であり、割合は50.4%となっております。女性農業委員数においては、年々増加傾向にありますが、まだまだ少ない状況であります。また、県内においては、平成21年4月現在で、農業委員数1,097人に対し28人で2.6%と、全国割合を下回っている状況であります。

このため、茨城県農業会議としては、全市町村に対し女性農業委員の登用を働きかけているところでもあります。当町におきましても、現在のところ女性農業委員はおりませんが、必要性は十分認識しているところでもありますので、今後は早期に女性農業委員の登用が図られるよう働きかけてまいりますので御理解をお願いいたします。

8点目の、男性を対象とした家事全般を学ぶ機会の取り組みについては、現在、公民館では男の手料理講座、また健康づくり課では子育てのマタニティクラスを例年開催しておりますので、引き続き男性の家事・育児等に関する学習機会をつくることに努めてまいります。

以上、町における男女共同参画社会に向けての取り組みについて申し上げましたが、さらに、真の男女共同参画社会の実現に向けて、基本となる条例の制定を初め、各種施策を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

○議長（諏訪原実君） 続きまして、教育長青山壽々子君、登壇願います。

〔教育長青山壽々子君登壇〕

○教育長（青山壽々子君） 私からは、5点目の、男女共同参画の小学校及び思春期を迎える中学校での意識の啓発はどのように行っているかという御質問についてお答えいたします。

阿見町の小中学校では、各教科及び道徳、特別活動の授業で、固定的な概念での男女の役割を払拭し、性別に関係なくともに生きる人間性豊かな社会を目指そうとする態度を育てることをねらいとして、人権教育に取り組んでいます。

具体的にどのような形で授業を行っているかについて、これから述べたいと思います。

小学校では、名前を呼ぶとき、男女の別なく「だれだれさん」とさんづけで呼ぶように努めています。また、道徳の授業で、文部科学省から配布されている「心のノート」を用い、男女の協力や助け合いを学びます。社会科の授業では、基本的人権の尊重や選挙に見る女性の参政権と地位の向上について学びます。保健の授業での性教育で、第二次性徴の指導を通して、性差による差別や偏見を持たないように指導をしています。男性らしさ、女性らしさにも触れ、それらを理解した上での平等な考え方ができるように指導をしています。

中学校では、社会科公民の授業で男女共同参画社会基本法について学び、日常生活の場面における事例を通して、その必要性を話し合う学習を行っています。技術家庭科では、現在、男女に分かれて授業をするのではなく、一緒に同じ内容の授業を行っています。学級活動の中でも、男女差を認めた上で互いに尊重し合う心を育てています。また、中学2年生が行う職場体験に関する一連の学習の中で、男女共同参画社会の重要性を指導し体験させています。

今後も男女共同参画社会の形成の促進を図りたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

○議長（諏訪原実君） ただいま15番大野孝志君が出席いたしました。したがって、ただいまの出席議員は17名です。

それでは、5番紙井和美君。

○5番（紙井和美君） 丁寧な御答弁ありがとうございました。

それでは、何点か再質問させていただきます。

その前に、ちょっと1点確認したいことがあったんですけど、先ほど町長の育児休業の中で、女性の取得率ゼロ%って聞いたような感じしたんですけど、ひっくり返ってますよね。

○町長（川田弘二君） 逆だったようです。

○5番（紙井和美君） 逆ですよ。読み間違いですよ。

○町長（川田弘二君） 読み間違いです。女性が前に話されたから、男性のことです。

○5番（紙井和美君） そうですよ。はい、確認させていただきました。

それでは、まず総括の部分でお尋ねいたします。

役所というのは、町の本当に先進的な役割を担っている場所ということでありますので、男女共同参画社会に対する意識っていうのは十分認識しておいていただきたいというのが、これは願うところでもあります。

さて、男女共同参画プラン推進委員さんの方からでしょうか、その方、皆さんの要望であったと思うんですけども、庁舎内の職員の方に、男女共同参画の意識調査のアンケートを行ったと、最近行ったということ、ちょっとお聞きしたんですけども、それについて、アンケート調査の実施内容と、またその結果の検証はしているのかどうか、どのようにアンケートをとったのか、内容を教えていただけますでしょうか。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。生活産業部長川村忠男君。

○生活産業部長（川村忠男君） それでは、職員に対するアンケートの実施ということで、お答えいたします。

これにつきましては、まず、今後、男女共同参画社会を進めていく中で、とりあえずまずは職員の意識というものは大事だろうというようなことからですね、今後、条例基本計画の策定に当たっての参考にするということで、今年7月に実施しております。これは、全職員360名今いますけども、360名を対象に意識調査を実施しております。回答率としては、62.5%という回答率でございました。

その質問のですね、アンケートの内容としては、男女共同参画社会に関する、まず用語の周知度というのがまず1つ、それから重立ったものとしては、各分野の男女の地位の平等感、それから家庭でのですね、家事・育児・介護の分担、まあ、重立ったものは、それらについて調査を、すべて20項目ですけれども、実施しております。

このアンケートにつきましては、本日、傍聴にいられます推進会議の方々に協力をいただいて実施したということで、ここでお礼を申し上げます。

それで、その詳細の分析というのは、まだ今現在、分析、解析中ということで、詳細にわたってはまだできておりません。それでも、やはり先ほどの申しました、その主な質問事項ですか、その中ではやはり、数字的には低いという結果には、やはりなっております。

そういったことから、まだまだ十分、職員の中でもそういった認識が不十分であるということでありますので、今後さらに進めていく必要があるということで、アンケートとしては、そういった内容で、今後の条例あるいは基本計画策定に当たって参考にしていきたいということであります。

以上です。

○議長（諏訪原実君） 5番紙井和美君。

○5番（紙井和美君） 例えば意識が低い部分の例を挙げて、幾つか教えていただけますか。あと、それ、コンサルに頼んだんですか。どういうふうにつくったのか、それも教えてください。

○議長（諏訪原実君） 生活産業部長川村忠男君。

○生活産業部長（川村忠男君） これは先ほど申しましたとおり、やはり低い数字だったのが、そのやはり男女共同参画という用語の周知度、それから男女の地位の平等感と、それから家事ですね、家庭内での家事・育児・介護の分担がやはり低い数値ということなんです。

それから、このアンケートにつきましてはコンサル委託ではなくて、先ほど申しましたように、推進協議会の方と事務局のほうでアンケートのほうは実施しております。

以上です。

○議長（諏訪原実君） 5番紙井和美君。

○5番（紙井和美君） コンサルに頼まずに自分でやっているっていうのは、大変手間がかかるし、検証するのも時間かかると思うんですが、非常に、啓発の意味ではよいことだと思っています。こういうことを、1回目こういう結果だったけれども2回目こういう結果に上昇してきているとい

うのを検証していただければありがたいなと思っていますので、今後の推移を見守りたいというふうに考えています。

それで、2点目の育児休業についてですけれども、現在、当町では男性の取得率はゼロであるということをお聞きしました。で、現在取得率はないけれども男性職員の育児休業率の目標値を掲げているという市町村があるんですけれども、当町はいかがでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 総務部長坪田匡弘君。

○総務部長（坪田匡弘君） はい、お答えいたします。

目標、男性職員の育児休業の取得率の目標ということですね。目標は、町の場合は特に掲げておりません。で、実態としましては、育児休業が無給ですね、給料がもらえなくなるということですので、そういった関係もございまして、目標を掲げてないということでございます。

○議長（諏訪原実君） 5番紙井和美君。

○5番（紙井和美君） わかりました。例えば、育児休業、無給でも、背に腹はかえられず面倒見なくちゃいけないときがあるかと思うんですけれども、啓発などをしていくことも重要であるかと思うんですね。そういったことで、新規採用者の研修の中で、育児休業制度についての研修などは行っていただければと思うんですけど、それはいかがでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 総務部長坪田匡弘君。

○総務部長（坪田匡弘君） 新しく入りました職員に対しましては、何らかの研修を行ってまして、まず最初の段階で町の休暇制度も含めた処遇についても、とり方とかですね、内容について説明をしておりますし、そのほかの人材育成方針という方針もございまして、それは今取り組み始めました新しい人事評価制度があるんですけども、そういう人材育成ということも重点に入れて人事評価をしていくということでございますので、そういった人材育成方針に従って、その人事評価、面談をしたりするんですけれども、その中で、いろんな指導もしていくということですよ。

○議長（諏訪原実君） 5番紙井和美君。

○5番（紙井和美君） 人材育成基本方針というのは、21年3月に改訂された分ですよ。その中でまた明記して、よくごらんになっていただきたいというふうに思います。

それで、育児休業についてはわかりました。先ほど、少しだけ文言触れましたけれども、介護の問題なんですけどね、介護休業についてはいかがでしょうか。わかる範囲で結構ですからお願いします。

○総務部長（坪田匡弘君） いかがってどういった……。

○5番（紙井和美君） 介護休業で、介護休業としてとっているものはあるのか。

○総務部長（坪田匡弘君） とっている実態ですか。

○5番（紙井和美君） はい、実態。あるかないかで結構です。

○議長（諏訪原実君） 総務部長坪田匡弘君。

○総務部長（坪田匡弘君） 介護休暇がございんですけども、取得しているという実態ですか、取得したという方は、まだおりません。

○5番（紙井和美君） そうですか。

○議長（諏訪原実君） 5番紙井和美君。

○5番（紙井和美君） わかりました。女性の介護者、高齢者の介護者は、8割が女性が担っているということもありますので、ぜひとも男性の参入をお願いしたいということで、啓発を促していただきたいというふうに思っております。

で、国の男女共同参画基本計画の中に、公務員については常勤の国家公務員に、育児・介護のための短時間勤務制度を導入してあるというふうにあるんですけれども、地方自治体についてはどうなのか、うちの町ではどうなのか教えていただけますでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 総務部長坪田匡弘君。

○総務部長（坪田匡弘君） 育児の短時間勤務の制度ということでございますけども、まず、地方公務員の育児休業等に関する法律の中で定められておりまして、それに基づき町のほうでも条例をつくっております、短時間勤務はできると、そういった制度を利用できるということで、条例で定めております。

○議長（諏訪原実君） 5番紙井和美君。

○5番（紙井和美君） それなんかも流しながら、ぜひ取り入れていただきたいなというふうに思っています。

次に、役場管理職の女性登用に関してですけれども、先ほどの答弁の中で、専門職の研修に女性の参加を呼びかけているというふうにありましたけれども、こういった内容の研修なのかというのと、参加率、でまた、それに参加したことの効果みたいなもの、教えていただけないでしょうか。お願いします。

○議長（諏訪原実君） 総務部長坪田匡弘君。

○総務部長（坪田匡弘君） はい、お答えいたします。

町のほうの研修制度はですね、階層別研修といたしまして、最初に入った初任者の研修、その後、例えば主任になりましたというときに主任者の研修、係長になったら係長の研修とか。階層別研修とそのほか特別研修、専門研修というのがございます。

で、専門研修の内容を申し上げますと、21年度、今年度ですけれども8つほどございまして、例えば、CS顧客満足度研修というんですかね、CS研修とかですね、通信教育で接客とか生活に身近な法律、身近な税金の研修、そのほか茨城県のほうでやっています自治研修で、行政法とかファシリテーションですね、会議の進行などを学ぶ研修、それから表現力スキルアップ講座とかといった講座がございます。

で、女性の方の参加率なんですけども、今年度、研修のトータルですけども、階層別研修、専門研修含めて、トータルで女性の参加率が55.1%になっています。で、平成18年から、18、19、20、21の女性の取得率を調べてみますと、全体で33.6%になっております。で、町の職員の中の男女の構成では、やはり女性の方が3割程度でございまして、やっぱりその率になるのかなというふうに思われます。

で、効果ということなんですけども、すべての研修をした後ですね、研修を行ってどういうふうにかえたかとかですね、今後どういうふうに活かしていくかということについて、報告書、レポートを書いていただきます。で、それを直属の管理職のほうにまず提出をしまして、管理職のほうでそれを見て、その職員と面談をしまして、管理職の方のコメントを入れてもらって総務のほうに出してもらうというようなことをしております、その中で、研修を受けた結果、こういうことを学んで、今後こういうふうに活かしていきたいという心構えを書いてもらって、それに基づいて、それぞれ自覚を持って仕事に活かしてもらうといったことをやっております。

○議長（諏訪原実君） 5番紙井和美君。

○5番（紙井和美君） ありがとうございます。着々と進んでいるようで。ぜひこれは、女性であれば登用ということではもちろんないわけで、女性自身もしっかりと襟を正して勉強して、能力を開発していかなくてはいけないということは重々承知しております。そういったことで、そういった土壌があれば、きっかけがあれば、それを、眠っていた能力も活かせることもあるでしょうし、そういったことの支援、バックアップをぜひお願いしていきたいというふうに思っております。

で、次に、ワーク・ライフ・バランスに関してですけれども、男女とも社会や地域で活躍するためには、ワーク・ライフ・バランスをやっていく上では、保育所や学童クラブの整備は、さらにさらに重要な位置を占めてくるんですけれども、今後どのように充実させていくか、大まかで結構で

すけれどもお聞かせいただきたいと思います。

○議長（諏訪原実君） 民生部長横田健一君。

○民生部長（横田健一君） はい。子育ての支援ということで、保育所関係、あとは学童クラブの今後の考え方ということかと思いますが、御案内のとおり、来年度から保育所につきましては曙と青宿保育所が廃止ということで、その統合した形で民間の保育所が曙に建設されております。そういうことで、今後、保育所の整備ということにつきましては、国の補助金体系も民設を進めるということから、自治体に対する補助ではなく民間に対する補助というようなことで移ってきております。そういう点から、町におきましては保育所の整備については、民営化を進めていくというような考え方で推進していきたいというようなことをございます。それにつきましては、町のそういう待機児童の問題とかそういうこともありますので、その点は、その民間の事業者に対して町の状況を十分理解していただいて、そういう解消に積極的に努めていただくというようなことをお願いしながら進めていくというようなことになろうかと思ひます。

また、学童クラブにつきましても、女性の方が働いて、なかなか帰りが時間内に帰れないとかいうような問題もあろうかと思ひます。その点につきましては、今までも預かる時間を延長して対応してきたというようなことがございます。この辺も今後、現在、人材育成の計画の中で、その点もアンケート調査とかいろいろな意見を反映させながら検討しているというような状況でございます。できる限りそういう要望にこたえるような事業ができるように考えていきたいというふうに思っております。

○議長（諏訪原実君） 5番紙井和美君。

○5番（紙井和美君） ぜひ先進的にやっていただきたいと思っておりますけれども、待機児童、保育所に関しましては、ゼロ歳児から3歳児、これ待機児童いますけれども、待機児童解消については、いろいろ方策を練っていらっしゃると思ひます。具体的には何か考えていらっしゃることはありますでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 民生部長横田健一君。

○民生部長（横田健一君） はい、お答えいたします。

現実的に今、町で行っているゼロ歳児の保育に関しましては、施設の面積とか職員の確保という面から、現状が精いっぱいというような状況がございます。その点、これから、先ほど申しましたように、民間の保育所につきましては、その点の、ゼロ歳児の保育が充実できるように要望して、そういう対応できるような保育整備を進めていくというようなことで、民間のほうに働きかけておりますので、そういう方向で対応していきたいと考えております。

○議長（諏訪原実君） 5番紙井和美君。

○5番（紙井和美君） ぜひ、待機児童解消に向けて努力をしていていただきたいというふうに思っております。これは人的な要素も含んでいきますので、見る人も少ないということもあろうでしょうけれども、とにかく、民間にしっかりと話を、何回も何回もしていただくと。快適に子育てしながら働ける状況をつくってもらいたいということを願っております。

次に、農業委員のことですけれども、農業委員について、今まで女性がいなかったんですが、女性の登用について、今まで促されたことがあるのかどうかお聞きしたいと思います。

○議長（諏訪原実君） 生活産業部長川村忠男君。

○生活産業部長（川村忠男君） その件に関しましてお答えいたします。

答弁の中にもありましたけれども、女性農業委員さんは少ないということで、これは県においても同じでありまして、県の農業会議というのがございまして、そちらのほうから各市町村にやはり女性農業委員を登用してほしいという要望等は来てまいっております。そういったことから、機会があるごとに農業委員会の開催等の場合にですね、今後、農業委員の登用についても検討していき

たいというようなことで、町から行政のほうから促したこと、要望なりしたことはございます。

○議長（諏訪原実君） 5番紙井和美君。

○5番（紙井和美君） 先ほどもちよろつと農業委員、選挙だよって話を耳にしましたけれども、その選挙に出るってこと自体も、やっぱりなかなかはばかられるところがあるのではないかと察しているんですけど、選挙に出られないこととか、そこで手を挙げられないことって何かネックになっているようなことってありますでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 生活産業部長川村忠男君。

○生活産業部長（川村忠男君） 今のところはすべて男性なんですけれども、過去に、朝日地区でしたか、選挙区のほうで、女性の方が立候補されたという事実はございます。残念ながら当選はされなかったということもありますので、そういった例もありますから、今後、各地区においてもまだまだ専業農家で活躍されている方も多いですし、そういう方にも農業委員としての資格が十分にあるわけですから、そこらにつきましては今後、いずれ来年3月にまた改選がございますので、そちらのほうでまた促していきたいということでございます。

○議長（諏訪原実君） 5番紙井和美君。

○5番（紙井和美君） 先ほどの町長の答弁の中にも、地域に根差した視点を持つ女性農業委員の活躍が期待されるという文言がありましたけれども、まさしく、地域に根差した女性が自分の意見を公の場で言うていくということは非常に重要なことでもありますので、選挙で落ちた、選挙は公平ですから落ちることもあるでしょうけれども、何回も何回もそういうことを繰り返しながら女性の委員が登用されることを、とにかく願っているところなんです。で、自由に手を挙げられるような土壌づくりも必要であるかと思うので、そういったところもしっかりと促していただきたいというふうに思っています。今回、議会推薦枠、3人から1人になりましたけれども、そうすると、こう、選挙でなかなか出て来れないという方で、議員じゃあこの方どうでしょうっていう推薦もこれなかなかできなくなってしまう、1人っていうことであれば。そうするとやはり地域からそれぞれの現場の人が手を挙げて選挙として出てくるということが重要になってくるかと思うんです。そういったことをやりやすい、出やすい、出たくても出にくいという状況をつくらないことをお願いしたいというふうに思っています。

次に、6点目、総合的な拠点施設の整備ということで、実はですね、これが一番皆さんから寄せられている高い要望なんです。で、条例の制定は、これももちろんのことなんです。条例の制定は議会に諮って我々が可決してということなので、私も議員の立場として満場一致で可決することを願っているところなんですけれども、実はこの整備の拠点、ここが一番要望が強いところなんです。で、拠点活動を整備して、相談者がワンストップで行きやすい窓口というのが、これどうしても必要であると。で、役場のフロアの一隅ということであれば、相談者のプライバシーの確保はもちろんのこと、自由に活動できる拠点として、やっぱり確立しているほうがいいですね。また、公共施設ってことであれば、休館日とかの関係で、これ活用しにくいというデメリットがあるんですね。こういったことで、既存の建物で、今、こういった箱ものをつくる時代では、ちょっと今のところないですから、既存の建物を利用できる場所は、現在ないんでしょうか。お尋ねします。

○議長（諏訪原実君） 生活産業部長川村忠男君。

○生活産業部長（川村忠男君） はい、お答えします。

先ほどの答弁にもありましたように、今回の条例（案）の中の第10条の中にも、整備をしていくと、図っていくということであっております。ということで、必要性ということはそこで認識してございますので、今現在ですね、どこに拠点をしたらいいかということ、ちょっと今の、今日の答弁の中では、なかなか回答は難しいですけども、今現在の公共施設の中、あるいは町で所有している建物もございますので、そういった点をあらゆるところから、多角的見地から検討して、ぜひ

その拠点施設ができるような形で今から努めていきたいということで、場所等についてはここではちょっと控えさせていただきます。

○議長（諏訪原実君） 5番紙井和美君。

○5番（紙井和美君） 了解しました。大体ね、岡崎とか本郷とか、頭の中で描いているところは一応あるんですけど、まあ名前は出せないという、そういったところをいろいろね、吟味しながら、きちんと整理が整ったら使わせてもらいたいというふうに思っているところなんですけれども、ぜひ、みんなが使いやすいということを選定基準として、よろしくをお願いします。

あともう1つですね、男女共同参画に関するものはすべて統括できるような課、本当だったら1つの課として設置してもらいたいんですね。課として設置するのは県内でも数は少ないですけども、これ独立してほしいところなんです。で、せめて男女共同参画推進室とか、推進係とか、係を設置して相談員をそこで張るとか、そういう設置はできないものかどうか、これ市町村で進んできてるんですけども、我が町の状況ではどうかということ質問したんですね。今回もこれ質問するに当たって、担当課が総務課だったり、町民活動課だったり、学校教育課だったり、農業振興課だったりって、もちろんそこから外せない内容のものがありますから、すべて統括するという事は、これはちょっとできないですけども、ある程度ワンストップサービスができるような形で課に統合してもらいたいということを願っているんですが、その点いかがでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 生活産業部長川村忠男君。

○生活産業部長（川村忠男君） 生活産業部のほうからは、県内です、状況についてちょっとこちらのほうからは報告したいと思います。ちょっと担当のほうに調べさせましたところ、現在の課ですね、課を設置しているところは、現在7市あるということになります。そのほか、課内の室、同じ課の中のその中の室、室長を置くんでしょうけども、それが今現在5市、5市町村、5市ですね、5市になっています。合わせて12の市でもって、そういった専門的な組織になっているということになります。今現在、阿見町としては、町民活動推進課の中の共同推進係の中の女性行政ということになってますので、それらについてはですね、今後いろいろ予算、人員の問題等ございますので、それについては、その組織、機構につきましては、今後検討していきたいというようなことで御理解をいただければと思います。

○議長（諏訪原実君） 5番紙井和美君。

○5番（紙井和美君） 課となるとね、機構改革の上でもなかなか難しかったり、予算的にも難しかったりすると思うんですけども、室とか係だと、これ何とかできるんじゃないかなと思うところがありますので、そこを進めてもらいたいというふうに思っております。

で、今日述べましたことは、案件は、本当に充実させたい主なものばかりでありまして、ほかにもたくさんありましてね、配偶者の暴力の問題ですとか、あと介護の支援ですとか、雇用問題とか、民間企業への啓発、また性差医療、こういったことの推進などなど、とにかく数多くの課題があるんですね。いずれにしても、まず法的根拠となる条例を制定して、これを議員で可決して、満場一致で可決したいなと思って、願っているところなんですけれども、そこから次のステップに向かって展開できるように、これからは行政と町民と事業者が一体となってよりよい社会の構築を目指していくことを願っております。とにかくこの経済不況の中ですけれども、経済打開のためにも、今までは競争社会だった、でもこれからは共同社会だと。協力社会ということが重要なキーワードになってくるのではないかなというふうに考えております。

そういったことで、これからは阿見町の発展のためにしっかりとお互いに努力しながら構築していきたいと願ひまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

どうも、ありがとうございました。

○議長（諏訪原実君） これで、5番紙井和美君の質問を終わります。

次に、7番浅野栄子君の一般質問を行います。

7番浅野栄子君の質問を許します。登壇願います。

〔7番浅野栄子君登壇〕

○7番（浅野栄子君） 皆様、おはようございます。通告に従いまして、農業、教育に関しまして2点質問させていただきます。

最初に、農業関係であります。農業再生のかぎを握る農業振興課についての質問でございます。

県の22年度版市町村制の概要の記録によりますと、阿見町は人口4万7,786人、世帯数1万7,905戸で、農家戸数が773戸、約43%、工業87戸、4.8%、商業301戸、16.8%と記載されておりました。これによっても、阿見町は農家戸数が断然多いことがわかり、阿見町の産業は農業が根幹となる基幹産業であることを確認いたしました。

私は、平成19年度の第2回定例議会において、阿見町の基幹産業としての重要な役割を担う農業についてというテーマで農業に対する町の見解をお聞きいたしました。私たちの健康の保持、増進を図る食糧生産、まさに生きるための糧を生む、生命に直結する大切な大切な役割を持つ農業が衰退の一途をたどっているという現状に対し、早急な対策をしっかりと立て、取り組んでほしい、取り組んでいただきたいということを申し上げました。専業農家の劇的減少、従事者の高齢化、後継者不足、そのために耕作放棄地の増大、手入れをしない荒れ放題の山林、そこへ不法投棄の陰と、だれもがこの悪循環を認めています。しょうがねえのため息では解決はいたしません。

阿見町では、その年、平成19年度に、農業振興課の名称で新しい課を設置しました。農業振興課は農業委員会事務局を含めた町の農業部門を集約して設置し、農業委員会や農業協同組合その他の関係機関と連携、協力し、また、国の支援策などを活用し、農業が直面している問題に対して総合的に取り組んでいきますとお答えになりました。ですから、この振興課に寄せる期待は大きく、農業の再生、活性化を推し進めてくださる、まさに救世主、農業行政の強大な推進力であると感じました。

あれから3年が経過いたしました。先日、ある資料を目にし、またまた不安がよぎってしまいました。農業委員選挙人名簿登録人員によるという注釈がついていましたが、平成12年度における阿見町の農家戸数は2,207戸で、農地面積は2,325ヘクタールありました。それが現在、9年間を経て、農家戸数が1,381戸となり、農地面積はというと1,346ヘクタールと、何と農家戸数、農地面積ともにおよそ半減してしまったという事実がわかったからです。このままでは単純に考えて、9年ごとに半減しながら進んでいくと、20年足らずで、阿見町の農業は、計算上では消滅の危機にさらされることになってしまいます。それに追い打ちをかけたのが国政の行政刷新会議の事業仕分けです。削減ありきの仕分けということで、厳しい状況が展開されることは予想していましたが、その厳しさは容赦なく農業にも及びました。耕作放棄地対策費70億の予算見送り、農地利用集積事業80億廃止、平成農地保有合理化促進事業12億廃止または半減、担い手育成農地集積事業87億円見直し、農産物の仮説型直売システム普及支援6億廃止などなど、農業関係の予算が次々と廃止、半減、見直しと判定され、農業界はますます前途多難な形相を呈してしまいました。地方へ荒波はもうすぐ押し寄せ、影響を与えるのではないのでしょうか。阿見町へも、このあしき大波が覆いかぶさろうとするでしょう。それを乗り切る自信は、対策はおありでしょうか。農業振興課が立ちはだかり、一肌も二肌も脱いで奮闘しなければ、いえ、奮闘をお願いしなければなりません。そうしなければ、阿見町の農業の未来はありません。農業再生のかぎを握る農業振興課に期待を込めて質問させていただきます。

1点目、これまで阿見町の農業振興のため、どのような施策を考え、どのような実践をされたのでしょうか。

2点目、これからの農業をどのような方向に導いていかれるのでしょうか。

3点目、農業委員は農業従事者にとって欠かせません。現状の農業情勢を見ると、ますます委員の活発な活動が予想されます。そこで3点目、農業委員会の存在は、農業従事者へどのように関わっているのか。その職務と活動、役割についてお聞かせください。

以上、3点について質問いたします。よろしく御回答お願いいたします。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。町長川田弘二君、登壇願います。

[町長川田弘二君登壇]

○町長（川田弘二君） 浅野議員の質問にお答えいたします。

わが国の農業を取り巻く状況は、食糧自給率は主要先進国の中では最低の39%まで低下し、後継者不足、耕作放棄地の増加、農家人口の長期減少、日本人の米離れ・日本食離れ、グローバル化に伴う輸入農産物の増加による競争力の低下といった深刻な現状になっております。

特にこの原因として考えられるのは、日本人の食生活の変化や、将来の農業経営に見切りをつけた若者が農業離れをし、今日の専業農家の激減と農業就業者の高齢化をもたらしたと言われております。

阿見町の農業においても、同様に、農業就業者の高齢化、後継者不足、農業生産額の減少、耕作放棄地の増加、特産物の衰退等、多くの課題を抱えております。

そこで、第1点目の、阿見町の農業振興のためどのような施策を考え実践したのかについてお答えします。

近年、国の農業に関する各種支援策は、認定農業者と集落営農組織を基本とする担い手に対して集中・重点化されていることから、国の各種支援策を効果的に活用するための要件となる認定農業者及び集落営農組織の育成を行ってまいりました。

まず、認定農業者の発掘・育成については、認定農業者制度や支援の仕組みの周知を図るとともに、認定農業者となり得る条件を満たす意欲ある農業者に対して認定農業者への誘導を図った結果、昨年から2名増加し40名となっております。

2名増加ということが大きい増加数ということですから、実態としてはなかなか厳しいということでもありますね。

また、町では、将来の農業の担い手となる人材を発掘・育成する新規就農者支援対策事業を行っております。これは、新規に就農する若者が就農しやすい環境、条件の整備を行い、安定した農業経営と豊かでゆとりのある生活基盤づくりを支援するための事業で、将来、阿見町の農業振興の中核となる人材の確保・育成をするものであり、現在までに3名の支援を行っております。

これもかなり一生懸命やっているんですが、3名という数字が示すように、なかなか厳しい状況であります。

この事業は、県内でも先進的な事業であることに加え、リーマンショックに端を発した経済不況が加わったことから、昨年から今年にかけて、他業種からの阿見町への新規就農相談件数が増えています。この1年間で受けた相談件数は10件を数え、農業についての基本的なことから就農までの流れについて就農希望者と相談会を実施しております。しかし、就農までの道のりは険しく、実際に就農に至るのはごく少数というのが現状であります。その少数の可能性ある就農希望者を阿見町の将来の農業を担う農業者として支援育成しております。

続いて、集落営農組織の育成については、町単独事業、農業集落活性化事業で支援しております。農業集落活性化事業とは、集落を主体とした話し合い活動により集落機能を活性化し、地域ぐるみの取り組み体制の整備と集落農業の担い手を確保・育成することにより、集落営農を確立するための取り組みに対する支援で、島津地内の島津営農実践組合や、上条地内の「のらっくす農園」を支援してまいりました。

これらの担い手を育成する取り組みから国・県の各種支援策へと誘導し、農業の振興を図ってま

いりました。

さらに、米の生産調整については、JAと協力し、生産目標数量達成に向け取り組むとともに、激化する産地間競争に生き残るため、阿見町産の米が消費者ニーズに合った品質重視の米となるよう、「買ってもらえる米づくり産地育成支援事業」を通して支援してまいりました。

またJA茨城かすみ阿見西瓜部会や同ネギ部会に対し、園芸産地の販売力強化を図るための、商品の品質向上を図る運動や、マーケティングに取り組む生産団体の活動の支援、生産組織の強化を進め、消費者ニーズに対応した産地づくりに取り組むための園芸産地マーケティング強化支援事業を導入いたしました。

県事業のいばらき農業元気アップチャレンジ事業においては、茨城県農業全体の活性化を図るため、生産者みずからが目標とやる気をもって取り組み、創意工夫ある各種提案に対して支援しており、今年度も1団体と認定農業者1名に対して支援しております。

また、今年度からは、耕作放棄地対策にも本格的に取り組むを開始いたしました。今年3月に耕作放棄地対策協議会を設立し、議論や現地調査を重ね、島津地区の115アールについて近日再生作業に着手することとなりました。

島津地区においては、島津営農実践組合が既に耕作放棄地を活用した南高梅の生産実績があり、近年の需要の伸びに対する隣接地への規模拡大でありますので、先進事例としての成果を期待するところであります。

これらが、町で取り組んできたソフト事業であります。ハード事業としては、生活の基盤となる農村の生活環境向上のために、農道及びかんがい排水事業や農業集落排水事業などの農業基盤整備を行ってまいりました。

以上のような各種施策を講じながら農業振興を図っているところであります。

続きまして、2点目の、これからの農業をどのような方向に導いていくかについてであります。

担い手や認定農業者を中心に、農業の活性化を図り、魅力ある農業が持続的に発展するように努めてまいります。そのためには、行政や各種団体、農業従事者がそれぞれの立場で役割を担っていくことが重要であります。

まず、行政の役割としましては、担い手の確保と育成に向け、国の制度の活用等により、担い手への誘導、既存農業従事者等との橋渡しを行い、農業従事者みずからが経営ビジョンを持ち、自助並びに共助で魅力のある農業へと発展誘導するよう、農業経営の支援を充実し、効率的かつ効果的な農業を支える生産基盤を維持・整備していく必要があります。

次に、各種団体においては、農家個々の自立に向けたリーダーの育成、経営情報や育成技術を提供するなど、共助の仕組みを最大限に発揮することが望まれます。

農業従事者には、使用済み資材の定期的な自主回収、減農薬・無農薬や有機肥料の利用などを初め、環境に配慮した農業を拡充するとともに、地域での生産基盤の維持管理において、点検活動やそれに対する評価などを行い、地域で対応を強化することが期待されます。また、耕作放棄地など、町が発信する活用方策などの情報を踏まえ、積極的に農地としての有効活用を図り、地域の特性を活かした再生の取り組みが求められております。

いずれにしましても、依然として厳しい農業情勢の中ではありますが、農業対策推進会議を中心として、農協、農業委員会、茨城大学農学部などの関係機関と連携、協力を図りながら、国・県の支援策などを積極的に活用し、直面している問題、課題に対して、前向きに取り組んでまいりますので御理解をお願いいたします。

3点目の、農業委員会の存在は農業従事者へどのようにかかわっているのか、その職務と役割についてであります。

議員御承知のとおり、農業委員会は農業委員会等に関する法律第3条第1項の規定により、市町

センターとありましたけども、そちらと連携しながらですね、情報の提供、相談のほうについて応じているというようなことでございます。

以上でございます。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） 農業従事者の高齢化によって、やはり後を継ぐという方がね、少ないので、この新規就農事業はもっともっと皆さんに啓蒙していただきたいと思います。今、おっしゃいましたように、3年を限度に120万から180万と、そのように19年度の回答にもありましてけれども、やはりそういうところがまだまだ周知していない面があるのではないかと思いますので、今おっしゃいましたように、いろいろなところに周知徹底していただいて、新規の就農者がより多く出ていただけるように対策をお願いしたいと思います。

また、やはり、新しい農業者を多くとるということで、私は、今年の7月にできましたアウトレット、そこに1年間に300万から500万の客がいるということで、7月から今月3カ月で160万強も来町していると、そういうアウトレットに来た若者へ向けて、やはり阿見町はこんないいところだよと、そのように宣伝して、阿見町の農業に関心を持っていただけるようなそういう方策はいかがでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 生活産業部長川村忠男君。

○生活産業部長（川村忠男君） はい、お答えします。

若者の農業の関心を持ってもらうにはどうしたらいいかということで、特に今回、アウトレットということで出てまいりましたけども、やはり、高齢化によって年々減少して行って、その中でやはり若い世代の人たちにも少しでも農業に関心を持っていただいて、また就農してもらうということで、先ほど町長の答弁にもありましたけども、新規就農者支援対策事業で推進しているということです。で、そういった取り組みをしながら、若者ということになりますと、近辺で、ここでは茨城大学農学部学生でございますけども、そういった学生さんやそれからアウトレットに来る若者に対しまして、町で設置しましたインフォメーションセンター等を利用して、そこで町の魅力ある農業というものをどんどん紹介しながら、少しでも関心を持っていただけるような形でPR等をしていきたいということで考えております。今現在、若者と茨城大学の農学部の学生さんがですね、上長のほうでうら谷津の再生プロジェクトというようなことで今、実践しております。そういった形も、もう1つのモデルとなりますので、そういった形を今後とも耕作放棄地対策ともあわせて若者の農業に関心を持っていただけるような、そういった施策をこれから展開、実施していきたいということで考えております。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） 今お答えしたことを、パンフレットに作成してですね、その新規営農者、3年限度の補助もありますよ、それから土地もお貸ししますよという、そのようなパンフレットをつくる予定はありますか。

○議長（諏訪原実君） 生活産業部長川村忠男君。

○生活産業部長（川村忠男君） はい、お答えします。

そのパンフレットについては作成してございませんけども、今かなり、これまでいろいろ阿見町農産物マップとか、そういったそのパンフレットの中でいろいろ紹介はしております。こういったものもあわせながら、また新たにそういったパンフレットも今後作成していきたいということで考えております。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） アウトレットはもとより公的な施設に、ぜひパンフレットを置いて、新しい農業者ができるようにお願いしたいと思います。

また、いろんな町から、また若者でも、研修生を受け入れる、阿見町には空き家がたくさんあります。空き家を利用し補助支援をして、遊休地の活用を図れば、その新規就農者の確保が、または耕作放棄地の活用ができるのではないかと思いますけれども。ある新聞にもですね、食事と宿泊場所を提供して、農業体験制度があると。ウーフ、WWOOFというのが日本で広がっていると、それで大変、食事つき、宿泊場所があつて食事つきというので結構体験者が集まっているというニュースもありますけれども、阿見町ではそういう空き家を利用して、そういう研修生を受け入れ、耕作放棄地を潤すような計画はいかがでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 生活産業部長川村忠男君。

○生活産業部長（川村忠男君） はい、お答えします。

研修生に対する補助支援ということで、先ほど来、答弁がありますように、新規就農者の確保ということで、その事業を実施している。中身については先ほどの答弁にもありましたけれども、その計画につきまして、農業経営に関する指導や農地、住居等のあっせん等などにつきまして、今現在、町としての計画はございませんが、その窓口となっています稲敷農地域の農業開業普及センターがございますので、そこの協力を得ながら検討、対応をしまいたいということで今のところ考えてはおります。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） この農作放棄地というのは、本当に、年々多くなっております。ですから、やはり具体的にですね、このようにしたいと、私は里山制度っていうのをお聞きしましたけれども、やはり都会の人たちは、カキとかそれからブドウもそうでしょうけれど、そういう果樹の株を1人1つ里親株主というのですか、そういうな感じで1つずつ植えていただいて、そしてその放棄地の中で時々、何ていうです、草、除草作業に来ていただいたり、またそして収穫時にまたみんな来ていただくような、そんな方策をすれば、耕作放棄地も少しは違う、解消できるのではないかと思いますけれども、そういう、放棄地に果樹を植えるような、そういう計画はいかがでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） いずれにしても、アウトレットへ大勢の集客があるということは、これまでの流れで具体的に確認できているわけですから、そういう中で、従来からいろいろなグリーンツーリズムというような形で、ほかからの人たちを阿見町の地域のいい形で受け入れる、そういうことについて、例えば観光の観点からとか、いろんな形で検討してきております。で、今、具体化しつつあるのが、観光プロデュース事業の中で提案されている竹林の整備、そういうことで、竹林を地域の資源として導入してタケノコ掘りを体験してもらうとかそういうことをやる。そのほか、やはりおっしゃるように、耕作放棄地などを活用して、阿見町の農産物を、最初からつくるというわけにはいかないでしょうが、収穫体験とか、そういうことを具体的に考えようと、そういうことがあります。で、そういうことで、今、それぞれの可能性というのを検討しておりますので、今言ったような形での具体的な提案をいろいろいただきながら、そういうもので、あ、これは行けそうだなというようなものがあれば、具体的に取上げて全体の中で考えていきたい。で、やっぱりそういう形で、せっかく大勢来る人たちをいい形で地域を回遊してもらい、当然、霞ヶ浦のほうまで行ってもらって、予科練平和記念館にも寄ってもらう、そういう形での地域との結びつきを具体的な形で作るような、つくっていくような、そういうことを今いろいろと検討していますので、議員の皆さん方も、いろんな形で具体的な提案等をいただければありがたいと思います。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） 緊急臨時交付金というのがありましたよね。今、町長さんがおっしゃいましたように、竹林のタケノコ、それからスイカのお土産というのを、3月議会でね、そのようなことをしますとおっしゃいましたけれども、その事業は実施されたのでしょうか、どうでしょう。

○議長（諏訪原実君） 町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 今、具体的に実施しているのは、ある程度モデル的な形で竹林の整備っていうのは具体的にもう取り組み始めてます。それから、阿見町に来てもらって、阿見町で食事をして、あるところをアウトレット見学して、それから収穫体験をする。そういうようなツアーというのは幾つかもう具体的に実施しております。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） では、町長さんが今おっしゃいましたツアーの1つの例と、それからどのぐらいの参加者があったか。それをお聞きしたいと思います。

○議長（諏訪原実君） 町長川田弘二君。

浅野議員、その前に。

○7番（浅野栄子君） 実施したんですよね。

○議長（諏訪原実君） 町長、その前に少し、忠告。

○7番（浅野栄子君） 実施しないのは実施しないとは言いませんから……。

○町長（川田弘二君） いやいや。

○議長（諏訪原実君） はい、じゃ答弁。

○町長（川田弘二君） そのツアーというのは、大体人数を決めて、ですから、回数もまだ、本当に多くありませんので、ただ……。

○7番（浅野栄子君） 何というツアーなんですか。

○町長（川田弘二君） え。

○7番（浅野栄子君） 何というツアーですか。何というツアーですか。

○町長（川田弘二君） うん。何というツアー……。名前はつけてるんですね、あれ。例えばタケノコの時期に合わせて、タケノコ掘り阿見町観光プランとか。それは、旅行社等と連携してやります。それからサツマイモ収穫かな、それからスイカの収穫体験とか、そういうこともやってまして、大体1回、30～40人かな、そういう形で来ていて、例えば、みとやで霞ヶ浦を眺めながら食事をする、それからアウトレットを見て、それからそういう今度は農地へ行ってそういう体験をする。そういうことを具体的にやっています。

○議長（諏訪原実君） あの、浅野議員にお願いします。これ、質問、修正をお願いします。通告ね。内容違いますので。

○7番（浅野栄子君） はい。今、ただいまおっしゃいましたのは、観光課ともやはりダブっている面がございますよね。やはり、連携プレーっていうのは大変貴重な、いいことでございますので……。

〔「そうだそうだ」と呼ぶ者あり〕

○7番（浅野栄子君） 観光課と連携をして、やはり阿見町に集客数を多くするという事はよいかと思えます。はい、何かございましたら。

○議長（諏訪原実君） 生活産業部長川村忠男君。

○生活産業部長（川村忠男君） そのですね、名称がわかりましたので。ワンデープランということで、これは年に2回実施している事業で、春の茨城よいとこプランとか、それから秋のよいとこプランということで、年2回を実施しています。

今年に限っては、まず6月の26日に実施しております。荒川沖を集合としまして、これは対象者はあくまでも町外の方が対象となっております。で、その行程としましては、まず予科練記念館を見学をして、その後、食事をしながら放棄地対策のモデルとなっております島津の梅林ですか、そこでもぎ取りコーナーをやったりしております。その後、ブルーベリーというものについての体験もそこで行っているといった町の特産についてのツアーを組んで、この人数は30名ということでありま

す。で、募集したところかなり多くの人数が集まったということで報告を受けております。

あとそれから、秋の茨城よいとこプラン事業ということで、10月の4日に、これは実施しております。これは、阿見のアウトレットがメインとなりますけども、その後、スイカ、これ吉原でのスイカのもぎ取り体験をしたり、それからJAかすみの愛菜園での直売ということ、そういったことで町の周遊をしたということですね。そういった、バスでめぐってお薦め体験ツアーというようなことで、今年年度内には2回を実施したということでもあります。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） たくさんのプランがありまして、たくさん、30名以上の参加者があったということは、大変すばらしいことだと思います。ただ、農業に関しては、やはり新規就農者を多くして、そして農業耕作放棄地を少なくすると、それが目的でございますので、それに参加した人が、農業に興味を持っていただけるような、そういうプランをこれからますますですね、多くとっていただいて、人員を確保していただきたいと思います。

最後に、農業委員なんですけれども、先ほど、紙井議員の男女共同参画の質問の中で、女性の農業委員に関する答弁がございました。やはり、女性農業委員の必要性というのは認識しております。で、今回、定例協議会で削減というお話がありました。けれども、やはり、女性の農業委員を確保するということでは、一般の方の選挙では、なかなか女性は出づらいものです。議員の、何て言うんですか、議員が推薦するという枠の中だったら、これは可能かと思うんです。で、今、2名削減という、議員の中の2名削減というお話がありましたけれども、やはり女性の農業委員を確保するためには、その2名削減よりは、この議員の定数の誕生、2名の削減ではなく、その削減をやめて、女性の農業委員の誕生をしやすくするため、したほうがよろしいかと思っておりますけれども、この点はいかがでしょう。

○議長（諏訪原実君） 町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 農業委員の定数問題については、基本的に農業委員会ですべて議論されてきまして、その中で整理されてきた形で、それを受けて今度の条例を提案したということでもありますので、今、浅野議員からそういう形で、2名の削減をやめると言うのは、とにかく議会でもそれに全員協議会あたりで協議された、そういう経過を経ているわけですから、ここで、じゃあそれをやめましょうというわけにはいかないと思います。今度も既に議案としても提案しているわけですから、そういうことで、議案提出しているわけですから、最終的には、これが議決されるかどうかという、こういうことになってくると思いますので、その点について、私から、2人はやめると、そういうことはこれまでの経過からして、言える話ではありませんので。ただ、女性議員の選び方については、例えば必ずしも選挙になるとは限らないんでね。地域で1人ぐらい、できれば女性議員を選びましょうとか、そういう形での仕切りができれば、女性議員を選ぶということもできるんじゃないだろうか。これは、実際にそれぞれの農業委員の実態というものが、必ずしも十分わかっていないけれども、そういうことも可能なんじゃないだろうか、私としては考えます。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） では、女性の農業委員誕生につきまして、やはり土壌づくりが大切だと思います。農業振興課の方に土壌づくりをしていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） だから、これまでもいろんな形で女性の農業委員、全体的な状況の中で必要だということは常に意見として言っておりますし、それから、農業委員会あるいは議会も当然、関係してそういう議論がされているわけですから、そういう状況の中で、今回、次の改選で即、女性委員が誕生するかどうかは別にして、できるだけ早い時期に女性委員誕生が実現できるように、それぞれの人たちが議論し認識を深めて、具体的に誕生させるような、そういう形をぜひとって

けばいいんじゃないかと。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） 女性の農業委員の誕生を希望いたします。また、農業委員は、先ほどたくさんいろいろなお話がありましたけれども、農業委員手帳というのが、新任になっていただくと、その手帳の中身ですね、その中身を見ますと、やはり農業従事者にとって大変頼りがいのある存在であるということがわかります。好ましい農業構造を実現するため、意欲ある担い手を育成、確保するため、地域農業の持続発展のためと、たくさんいろいろあります。しかしながら、農業委員会の定例会では農地法の認定業務が主になるとお話がありました。

私は、やはり農業委員は、町の農業地域とそして行政とのパイプ役として存在するものだと思うんです。で、私も自分の地域をこう、自分の地域は農地が多いですから、行きますと、ダンプカーで大きな荷物をおろしている、そういうところがあります。で、それは、農業委員会では、そこはバツになったところだ、それから地域の人も反対したと、そういうところに朝早くダンプが来て、荷物をおろしています。内容はどのようなものかはわかりません。先日、振興課に行きましたら、500メートル以内までは見て、500メートル以上になったときには、これはちゃんと条例の中で見ると、そんなふうにおっしゃいましたけれども、やはり、農業委員が各地にいますので、例えばパトロールをすとか、そのようにして、1日に防犯協会も青い色でパトロールをしていますよね。農業委員会もそういうので朝早くか、夜遅くかですね、そのダンプがおろしているところに1人で注意に行くとかね、埋められちゃうよなんて言われて、遠くから見ているだけなんですけれども、やはり農業委員会の方たちが地元を回る、または地域を回るといことは大切なことだと思うんです。これは、産業廃棄物がいつ、どこに捨てられたかという、そういう状況を見渡すためにも、やはりパトロールは必要かと思えます。農業委員のパトロールについてはいかがでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 基本的には、農業委員の皆さんの活動の内容、そういうことについては、必ずしも実態として農業委員がやるべきことをきちんとやってない部分もあるんじゃないだろうか。こういう議論はあるわけですね。で、言われるように、転用問題がほとんどだと。だけど本当はやはり、農業の振興、その基本的な方向についてきちんとそれぞれの地域で方向を出すために、もろもろの検討をしたり調査をしたりするというのも非常に重要な役割である。で、今具体的に、土が捨てられる。具体的なパトロールについて、ここでこうすべきだとか、それはやはり農業委員の皆さんの認識の仕方、そういうことをきちんとやってもらえるということであれば、それは非常に助かることだし、意味のあることだとは思いますが、ここでそこまでやるべきだとか、そういうことは私の立場からは言える話じゃないんで、そういうことが農業委員会として検討されて、こういう形でやりましょうという形になれば、それはそれで非常に結構な話だと。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） では、農業委員会の所轄は、農業振興課ですので、振興課の課長さん、その月1回の定例会のときに、そのような提案をしていただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 農業振興課長大塚芳夫君。

○農業振興課長（大塚芳夫君） はい、お答えいたします。

農地パトロールにつきましては、毎月、農転の申請が上がってきます。で、毎月25日が定例総会というふうになっております。その定例総会の前にはですね、その上がってきた案件につきましては、現地調査を行います。で、現地調査の後ですね、その当日委員さんなり会長、事務局合わせて5名ですが、そういったメンバーでですね、農地パトロールを行っております。それが定期的に行っておりますので、そのほかそういった緊急の事案があった場合にはですね、その地域の農業委員さん

おりますので、そういった委員さんと連絡を密にしてですね、そういったパトロールは順次進めていくということで考えております。

以上です。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） それでは、先ほど12年から耕地面積、農家戸数が半減したと、これから9年後と10年には、そのまま単純計算をしていけば、阿見町の農業は消滅するのではないかという危機があります。やはり、農業振興課の皆様は、一肌も二肌も脱いでいただいて、阿見町の農業が再生、活性化することを望みまして、質問を終わらせていただきます。

あ、ごめんなさい。2つ目の質問は。

○議長（諏訪原実君） 1本はここで終わりです。

○7番（浅野栄子君） あ、いいですか。

○議長（諏訪原実君） それではここで、暫時休憩といたします。会議の再開は午後1時からといたします。よろしく申し上げます。

午後 0時01分休憩

午後 1時00分再開

○議長（諏訪原実君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいま、12番天田富司男君が退席いたしました。したがって、ただいまの出席議員は16名です。

はい、それでは、質問を再開します。

7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） 阿見町の教育の方針についてのテーマで、2点目を質問させていただきます。

このたび、阿見町に初めての女性教育長が誕生しました。大変喜ばしいことです。この議場内、執行部の真っ黒な席上、紅一点であります。これからその存在をアピールしてください。大変優秀なお方ですので、これからの阿見町の教育を大きく前進して下さると確信しております。

教育の現場を長く経験し、その実績は高く評価され、関係者はだれもが納得するところがございます。特に理科教育に秀でていらして、県の指導課にも在籍しておりまして、在籍中は指導主事として県内各地の小中学校へ赴き指導されました。現代っ子の理科離れ傾向に関しても、大変よいアドバイスがいただけるのではないかと存じます。大きな期待を持っております。まちづくりは人づくり、人づくりは教育にありと言われるように、教育の力は何よりも強く、その影響ははかり知れません。阿見町の将来を左右する教育界の長としての抱負を含め、阿見町の教育の方針をお聞かせください。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。教育長青山壽々子君。

○7番（浅野栄子君） はい、要望があります。

○議長（諏訪原実君） はい。

○7番（浅野栄子君） 教育長の初めての所信表明ですので、できれば壇上でお願いしたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（諏訪原実君） はい。質問者からの要望でございます。壇上でお願いいたします。教育長青山壽々子君、お願いします。壇上でお願いします。

〔教育長青山壽々子君登壇〕

○教育長（青山壽々子君） 阿見町の教育の方針についての質問にお答えします。

阿見町では、平成2年11月に、「いきいき学びの町AMI」を宣言し、生涯学習によるまちづく

りを推進しております。「一人いち学習・いちスポーツ・いちボランティア」を合い言葉に、町民の皆様の学習意欲にこたえるため、ニーズに合ったプログラムと学習の場を提供することを、継続して取り組んでおります。11月は、いばらき教育月間ですので、阿見町では、毎年11月を生涯学習月間と位置づけ、生涯学習フェスティバルとして、ふれあい地区館祭りなど、各公民館、図書館においてさまざまなイベントを実施しています。

前大崎教育長の後を受け、ふれあい地区館活動のさらなる活性化を推進し、ともに支え育む町の実現に向けて努力してまいります。

次に、学校教育についてであります。平成20年3月に新しい学習指導要領が告示され、現在は、平成23年度完全実施に向けた移行期間となっております。今回の改訂では、生きる力を育むために、「自分で課題を見つけみずから学び、みずから考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力」「みずからを律しつつ、他人と協調し他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性」「たくましく生きるための健康や体力」の育成が大切なこととされています。

茨城県では、これらを、確かな学力、豊かな心、健やかな体というテーマとして施策を推進しております。

阿見町では、国、県の施策を受け、「やさいの教育」を推進しております。具体的には、すべての教育活動の根底に道徳教育を位置づけ、相互に助け合う集団づくりをする。そして、人間らしい心の交流を大切に、人間としてよりよく生きる力を身につけることを家庭、地域と連携し、協力して推進する。人的環境、物的環境、自然や社会環境を充実させ、生きる力を身につけるための体験の場づくりを学校、家庭、地域で行う。また、たくましく生きるための健康や体力を育む教育を推進する。各学校では、体験活動を多く取り入れる。というような取り組みです。

私は、これまでの「やさいの教育」を基本として、児童や生徒、教師も元気な学校、児童や生徒、教師も伸びる学校、このような学校づくりを、保護者、地域の方々、教員と一緒に目指していきたいと考えております。

また、県学力診断テストや全国学力調査の分析を行い、課題を見出し、基礎基本の定着を図る授業を実践します。さらに、創造的な授業の工夫、改善を図ってまいります。

教師が、考える時間、話し合う時間、発表する時間を学習の流れの中に組み入れ、児童生徒が学ぶ楽しさを味わえる授業を展開できるように図ってまいります。

そのためにも、教師の研修を充実するとともに、教師相互が授業を見合う会などを通して、授業力の向上に努められるよう、実践していきます。

また、阿見町第5次総合計画後期基本計画にある、「心豊かなひとづくり」「いつでもどこでも学べるしくみづくり」「地域が育てる文化づくり」の各章に掲げられた施策や目標について、1つ1つ着実に実現に向けて努力してまいります。

次に、理科離れの傾向に関してお答えします。町では毎年秋に児童生徒の科学を探究する心を奨励するために、科学研究作品展、発明工夫展を開催しております。今年は第53回目の作品展でした。最近5年間の出展数の推移を見ますと、平成17年は336点、平成18年は289点、平成19年は394点、平成20年は447点、今年は325点となっております。年度ごとに出展数に差はありますが、大きく減少しているということはなく、このことから、阿見町では顕著に理科離れが進んでいるとは思えません。しかし、全国的には児童生徒の理科離れの傾向、科学的リテラシー、活用能力です、活用能力の低下を指摘されておりますので、町の教育研究会、理科教育研究部会を活性化させ、さらなる理科教育推進を行っていききたいと考えております。

最後に、私の教育に関する思いを述べさせていただきます。筑波大学名誉教授の小林学先生は、豊かな知識と柔軟な思考力が独創的な発想を生むと言っておられます。私も全くそのとおりだと考えます。まず、豊富な知識と柔軟な思考力が科学的な力を伸ばす土台であると考えております。理

科教育のみならず、国語教育、数学教育、社会教育、美術教育、音楽教育など、さまざまな学習の場で、豊富な知識と柔軟な思考力を身につけることは、児童生徒が自分の夢を実現するための土台となるものと考えております。

また、独創的な発想のベースは好奇心であると考えます。この点につきましても、幼少のときから自然に親しみ、自然に感動するような体験が必要だと思っておりますので、児童が自然に親しめるような学習機会をつくる必要があります。

さらに、豊富な知識を得るために、児童生徒にはできるだけ多くの本を読んでもらいたいと考えております。複雑で抽象的な言語を使うことは、脳を発達させる重要な要素の1つです。さまざまな分野の本を読むことで語彙が豊富になり、知識の組み合わせが増えますので、思考の幅が広がり、さまざまな問題に対処できるようになります。

このようなことから、私は、教育によって、子供たちの将来のために、学力をつけることを第一と考え、読書活動や自然体験活動も推進し、前教育長と同様に、阿見町の教育の一層の充実発展を図っていく決意でありますので、皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） 阿見町の教育行政の躍進が伺える大変すばらしい方針、抱負でございましたことに敬意を表します。

それでは、質問させていただきます。私は少人数学級ということで、少人数学級というのは、小学校よりも中学校に導入が必要なのではないかと思っております。落ちこぼれがなく、義務教育の基礎基本をしっかりと身につけるのに、やはり少人数学級、私は28人が最もふさわしい人数であると思います。一人ひとりの目が届く、手が届く、心が届き、顔の表情がわかる。中学校はなおさら基礎基本をしっかりと身につけ、豊かな人間性を育てる少人数学級こそ教育の根源であります。中学校の少人数学級に対しては、いかがお考えでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） はい、お答えいたします。

おっしゃるとおり、少人数学級のほうが、当然きめ細やかな指導ができると思っております。教員配置基準や少人数学級につきましては、橋本知事の公約でもあります。そういうことで県議会のほうで審議されるという話を伺っております。22年度から教員配置基準それから少人数学級の見直しも予定されているという話も伺っております。詳しくは、12月15日に教育センターで説明会がございます。この少人数学級それから教員配置基準、その辺の説明会だと伺っております。これに教育長、室長が出席する予定になっております。その状況を踏まえまして、今後対応していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） 少人数学級の実現によりよろしくお願いいたします。

2点目、小中学校時代、人間の一番みずみずしくて感性を養うときには、本物に出会うということは、これからの人生に大きな財産として残り、人生を生きる源となることは間違いありません。音楽、芸術、例えば演劇、歌舞伎、美術など、本物のすごさを実際に体験させること、これに関係するものを、年1回町に招いて体験させる、仮に体験教育と、このようにしてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） はい、お答えいたします。

体感教育につきましては、その情操を育てるという上からも大切なことだと思っております。ただ、小中学生が一同に介するという場所につきましては、ちょっと問題がございますので、各小中

学校で現在取り組んでいる事例についてお話したいと思います。

劇団を呼んでの演劇鑑賞，それから警察音楽隊等を呼んでの音楽鑑賞，こういうことを各学校で行っております。特に規模の小さい君原，それから吉原，実穀小学校，こういうところでは3校合同でというようなものを実施してございます。具体的には，平成20年度にこの3校の合同で，劇団を呼んでの演劇鑑賞を行っております。内容につきましては西遊記だということでございます。それで本年につきましては，音楽鑑賞，これを予定しておったんですが，この新型インフルエンザの流行ということで，残念ながら中止にしております。あと，具体的には，阿見小では，本年度バンドを呼んでの音楽鑑賞，それから竹来中で，先ほど申しました県警の音楽隊を呼んでの音楽鑑賞ということ，竹来中につきましては3学期に予定しているようでございます。今後もこういった音楽鑑賞，演劇鑑賞は継続して実施していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） 体験教育を実施していらっしゃるということで，大変よかったですと思いますけれども，音楽鑑賞が，ただいま流行の新型インフルエンザで中止になったということでございませぬけれども，中止にしないで，これから実施の予定はあるのでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） お答えいたします。

新型インフルエンザで日程を調整して計画しておりましたので，今後日程を組むということとはなかなか難しい部分があるかと思えます。

以上です。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） やはり，体験教育，体感教育ですので，実施の方向でお願いしたいと思います。また，やはり本物を見ると，本物を見るというのは，やはりちょっとお金はかかっても，一流のもの，やはり三流よりは一流のほうがいいわけでございますので，金銭的には高いかもしれませんが，一流のだいご味というのはやはり生徒に伝わる力が違うと思えますので，一流の素晴らしいものを，小学，中学校のみずみずしい時期にお願いしたいと思います。

それから，一昨年から，小学校5，6年生に外国語活動が導入されました。一小の研究発表も見せていただきました。小学校から英語を体感するという事は，大変よいことだと思います。中学校も海外派遣という事業がありまして，外国の文化または言葉に触れ，そういう経験をするというのは，行ってきた子供たちの目が輝き，大変素晴らしいことだと思います。それを小学校にも向けて，小学校の海外派遣はいかがなものでしょうか，質問いたします。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） はい，お答えいたします。

現在は，中学生を対象に海外派遣を行っているわけですが，これはコミュニケーションを図る楽しさ，大切さを実感するという事で，実施されているものでございます。ただ，小学生の海外派遣ということでございますが，なかなかちょっと難しい問題があるかと思えます。外国語活動，これは小学校で始まったばかりで，現在の状況としましては週に1時間，35週ということで35時間という，新しい学習指導要領にうたわれております。ですが，この海外派遣の中では，現在中学生に5日間のホームステイを行っております。小学生につきましては，この週1時間の授業で，しかもその1年足らずの中で，スーペリアの人たちとどれだけコミュニケーションがとれるのかと，そういう心配がございませぬ。現在中学2年生，3年生，これで何とかコミュニケーションがとれると。中学生につきましては週に3時間の英語の時間がございませぬ。そういう中で何とかコミュニケーションがとれているということでございませぬ。そういうなこともございませぬして，今後も中学生を対象

に事業は実施していきたいと考えております。なお、本年度予定しておりましたが、本年度はこちらのほうもインフルエンザの関係でやむなく中止しております。

以上でございます。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） やはり小さいときから英語に触れるというのは大変素晴らしいことだと思います。自分の5歳になる孫がですね、仏壇にあるリンゴを見て、私たちの時代はリンゴは「アップル」と教えていただきましたが、その孫が「アポー」と言いました。「アポー」は何かなと思いましたが、そのリンゴだったわけでございます。やはり、耳から伝わる英語とそれから言葉で教えていただく英語と、これはやはり違うものであると、そんなふう感じておりましたので、小学校の英語活動が中学校に行つて英語を好きになる子が多くなって、国際に向けて、国際社会に飛び立つ阿見町のよい子が育つように念じております。

最後に、やはり学力向上、教育はやはり学力向上であると思います。学力向上はやはり教師の指導力、これが一番影響があると思います。先生方の質の向上のために、どのような施策をお考えでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） はい、お答えいたします。

おっしゃるように、教師の指導力、授業力の向上というものは、学力を上げるためには不可欠なものでございます。教育委員会としましては、毎年夏休みに東京で行われる教育調査研究所が行っております研修会、教育展望セミナーというところに参加しております。本年は8月の3日、4日の2日間、アルカディア市ヶ谷を会場にして開かれております。町からも教員19名が参加しまして、その報告書を作成しまして、各学校に配布いたしました。それから、指導者の指導のもと、教師の授業力を上げるための、教師が互いに授業を見る会、こういうものを全部の学校で実施しております。それから各学校では、教師の指導力、授業力の向上のための外部講師を呼んでの研修会というものを実施して、授業改善に取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） 先生の質の向上、または指導力に関していろいろ施策を練っていらっしゃるということでございました。私とても心に残った作文がありましたので、持ってまいりました。信頼される先生になりたいということで、中学生の男の子の作文なんです。「僕の将来の夢は小中学校の先生になることです。それは、僕が子供と接するのが好きだからです。勉強だけではなく、遊び、生活などを通じて子供たちと一緒に学んでいきたいと考えています。また、先生の立場から、悩みごとがある人、苦しんでいる人を助けてあげたいと思います。今、日本には、登校できなかつたり、教室に入ることができなかつたりする人がたくさんいます。そんな人たちを少なくできるように、僕が話を聞いてあげたり、話をしたりして、苦しみを和らげてあげたいと思っています。僕はこうした先生になるために、今から友だちの小さな悩みでも一生懸命に聞いて、自分なりのアドバイスをしてあげたいと考えています。そして、どんな生徒からも信頼される先生になるのが僕の夢です」このように、教育に夢と熱意を持った方が先生としての資質の第一だと思います。質のよしあしは一流大学の卒業ではありません。教育に対して熱意と子供たちに対しての愛情の深さであると思いますけれども、教育長はいかがでしょう。

○議長（諏訪原実君） 教育長青山壽々子君。

○教育長（青山壽々子君） 全くそのとおりだと思います。阿見町にも今、読んでいただいたような先生がたくさんおります。私もよく、タイヨーっていうタイヨー、スーパータイヨーで買い物をしているときに、小学生が自分の担任の先生をお互いに自慢しっこしている姿などを見かけると、

涙が出るほどありがたいなと思います。うちの町の先生たちは、本当に子供と心をひとつにして頑張ってくれている先生が多いんだなあと思って喜んでいるところです。さらにそういう先生が、もう100%になるように、これから一生懸命取り組んでまいりたいと思いますので、どうぞ御協力、御支援のほど、よろしく願いいたします。

○議長（諏訪原実君） 7番浅野栄子君。

○7番（浅野栄子君） ありがとうございます。茨城県の教育目標をとらえた、確かな学力、豊かな心、健やかな体、先ほど教育長からお話ありましたこの3つのことについて、教育行政を進めていきたいというお話がありました。これからの阿見町の教育に邁進していただけますよう、御尽力をくださいますよう、よろしく願いいたします。

以上で、質問を終わりにいたします。

○議長（諏訪原実君） これで、7番浅野栄子君の質問を終わります。

次に、3番川畑秀慈君の一般質問を行います。

3番川畑秀慈君の質問を許します。登壇願います。

〔3番川畑秀慈君登壇〕

○3番（川畑秀慈君） 通告に従いまして質問させていただきます。

今回は、地球温暖化防止対策について質問いたします。

昨年は、地球環境の問題が大きく取り上げられておりました。特に、夏は洞爺湖サミットがあり、マスコミも大きく取り上げておりました。秋には世界同時不況が起これり、しかも100年に一度といわれる世界的規模でございました。今、経済問題を初め、多くの問題を抱えている地球温暖化、環境問題は、いい方向に進んでいるとはとても思えません。

さて、私たちの住んでいる地球ができ上がったのは、46億年前です。青い海と緑の大地そして大気、命が誕生し進化し続けた地球、私たちの原点ともなる地球を、今、私たち自身が破壊しております。その結果が環境問題の1つになっている地球温暖化現象です。地球温暖化とは一体どういうことなのか、今、地球で何が起これているのか。人口増加、経済の発達、この人間の活動の拡大で、二酸化炭素、メタン、チッソなど、温室効果ガスの濃度が増加することで、地球の表面温度が上昇していくことを言います。では、地球表面温度が上昇するとどうなるのか、少しここで復習をしてまいりたいと思います。

海面水位が上昇することで領土がなくなる、水没の危機、これはあと数十年もたてば、間違いなくこのまま温暖化が進んでまいりますと、砂浜が、海水浴場がなくなってしまう、この日本からなくなってしまう。これは現実の問題であります。また、豪雨、干ばつなどの異常気象の増加、生態系への影響、貴重な遺伝子の減少、森林伐採や異常気象による砂漠化の進行、水資源などへの影響、水不足の発生、また、熱帯性感染症発生の増加、気温上昇による穀物生産の低下、食料不足の問題、高温による冷房などの消費エネルギーの増加によるエネルギー不足、これらのことが起これてまいります。

地球の温暖化が進むことは、私たちの生活にも被害が及びます。ただ、地球温暖化は目に見えないということから、私たち自身が危機的な状況にならないため、理解しにくい現状なのかもしれません。しかし、将来には、もっともっと深刻な問題になっていることは確かです。人ごとではなく、将来のある子供のため、しっかりと理解し、地球温暖化防止対策を推進していくことが重要だと考えております。

そして、この問題を解決していくには、具体的な施策を1つずつ実施していかなくてはなりません。昨年平成20年度の第4回の定例会のとき、私はLEDの蛍光灯設置について質問いたしました。そこで、今回は、次の点について質問いたします。

1点目としまして、そのときの答弁の中で、平成13年からの第1期の温暖化対策の結果は、平成

12年比で2%の増となってしまったという答弁がございました。そこで、第2期の実行計画を作成中とありましたが、その計画の具体的な施策、内容をお伺いしたい。

2点目、昨年質問の中で、阿見町の施設へ電気使用料の合計を伺いました。そこから計算しますと、LEDを使いますとCO₂の削減が全体の12%削減できることがわかりました。この12%削減ということは、この第2期の実行計画の中でどういう位置にあるのか。

3点目、地球温暖化防止対策として、経費削減対策として、LEDの導入の計画は進んでいるのか。

以上、この3点についてお伺いいたします。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

町長川田弘二君登壇願います。

〔町長川田弘二君登壇〕

○町長（川田弘二君） 川畑議員の質問にお答えいたします。

地球温暖化防止対策については、世界的にも注目されている状況にあり、政権交代により誕生した鳩山総理大臣が、第64回国連総会の国連気候変動首脳会合の席で、我が国の新たな中期目標として、すべての主要国の参加による意欲的な目標の合意を前提に、温室効果ガスを1990年比で2020年までに25%削減を表明してから、アメリカや中国、その他の国も競うように温室効果ガス削減を表明するなど、市町村単位でも真剣に地球温暖化対策に取り組まなければなりません。

このような状況のもと、当町においても町の環境保全と創造についての基本理念を定めた阿見町環境基本条例を、平成20年度3月議会に承認いただき、平成21年度には、阿見町環境基本計画の策定にも着手しております。

最初に阿見町第2期地球温暖化対策実行計画の具体的な施策についての御質問にお答えします。

町では、地球温暖化対策として、平成13年度に阿見町地球温暖化対策実行計画を策定し、役場庁舎及び各出先機関を対象に、平成14年度から18年度の5カ年間に削減基準年の平成12年比で温室効果ガス排出量7%を削減する目標で実施いたしましたが、結果的には5.8%減の削減でありました。

平成20年度12月議会には、霞クリーンセンターのCO₂排出量の集計に、家庭や事業者から排出された可燃ごみが加算され、平成12年度比2%の増と答弁をしてしまいました。訂正お詫び申し上げます。

したがって、第1期実行計画では、7%削減の目標に対して削減結果は5.8%削減であり、目標値の7%削減からすると約1.2%不足していたこととなります。

このような結果を踏まえて第2期実行計画を策定しまして、温室効果ガスの削減に向けた取り組みを始めております。

実施期間は平成20年度から24年度の5カ年間で、第1期実行計画より1%多い、基準年である平成12年の排出量より8%以上の削減を目標として設定しております。

具体的には、トイレ、更衣室、給湯室などでは、必要時以外は消灯。蛍光灯の本数を見直し、必要に応じ間引き。昼休みや長時間離席時はパソコンの主電源ダウン。冷暖房の温度設定の適正化、早期停止等、徹底した電気使用の抑制を行っております。

また、エコドライブの実施、自転車利用の奨励、低公害車、環境負荷の少ない車の利用など、温室効果ガス削減に努めてまいります。

次に、阿見町の公共施設の電気量の合計から、LEDを使うと温室効果ガス12%削減できますが、第2期実行計画の中ではどのように位置づけられているかという点についてであります。

本計画の目的は、国際的な地球温暖化対策の動きの中で、我が国でも地球温暖化対策の推進に関する法律が施行され、その第20条の3（地方公共団体の事務及び事業に関する実行計画等）に基づきまして、阿見町の事務事業に関し、温室効果ガス排出の抑制等の措置により、地球温暖化対策の

推進を図ることとなり、阿見町も一事業者として、みずから事務事業により輩出される温室効果ガスを率先して削減し、地球環境の保全に寄与することを目的としております。

そのようなことから、LEDや空気温度を利用した冷暖房設備、太陽光を利用した発電設備などは、第2期実行計画には含まれておりません。

しかしながら、地球に優しく、温室効果ガスの排出量も少ないなど有効であることは認識しておりますので、平成21年度から平成22年度にかけて作成中の阿見町環境基本計画で、学識経験者や環境保護団体あるいは公募による町民の参加を得て、さらにはパブリックコメントにより、多くの町民の皆様にご意見をいただきながら、阿見町の総合的な環境保全指針を定めてまいりますので、その中でLEDの採用も含めた具体的な地球温暖化対策を議論してまいりたいと考えております。

次に、LED導入計画は進んでいるかという点についてお答えいたします。

地球温暖化対策、経費削減対策の観点から、LEDの導入はより有効であること、初期経費が高額になるが、長期的には電気料やメンテナンス料等考え合わせれば安価であることも認識しておりますが、先ほども申し上げましたように、阿見町環境基本計画の中でLEDを含めた整理をしていきたいと考えております。

しかしながら、導入できる機会があれば、少しでも切り替えていきたいということで、今年度工事の役場庁舎東側部分の給排水設備改修工事にあわせて、役場庁舎東側の1階から3階の男女トイレの照明について、LEDを設置することとしております。

また、今後の町施設へのLED導入については、それぞれの施設ごとの改修計画等にあわせて検討していきたいと考えております。

御理解のほどよろしくお願いいたします。

○議長（諏訪原実君） 3番川畑秀慈君。

○3番（川畑秀慈君） ありがとうございます。検討の中で少しずつ進んでいくということで、私も昨年ここで発表しまして、少し前進できたかなと安心しております。ただ、昨年、環境課また総務課のほうへ資料を持ってきました、業者の資料もあったんですが、実は、あのときのあのタイミングで、今、ちょっとどうなっているかわからないんですが、その後、問い合わせとかお調べになりましたでしょうか。ちょっとそれをちょっとお聞きしたいと思います。エフビットという会社の資料をお渡ししたんですが、その1点、ちょっとお願いします。

○議長（諏訪原実君） 総務部長坪田匡弘君。

○総務部長（坪田匡弘君） はい、お答えいたします。

川畑議員のほうから貴重な資料をいただいたということなんですけれども、それについて、町で直接調査等は特段しておりません。申しわけございません。ただ、LEDに関して、今後導入ということでは、多角的なところから調査、研究はしております。

○議長（諏訪原実君） 3番川畑秀慈君。

○3番（川畑秀慈君） 実はちょっと聞いていただくといろんな話がまた聞けたのかなと思うんです。実はですね、あのとき、ちょっと環境課の大野課長にも話はしたんですが、イニシャルがただでつけられるタイミングでもあったんですね、初期投資ゼロで。LEDでの蛍光管がただでつけられた。そのかわり経費として削減分の電気量の何割かをマージンとして払うというような。ですから、すべてがすべてこちらで払ってやるということではなくて、導入に関して企業のほう、いろんな企業努力やったりまして、いろんなそういう企業でプロモーションもやっていますんで、ぜひ現場のそういう担当の方に会って、最新の情報を入れていただくとまた、導入に向けていろんな知恵が出てくるのではないかなと、その1点ちょっとございました。

それで、次にもう1点なんですけど、このLEDの蛍光管だけの話でもってきますと、実はもっと、前回発表、ちょっとここで質問したときには、外国産のもので言ったんです。今回ちょっとほかの

企業を聞いてみましたら、国産のものでと若干また消費電力が少なくなる。で、それを調べて積算してみますと、約、今、庁舎関係また公共施設全部で、昨年出してもらったので、4分の1がこの照明の電気消費になっていると、で、その4分の1のうち、どのくらいCO₂がカットできるかって言いますと、蛍光管ですと大体6割カットできるんですね。要するに消費電力も6割、昨年のお話ですと大体5割弱くらいだったというんですが、製品もどんどんどんどんよくなりまして、技術開発も進んでおりまして、そういう状況でございます。

そこで、もう1点、電球が今、トイレとかそういう照明器具に使われる、電球ですと簡単に交換はできるんですが、それですと、どれくらいCO₂電力量削減できるかは御存じでしょうか。

〔「寿命じゃだめですか、寿命じゃないですね」と呼ぶ者あり〕

○3番（川畑秀慈君） 寿命じゃないですね。はい、じゃいいです。

○議長（諏訪原実君） 3番川畑秀慈君。

○3番（川畑秀慈君） じゃ、わからなければ結構でございます。実はですね、こういうランプ、照明具、特に電球タイプですと、蛍光管よりもっとダウンできるんです。消費電力、例えば、一般に使用している110ワットのランプがあるとしますと、電球に切り替えますと消費電力が大体8ワットで済むんですね。そうしますと、簡単に計算しますと、CO₂の削減が93%。ただ、値段は高いんです。1個3万700円するんです。ただ、3万700円してもですね、これはちょっと例なんですけど、1日24時間、もし、つけっぱなしのところがあって、それを240日使うとします。そうすると、そのランプ代3万700円というのはどのくらいで償却できるか、これは2年で大体償却できるんです。5年も10年もかかんないで2年で償却できるんです。ということは、部分的なところで、蛍光灯を全部、例えば公共施設すべてで昨年1万9,000分て聞きましたが、それを全部まとめて交換するとなると確かにこれは莫大な費用がかかって、10年後には確かにペイにはなるんですが、なかなか初期投資は大変だ。でも、できるところから少しずつやっていければ、先ほど新しい部分で、町長のほうから、交換する予定があるという話がありましたが、それに関してはもう少し急速に進めていかれても、もっと短期間で、常に使うところであれば償却できるということを考えますと、もっと加速度を増して推進していただいてもいいのではないかなと思うんですが、その点、町長どうでしょうか。

○議長（諏訪原実君） どっちだ。総務部長坪田匡弘君。

○総務部長（坪田匡弘君） はい、あの町長という御指名ですけど、私のほうがお答えさせていただきます。

確かに川畑議員が今おっしゃられるように、大変なCO₂の削減効果になるというようなことは認識しております。で、やっぱりあの今の数字、紹介いただきましたとおり、24時間フルに使用するというような目的ですね、いろんな目的、また使用状況によって、効果があるものから順に導入していくべきではないかというふうに考えております。

それで、町の庁舎とその関係の附属機関につきましては、先ほど申し上げましたとおり、修繕の計画にあわせて導入していくということを当面考えております。一挙に全部交換できればいいんですけども、なかなかまだLEDの施設が高価だということもございますので、そういった修繕計画にあわせて設置、導入していきたいというふうに考えておりまして、当面、役場の庁舎の給排水設備の改修にあわせてということ考えています。

それと来年度以降なんですけども、いろんな施設がやはり大分老朽化をしているところが多くなりまして、町の施設の改修計画を、ちょっと本格的に考えてみようというようなことで、機構の中でも、組織機構の中でも、そういった部署を考えていこうということで、今検討しています。ですので、町の施設、関係施設の大規模な改修計画を立てる中で、LEDの計画的な導入を進めていきたいというふうに考えています。

○議長（諏訪原実君） 3番川畑秀慈君。

○3番（川畑秀慈君） はい、ありがとうございます。確かにCO₂削減または環境問題、また省電力、エコという分からすると、非常に有効な手段でもありますので、ぜひ大きく推進を進めていただきたいと思います。今、いろんな事業者、またいろんな会社でどんどん導入を進めてきております。ですから、まだ、庁舎をそっくりかえたとか、自治体でそういう話は聞いておりませんので、ぜひ周りから、周りの自治体から見学に来て、さすがすごいと言われるような、同じやるのであればスピード感も大事でありますし、ある意味でいい意味での情報発信を、この阿見町からしていけるようになれば、また阿見町としての環境に対する意識も住民の皆さんに関しても、我々もそんなんですが、大きく意識向上されるのではないかと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

昨年、1年たちまして、時代の流れも大きく変わった中で、このLEDのほうもまた大きく1歩前進したことを確認できましたので、ますますこれから新しいイノベーション、技術革新を使用しまして、できるところはどんどん取り入れてく柔軟性を持って、進めていただければと思ひますので、よろしくお願ひします。

今日はありがとうございます。以上でございます。

○議長（諏訪原実君） これで、3番川畑秀慈君の質問を終わります。

次に、9番千葉繁君の一般質問を行います。

9番千葉繁君の質問を許します。登壇願ひます。

〔9番千葉繁君登壇〕

○9番（千葉繁君） 通告に従ひまして、一般質問を行います。

今回の私の質問は、予科練平和記念館の運営と霞ヶ浦湖岸公園構想について、そして地産地消の推進について、2点伺ひます。

初めに、予科練平和記念館の運営と霞ヶ浦湖岸公園構想について質問いたします。

いよいよ来年2月に開館となりました予科練平和記念館は、戦争関連の貴重な資料や記録を収集、伝承するだけでなく、次世代の子供たちに平和の尊さを伝え、歴史に学び、平和を祈願う社会の建設に貢献していくことを目的とした施設であり、阿見町から全国そして世界に平和を発信できる、大変重要な施設であります。また、これまでの記念館建設には多くの課題がありました。その課題と正面から向き合い、根気強く取り組んでこられた担当者や多くの関係者のご尽力に心から感謝申し上げます。議会の行革委員会においても、建設費13億円の大事業であるため、国の補助金を何としても獲得したいとのことから、時の防衛庁長官へ陳情を行ったり、予科練平和記念館建設と町活性化についての提言を提出したり、15項目に及ぶ要望事項を出ささせていただいたり、熱心な議論がなされました。平成19年2月に出ささせていただいた、この15項目の要望については、皆さんに思い起こしていただくために、大事な部分を読まさせていただきます。

全国から集客が期待できるような施設の検討とあわせて町のPRや活性化が図られるものになるように十分検討いただきたい。

1つ、現在の構想では、年間10万人の集客を達成することは大変難しいと考へます。アイデアがあふれ、特色を持ったものにするため、旅行会社等から集客アップにつながるアドバイスを受けてみたらどうでしょうか。また、この施設を含めての観光コースとしての提案を行っていただきたい。

1つ、1年間の運営は独自運営での採算はマイナスになっても仕方がないとのことでしたが、ボランティアの活用など人件費の抑制に努め、町からの持ち出しがなく自主運営できるよう再検討いただきたい。寄附金を集める実行部隊の組織強化を図り、その目標額の設定を行い、起債が少なく済むように努力していただきたい。

1つ、13億円の建設費用の減額とその中での記念館の建物にかかる費用についても、今後見直し

を図りながら削減を行っていただきたい。

1つ、記念館内で土産物が売れるスペースを検討いただきたい。

1つ、将校クラブの復元を行い、集会施設としての活用を考えていただきたい。

1つ、予科練関係の商標登録の現状を調査し、町として早期に登録を考えていただきたい。

1つ、雄翔館の資料をそっくり記念館に展示できるよう、海原会との交渉を粘り強く行い、希望をかなえるべく努力していただきたい。

1つ、物産館の公園敷地外での建設について、各団体が参入できる環境を整えていただきたい。

1つ、この記念館開館に当たり、県に対し平和教育の一環として、県内の小中高校生の見学の働きかけを行っていただきたい。特に小学生には、小学校の遠足などのコースとして取り入れていただき、県内の小学生、小学生は在校中6年間には必ず一度は訪れるような、そういった方向を打ち出していただき、できることなら県としての補助金を検討してもらいたい。

1つ、観光客10万人を受け入れることが可能な駐車スペースを確保していただきたい。

こんな、議会からの要望も出されました。幾つかについては解決済みでございますが、懸案事項として、いまだ解決していないこともあります。多額な建設資金や維持管理費から、負の遺産になるのではとの心配をしている方々も少なくありません。13億円をかけた成果として、多くの入場者を確保し自主運営できる、そして町全体の活性化が図られる施設になってほしいという思いから、予科練平和記念館について、2点ほど伺います。

1つ目、今後開館に向け、PRはどのようにしていくのでしょうか。

2つ目、寄附金の納付状況と今後の集め方について伺います。

そして、もう1点は、霞ヶ浦湖岸構想についてお尋ねをいたします。この公園構想は、平成10年3月に作成され、今読み返すと、しゅんせつ土ストックヤードへ霞ヶ浦環境センターの遺留地を視野に入れた公園構想でありました。しかし、皆さんも御存じのように、この環境センターは平成17年4月に土浦市とかすみがうら市にまたがるところに建設をされました。また、自衛隊武器学校内にあります雄翔館を活用した霞ヶ浦平和記念公園を整備する構想でありましたが、現在は自衛隊敷地外に予科練記念館が建設をされております。計画区域面積約40ヘクタールの広大な土地に目玉の施設の誘致がなくなった今、他の土地利用計画を実施するのか、また具体化、具現化についてお伺いいたします。

この件につきましては、昨日の細田議員の質問の答弁の中で、公園構想は見直しという回答がありました。御答弁をいただきたいと思えます。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

町長川田弘二君、登壇願います。

〔町長川田弘二君登壇〕

○町長（川田弘二君） 千葉議員の質問にお答えいたします。

阿見町予科練平和記念館につきましては、順調に事業が進捗しており、予定どおり平成22年2月開館を予定したいと考えております。

さて、初めに予科練平和記念館のPRについてであります。

予科練平和記念館は町の貴重な予科練の歴史遺産を後世に正確に伝承し、多くの方が平和の大切さや命の尊さを考え認識してもらうことが大きな目的で、町内はもとより全国の多くの人に記念館を知ってもらい、見ていただくことが必要であると考えております。そのために、これまでもあらゆる機会を通し、記念館のPRを行ってまいりました。

まず、平成18年8月から町広報紙により、毎月「予科練平和記念館だより」を連載するとともに、町ホームページにより事業の目的や整備概要等を周知してまいりました。また、平成19年度には、全国の1,800余りの市区町村に趣意書を送付し、事業の内容をお知らせするとともに、全国市区町

村の広報誌に寄附金の募集とあわせて資料の提供等についても掲載をお願いしております。また、平成20年度には、ポスターを作成し県内の公共施設や全国の類似施設等、約500カ所に配布をしております。その他、茨城県観光物産協会が主催する「いばらきの観光キャンペーン」に参加し、年3回首都圏の鉄道駅やショッピングセンター等でPRを行うとともに、まい・あみ・まつりやさわやかフェア等でのPRを行い、機運醸成を図っているところであります。

また、今年度につきましては、来年2月に記念館が開館するというので、これまでの取り組みも含め、今年7月には、あみプレミアムアウトレットのオープンに伴うイベントへの参加や、アウトレット内のあみコミュニケーションセンターでのPR等を行っております。また、積極的な情報発信を行うため、新たにポスターとチラシを作成し、全国の都道府県市区町村や教育委員会、類似施設、自衛隊施設、県内の小中高校、旅行代理店、宿泊施設、商工会議所、観光協会など約5,500カ所に送付し、集客を図るためのPRをしております。

このようにさまざまな取り組みを行った結果、一般の問い合わせはもとより、旅行代理店や宿泊施設等からの問い合わせが多くなっております。また、旅行雑誌社からの掲載案内や自動車のナビゲーションシステム開発会社からの問い合わせなども来ている状況となっております。

今後につきましては、予科練平和記念館独自のホームページを1月中旬には開設し、記念館の利用案内を初め、新着情報やイベント情報など積極的に発信するとともに、鉄道利用者に対してのPRを行うため、電車内の窓上にポスターの掲示を行う予定です。常磐線の各車両には1月から2月にかけて350枚、つくばエクスプレスの車両には2月に250枚の掲示を予定しております。また、自家用車の利用者については、週末利用の高速道路料金の上限が1,000円になることから、サービスエリアの利用者が増加していますので、1月から2月にかけて、守谷と友部のサービスエリアにポスターを掲示し、チラシを配布する予定であります。

さらには今後、近隣市町村や小中学校、旅行代理店等にも職員が直接訪問をして、記念館の案内と集客を図るための取り組みを積極的に推進してまいりたいと考えております。その他、町外から来町する人や、アウトレットからの集客を図るため、主要な場所に道路案内表示板を設置し、記念館までのスムーズな誘導を図ってまいります。

このように、これまでのPR効果によりまして、予科練平和記念館の認知度も大分高まってきているかと思っております。今後とも茨城県や商工会、農協といった関係機関や団体とも連携を図りながら、多くの方が記念館に来館していただけるよう、PR活動につきましては最大限の努力をしてまいりたいと考えております。

次に、寄附金の状況と今後の集め方についてであります。

御承知のとおり、寄附金の募集につきましては、予科練平和記念館整備管理基金を設置し、全国の多くの方から寄附金を募集し、記念館の事業に有効に役立てていきたいとの考えから、平成19年11月から具体的に募集を始めたわけでありませう。

これまでの寄附金募集の取り組みですが、国会議員、県知事を初め、近隣市町村長、関係団体の方々に発起人になっていただき、県内はもとより、全国の都道府県市区町村、各種団体、町内事業所、海原会等に約1万4,000部の趣意書を配布し、記念館建設のPRや寄附金の御協力をお願いしてきたところです。特に、海原会では、全国の約3,000人の会員の方々に御案内をしていただき、北海道から沖縄県までの全都道府県、さらには台湾の予科練出身者の方々からも寄附金が集まっている状況です。その他、町広報やホームページに募集案内を掲載するとともに、町内の事業者や海原会以外の予科練関係団体等に対しましては、機会あるごとに町から職員が訪問をして、予科練平和記念館建設の趣旨と寄附金のお願いをしてきたところであります。

こうした取り組みの結果、2,100件、5,500万円の寄附金をいただいております。

具体的に申しますと、11月末現在で納入件数が2,128件、金額で5,672万2,334円となっております。

す。これを年度別にみますと、19年度が804件で2,125万2,390円、20年度が1,197件で2,947万544円、今年度が127件で599万400円となっております。寄附者の居住地と寄附金額の状況ですが、率であらわしますと、町内が件数で約30%、金額で約48%、阿見町を除く県内が件数で37%、金額で21%、県外が件数で33%、金額で31%となっております。

○9番(千葉繁君) 町長、申しわけないですが、もう1回、率、もう1回、聞き逃しましたので、率を、県外、県内、その前の率を、ちょっと教えてもらいたい。

○町長(川田弘二君) 数字、どの数字。

○9番(千葉繁君) もう1回聞けますか。

○町長(川田弘二君) 件数と……。

○9番(千葉繁君) ええ、件数が何か。あ、終わってから聞きます。

○町長(川田弘二君) 何円単位までやったから、100万ぐらいの感じのほうの方がわかりいいのかな。じゃあ、件数とパーセント。町内が件数30%、金額で48%、阿見町を除く県内が件数で37%、金額で21%、県外が件数で33%、金額で31%。いいですか。

○9番(千葉繁君) はい。

○町長(川田弘二君) 今後の取り組みについてであります。これまでのように積極的な募集案内は予定しておりませんが、予科練平和記念館のPR活動とあわせて、開館後も引き続き寄附金の募集は進めていきたいと考えております。

続いて、3番目の、今後の霞ヶ浦湖岸公園構想の具体化についてお答えいたします。

最初に、霞ヶ浦湖岸公園構想の内容と進捗状況について、少し触れさせていただきます。

本公園構想は、貴重な霞ヶ浦の自然環境や生態系を保全、育成し、水辺の空間を積極的に活用するとともに、霞ヶ浦湖岸のレクリエーション拠点として整備を図るというもので、平成10年に約40ヘクタールの区域について公園構想を策定したものです。

構想では、水辺を含めAからEまでの5つのゾーンに分け、機能を分担しております。

Aゾーンは武器学校内の予科練記念館を積極的に活用し、霞ヶ浦平和記念公園の一体的な整備を図り、地域の戦史や予科練の伝承とあわせて平和について考える場の整備と地域住民の憩いの場となる公園の整備を位置づけたものです。これがAゾーン。

その他のゾーンとしては、湖岸に広がる蓮田や水田を保全活用するゾーンや、霞ヶ浦の水に親しみ憩える身近な公園のゾーン、さらには霞ヶ浦湖岸の自然環境の保全や復元を図るための施設を配置したゾーンとして位置づけております。

10年前の状況を前提にして、そういう構想を、これは計画前の構想ということですから、まだまだ不備な点はあったと思います。

その進捗状況につきましては、御承知のとおり、Aゾーンに位置する霞ヶ浦平和記念公園整備を第一段階として、もろもろの経過がありましたけれども15年に事業着手し、来春の完成を待っているという状況であります。

御質問の、本公園構想の今後の事業の具現化についてであります。昨日の細田議員の御質問にもお答えしたとおり、次の整備計画立案の段階に来ているということは十分認識しているところであります。しかしながら、厳しい経済情勢の中、次の整備段階に着手することは、すぐに着手することは現実的でない判断をしまして、公園構想を精査するとともに、事業実施時期等も含めて検討することとしております。

検討というとどうもはっきりしない点がありますけれども、これはできるだけ早く、やれるものから具体化するということを前提とした検討をできるだけ早く進める、そういうふうに御理解をいただきたいと思っております。

そういうことですので、議員も御理解と御協力をお願いしたいと思う次第であります。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） それでは、再質問いたします。

1点、確認をしまして質問したいと思います。私、寄附金の納付状況というのは、現在、先ほど11月末ということで言われてまして、2,128件、5,672万でいいのかなどうか、まず1点、これ確認です。

それから、具体的な開館に向けてのPRですけれども、大分具体的に出てきていますので、安心はしました。その中で、アウトレット内でPRをするというようなお話ありましたが、何かいろんな面で、私はあそこのアウトレット内のインフォメーションセンターは、かなりいろんなことについてのPRの場所になれると思ったんですが、ビラは配れない、口コミはできないというようなことで、大変扱いづらい、使いづらいようなインフォメーションセンターになってる、そういった中でどんなPRをしているのか、お尋ねをします。

○議長（諏訪原実君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。予科練平和記念館整備推進室長湯原幸徳君。

○予科練平和記念館整備推進室長（湯原幸徳君） はい、それではお答えをいたします。

まず最初に、寄附金の額ですけれども、11月末現在で2,128件、金額合計で5,672万2,334円ということですので。以上です。

済みません。アウトレット内のPRの使い方ということなんですけれども、そのアウトレット内のインフォメーションの使い方については、予科練平和記念館の所管ではないんですけれども、現在、アウトレット内には予科練平和記念館の部分についてはポスターの掲示と、それとチラシを配置をしております。来たお客さんに見ていただくあるいは配ると、積極的にこちらから配るということではないんですけれども、配置をして持って行っていただくというふうなことで、何千部か置いてはございます。記念館のほうのPRの部分については、そういうふうな考え方でお願いをしてあります。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） アウトレット内のインフォメーションセンターでビラが配れないということは、今後やはりいろんな面でも検討しなくちゃいけないんじゃないかなと思います。あそこで、なぜできないのかなというふうな、チェルシーのほうでだめだと言われるからということなんですけれども、あそこでビラができたならば、どうぞ皆さん見てくださいよ、こういう阿見町でイベントやってますよ、どうぞ見てくださいというものがあって、それでインフォメーションとの価値があるんじゃないかと思うんですけれども。その辺のところ、これからいろんなイベントがあったときに、どんどん情報源としてあそこから発信していくということは、大事なことなので、その辺のところは、これから熟慮していただきたいと思います。

それから、先ほど独自のホームページをつくっていくということで、私、ホームページというものは大事なところだと思って、今はリンクで阿見町の公式ホームページから出てますけれども、どこどこって、どこ行こうかって探すときに、必ず今インターネットで探している。こういうことがあるので、このホームページの充実はしっかりやっていただきたいというふうに思います。

それからですね、思ったより集まらなかった寄附金ということで、6,000万にも満たなかったと。最初から目標額は設定しないということでやりましたけれども、余りにもちょっと寄附金が少なかったというふうに、私思うんですね。どこかで1回、13億の10%、1割ぐらいいは目指したいみたいな話は途中で言ったようなんですけれども、その半分にも満たない状況ですね。やはりこの辺のところは、もう少し、集め方が問題じゃなかったかな。やはり、その目標額を設定して、皆さんで、そこへ目標額設定の中に一所懸命知恵を出して結集していく、その中で予科練記念館の建設についても訴えていくというようなやり方がよかったんじゃないかなと、ま、終わったことなんですけれども

ないんですけれども。ですから、今後の集め方、あんまり出てなかったですけれども、同時進行にしていけばですね、もっとこれ集めなくちゃいけないですね。ですから、その集め方にしてもですね、私、当初、この建設をするときに、防衛補助がいただけるというようなことでね、それがいただけなくなって議会でも陳情に行ったといういきさつがありました。これ、当初は大体どのぐらいみていたのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（諏訪原実君） 整備推進室長湯原幸徳君。

○予科練平和記念館整備推進室長（湯原幸徳君） はい、お答えします。

防衛補助というふうなことでよろしいでしょうか。防衛の補助につきましては、当初、確かに予科練平和記念館と廻戸地区近隣公園の部分については防衛補助を活用してやっていこうということで、結果的に廻戸地区近隣公園については、防衛の補助を活用して整備がされたということです。で、実は平成19年度に、防衛補助の中に博物館というメニューがあったわけなんですけれども、法律が改正になりまして、平成19年の9月に、この地域、博物館としてのメニューがなくなってしまったというふうなことでございます。で、金額としては、もし博物館としてもらえるとすれば、1,400平米で、定額補助なんですけれども、約1億9,400万円ぐらいが手当をされたであろうというふうに考えております。また、いずれにしても、博物館としての補助がなくなったということで、当時、東京防衛施設局のほうからも、いろいろと御提案がありまして、地域のコミュニティ施設と共用でつくってはどうかというふうな話もございました。町としてはその辺考えまして、コミュニティと併設にすれば、コミュニティの部分で約1億1,500万ぐらいもらえるというふうなことがあったわけなんですけれども、実は、予科練平和記念館という名称が使えないということと、それとあくまでもコミュニティ施設の部分にだけ補助が対象になるというふうなことで、記念館のほうの資料館としてのほうは単独でやらざるを得ないということで、この辺の部分については、ちょっと事業としてはそぐわないというふうな経緯がございまして、防衛補助のほうは断念をしたというふうなことでございます。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） 私の記憶では、この1億9,400万というのは、我々議会が陳情に行って、どんなことでもいいから捻出していただきたいというお願いをしたときに、その地区公民館みたいな形の役割、そういったことで出すんじゃないかというような、そのときもらったような記憶がするんですけど、当初はなかったんですか。防衛補助をいただくという予定はなかったんですか。私は米軍再編の問題で、そのやつがなくなったというふうに聞いているんですけども、当初はなかったんですか、これ以外には。

○議長（諏訪原実君） 町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） いずれにしても、最初のころから計画を立てると、当然こういう、言ってみれば、国の重要な歴史を残すようなものだから、当然、国としても当然、応分の負担はしてもらうのが当然だという前提で防衛庁へ行って、茨城県出身の長官もいたから、中山さんのとき、それからその後の額賀さんのときも行ったけども、必要性はわかるけれども制度的な問題とかそういうことで、結局だんだん無理だということは確認したわけです。それで、じゃあ国ができないなら県ということで、県にも働きかけたけども、県のほうもできない。で、そういうことで具体的に進めていった結果として、今言ったような話が出たわけですね、そういう経過があるわけですよ。したがって最終的には、国のいわゆる防衛補助、こういうものは無理だということで。当初の構想よりは幾らか金は圧縮するような形でやらざるを得ないだろうと。あとは御承知のように、美浦との合併の話があって、合併したら特例債を使ってという、こういう考え方もあったけれども、それも御破算になった。そういう中で最終的に今のような形で落ちついたということでありまして、御理解をいただきたい。ただ、この13億の中に、いわゆる建物の建設費だけじゃなくて、周辺の整備部分

も入ってます。その部分については、ある程度交付金というような形で補助の対象になったんで、あれ、幾らでしたか、6,000万ぐらいか。

〔「4,600万です」と呼ぶ者あり〕

○町長（川田弘二君） うん。その分については、かなりの補助をいただいたし、それから、もう1つ、頑張る地方応援事業ですか、それぞれの地域で特別なことをやるについての、総務省経由での補助が、これは補助という形じゃなくて、交付金の中に1,500万ずつ3年にわたって来たということで、私はトータルとして1億ぐらいは来てるというふうに理解している。

○議長（諏訪原実君） 予科練平和記念館整備推進室長湯原幸徳君。

○予科練平和記念館整備推進室長（湯原幸徳君） それでは、その辺のデータのものをちょっと御説明をさせていただきます。町のほうで防衛補助は確かに採択、もらえなかったわけなんですけれども、今町長がお話しましたように、頑張る地方応援プログラムによりまして、特別地方交付税で19年度から21年までの3年間、各年1,500万ずつ、3年間ですから4,500万の特別地方交付税が措置されているというふうなことが1つございます。それと、まちづくり交付金、外溝工事、霞ヶ浦平和記念公園の整備というふうなことで、約4,600万程度の交付金はその整備に充てられてるというふうなことでございます。

以上でございます。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） 町長答弁の中で、予科練平和記念館にはちょっと無理だったけれども、近隣の開発を含めては1億円ぐらい入っているんだというようなことで、できればですね、やっぱりどんどん13億から減らすというふうなことをすれば寄附金しかないので、できれば多くもらえるような、もっと考えなくちゃいけないんじゃないかなというふうに思います。大変でしょうけれども、その辺のところしっかり考えていただきたいと思います。

それからですね、先ほど、集客についてということで、旅行雑誌、旅行代理店というような話があったけれども、やはり、どんどんあそこに入ってもらわなければいけないというようなことで、営業的なセンスが求められているんじゃないかと思うんですね。そんな中で、そのアウトレットには、はとバスツアーみたいなのが来て、お隣の牛久市では、アウトレット寄って、大仏に寄って、それから牛久シャトーで御飯食べて帰るというような、そういったツアーもできてます。そういった現実的なですね、ツアーが組めるような、ツアーの中、阿見だけではちょっと名所が少ないので、それできませんから、つくばとか土浦とか回ってきてその中の名所の1つにするというような方法にするには、やっぱり旅行代理店に営業に行かなければいけないというふうに思いますけれども、その点のほうはどうですか。

○議長（諏訪原実君） 予科練平和記念館整備推進室長湯原幸徳君。

○予科練平和記念館整備推進室長（湯原幸徳君） はい、お答えをいたします。

先ほど町長のほうの答弁の中でも話されたかと思いますが、記念館、千葉議員がおっしゃるとおりだと思います。旅行業者等についても、やはり営業活動というのは非常に大事なことでありますし。今後ですね、旅行業者にはもちろんのことですけれども、県内の小学校、中学校等にも、ぜひ記念館に来ていただけるような、その考え方、PRはしていく予定であります。これはただチラシを配布するとかそういうことではなくて、職員が足を運んで営業をしていきたいというふうに考えております。よろしく申し上げます。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） それからですね。集客をするということで行っていただきたいと思います。それから、運営の全体的なランニングコストということで、5,000万から、当初は7,000万というような話ありまして、5,000万から6,000万なんていうふうに、今のところ、直近ですからね、もうね、

大体はじき出していると思うんですけども、このランニングコスト、どのくらいになるのか、お尋ねします。

○議長（諏訪原実君） 予科練平和記念館整備推進室長湯原幸徳君。

○予科練平和記念館整備推進室長（湯原幸徳君） はい、お答えをいたします。ちょっとお待ちください。

かねてよりいろいろとランニングコストについては、議会の議員の皆様方にも、このくらいかかるであろうという予想の中で御説明をさせていただいております。今まだ予算編成の段階で、確定というふうなことではないけれども、今までと同じような数字で予算編成をする予定であります。例えば維持管理費につきましては、約1,500万から1,700万円ぐらい。これは維持管理というのは、光熱水費ですとか機器の保守点検、そういった維持管理費。それと運営費でございますけれども、記念館の収集員の報酬ですとか館長の報酬ですとか、あるいは職員の旅費ですとか、消耗品ですとか役務費ですとかその辺のところ約2,000万程度。それから記念館の事業費ということで、特別展とか企画展、そういったもろもろの事業をしなければなりません。そういう事業費が約1,000万円程度かかるということで、約4,500万から4,700万ぐらいというふうに見積りをしようと、して予算編成を今進めているというふうなところでございます。

以上です。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） 当初より大分減ってきました。いろんな御努力があったんだろうと理解します。

それから、懸案であります、売店の運営について、この辺のところをどのようにするのかお尋ねします。

○議長（諏訪原実君） 予科練平和記念館整備推進室長湯原幸徳君。

○予科練平和記念館整備推進室長（湯原幸徳君） はい、お答えをいたします。

売店につきましては、ミュージアムショップっていう大々的な大きなスペースを設けることは、面積的にもそんな大きい施設ではありませんので、大きいスペースを設けることはできませんでしたが、ある程度の売店スペースは設けていきたいというふうに考えております。で、運営につきましてはですね、商工会さんのほうでも、予科練の街クッキーとか、いろんなそういったお酒だとかもいろいろ開発しておりますし、町の振興に役立つ事業もしておりますので、商工会さんのほうが運営をできるような形をお願いをしようというふうに、今、商工会さんと協議をしているところでございます。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） 商工会が受けるんじゃないかというふうなうわさを聞きますけれども、一番商工会会員の皆さんの中でも心配しているのはですね、これが赤字になったらどうするんだということだと思っております。当初、人件費だいたいどのくらいになるかわかりませんが、人件費のほかに商工会で捻出するものはあるのかどうかというの、その辺のところもあるんでしょうけれども、大きく言えば、人件費、この部分については商工会が払っていくということになると、赤字になったときは商工会がそれを埋め合わせするというふうな形になりますから、売り上げが、あまりにも売れなかった場合に、想定した場合にですね、その人件費の穴埋めをどうするのかって、それは町のほうで助成してあげてもいいんじゃないのかなっていうふうに思うんですけども、その辺どうでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 予科練平和記念館整備推進室長湯原幸徳君。

○予科練平和記念館整備推進室長（湯原幸徳君） はい、お答えをいたします。

商工会さんはあくまでも町の商工会として売店を運営をするというふうなことで、考え方として

は、町から委託するという考え方ではなくて、あくまでも商工会さんみずからの自助努力によりまして、売店を運営していただきたいというふうに考えております。で、確かに商工会さんとお話した中では、人件費の部分についても大分ご心配をされているところでございますけれども、必ずしもそれが、そういう部分について町が手当をするのがいいのかというふうなことを考えますと、現段階ではちょっと難しい部分があるのかなというふうに考えております。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） 商工会が受けるわけですから、私らがとやかく言うところありませんけれども、私も会員ですので、自助努力というふうに言われましたらば、やっぱり売れなかったときはもう全部商工会の中でやってくしかないわけですから、その辺のところの自助努力だけっていうことでいいんだらうかって思うんですけども。商工会が受けたのであるからしょうがないというふうに思うしかないですけども、この辺のところは少し様子を見なくちゃいけないんじゃないかなと思いますよ。何のいいことないですもん、商工会。ここでたくさん商工会会員のいろんな商品がそこでどんどん売れるんだってあればいいですけども、まあ一部はあるでしょうけれども、そういった思いはないでしょうし、その辺のところを商工会が受けたということで、私、文句言うわけにいかないですけども、ちょっとこれ考えてやっていただきたいなって思います。どんどんグッズが売れていけばいいでしょうけれども。その辺のそこは御検討いただきたいと思います。

それから、記念館外にですね、大型バス駐車場へ向かう途中に、その通路においてテントを張って、土曜、日曜あたりは土産物売れるというような、当初、話を聞いておりましたけれども、その辺のところはどうですか。

○議長（諏訪原実君） 予科練平和記念館整備推進室長湯原幸徳君。

○予科練平和記念館整備推進室長（湯原幸徳君） 町の商工業懇談会とかそういった中でも商工会さんのほうから、敷地を活用してテントを張って地域の特産品だとかそういったものを売りたいというふうなことは、要望は聞いております。で、町としてもそれに合わせて、記念館と雄翔館の間にそういうスペースは一応設けさせていただきました。ですから植栽も何にも入れないで芝生なんですけれども、そういうスペースは設けておりますんで、その部分を活用してそういうことができるようなことは幾らでも可能であるというふうに考えております。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） そのようにしていただきたいと思います。商工会に限らず、漁業組合、ワカサギつくだ煮、そういったものもバスで来た方が帰りにそれ食べながら帰る、お酒を飲んで帰るなんていうこともあるでしょうから、そういうこともそこで調達ができるような、そういうのは特産品をそういった売れる場所がね、多くあるということは地元にとってもいいことですので、推進をさせていただきたいと思います。

そしてですね、私、最初はこの記念館は入ると思うんですよ。で、ある時期が来たときにまた入らなくなってくる。で、そのときにどうするかというような問題があるかと思うんです。その辺のところを考えていけばお話いただきたい。

○議長（諏訪原実君） 予科練平和記念館整備推進室長湯原幸徳君。

○予科練平和記念館整備推進室長（湯原幸徳君） はい。確かに、2月2日にオープンするというで、今、先ほども説明したとおり、さまざまなPRの取り組みをしておりますんで、また寄附者あるいは資料の提供者等に対しては優待券等も送らなければならないのかなというふうなことも考えてますので、当初はかなり入ってくるんじゃないかというふうな予想はしております。ただ、それがある程度、1年過ぎた、2年過ぎた後の考え方ですけども、やはり先ほども言いましたとおり、旅行会社だとかそういった部分の営業活動は継続してやはりやっていかなければならないんじゃないかなということも1つあると思います。それともう1点は、これは知覧の取り組みなんで

すけれども、旅行会社とエージェント契約というふうなものを契約をして、旅行会社に多少の手数料を支払うというようなことも、やはり考えていかなければならないのかなというふうなことで、その辺の検討も入ったというふうなことであります。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） 私も11月に、1カ月前ですか、知覧に行ってきました。知覧の取り組み、それは方法としてはいいのかなと私も思います。取り入れるように検討していただきたいと思います。また、リピーターを何とか来てもらうということで1つアイデアを出したいと思います。何回か入場して、何回か来てくれた人に対しては、予科練平和記念館独自のグッズみたいのをつくって、で、何回か来てくれたらばこんなものをあげるんだよと。もうそれしか使わないというようなプレミアムがついたようなものをそこで出すような、そしてお客さんに何回も来てもらうというような方法もあるかと思えます。その辺のところは御提案をしたいと思えます。

それから、先ほど言いましたように、鹿児島県の知覧へ行ってきて、知覧の状況もしっかり見てきました。鹿児島県の最高にいい場所ですので、いろんな観光名所の中に入っています。その中で私ちょっと気がついたのは、いろんな情報交換をこれからするために、知覧町と友好都市だとかサミットだとかというふうなそういった締結を結んでですね、お互いの情報交換をしていくということは大事なのかなと思えますけれども、その辺のところ町長どうですか。

○議長（諏訪原実君） 町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 答える前に、知覧の場合のことをちょっと考えてみますと、知覧の場合は、あそこから特攻機が飛び立ったということで、特攻機そのものの数というのは4百何十機なんですね。そういうようなものを活かしてああいう記念館というものをつくったわけなんだけども、そこへ、現在は年間60万人が来て、それでかなり収益を上げて、もう基金を積んだりね、特別の。一般から作文なんかを募集して、毎年2,000万くらい使っているいろいろな行事やっているんですね。だから、要はとにかく人を集めることというのは、どれだけ大きな意味があるかということなんで、そのことはもうこれからいろんな形で考えていかなきゃならない。で、それはただ、最初からもう計算どおりとかそういうわけにはいかないんで、状況をみながらみんなでアイデアを出し合い、それを具体化しながらやっていくということでないと思ってしまう。同じような施設で、同じ九州の中に……。

〔「万世飛行場」と呼ぶ者あり〕

○町長（川田弘二君） うん、うん。もう1つあれは何県だ。熊本かな。

〔「鹿屋温泉」と呼ぶ者あり〕

○町長（川田弘二君） うん、うん。で、それほど離れてないところなんだけども、もう1つ似たような特攻記念館があるんだけど、それは年間1万6,000ぐらいしか来てない。やはり、極端な差がある。それはやっぱり知覧の観光的に非常にいいところに位置しているということもあるんだけど、やっぱりいろんなアイデアを使って経営をしているということ、その辺が大きいんだと思う。で、まずそれを、あの辺をひとつ参考にしてね、いろんな形でいろんなアイデアを出していくということ、これは非常に大事なことだと思います。それを継続して、さらに知覧の場合はどんどん、大体今はあのあたりで安定しているんでしょうけども、せめて、10万とは言ってますけども、これが15万、20万になるような形での運営ってのをぜひやっていく必要があるんだろうと思うんで、やっぱりそれに対して実際の運営をしながら、いろんな形での改善をしたりしてやっていくということが非常に大事なんだろうと思います。で、そのためには、外部からの意見を聞いたり、あとは旅行会社との連携を強めたり、特に1つポイントになるのは、全国に海原会の会員が非常に広範に分布している。会員そのものはだんだん高齢化していずれだんだん少なくなっていくんだけど、その人たちの子供やお孫さん、そういう人たちも組織に入ってますから、そういう人たちが全国から集

まるよう、そういった形をつくっていくということ、そういうことが非常に大事なんだろう。ま、いずれにしても、取り組み方によっては全然状況が変わってくると思いますんで、その取り組みについていろいろと大勢の人が運営に参画するんだというような、そういう形をつくっていくことも大事だと。特に整備管理基金というのが、これは残していくんで、こういうものについても、ある程度コンスタントに入ってくるような、そういうような形をつくるということも大事なんじゃないだろうか。今でも、寄附を1回した人が、何回か続けて寄附を続けてやってくれている、そういう形もありますんで、そういう形をつくって、ある程度コンスタントにそういう形での基金が入ってくるという、こういう形をつくっていくということも非常に大事だと考えます。いずれにしても…

○9番（千葉繁君） 町長、サミットだよ、サミット、友好都市。

○町長（川田弘二君） うん。だから、まだちょっと、話が拡散しましたけれども、そういう意味で、関連するところのサミットとか、そういうことを構築して、お互いに経験を考慮し合いながらやってくというのは非常に大事なことだと思います。そういうことも考える必要があると思います。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） 先ほど知覧のお話が出まして、まあいい場所ですよ本当に。条件もそろってきますし。だけど、阿見町をこうやってみたときに、条件がないというわけでもなくて、そろってないということでもないと思うんですね。今度アウトレットができました、後ろには霞ヶ浦があります、そういった中では、そろってないことはないですよ。また、そろってなければ条件をつくと、昨日の話じゃないですけど、桜の問題だとか、そういった名所もつくっていくということも大事な条件の1つですので、これはしっかりとお考えいただきたいなと思います。

それから、霞ヶ浦湖岸公園構想についてはですね、これは白紙ではないですけども……。いいですか。

〔「どうぞ」「続けていい……」と呼ぶ者あり〕

○9番（千葉繁君） そうです、はい。湖岸公園構想ですけども、今後見直すというなことで、今回はその中でも御提案になってしまいますけれども、先ほど町長からもお話ありましたけど、公園構想の中では、できるだけ具体化をしていくと、早く、早急に具体化をしていくということで、できる所だけでも構わんですから、どんどんどんどん名所をつくっていくということは大事ですので、これ御提案したいと思います。

それから、懸案のストックヤードの活用なんですけれども、ストックヤードについてはいろいろ使い方もあるし、地元の方々の考えもあるし、そういった中で前からお話をしている市民農園的なものができないものかなというふうに思いますので、その辺等もどうぞ検討していただきたい。

それから、前から提案しとるんですけども、予科練平和記念館ができましたその後ろに、自転車です、この霞ヶ浦の散策ができるような、予科練ゆかりの道なんていうのがありましたよね。湖畔の散策するには、やっぱり自転車はいいと思いますので、予科練平和記念館の後ろあたりに貸し出し所をつくって、散策をしていただくということも、あそこに呼び込める手段ではないかと思いますので、その辺も霞ヶ浦公園構想の中に具体的に入れていただきたいなというふうに思います。

まずは、この1点目は質問終わりにします。

続いていいですか。

○議長（諏訪原実君） はい。

○9番（千葉繁君） 次に、地産地消の推進について伺います。地産地消とは、地域で生産されたものを地域で消費しようとする活動を通じて、農業者と消費者を結びつける取り組みで、農業者のやる気にもつながり、耕作放棄地解消の1つにもなり得ます。また、地産地消により、地域の身近

な食材を通して、食材の旬や産地について理解を深められるほか、郷土色や行事食など地域独自の食文化を見直すきっかけにもなり、食育を進めていく上でも重要な取り組みでもあります。国でも問題視している食料自給率の向上にもつながっていくことも期待されております。このようなことから、どこの市町村も真剣に取り組んでいる事業であり、現在の疲弊した社会に活性化を呼び起こし、産業の振興として内需の拡大の大きなキーポイントになるのではないかと考えています。

今後のまちづくりを考えると、大変重要な事業であります。そこで当町における今後の地産地消の推進について、具体的に伺いたいと思います。

○議長（諏訪原実君） 町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 地産地消の推進についてお答えします。

地産地消は、消費者の食に対する安全・安心志向の高まりを背景に、地元で生産された食物を地元で消費するということを目的とした取り組みであります。町では、農業対策推進会議の提言に基づき、さまざまな取り組みを行っております。

まず、阿見町農産物推奨シール事業であります。

阿見町で生産された対象農産物に推奨シールを張り、地場農産物を積極的にアピールし、農業生産拡大と販売促進を図っております。

平成18年度途中から開始し、平成18年度は3,000枚、平成19年度は1万7,498枚、平成20年度は1万2,800枚、平成21年度は8月末現在4,400枚の交付を行っており、この間、品目の拡大や手続の簡素化を行い、さらなる推進を図っているところであります。

ただ、この数字の推移を見てもわかりますように、必ずしもこれが本当にいい形で活用されているかという点については多少問題がある、そう考えますので、この考え方についてさらに問題点等検討して、これをどういう形で活かすようなことを考えるのか、さらに検討する必要があるんだろうと思います。

次に、学校給食への取り組み、あみまちを食べよう学校給食推進事業であります。

学校給食に、新鮮、安全、おいしい地元の農産物を提供し、子供たちが地元の生産者の顔が見える学校給食を味わうことにより、これからの地域社会を担う子供たちの食生活の健全化や、学校給食を通しての地元の農業を知る食農教育を推進しております。

また、学校給食センターにおいても、地場産農産物を積極的に取り入れる取り組みを行っておりますが、本事業からも町の特産物であるスイカやメロン、レンコンやヤーコンなどの食材を提供することにより、地元の子供たちは新鮮な野菜を見て、触れて、育てる苦勞を知り、興味を抱く中で、食べ物の大切さ、農業の大事さについて理解を深めております。また、生産者にも地域の子供たちと一緒に行動することで、給食の果たす役割や、継続的に新鮮で安心な野菜を納入するよう意識を高めてもらうことができっております。

次に、地場農産物直売所への支援であります。

町内には、地場農産物を取り扱う農産物直売所が多く見られます。主なところでは、JA直営で中央公民館前の愛菜園、実穀にある農事組合法人いばらき県南阿見産直センター、国道125号線追原地内にある香澄の里直売所等が上げられますが、そのほかにも個人経営の直売所が数カ所あるほか、町内の各スーパーの入り口周辺には、地場産野菜のコーナーが設けられ、そこには、町内生産者の名前や顔写真が入った新鮮な野菜が並び、人気となっております。

町では、主要直売所に「阿見産野菜」等の販売促進ののぼりを定期的に支給するとともに、阿見町農産物推奨シールの推進について連携を図っております。

また、今年度は、阿見の農産物直売所や特産品、農作業体験、市民農園等の情報をまとめた阿見農産物マップを作成し、アウトレットインフォメーションセンターや青空マーケット、さわやかフェア、青空市、農業振興課窓口等で約1,000枚配布いたしました。今後内容をさらに充実させてい

きたいと考えます。

次に、町の基幹作物である米の販売促進についてであります。

阿見町産米をいかに多く消費者に提供し、喜んでもらえるかといった課題の中、茨城かすみ農協稲作部会や清明川米販売組合等が生産する「安全・安心・美味しい」オリジナル米の魅力を町民にPRするため、市場出荷のほか各種イベントにおいて販売促進をしております。

また、さらなる消費者ニーズに対応するため、阿見町産米を宅配サービスにより販売する事業を茨城かすみ農協に依頼し、現在準備を進めているところであり、当制度の販売方法を構築することにより、消費拡大の推進を図ります。

次に、茨城大学農学部との連携については、農業各種施策においては毎回、茨城大学農学部から学識経験者として参加いただくとともに、茨城大学農学部で主催されます各種フォーラムやシンポジウムには、町からも積極的に参加し見識を広めています。

さらに、茨城大学農学部においても、敷地内農場でできた農産物を定期的に農場内直売所で販売したり、地元阿見町を地産地消のモデルとして研究しており、その成果を貴重な意見としていただき、町の施策に反映させていただいております。

また、昨年度来、大学内で安心・安全な学校給食についての研究、取り組みを行う中で、今年度は大学の予算において、あみまちを食べよう学校給食推進事業に協賛し、県産ブタ肉を活用した給食について参加協力いただくこととなっています。今後も、地産地消を初め、耕作放棄地対策、資源エネルギー問題、農業の振興に関するさまざまな施策について意見交換をし、特色ある効果的な施策を行ってまいります。

次に、耕作放棄地対策事業においては、現在、耕作放棄地対策協議会の中で議論し、町独自の特色ある取り組みを模索する中で、今後の再生地において、何が再生地できる価格で売れる作物なのかについて検討がなされており、加工品も含め地元で望む作物の選定を第一に、現場農業者の意見を取り入れた中での方針を立て、町としても必要な手段を講じてまいります。

以上が、現在町で取り組んでいる主な事業であります。今後の推進につきましては、これらの取り組みを推進、発展させ、地域の伝統的食文化の維持と継承を図り、地域経済の活性化、地域への愛着につながる地産地消を推進し、その中で地元消費者の欲する農産物を発掘することにより、町の農業、産業の振興につなげていきたいと考えておりますので、議員の御理解、御協力をお願いいたします。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） 再質問します。

地産地消についてはいろいろあろうかとは思いますが、その中でもこの推進について、私は2つ大きなものがあると思っています。それは、1点目は産直センターの支援、それから2つ目は学校給食の食材提供です。

まず、学校給食の食材提供のお話ですけれども、これも昨日少し出ておりました。この中で、学校給食への食材提供を、農産物でありますけれども、町内からの納入は、年間金額でどのくらいあるのか、また納入者、大体どのくらいいるのか、お聞かせいただきたい。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） よろしいですか。給食センターのということですので……。

○議長（諏訪原実君） 学校給食ですね。

○教育次長（横田充新君） 学校給食の購入金額ということになりますと、産直の野菜ですが、20年度の実績で申し上げますと258万9,000円ほどでございます。これが阿見産直センターそれからJAかすみから購入している主な野菜でございます。

以上でございます。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） そうしますと、生産者から直接は買ってないということで、産直センターかJAかすみということですね。それから、20年度で大体260万程度ということになりますか。そうしますと、昨日の話にもありました学校給食会というところがあるそうなんですけども、そこから購入しているものは、どんなものがあるんでしょうか。それはどのぐらいの金額があるんでしょうか。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） お答えいたします。

学校給食会、ここと契約しているものは、主食は、要するに米とかパン、こういうものは主食が中心になります。そういうことになりますと、平成20年度の実績で申し上げますと、9,570万ほどになります。この中には当然、一般物資ということで、いろいろな食材がございます。スープとかミカンの缶詰とか、こういう加工品的なものは、入札で学校給食会のほうが落としているということがございます。

以上でございます。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） そうしますと、私、お米についてはですね、地元産を食べさせるということで、この学校給食会から来ている9,570万買っているこのお米は、地元産ということでは言われていますけれども、なぜ、地元の農協からストレートで買わないのかなと、なぜ学校給食会を通さなければいけないのかな。ま、学校給食会の保冷庫は水戸、大洗のほうにあるというような話を聞きましたけれども、そこまで物流コストをかけて持ってってわけですよ。で、それからまたこちらへ戻すわけですよ。で、戻すのも、学校給食会から米飯工場へ戻して、そこから学校へ配置する、そういう形だと思うんですけども。この地元のお米を使うのであれば、その物流コストも削減できるんじゃないかというふうに思いますし、間違いなく阿見町の米を食べられる。こういう利点があるのに、なぜそういうふうにしないのか、お尋ねしたいと。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） お答えいたします。

基本的にはこの学校給食会ってということなんですけど、これは基本的には教育委員会が所管する財団法人ということもございます。あと、米につきましては、基本的には全農、JA全農茨城のほうで自主流通米が集荷されているということで、学校給食会と町が経営して全農のほうで1年間分の米を保管してもらおうと。当然、阿見町の農協にも低温倉庫ということがないということで、全農で米を保管していただくということがございます。それとですね、米は基本的には地場産ということで、JAかすみ産ということで、17年以前は、合併前ですか、農協合併前は100%阿見産だということでしたが、最近は阿見町産のが全農のほうで自主流通米ですか、集荷が少なくなっているということで、現在美浦産が入っているという情報を得ております。

以上でございます。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） そうしますと、美浦も地元といえば地元なんだろうけれども、阿見町ですから阿見町が地元、地元の米を食べてない可能性があるということですよ。それはちょっと芳しくないで、その保冷庫なんですけれども、阿見町で食する、阿見町の学校給食で食するお米ぐらいの保冷庫が、阿見町にないんでしょうか。その辺のところ調べたことありますか。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） 確認はしてございませんが、そういうことだということをお伺っております。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） そうしますと、議会からもこんな提案が出たと、阿見町の子供たちには阿見町米を食べさせてもらいたいと。それで、保冷庫がないから、美浦との競合の米になる可能性もあるというようなことですから、農協あたりにもですね、強く働きかけをしてもらいたい。保冷庫があれば、農協から直接買えるということですよ。そうするとJAかすみの阿見のほうの阿見米が食べられる、間違いなく食べられる。それから、ちょっと心配なのは、この学校給食会の買うものと、それから阿見町が直接今度、地元から買うようになったときに、おそらく地元から買ったほうが安いんじゃないかと思うんですけども、その辺のところに見当をしていただきたい。で、地元としては、阿見町としては、地元の米を食べさせてやりたいと、そのためには、地元の農協で、そういう施設もつくっていただきたいという要望はしてもいいんじゃないかと思えます。それがなければほかのところに行ってるわけですよ。ほかに理由があるんですか。次長、ほかに理由があるんですか。あの、保冷庫だけですか。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） あのですね、米は基本的には自主流通米、全農のほうで集荷してるわけですが、阿見の米そのものが自主流通米のほうに乗っかってこないという情報を得ております。要するに、今まで農協の組織の中で全農のほうで米集荷、行われてきたわけなんです、その全農のほうに集まらないで、個別販売のほうに回っていると、そういう米がだんだん多くなってきている。先ほど、直販米、そういう量がかなり多くなっているということを、話を伺っております。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） こちらから地元産を買いますよって言えば、保冷庫があれば買えるんであればそうしてもらえばいいわけで、今の話は、学校給食会……。じゃ、必ずしも学校給食会から買わなくちゃいけないってことはないんですね。それをお尋ねします。しぼりがないんだったら買えるはず。

〔「直接やってるとこあるんだよ」と呼ぶ者あり〕

○9番（千葉繁君） じゃ、いいですか議長。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） ほかの質問しますので、その間にちょっと調べといてください。

保冷庫があれば、学校給食会から買わなくてもいいんですねということと、それから他市町村、この周りで独自に地元のお米を使ってる場所があれば調べてください。

で、次行きます。産直センターの支援ということで、これまでも何か支援をしてるかと思うんですけども、生産者と消費者が交流をできると、産直センターのメリットがあります。で、先ほど生産者の顔が見えるというような話もありましたけれども、その産直センターについて、私は育成、支援をしていくべきではないかなと思うんですけども、現在、どんな支援をしているのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（諏訪原実君） 生活産業部長川村忠男君。

○生活産業部長（川村忠男君） お答えします。

金銭的な支援はしてございません。ただ、その販売所の開設に当たってのグッズとかそういうものについては、町のほうで予算を組んで、貸与というか貸し出しはしております。

以上です。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） それでは、個別、個人での産直ちゅうのはあまりないでしょうけれども、ある程度皆さんが出資して集まったものについて支援をしていくということはこれから考えなくちゃいけないのかなって思います。地産地消を推進する上では、産直センターの存在というのは大き

いので、この辺のところを支援ということになるとお金、もしくはいろんなものがあるでしょうけれども、その辺のところでは支援をしようとしていて、状況が芳しくないと言われておりますアウトレット付近のプレハブでの直売所っていうんでしょうか、この辺の経過はどんなふうになっているのか伺いたいと思います。

○議長（諏訪原実君） 生活産業部長川村忠男君。

○生活産業部長（川村忠男君） 御質問は吉原区画整理事業周辺での、産業振興の暫定利用の話でよろしいわけですか。

○9番（千葉繁君） はい、そうです。

○生活産業部長（川村忠男君） それにつきましてはですね、アウトレットがオープンして以来、かなり3カ月で多くの人々が来ているということで、当初はオープンに合わせまして、これはイベント的なもので、青空マーケットとの4日間は実施しておりました。それも若干きっかけとなりました。その後、やはりそういった多くの方が来るということで、産業の振興を図るという意味で、土地区画整理事業の周辺にですね、そういった産直所みたいな、物産所ですか、ができればいいなというようなことで、これまで、町とそれから関係機関、JAなりそれから商工会なりですか、6者の方々が協議会というものを組織しまして、そこでこれまでいろいろ検討してきた経緯がございます。

で、結論から申しますと、何せ土地区画整理事業、これは土地利用制限のかかった土地であるということで、なかなかその場所の選定がなかなか決定できなかった。協議会のほうとしては、第1案、第2案という場所の選定を要望してきたわけなんですけども、それが竜ヶ崎土木との関係でやはり工事の関係で、そこはちょっとできないよということで、それならば、町として、県と協議しながら、どこがいいだろうかということで、アクセスですね、アクセス、竜ヶ崎阿見線のアクセスの途中のところには県有地がございましたので、そちらのほうでどうだろうかということ、こちらから提案をいたしました。で、その提案に対しまして、協議会のほうでは持ち帰りまして検討した結果、やはり場所的にはアウトレットから一番見えるところ、正面、第1案としては正面の反対側、第2案としては正面の北側ということで、どうしてもそこでないと、やはり営業的なものが成り立たないというような最終的な結論が、先週の金曜日にですか、代表の方から町のほうに出されまして、そういうことで、協議会のほうでなかなかそういうことでそこは難しいと、できないという判断でしたので、町としても強硬にそこをお願いしたいというところ、なかなかできないところもありましたので、今回の暫定利用に関しては、結果的には断念という形になっております。ただしですね、吉原の区画整理事業の使用供用開始が22年の上期、6月までには開始されます。そうしますと、きちんとした地権者との交渉でもって自由にできることとなります。そういったことで、暫定ではなく、今後は本格的利用に向けて、その6者の協議会のほうで、十分なる計画を立ててくると。で、町のほうと協議をして、町のほうで支援できるものについては支援をしていただきたいというようなことで、一時凍結というような形に結果的にはなっております。

以上です。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） 協議会の中でそういったことの結論が出たのであれば、仕方がないんですけども、できればそこら辺の近くには、そういった特産品を売れるようなところが欲しいというのは、生産者からもお話が出てますし、あってもいいんじゃないかと私も思いますけれども、これからもう1回検討して、協議会のほうが出してくるということですから、それを見守りたいと思いますけれども、十分な支援をしてやっていただきたいというふうに思います。

私はこの後ちょっと聞きたいと思っているんですけども、あの付近には「道の駅」なんていう話も、うわさも聞きます。そういったこともお隣の美浦村ではバイパスの終わりのあたりに「道の

駅」をつくってもらいたいという要望もしたそうです。そうなってくると、私たちの要望なんかもそれより早かったものですから、あの辺の可能性があれば、県のほうも考えていただけるような話もありました。しかしながら、地元でどういうふうに考えているかということが、やっぱり大事になりますから、その辺のところを町長に「道の駅」についてはどのようにお考えなのか、お尋ねをしたい。

○議長（諏訪原実君） 町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 今の段階では、「道の駅」をあの辺に誘致するという事は、具体的に考えておりませんが、やっぱりどうもなかなか今の協議会の話でもないですが、実際にあそこにそういうものをつくるということについては、なかなか、最初がとにかく不確定、不安定な部分があるんで、何か安心できる形のものができるればいいということは間違いなし、あれだけの周辺の土地があるわけですから、あの辺の周辺の土地で、いろいろな形での土地利用ができるだけ早く具体化するというのが非常に大事なことです。それが、アウトレット効果と言われるものだと思うんで、「道の駅」というのも、1つの可能性として検討する必要があるだろうと考えております。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） 考えてないというふうなお話で、最後は考えたいということで、ちょっとわからないところありますけれども、先にやられちゃう可能性がまず1つあります。それから、地元の、私がちょっと聞いている話では、今回のプレハブのについては5カ月間というふうな短い期間、5カ月から6カ月というふうな、プレハブは、暫定で。そういうものに、ちょっとそれは無理だよと。ところが「道の駅」ということになってくれば、また考え方も違うよということもおっしゃっています。ですから、このJAにしても、産直センターの皆さんにしても、同志にしても、そういう人たちの気持ちをですね、聞いていただいて、どうせそんなふうな形で協議会がまた違う形をつくるのであれば、最終的に「道の駅」をやりたいというのであれば、「道の駅」を目標にして、それで話し合うのが普通ではないでしょうか。ですから、悠長してられる時間はありません。お隣でもそういう考えを持って直談判に行ってるそうですので、その辺のところ早急に進めていただきたいというふうに思います。どうですか。

○議長（諏訪原実君） 町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 「道の駅」ということになると、具体的にはどの辺にどういう形でという話になってくるんですけども、現在アウトレットができてる部分、あそこではあれが東地区ということで50ヘクタールの区画整理。あと残りの西と南があるわけだけでも、やっぱり具体的には東地区内じゃなくてそういうものができる場合でも、南か西にならざるを得ないんじゃないだろうか。そうするとその辺の区画整理についての、まだ見通しが必ずしもはっきりしてない。そういう中で、そういうこととの関連で考えると。それからまた、地元の、地元でも今度あそこの地権者の協議会がありますから、そういうところとの意向確認もしながら考えていくと、こういうこと。

○議長（諏訪原実君） 教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） 先ほどの給食会の件ですが、給食会は必ずしも通さなくともよいというふうなことのございます。ただ、学校給食会と町が契約を結んでいるのは、あくまでも箱に入った御飯になってということですので、農協と直接やるにしても、その御飯になるような、要するに精米をして、というふうなことができるかどうか、この辺は農協等とも話し合ってみたいと思います。今後、他町村も含めて調査したいと思っております。

以上です。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） そうすると、学校給食会から購入するときには、全部精米もできて、そこへ地元の米飯会社へ卸してパックになって、そこまでが一連になってるよということですね。そうい

うのが農協を含めて地元の業者でできれば、町としても買いますよということでもいいんですね。いいんですね、それ確認をします。そうじゃないとやっぱり。ま、安ければの話ですけどね。こっち違う……。

○議長（諏訪原実君） こっちはね、今の次長の話で本当に……。

○9番（千葉繁君） いいですか。こっちがね、最後はね、決めることでしょうか。

今の話ですか、違いますか。あ、違いますか。

○議長（諏訪原実君） 次長の答弁でよしと、ね。

○9番（千葉繁君） ええ、ま、よしって言うか、こっちが結果を出すほうですから、お尋ねをしなくちゃいけないです。今、学校給食の米の話なんですけど、学校給食会から買うと、パック詰めでちゃんと御飯ができるまでがセットになると、精米から含めてね。で、それがこの地元でできるかどうかということが、今おっしゃってたんです。ですから、保冷庫を含めて精米、それから、ま、これは地元ですから精米したものを出せばいいんで、その一連の加工から何から仕事が地元でできるのであれば、これは、できて安ければ、町としては購入する方向について考えるということでもいいわけですね。これも地産地消なんですよ。結局精米するところもあって、それから米を炊くところがあってということは、一連のやつが阿見町でできれば、ほかでやることないわけでしょう。だから、その辺のところはちゃんと、しっかりしたこちらの考えがないと、それやれますか。

○議長（諏訪原実君） 町長川田弘二君。

○9番（千葉繁君） だけど安くて地元で買うんだもん、買うに決まってんじゃない。

○議長（諏訪原実君） ここで、暫時休憩とします。今、重要な会議をしてまとめるっていうことでね。暫時休憩です。会議の再開は3時35分からといたします。

午後 3時27分休憩

午後 3時35分再開

○議長（諏訪原実君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

納入の件で、答弁を教育次長横田充新君。

○教育次長（横田充新君） お答えします。

先ほど申しましたように、お米の、要するに給食を食べられるものになって納入してくれるというような条件がございます。それと個別に農協から米を買うと。あと農協のほうで精米のほうも、設備投資とかそういうこともございますので、その辺は、今後協議して、調査して進めていきたいと考えております。

○議長（諏訪原実君） 9番千葉繁君。

○9番（千葉繁君） しっかりと考えていただきたいと思います。あんまり難しくありませんよね。学校給食会を通して、こちらから地元の米を積んで、大洗の保冷庫まで行って、そこから持ち出してまた戻ってきて、途中で精米してこっちへ戻ってきて、米飯して学校給食と。その一連の作業が安ければ、これはいいですよ。けども、私は、阿見町の米を子供たちに食べさせてあげたいという気持ちの中で、どうしたらいいんだろうかって考えたときには、これはもう地産地消そのものですよね。地元で精米会社があれば精米会社にやってもらう。それがなければ農協でやってもらう。保冷庫も農協のほうに引き取ってもらうということになれば、阿見の米は間違いなく阿見で消費できる。それが物すごく高いのであれば仕方がないんですけども、なぜこれを今までやってこなかったのかってこと自体、私は不思議でしょうがないですよ。ですから、地産地消を推進するということであるならば、やっぱりそういうことから、身近なところから学校給食ですよ。特にお米ですよ。それから、生産者が阿見の子供たちが食べてくれるんだという気持ちを持ってつくるといことも、生産者の喜びになりますし、やっぱりそれは食育につながるんじゃないかと思います。そ

ういった意味で地産地消は大変これから大きな意味を持った事業であると思いますので、いろんな面で気を使っていたいで、推進をしていただきたいと思います。

そして最後に、私もこれまで議員として10年間頑張ってきました。その間、町政の声を行政に届ける、また、住民との乖離を埋めるという責務を担って頑張ってきました。一般質問など含めまして、たくさんの提案もしてきたつもりであります。実現をしてもらったもの、実現できなかったもの、実現できなかったもののほうが多かったように思います。そのたんび、くやしい思いもいたしました。その声は全部が住民の声でありました。この声を実現するためには、やはり、長にならなければならない。こういうふうな思いを持ちました。阿見町民4万8,000の生活のため、阿見町発展のために、来春の町長選に出馬をするということを表明したいと思います。そして、激戦ではありますが、必ずここに戻ってきたいと思います。

以上です。ありがとうございました。

○議長（諏訪原実君） これで9番千葉繁君の質問を終わります。

休会の件

○議長（諏訪原実君） 次に、日程第2、休会の件を議題といたします。

委員会審査及び議案調査の都合により、12月11日から12月17日までを休会にしたいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認め、さよう決定いたします。

散会の宣告

○議長（諏訪原実君） 以上で本日の日程はすべて終了しました。

本日はこれで散会します。御苦労さまでございました。

午後 3時40分散会

第 4 号

[12 月 18 日]

平成21年第4回阿見町議会定例会会議録（第4号）

平成21年12月18日（第4日）

○出席議員

1番	諏訪原	実	君
2番	久保谷	充	君
3番	川畑	秀慈	君
4番	難波	千香子	君
5番	紙井	和美	君
6番	柴原	成一	君
7番	浅野	栄子	君
8番	藤井	孝幸	君
9番	千葉	繁	君
10番	久保谷	実	君
12番	天田	富司男	君
13番	小松沢	秀幸	君
14番	倉持	松雄	君
16番	櫛田	豊	君
17番	佐藤	幸明	君
18番	細田	正幸	君

○欠席議員

11番	吉田	憲市	君
15番	大野	孝志	君

○地方自治法第121条の規定により説明のため会議に出席した者

町	長	川田	弘二	君							
副町	長	大崎	誠	君							
教	育	長	青山	壽々子	君						
農	業	委	員	会	会	長	小	泉	由	雄	君
総	務	部	長	坪	田	匡	弘	君			
民	生	部	長	横	田	健	一	君			
生	活	産	業	部	長	川	村	忠	男	君	
都	市	整	備	部	長	桑	田	康	司	君	
教	育	次	長	横	田	充	新	君			
消	防	長	瀬	尾	房	雄	君				
総	務	課	長	篠	原	尚	彦	君			
企	画	財	政	課	長	篠	崎	慎	一	君	
農	業	振	興	課	長	兼	大	塚	芳	夫	君
農	業	委	員	会	事	務	局	長			
商	工	観	光	課	長	木	内	良	夫	君	

都市計画課長	菊池	彰	君
建設課長	浅野	耕一	君
学校教育課長	黒井	寛	君
学校教育課副参事兼 学校給食センター所長	柳生	典昭	君
生涯学習課長	建石	智久	君
消防警防課長	柏崎	洋一	君

○議会事務局出席者

事務局長	小口	勝美
書記	山崎	貴之

平成21年第4回阿見町議会定例会

議事日程第4号

平成21年12月18日 午前10時開議

- 日程第1 議案第88号 阿見町長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定について
- 日程第2 議案第89号 阿見町農業委員会の委員の定数に関する条例の制定について
- 日程第3 議案第90号 阿見町農業委員会委員選挙区設定条例の制定について
- 日程第4 議案第91号 阿見町附属機関の設置に関する条例の一部改正について
- 議案第92号 阿見町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について
- 議案第93号 阿見町工場誘致条例の一部改正について
- 議案第94号 阿見町公共施設の暴力団等排除に関する条例の一部改正について
- 議案第95号 阿見町都市公園条例の一部改正について
- 議案第96号 阿見町立学校給食センターの設置、管理及び運営等に関する条例の一部改正について
- 議案第97号 阿見町立図書館の設置及び管理に関する条例の一部改正について
- 議案第98号 阿見町手数料徴収条例の一部改正について
- 日程第5 議案第99号 平成21年度阿見町一般会計補正予算（第6号）
- 議案第100号 平成21年度阿見町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）
- 議案第101号 平成21年度阿見町公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）
- 議案第102号 平成21年度阿見町土地区画整理事業特別会計補正予算（第3号）
- 議案第103号 平成21年度阿見町農業集落排水事業特別会計補正予算（第3号）
- 議案第104号 平成21年度阿見町介護保険特別会計補正予算（第3号）
- 議案第105号 平成21年度阿見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）
- 議案第106号 平成21年度阿見町水道事業会計補正予算（第3号）
- 日程第6 議案第107号 土地の取得について
- 日程第7 議案第108号 H21地経交第1-1号行政バス購入について
- 日程第8 行政改革について
- 日程第9 議会運営委員会及び常任委員会並びに特別委員会の閉会中における所管事務調査について
- 追加日程第1 副議長辞職の件
- 追加日程第2 副議長選挙
- 追加日程第3 議員辞職の件

午前10時00分開会

○議長（諏訪原実君） それでは、定刻になりましたので、ただいまから、本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員は16名で、定足数に達しておりますので、会議は成立しました。

本日の議事については、お手元に配付しました日程表によって進めたいと思いますので、御了承を願います。

これより議事に入ります。

議案第88号 阿見町長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定について

○議長（諏訪原実君） 日程第1、議案第88号、阿見町長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定についてを議題といたします。

本案については、去る12月8日の本会議において、所管常任委員会に付託いたしました。委員長より審査終了の報告を受けました。つきましては、委員長より審査の経過と結果の報告を求めます。総務常任委員会委員長天田富司男君、登壇願います。

〔総務常任委員会委員長天田富司男君登壇〕

○総務常任委員会委員長（天田富司男君） 皆さん、おはようございます。それでは、総務常任委員会に付託されました議案につきまして、審査の経過と結果について、会議規則第77条の規定により御報告申し上げます。

当委員会は12月11日午前10時に開会し、午前10時43分まで審議を行いました。出席委員は5名で、議案説明のため、執行部より川田町長初め関係職員15名、議会事務局より2名の出席をいただきました。一般傍聴者1名ございました。

まず、議案第88号、阿見町長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定についてを議題といたし、質疑を許しましたところ、過去に長期継続契約はどのくらいあったのかの問いに、これまでの過去におけるどれくらいの件数、あるいは年数だったのかということについては、一概には申し上げられなく、一つ一つの事例によって違ってくる部分があります。数的にも複数年の契約の件数ということで言いますと、かなりございます。債務負担行為という手続を踏んで行っているということでございます。

今回、この条例ができることによって、想定しております役務の提供ですとか、物品のリース等そういったものについて、債務負担行為の手続を経なくてもできるようになるということでございます。一番、今回の条例化のきっかけとなっているのは、コンビニ収納の問題でございます。契約の期間が、今想定しておりますので、年度ごとの自動継続ができるような契約の内容、それから、一連ごとの委託料というものが詳細に確定できないような契約の内容。この条例の適用がより有効に図られると考えたことでございます。

以上、質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第88号、阿見町長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定については、全委員が賛成し、原案どおり可決いたしました。

各議員の御賛同をよろしく願いいたしまして、委員長報告といたします。

○議長（諏訪原実君） 以上で委員長報告は終わりました。

これから討論に入ります。討論を許します。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 討論なしと認めます。これをもって討論を終結します。

これより採決をいたします。

議案第 88 号についての委員長報告は、原案可決であります。本案は、委員長報告どおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認めます。

よって議案第 88 号は、原案どおり可決することに決しました。

議案第 89 号 阿見町農業委員会の委員の定数に関する条例の制定について

○議長（諏訪原実君） 日程第 2，議案第 89 号，阿見町農業委員会の委員の定数に関する条例の制定についてを議題といたします。

本案については、去る 12 月 8 日の本会議において、所管常任委員会に付託いたしました。委員長より審査の終了の報告を受けました。つきましては、委員長より審査の経過と結果の報告を求めます。産業建設常任委員会委員長紙井和美君、登壇願います。

〔産業建設常任委員会委員長紙井和美君登壇〕

○産業建設常任委員会委員長（紙井和美君） おはようございます。それでは、命によりまして、産業建設常任委員会に付託されました議案につきまして、審査の経過と結果について、会議規則第 77 条の規定により御報告申し上げます。

当委員会は 12 月 14 日午前 10 時に開会し、午前 10 時 45 分まで慎重審議を行いました。出席委員は 6 名で、議案説明のため、執行部より川田町長初め関係職員 15 名、議会事務局 2 名の出席をいただきました。

初めに、議案第 89 号，阿見町農業委員会の委員の定数に関する条例の制定について申し上げます。

質疑を許しましたところ、全協でも説明があり、農業委員の削減については同意したいと思いますが、課題として、女性委員の登用をどこでやるのかということが残っていると思います。それについてはどうなのかとの質問がありました。

それに対し、阿見町においては、女性農業委員は一人もおりません。県では、農業会議からも女性農業委員を登用していこうという要望がありまして、さきの一般質問の町長の答弁でも、女性農業委員につきましては、農業委員会に積極的に働きかけをしていくということだったと思います。そういった中で、議会推薦が 1 人になりまして、その議会の中から女性の農業委員を推薦していただくということは可能であると思います。そのほかに、推薦枠といたしまして農協それから共済組合、土地改良区とありますので、その組合の方であれば女性の農業者の方も女性農業委員ということで推薦できますので、そういった中から推薦していただいたり、あるいは、選挙区が 1 人減って 16 人となった場合も、その中で各地域によって農業に熟知した女性農業者、意欲とやる気のある女性農業者がたくさんいると思いますので、そういった地域でも農業委員にも働きかけて、地元から女性の委員を推薦していただくということで、農業委員会としても積極的に働きかけをしていきたいと考えておりますとの答弁でありました。

次に、今回の 89 号は、継続審議またはとりあえず廃案にして、3 月の議会の定例会の中で改めて、いわゆる定数について削減をしないで、そして議会からの推薦枠については女性農業委員に充てると、そのように思うがいかがかとの意見に対し、この条例案を提出する前の段階で、農業委員会の議論、また議会の全員協議会での議論を 2 回いたしました。その中で多少の意見はあるだろうけれども、全体としてはこういうことでもいいだろうという方向になりました。そういう経過を踏まえて条例案を提出しており、そのようにはいかないと思いますとの答弁でありました。

質疑を終結し、討論に入り、討論を許しましたところ、賛成討論として、だれが志を高く持っているかを農家の方が選ぶのが農業委員、農業委員会であります。女性の立場の農業委員も確かに必要である

と思います。農家には働く女性がたくさんいますから、そういう人たちの意見を代弁するという形で確かに必要かと思います。それは、あくまで農業者のためであって、上からこうだっという押しつけるのではなく、自然にわき上がってくるものだと思います。今回の定数削減、みずから削減するという農業委員皆さんの決定に私は賛成いたしますとありました。

討論を終結し、採決に入り、議案第 89 号、阿見町農業委員会の委員の定数に関する条例の制定については、賛成多数により、原案どおり可決いたしました。

当委員会の決定に対し、議員各位の御賛同をお願い申し上げ、委員長報告といたします。

○議長（諏訪原実君） 以上で委員長報告は終わりました。

これより討論に入ります。討論を許します。

18 番細田正幸君。

○18 番（細田正幸君） 私は、議案第 89 号の農業委員会委員の定数減に関する条例の制定について反対討論をいたします。

今、農業、農村を取り巻く情勢は、皆さん御承知のように非常に厳しくなっております。特に当町では、耕作放棄地が年々増大しております。そして、それらの耕作放棄地に、いわゆる産廃ですね、東京残土と称するような産廃が捨てられると、で、そのためのカモフラージュの申請が多々、農業委員会に出されております。

で、そういう状況にかんがみ、私は、農業委員の定数を今ここで減らす理由ってというのは何もないというふうに思います。で、現在 23 名いるわけですけども、その中で特に議会から推薦する委員、現在 3 名いるわけですけども、この議案で 3 名減のうち、議会選出だけ 2 名、それから公選、選挙で選ぶ委員を 1 名減ということになるわけですけども、今、委員長の報告でもありましたけれども、阿見町には、まだ他の農業委員会のように、女性農業委員が 1 名もございません。委員会の討論の中で、その点はどうするのだという論議がされているようでございますけれども、他の議会の例を見れば、女性の農業委員を選出するのは、ほとんど議会推薦から選出されております。で、この議案のように、そのことを考えますれば、議会選出の委員を 1 人にするという事は、今後阿見町では女性の農業委員を誕生させるということについては非常に困難を伴うというふうに思います。で、過去、農業委員の選出についても、選挙で女性農業委員が阿見町では選出されたという例は、1 件もございません。また、各農業団体からの選出もございません。そういうことを考えれば、今ここで定数 3 名を減らすっていうことは、今の情勢からいって、非常に不都合だというふうに思います。

理由は、監査委員会から、議会も定数減したから行政改革の点から定数減を考えたらどうかという提言があったみたいですけども、私は、1 人当たり年間 70 万ぐらいですよ、その経費から比べれば、阿見町に不法に残土投棄を防ぐと、そういう観点からすれば、私は、経費の観点からいっても、70 万というのは無駄な経費ではないというふうに思います。そういう点で、将来に悔恨を残すこの定数条例の件については、反対をしたいというふうに思います。

以上です。

○議長（諏訪原実君） 12 番天田富司男君。

○12 番（天田富司男君） 議案第 89 号、阿見町農業委員会の委員の定数に関する条例の制定についての賛成討論をさせていただきます。

私は、6 年前に農業委員にならさせていただきました、議会選出で。そのとき、まず最初に言ったのが、やはり農業委員会の定数削減であります。そのときは、やはり今のままの状態の中で、1 割の報酬のカットで行こうじゃないか、そういう考え方でそのときはおさまりました。しかし、今の状況の中で、農地のそういう 5 条、3 条、そういうものが徐々に、徐々に上がってくるのが少なくなっている状況を考えたときに、やはり、これは農業委員の数は少なくてもいいのではないかと。特に議会選出においては、1 人というのが一番これキーワードだと思います。3 つの地区から一人ひとり出すと、女性委員を選ぶ

にも、いろんな意味での利害関係が出てしまう。そういう中で、1人であるならば、議会の中で、まず、じゃあ女性委員をつくろうと言えば、そこで皆さんの意見が統一すればできるわけであります。やはり、女性委員を登用するに当たっては、議会で1人というのが一番大事なキーワードになってくるのではないか。そういう観点から、この委員の定数削減に対しては賛成をいたします。

以上です。

○議長（諏訪原実君） ほかに討論はありませんか。

6番柴原成一君。

○6番（柴原成一君） 議案第89号、賛成討論をいたします。

農業委員というのは、農業者のための、農業者から選ばれた委員であります。その農業委員会が定数をみずから削減すると決定したことを尊重したいと思います。

なお、女性委員のお話がありますが、これは当然その機運の中から盛り上がってくるものだと思います。前回、朝日地区で選挙が行われ、女性委員も立候補しましたが落選しました。それは、熱い思い、その女性が思う熱い思いが、その選挙をする人に届かなかったということかと思います。ですから、定数削減と女性農業委員の問題は、別問題だと思います。今回の農業委員会で決定を下した、みずから定数削減するという点について、賛成いたします。

○議長（諏訪原実君） ほかにありませんか。

13番小松沢秀幸君。

○13番（小松沢秀幸君） 反対討論をいたします。

委員会でも反対をいたしました。これはまさに、今回のチャンスを逃すと、なかなかまた女性農業委員が誕生できないのではないか。公選で出てくる女性の方がいるのかというふうにと考えると、なかなか現実的には、農家の女性の方が選挙にまで出て農業委員をやろうという意欲に立てるかっていうと、なかなかこれは、大変現実的には難しいのではないか。そう考えるときに、じゃあどこで農業委員を誕生させることができるのか。これは、議会の推薦枠の中で、議会の中で、阿見町には女性農業委員が必要なんだということを前提にして、今般の議会の枠を減らすというところを、減らさないでそのまま、そして農業委員を議会枠の中から推薦をして誕生させるべきではないのか。このチャンスを逸すると、またしばらくの間、阿見町には女性農業委員が誕生しないのではないかと、そんなふうを考えます。よって、今回の原案につきましては反対をいたします。

○議長（諏訪原実君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。

議案第89号についての委員長報告は、原案可決であります。本案は、委員長報告どおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議あり」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議がありますので、起立により採決をいたします。

議案第89号を原案どおり可決することに賛成の諸君は、起立を願います。

〔賛成者起立〕

○議長（諏訪原実君） 起立多数であります。

よって議案第89号は、原案どおり可決することに決しました。

議案第 90 号 阿見町農業委員会委員選挙区設定条例の制定について

○議長（諏訪原実君） 次に、日程第 3、議案第 90 号、阿見町農業委員会委員選挙区設定条例の制定についてを議題といたします。

本案については、去る 12 月 8 日の本会議において、所管常任委員会に付託いたしました。委員長より審査終了の報告を受けました。つきましては、委員長より審査の経過と結果の報告を求めます。産業建設常任委員会委員長紙井和美君、登壇願います。

〔産業建設常任委員会委員長紙井和美君登壇〕

○産業建設常任委員会委員長（紙井和美君） それでは、議案第 90 号、阿見町農業委員会委員選挙区設定条例の制定について申し上げます。

質疑を許しましたところ、質疑なし。質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第 90 号、阿見町農業委員会委員選挙区設定条例の制定については、賛成多数により、原案どおり可決することに決しました。

当委員会の決定に対し、議員各位の御賛同をお願い申し上げ、委員長報告といたします。

○議長（諏訪原実君） 以上で委員長報告は終わりました。

これから討論に入ります。討論を許します。

18 番細田正幸君。

○18 番（細田正幸君） 私は、議案第 90 号、農業委員会委員選挙区設定条例の制定について、反対討論をいたします。

これは、89 号にあった定数削減のための、阿見選挙区ですね、第 1 選挙区の定数、今までの 5 人を 4 人に減ずる条例でございます。前段の定数減に反対をいたしましたので、その定数減を確定するという選挙区設定条例についても反対をいたします。

以上です。

○議長（諏訪原実君） ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） これをもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。

議案第 90 号についての委員長報告は、原案可決であります。本案は、委員長報告どおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議あり」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議がありますので、起立により採決をいたします。

議案第 90 号を原案どおり可決することに賛成の諸君は、起立を願います。

〔賛成者起立〕

○議長（諏訪原実君） 起立多数であります。

よって議案第 90 号は、原案どおり可決することに決しました。

議案第 91 号 阿見町附属機関の設置に関する条例の一部改正について

議案第 92 号 阿見町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について

議案第 93 号 阿見町工場誘致条例の一部改正について

議案第 94 号 阿見町公共施設の暴力団等排除に関する条例の一部改正について

議案第 95 号 阿見町都市公園条例の一部改正について

議案第 96 号 阿見町立学校給食センターの設置，管理及び運営等に関する条例の一部改正について

議案第 97 号 阿見町立図書館の設置及び管理に関する条例の一部改正について

議案第 98 号 阿見町手数料徴収条例の一部改正について

○議長（諏訪原実君） 次に，日程第 4，議案第 91 号，阿見町附属機関の設置に関する条例の一部改正について，議案第 92 号，阿見町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について，議案第 93 号，阿見町工場誘致条例の一部改正について，議案第 94 号，阿見町公共施設の暴力団等排除に関する条例の一部改正について，議案第 95 号，阿見町都市公園条例の一部改正について，議案第 96 号，阿見町立学校給食センターの設置，管理及び運営等に関する条例の一部改正について，議案第 97 号，阿見町立図書館の設置及び管理に関する条例の一部改正について，議案第 98 号，阿見町手数料徴収条例の一部改正について，以上 8 件を一括議題といたします。

本案については，去る 12 月 8 日の本会議において，所管常任委員会に付託いたしました，委員長より審査終了の報告を受けました。つきましては，委員長より審査の経過と結果の報告を求めます。

初めに，総務常任委員会委員長天田富司男君，登壇願います。

〔総務常任委員会委員長天田富司男君登壇〕

○総務常任委員会委員長（天田富司男君） 先ほどに続きまして，御報告申し上げます。

議案第 91 号，阿見町附属機関の設置に関する条例の一部改正について，質疑を許しましたところ，質疑なし。質疑を終結し，討論に入り，討論なし。討論を終結し，採決に入り，議案第 91 号，阿見町附属機関の設置に関する条例の一部改正については，全委員が賛成し，原案どおり可決いたしました。

続きまして，議案第 92 号，阿見町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について，質疑を許しましたところ，予科練記念館の運営委員の協議会の委員の数は，また，資料収集委員の方々は運営委員に入っておられるのかどうかという，こういう質疑がありました。

本協議会につきましては，協議会運営規則というものをつくりまして，人数については 20 人以内の委員をもって構成するというようなことで，主な構成のものについては，議会の代表，区長会の代表，商工会の代表，JA かすみ代表，海原会，町の教育委員会，小中学校の代表，阿見町，その他設置目的に関して職権を有する者と。この職権を有する者というふうな部分については，今想定されているのは，武器学校とかそういったところの校長さんを，今想定しております。

また，収集委員であります，資料収集委員というふうな話もあったんですけど，実は，資料収集委員につきましては，もう既に記念館ができたということで，資料収集委員会というのは，今回，廃止をする予定でございまして，改めて歴史調査委員会というものをつくって，今の収集委員さん，これからは，阿見町の歴史だとか予科練の部分について調査研究をしていただくような形で尽力していただくような組織をつくりたいと考えております。この人たち，この中に入れるというふうなことについては，まだ構成メンバーが決まっておられませんけれど，先ほど言いました，9 番に，その他設置目的に関して職権を有する者というふうなことが入っておりますので，そういった人たちが必要だということであれば，それは十分に委員の中にお願ひすることは可能であろうかというふうに考えております。

以上，質疑を終結し，討論に入り，討論なし。討論を終結し，採決に入り，議案第 92 号，阿見町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正については，全委員が賛成し，原案どおり可決いたしました。

次に，議案第 94 号，阿見町公共施設の暴力団等排除に関する条例の一部改正について，質疑を許しましたところ，この条例は，平成 16 年 3 月 18 日に制定され，現在まで暴力団がこの条例にかかわることがあったのか，また，公共施設の使用については，どういうふうな考えを持っておられるのかという問いに対し，まず，私が把握している範囲では，この適用になった事例というのはないと思います。公

共施設の利用に関して制限をかける決定権は、町のほうでございます。公共施設は町に複数ありますけれど、設置規定がそれぞれでございます。暴力団等に該当しないといった場合であっても、管理上の問題として、それぞれの施設の管理者が判断するという部分が出てくると思います。そういった範囲の中で対応していく所存でございます。

次に、暴力団等との内容はという問いに対し、まず、そういう可能性がある人がいた場合、警察のほうへ照会することになります。県警のほうで、その人が該当する人かどうかという判断を、こちらで連絡してくる。暴力団等に該当するかどうかの判断は、県警の情報に基づいてされております。あとは、行政指導の範囲で臨機応変、その時々状況というもの、当然配慮していかなくてはならないという考えを持っております。

以上、質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第 94 号、阿見町公共施設の暴力団等排除に関する条例の一部改正については、全委員が賛成し、原案どおり可決いたしました。

続きまして、議案第 98 号、阿見町手数料徴収条例の一部改正について、質疑を許しましたところ、質疑なし。質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第 98 号、阿見町手数料徴収条例の一部改正については、全委員が賛成し、原案どおり可決いたしました。

以上、御報告申し上げます。

○議長（諏訪原実君） 次に、民生教育常任委員会委員長藤井孝幸君、登壇願います。

〔民生教育常任委員会委員長藤井孝幸君登壇〕

○民生教育常任委員会委員長（藤井孝幸君） 改めまして、おはようございます。命によりまして、民生教育常任委員会に付託されました議案について、審査の経過と結果を、会議規則第 77 条により御報告申し上げます。

当委員会は去る 12 月 11 日午後 2 時に開会し、午後 2 時 36 分までの間、慎重審議をいたしました。議長にもご出席をいただき、出席委員は 6 名で、議案説明のため、執行部より川田町長初め関係職員 19 名の出席があり、また議会事務局から局長以下 2 名の出席がありました。なお、傍聴者 1 名がございました。

初めに、議案第 91 号、阿見町附属機関の設置に関する条例の一部改正についてを報告いたします。

質疑を許しましたところ、次のような質問がございました。削減と言いながら、いろんな委員会や審議会が多くなるということには、疑問を抱いているものなのですが、例えば、地域ケアシステムサービス調整会議というのと阿見町の福祉計画というのはダブっているのではないかと思うんですが、その辺はいかがでしょうかという問いに対しまして、地域ケアとは、今回平成 22 年度から、地域福祉計画の策定、こちらにつきましては阿見町の総合的な福祉計画を策定していただく委員会ということで、また、地域ケアにつきましては、それぞれ地域で援護が必要な人を総合的に見守るというシステムということですから、この 2 つは内容が違います。それで、地域福祉の策定委員については、おおむね 20 人を想定しておりますが、まだ委員につきましては未定でございますという答弁でございました。

次の質問です。P F I で阿見町の給食センターの事業を行うということで、今回新しく入るわけですが、特に新しい事業であります。それから、給食センターを建て替えるというようなことになれば、おそらく 30 億、数十億の金額になると思うんですが、当然、事業者選定審査委員会の役割というのは、かなり重要になると思うんですが、これはどういうメンバーを何人ぐらい任命委嘱するのですかの問いがありまして、これらの選定委員会ですが、人数は 5 名を予定しております。その内訳は、外部委員が 3 名、内部委員が 2 名。外部委員は茨城大学の先生と、それから P F I 事業にかかわったことのある大学教授と今のところ想定をしております。内部委員は副町長と教育長ということで、ユーザー側の代表ということで 2 人で、合計 5 名です。ちなみに私ども、給食センターの P F I をやってきた実態を調べたけれども、ほとんどが 5 人で、外部が 3 人、内部が 2 人というような構成で審査を行ってお

りますとの答弁がありました。

また、関連して次の質問がありました。いわゆる執行部と外部、外部も茨城大の先生は専門家じゃないと思いますが、2人が専門家。そうすると普通、審議会というのは議会の代表が入ると思うのですが、議会が入っても私は不思議じゃないというふうに思いますけれども、その議会を抜いた理由は何でしょうかという問いがございまして、通常、業者選定の場合は、議会の方は入らないのが通例でございます。今まで、浦安、豊橋、豊田、狭山、すべての審査委員会の人員ですけれども、議会の方は入っておりませんとの答弁でございました。

質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第91号、阿見町附属機関の設置に関する条例の一部改正については、全委員が賛成し、原案どおり可決をいたしました。

次に、議案第92号、阿見町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について、報告いたします。

質疑を許しましたところ、質疑なし。質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第92号、阿見町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正については、全委員が賛成し、原案どおり可決をいたしました。

次に、議案第96号、阿見町立学校給食センターの設置、管理及び運営等に関する条例の一部改正についてを報告いたします。

質疑を許しましたところ、次の質問がありました。今は、人員削減ということが多く叫ばれておりますけれども、19人から22人に増員するのはどのような理由なのでしょうかの問いに対しまして、学校給食センターの運営ですが、審議委員さんたちにいろんな意見をいただきまして現在運営をしております。今回、阿見町いきいき子育て給食特区の認定を受けました。これによりまして、何ができるようになったかといいますと、公立保育所における給食の外部搬入の容認ということで、これは従前から、阿見町は外部にしておったんですけれども、これは法律が定まる以前から給食センターで供給していました。こういうふうな特区が定められたということで、公式に、その給食センターの運営委員会に保育所の代表とか保護者の意見をいただける形となりましたので、その方たちを委員に含め、その運営委員会を開催するために、人数3名ほど増ということをお願いしておりますとの答弁でございました。

質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第96号、阿見町立学校給食センターの設置、管理及び運営等に関する条例の一部改正については、全委員が賛成し、原案どおり可決をいたしました。

次に、議案第97号、阿見町立図書館の設置及び管理に関する条例の一部改正について、報告いたします。

質疑を許しましたところ、次の質問がありました。「館長」を「教育長」に改め、また「任命」を「委嘱」に改めたその理由は何なのかをお聞きしますの問いに対し、この改正案につきましては、阿見町立図書館の設置及び管理に関する条例の一部改正についてということで、条文にございます図書館の諮問機関である図書館協議会の諮問、具申につきまして、現在の協議会の運営に合わせて、館長に対して諮問をするということではなくて、教育長のほうに諮問をするということで、改めるということでございます。また、委員の構成につきましては、任命というふうに現行言われていますけれども、「任命」というのは、通常職員のほうに任命するというようなものなので、一般的には用いますが、外部の委員を委員としてお願いしている関係で、実態に合わせ、「委嘱」に改めるものでございますとの答弁でありました。

質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第97号、阿見町立図書館の設置及び管理に関する条例の一部改正については、全委員が賛成し、原案どおり可決をいたしました。

以上、4つの議案についての審議の経過と結果を報告いたしました。

当委員会の決定に対し、議員各位の御賛同をお願いし、委員長報告といたします。

○議長（諏訪原実君） 次に、産業建設常任委員会委員長紙井和美君、登壇願います。

〔産業建設常任委員会委員長紙井和美君登壇〕

○産業建設常任委員会委員長（紙井和美君） それでは、議案第 93 号、阿見町工場誘致条例の一部改正について、申し上げます。

質疑を許しましたところ、質疑なし。質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第 93 号、阿見町工場誘致条例の一部改正については、全委員が賛成し、原案どおり可決することに決しました。

続きまして、議案第 95 号、阿見町都市公園条例の一部改正について、申し上げます。

質疑を許しましたところ、質疑なし。質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第 95 号、阿見町都市公園条例の一部改正については、全委員が賛成し、原案どおり可決することに決しました。

当委員会の決定に対し、議員各位の御賛同をお願い申し上げ、委員長報告といたします。

○議長（諏訪原実君） 以上で委員長報告は終わりました。

これから討論に入ります。討論を許します。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 討論なしと認めます。これをもって討論を終結します。

これより採決いたします。

議案第 91 号から議案第 98 号までの 8 件についての委員長報告は、原案可決であります。本案 8 件は、委員長報告のとおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認めます。

よって議案第 91 号から議案第 98 号までの 8 件は、原案どおり可決することに決しました。

議案第 99 号 平成 21 年度阿見町一般会計補正予算（第 6 号）

議案第 100 号 平成 21 年度阿見町国民健康保険特別会計補正予算（第 3 号）

議案第 101 号 平成 21 年度阿見町公共下水道事業特別会計補正予算（第 3 号）

議案第 102 号 平成 21 年度阿見町土地区画整理事業特別会計補正予算（第 3 号）

議案第 103 号 平成 21 年度阿見町農業集落排水事業特別会計補正予算（第 3 号）

議案第 104 号 平成 21 年度阿見町介護保険特別会計補正予算（第 3 号）

議案第 105 号 平成 21 年度阿見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 3 号）

議案第 106 号 平成 21 年度阿見町水道事業会計補正予算（第 3 号）

○議長（諏訪原実君） 次に、日程第 5、議案第 99 号、平成 21 年度阿見町一般会計補正予算（第 6 号）、議案第 100 号、平成 21 年度阿見町国民健康保険特別会計補正予算（第 3 号）、議案第 101 号、平成 21 年度阿見町公共下水道事業特別会計補正予算（第 3 号）、議案第 102 号、平成 21 年度阿見町土地区画整理事業特別会計補正予算（第 3 号）、議案第 103 号、平成 21 年度阿見町農業集落排水事業特別会計補正予算（第 3 号）、議案第 104 号、平成 21 年度阿見町介護保険特別会計補正予算（第 3 号）、議案第 105 号、平成 21 年度阿見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 3 号）、議案第 106 号、平成 21 年度阿見町水道事業会計補正予算（第 3 号）、以上 8 件を一括議題といたします。

本案については、去る 12 月 8 日の本会議において、所管常任委員会に付託いたしました。委員長より審査終了の報告を受けました。つきましては、委員長より審査の経過と結果の報告を求めます。

初めに、総務常任委員会委員長天田富司男君、登壇願います。

〔総務常任委員会委員長天田富司男君登壇〕

○総務常任委員会委員長（天田富司男君） 先ほどに続きまして、御報告申し上げます。

議案第 99 号、平成 21 年度阿見町一般会計補正予算（第 6 号）うち総務常任委員会所管事項について、御報告申し上げます。

質疑を許しましたところ、6 ページ、学校施設耐震化の起債償還の方法についてお尋ねいたします。町財政の都合により、据置期間及び償還期限を短縮し、また繰り上げ償還もしくは低利に借りかえることができるという内容ですが、この内容はという問いに対し、学校の場合には、政府資金を借り入れることになると思いますので、そうなりますと、原則的には当初の条件ですね。例えば期間につきましては、その期間で償還していくということで、繰り上げ償還というのは今まで認められておりませんでした。ただし、19 年から 21 年の 3 カ年です。昭和の終わりくらいで金利がすごく高かったときがございまして、8% くらいときがあったんですが、それにつきましては、地方財政を圧迫しているということから、3 年間にわたりまして、繰り上げ償還する場合の保証金支払制度を免除することができるということで、3 年間については認めたという経緯があります。これは特例ですので、そういった条件が法改正で変わる場合がありますので、一応このような書き方をさせていただいているというようなことでございます。

次に、13 ページ、公共交通計画策定事業ということで、50 万 9,000 円の負担金が出ておりますが、この内容はの問いに対し、阿見町公共交通活性化協議会の中で、社会実験として、今回は 3 カ月という限定で社会実験をやらせていただいております。いろいろなデータに基づきまして、22 年度後半から予定しておりますコミュニティバスの試行運行に反映させていきたいと考えております。議会最終日 18 日に、全員協議会で、公共交通の総合連携計画の素案ができましたので、こちらについては議員の皆様にご説明したいと考えております。

次に、ページ 33 ページ、消防費、庁舎維持管理費の調査委託料についてお尋ねいたします。

これは消防本部の建物に使用されているアスベストの分析調査委託料です。いわゆるアスベストは、クリソタイル、クロシドライト、アモサイト、アクチノライト、アンソフィライト、トレモライトと称してアスベストと言われており、平成 17 年に、クリソタイル、クロシドライト、アモサイトの 3 項目については分析調査を行ったわけですが、先ごろ、ほかの 3 項目、アクチノライト、アンソフィライト、トレモライトについても調査しなければならないという通達を受けて、分析調査を行いました。

17 年度の調査では、浮遊量基準は 1% 以上が分析対象となっておりますが、当初において検出されなかったと聞いております。しかし、今回の調査では、浮遊量基準が 0.1% に改正されていることもあり、結果として、クリソタイルが 0.1 を超えて浮遊されているとの測定結果が出たため、さらに空気中に含まれているアスベストの成分調査が必要となることから、補正をお願いするものであります。

以上、質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第 99 号、平成 21 年度阿見町一般会計補正予算（第 6 号）うち総務常任委員会所管事項は、全委員が賛成し、原案どおり可決いたしました。

以上、御報告申し上げます。

○議長（諏訪原実君） 次に、民生教育常任委員会委員長藤井孝幸君、登壇願います。

〔民生教育常任委員会委員長藤井孝幸君登壇〕

○民生教育常任委員会委員長（藤井孝幸君） 報告いたします。議案第 99 号、平成 21 年度阿見町一般会計補正予算（第 6 号）うち民生教育常任委員会所管事項について、御報告いたします。

質疑を許しましたところ、次の質問がありました。

29 万円の予算で、高齢者と子供のふれあい事業ということで、この内容はどのようなものでしょうか。

こちらの内容は、高齢者と子供さんのふれあい事業ということで想定しております。高齢者と子供さんが触れ合うための補助金として支出させていただいております。

どのようなふれあいなんですか。

例えば、掛馬であれば、文化系のひょっとことか、高齢者の方と子供さんが練習するために一緒にするとか、また、昔の遊び、そちらのほうを高齢者の方が子供さんに教えると、そういったことを地域で実施していただくために、ふれあい事業として行っているものがございますという答弁でございました。

大変よいことだと思います。地域で実施しているというんですけれども、どのぐらいの地域で実施しているのでしょうかという問いに対しまして、8カ所の老人クラブで実施しております。上郷、曙、中央北、青宿、富士団地、掛馬、一区南、阿見台、この8カ所となっておりますとの答弁でした。

質疑を終結して、討論に入り、討論なし。議案第99号、平成21年度阿見町一般会計補正予算（第6号）うち民生教育常任委員会所管については、全委員が賛成し、原案どおり可決をいたしました。

次に、議案第100号、平成21年度阿見町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）について、報告いたします。

質疑を許し、質疑なし。質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第100号、平成21年度阿見町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）については、全委員が賛成し、原案どおり可決をいたしました。

次に、議案第104号、平成21年度阿見町介護保険特別会計補正予算（第3号）について報告します。

質疑を許し、質疑なし。質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第104号、平成21年度阿見町介護保険特別会計補正予算（第3号）については、全委員が賛成し、原案どおり可決をいたしました。

次に、議案第105号、平成21年度阿見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）について、報告いたします。

質疑を許し、質疑なし。質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第105号、平成21年度阿見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）は、全委員が賛成し、原案どおり可決をいたしました。

以上、議案第99号、100号、104号、105号について、審査の経過と結果を報告いたしました。

当委員会の決定に対し、議員各位の御賛同をお願いし、委員長報告といたします。

○議長（諏訪原実君） 次に、産業建設常任委員会委員長紙井和美君、登壇願います。

〔産業建設常任委員会委員長紙井和美君登壇〕

○産業建設常任委員会委員長（紙井和美君） それでは、議案第99号、平成21年度阿見町一般会計補正予算（第6号）について、申し上げます。

質疑を許しましたところ、27ページ、農業委員会費で、その農業委員会の運営というのは、国・県から交付金が出ていると思いますが、その内容についての質問があり、それに対し、これは、国から農業委員会交付金ということで、毎年交付されています。内容は、農業委員の手当、それから職員の給与などに充てられます。本年度21年度につきましては、228万6,000円ほど交付されております。内訳は、農業委員手当といたしまして112万1,000円、職員設置費ということで116万5,000円となっておりますとの答弁でありました。

次に、29ページ、商工業振興費の阿見東部工業団地企業誘致事業、この企業誘致事業の現状について質問があり、まず、立地の状況を申し上げます。立地については、立地件数が現在14件で、会社数にすると13社です。立地率に直しますと41.8%になります。今年度の立地については、立地件数がまだゼロでございます。予約していたところが本契約をしましたが、立地が決まったのは今年度はゼロです。昨年度は1件でございました。こういった状況がございますので、今回議案でも、雇用促進条例奨励金を出していただきましたが、早期立地に向けて事業を進めてまいりたいと考えておりますとの答弁でありました。

次に、今操業している企業の中で奨励金の対象になっている企業は幾つあるのか、また、金額は幾ら

ぐらいになるのかとの問いに対し、奨励金の件数、3年間交付で毎年度変わります、今年度は10件を予定しております。金額ベースにしますと、今年度の最終的な予定といたしましては、5,700万円弱になりますとの答弁でありました。

質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第99号、平成21年度阿見町一般会計補正予算(第6号)つきましては、全委員が賛成し、原案どおり可決することに決しました。

続きまして、議案第101号、平成21年度阿見町公共下水道事業特別会計補正予算(第3号)について、申し上げます。

質疑を許しましたところ、質疑なし。質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第101号、平成21年度阿見町公共下水道事業特別会計補正予算(第3号)につきましては、全委員が賛成し、原案どおり可決することに決しました。

次に、議案第102号、平成21年度阿見町土地区画整理事業特別会計補正予算(第3号)について、申し上げます。

質疑を許しましたところ、質疑なし。質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第102号、平成21年度阿見町土地区画整理事業特別会計補正予算(第3号)につきましては、全委員が賛成し、原案どおり可決することに決しました。

次に、議案第103号、平成21年度阿見町農業集落排水事業特別会計補正予算(第3号)について、申し上げます。

質疑を許しましたところ、質疑なし。質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第103号、平成21年度阿見町農業集落排水事業特別会計補正予算(第3号)につきましては、全委員が賛成し、原案どおり可決することに決しました。

続きまして、議案第106号、平成21年度阿見町水道事業会計補正予算(第3号)について、申し上げます。

質疑を許しましたところ、質疑なし。質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第106号、平成21年度阿見町水道事業会計補正予算(第3号)につきましては、全委員が賛成し、原案どおり可決することに決しました。

当委員会の決定に対し、議員各位の御賛同をお願い申し上げ、委員長報告といたします。

○議長(諏訪原実君) 以上で委員長報告は終わりました。

これから討論に入ります。討論を許します。

18番細田正幸君。

○18番(細田正幸君) 私は、議案第99号から100号、101号、102号、103号、104号、105号、106号の8件について、一括して反対討論したいと思います。

第99号は、一般会計の補正予算ですけれども、この会計の中には、一番大きな項目として、小中学校の耐震工事が入っておりますけれども、これについては賛成したいというふうに思います。しかし、この提案された8件の主なものは、今回、人事院勧告に当たりましての職員給与、諸手当の減額の項目がほとんどでございます。私どもは、この不景気の中で公務員の給与を引き下げることについては、景気対策にもならないということで反対をいたしました。したがって、これらの8件の中の給与減額については、すべて反対をしたいというふうに思います。

以上です。

○議長(諏訪原実君) ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(諏訪原実君) これをもって討論を終結します。

これより採決いたします。

議案第99号から議案第106号までの8件についての委員長報告は、原案可決であります。本案8件

は、委員長報告どおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議あり」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議がありますので、順次採決いたします。

初めに、議案第 99 号を採決します。

本案についての委員長報告は、原案可決であります。議案第 99 号は、委員長報告どおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議あり」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議がありますので、起立によって採決をいたします。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君は、起立を願います。

〔賛成者起立〕

○議長（諏訪原実君） 起立多数であります。

よって議案第 99 号は、原案どおり可決することに決しました。

次に、議案 100 号を採決します。

本案についての委員長報告は、原案可決であります。議案第 100 号は、委員長報告どおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議あり」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議がありますので、起立によって採決をいたします。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君は、起立を願います。

〔賛成者起立〕

○議長（諏訪原実君） 起立多数であります。

よって議案第 100 号は、原案どおり可決することに決しました。

次に、議案 101 号を採決します。

本案についての委員長報告は、原案可決であります。議案第 101 号は、委員長報告どおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議あり」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議がありますので、起立によって採決をいたします。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君は、起立を願います。

〔賛成者起立〕

○議長（諏訪原実君） 起立多数であります。

よって議案第 101 号は、原案どおり可決することに決しました。

次に、議案 102 号を採決します。

本案についての委員長報告は、原案可決であります。議案第 102 号は、委員長報告どおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議あり」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議がありますので、起立によって採決をいたします。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君は、起立を願います。

〔賛成者起立〕

○議長（諏訪原実君） 起立多数であります。

よって議案第 102 号は、原案どおり可決することに決しました。

次に、議案 103 号を採決します。

本案についての委員長報告は、原案可決であります。議案第 103 号は、委員長報告どおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議あり」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議がありますので、起立によって採決をいたします。
本案を原案どおり可決することに賛成の諸君は、起立を願います。

〔賛成者起立〕

○議長（諏訪原実君） 起立多数であります。

よって議案第 103 号は、原案どおり可決することに決しました。

次に、議案 104 号を採決します。

本案についての委員長報告は、原案可決であります。議案第 104 号は、委員長報告どおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議あり」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議がありますので、起立によって採決いたします。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君は、起立を願います。

〔賛成者起立〕

○議長（諏訪原実君） 起立多数であります。

よって議案第 104 号は、原案どおり可決することに決しました。

次に、議案 105 号を採決します。

本案についての委員長報告は、原案可決であります。議案第 105 号は、委員長報告どおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議あり」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議がありますので、起立によって採決いたします。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君は、起立を願います。

〔賛成者起立〕

○議長（諏訪原実君） 起立多数であります。

よって議案第 105 号は、原案どおり可決することに決しました。

次に、議案 106 号を採決します。

本案についての委員長報告は、原案可決であります。議案第 106 号は、委員長報告どおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議あり」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議がありますので、起立によって採決いたします。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君は、起立を願います。

〔賛成者起立〕

○議長（諏訪原実君） 起立多数であります。

よって議案第 106 号は、原案どおり可決することに決しました。

議案第 107 号 土地の取得について

○議長（諏訪原実君） 次に、日程第 6，議案第 107 号，土地の取得についてを議題といたします。

本案については、去る 12 月 8 日の本会議において、所管常任委員会に付託いたしました。委員長より審査の終了の報告を受けました。つきましては、委員長より審査の経過と結果の報告を求めます。産業建設常任委員会委員長紙井和美君、登壇願います。

〔産業建設常任委員会委員長紙井和美君登壇〕

○産業建設常任委員会委員長（紙井和美君） 続きまして、議案第 107 号，土地の取得について申し上げます。

質疑を許しましたところ、質疑なし。質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に

入り、議案第 107 号、土地の取得については、全委員が賛成し、原案どおり可決することに決しました。

当委員会の決定に対し、議員各位の御賛同をお願い申し上げ、委員長報告といたします。

○議長（諏訪原実君） 以上で委員長報告は終わりました。

これから討論に入ります。討論を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 討論なしと認めます。これをもって討論を終結します。

これより採決いたします。

議案第 107 号についての委員長報告は、原案可決であります。本案は、委員長報告どおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認めます。

議案第 107 号は、原案どおり可決することに決しました。

議案第 108 号 H21 地経交第 1-1 号行政バス購入について

○議長（諏訪原実君） 次に、日程第 7、議案第 108 号、H21 地経交第 1-1 号行政バス購入についてを議題といたします。

本案については、去る 12 月 8 日の本会議において、所管常任委員会に付託いたしました。委員長より審査終了の報告を受けました。つきましては、委員長より審査の経過と結果の報告を求めます。総務常任委員会委員長天田富司男君、登壇願います。

〔総務常任委員会委員長天田富司男君登壇〕

○総務常任委員会委員長（天田富司男君） 先ほどに続きまして、ご報告申し上げます。

議案第 108 号、H21 地経交第 1-1 号行政バス購入について、質疑を許しましたところ、入札では 2,800 万であります。行政バスの定価はお幾らぐらいですかという問いに対し、今回の購入に当たって入札を行ったわけですけれども、その際の予定価格等については非公開ということになっております。まあ、やはり 3,000 万円以上するものであることは確かなようでございます。というような答えでありました。

質疑を終結し、討論に入り、討論なし。討論を終結し、採決に入り、議案第 108 号、H21 地経交第 1-1 号行政バス購入については、全委員が賛成し、原案どおり可決いたしました。

以上です。

○議長（諏訪原実君） 以上で委員長報告は終わりました。

これから討論に入ります。討論を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 討論なしと認めます。これをもって討論を終結します。

これより採決いたします。

議案第 108 号についての委員長報告は、原案可決であります。本案は、委員長報告どおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認めます。

よって議案第 108 号は、原案どおり可決することに決しました。

行政改革について

○議長（諏訪原実君） 次に、日程第8、行政改革について。

本件につきましては、行政改革特別委員会に付議されている案件であります。委員会の審査経過につきまして、委員長より中間報告を求めます。

行政改革特別委員会委員長細田正幸君、登壇願います。

〔行政改革特別委員会委員長細田正幸君登壇〕

○行政改革特別委員会委員長（細田正幸君） それでは、命によりまして、行政改革に関する提言書を提案したいと思います。

行政改革に関する提言書（第1回）。平成21年12月18日、阿見町長川田弘二殿。阿見町議会議長諏訪原実。

行政改革特別委員会では、行政改革の勉強会、入札制度に関して執行部の説明を受けるなど、7回にわたり調査及び検討を重ねてきました。当町における入札制度の改善については、分離分割発注及び一般競争入札の取り入れなど、改善を行っておりますが、落札金額の高どまり及び入札で落札できなかった業者が同工事の下請に入るなど、不透明さが指摘されていることから、今回、入札制度の改善について提言することといたしました。これらの問題を改善するために、以下を提言いたします。なお、回答は、平成22年第1回定例会初日までをお願いいたします。

記。入札発注制度の改善について。

1つ、入札参加業者に、より一層の企業努力を促し、落札金額が同じような高どまりにならないよう注意を喚起すること。

2つ、入札に参加し落札できなかった業者を同工事の落札業者の下請とする場合は、下請金額が総請負代金の20%以下になるような一定の基準を設けること。

以上でございます。よろしく願いをいたします。

○議長（諏訪原実君） 以上で委員長報告は終わりました。

執行部におかれましては、ただいまの委員長報告における改革の趣旨を十分理解されまして、今後、検討されるよう要請いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） はい。

○13番（小松沢秀幸君） 今の行政改革に関する提言書（第1回）（案）、これもう届いてますが、細田さん、丸2番の一番下の項目で、総請負代金の50%以下というふうに文書化されています。今20%って言ったよな。

○行政改革特別委員会委員長（細田正幸君） それは、委員会の最初の案で、その後全協では20%と、厳しく訂正してあります。だから、その前の委員会の中では、50%とすると、全協で20%にすると厳しくされた。そうそうそう。

○議長（諏訪原実君） はい、いいですか。

○13番（小松沢秀幸君） はいはい、わかりました。

議会運営委員会及び常任委員会並びに特別委員会の閉会中における所管事務調査について

○議長（諏訪原実君） 次に、日程第9、議会運営委員会及び常任委員会並びに特別委員会の閉会中における所管事務調査の件を議題といたします。

議会運営委員会委員長及び各常任委員会委員長並びに特別委員会委員長から、閉会中における所管事務調査の申し出があります。

お諮りします。本件に御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認め、さよう決定いたしました。

次に、副議長千葉繁君より、副議長の辞職願が提出されております。

お諮りします。この際、副議長辞職の件を日程に追加の上、直ちに議題とすることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認め、さよう決定いたしました。

副議長辞職の件

○議長（諏訪原実君） これより、追加日程第1、副議長辞職の件を議題といたします。

地方自治法第117条の規定により、除斥の対象となる9番千葉繁君の退席を求めます。

〔9番千葉繁君退場〕

○議長（諏訪原実君） それではここで、事務局長に辞職願を朗読させます。

事務局長、お願いします。

○事務局長（小口勝美君） それでは、朗読いたします。

辞職願。今般、一身上の都合により、副議長を辞職したいので、許可されるようお願い出ます。平成21年12月18日、阿見町議会議長諏訪原実殿、阿見町議会副議長千葉繁。

以上でございます。

○議長（諏訪原実君） お諮りします。9番千葉繁君の副議長辞職を許可することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認め、9番千葉繁君の副議長辞職を許可することに決しました。

ここで、千葉繁君の入場を許します。

〔9番千葉繁君入場〕

○議長（諏訪原実君） ここで、千葉繁君より、あいさつがございます。

千葉繁君、登壇願います。

〔9番千葉繁君登壇〕

○9番（千葉繁君） 副議長退任に当たりまして、一言お礼の言葉を申し上げたいと思います。

議員の皆さん、そして執行部の皆さん、1年9カ月、副議長としていろいろなところで御指導を賜りました。また、御協力もいただきました。心から御礼を申し上げます。

私にとって、この1年9カ月そして議員としての10年間、いろいろなことを経験させていただきました。この経験を礎に、さらなる目標に向かって邁進していきたいと思っています。今後とも、御指導を賜りますことをお願い申し上げ、そしてまた、皆様の御活躍を御祈念申し上げて、退任のあいさつとさせていただきます。本当にありがとうございました。

○議長（諏訪原実君） ただいま、副議長が欠員となりました。

お諮りします。この際、副議長選挙を日程に追加し、直ちに選挙を行いたいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認め、さよう決定しました。

副議長選挙

○議長（諏訪原実君） これより、追加日程第2、副議長選挙を行います。
立候補される方はおられますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 立候補者が1名であります。

立候補された8番藤井孝幸君、所信表明をお願いをいたします。

〔8番藤井孝幸君登壇〕

○8番（藤井孝幸君） このたび1名という立候補者でございましたが、私、今回、残された任期はそう長くはないんですが、副議長として議長を懸命に支えて、任期期間中、任務を全うしたいというふうに思っております。どうぞ皆様方、よろしくお願ひします。

○議長（諏訪原実君） お諮りします。立候補者が1名でございますので、ただいま立候補された藤井孝幸君を副議長に当選することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認め、副議長を藤井孝幸君に決定いたしました。よろしくお願ひします。

大変失礼をいたしました。ただいま副議長に当選されました藤井孝幸君が議場におられますので、本席から会議規則第33条第2項により、告知をいたします。

それでは、ここで藤井孝幸君よりあいさつがございます。藤井孝幸君、登壇をお願いをいたします。

〔8番藤井孝幸君登壇〕

○8番（藤井孝幸君） 就任のあいさつということでございますが、私もまだ若輩者でございます。わずか6年足らずの議員生活ではございますが、副議長の職を拝命いたしましたことは、大変光栄に思っております。この重圧に、重責に負けないように、しっかりと議長を補佐し、副議長の責を全うする所存でございますので、どうか皆様方、今まで以上に御協力、御支援をお願いをいたします。よろしくお願ひします。

○議長（諏訪原実君） 次に、千葉繁君から議員辞職願が提出されております。

お諮りいたします。この際、千葉繁君の議員辞職の件を日程に追加の上、直ちに議題とすることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認め、さよう決定いたしました。

議員辞職の件

○議長（諏訪原実君） これより、追加日程第3、議員辞職の件を議題といたします。

地方自治法第117条の規定により、除斥の対象となる9番千葉繁君の退席を求めます。

〔9番千葉繁君退場〕

○議長（諏訪原実君） それではここで、事務局長に辞職願を朗読をさせます。

○事務局長（小口勝美君） それでは、朗読いたします。

辞職願。今般、一身上の都合により、平成21年12月18日をもって、議員を辞職したいので、許可されるようお願い出ます。平成21年12月18日、阿見町議会議長諏訪原実殿、阿見町議会議員千葉繁。

以上でございます。

○議長（諏訪原実君） お諮りいたします。9番千葉繁君の議員辞職を許可することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（諏訪原実君） 御異議なしと認め、9番千葉繁君の議員辞職を許可することに決しました。千葉繁君の入場を認めます。

〔9番千葉繁君入場〕

○議長（諏訪原実君） これで、本定例会に予定されました日程はすべて終了しました。

ここで、町長より発言を求められておりますので、発言を許します。町長川田弘二君。

○町長（川田弘二君） 平成21年第4回定例会の閉会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

議員各位には、本定例会に提案いたしました案件につきまして、慎重審議の上、全議案とも議決いただき、まことにありがとうございました。また、一般質問などを通してさまざまな御意見をいただき、ありがとうございました。

さて、今年は世界同時不況の影響を受け、企業の業績不振や雇用情勢が悪化し、一時景気回復の兆しが見えたものの、デフレ状況に陥り、さらにはドバイショックによる円高など、日本経済情勢は不安定でありました。また、瞬く間に世界中に蔓延した新型インフルエンザの影響によるさまざまな事業の中止や、それに伴う個人消費の落ち込みなど、変化の激しい1年でありました。

しかしながら、阿見町では、あみプレミアム・アウトレットのオープンや、まい・あみクーポン券の発行、阿見産ヤーコン入り「予科練の街クッキー」の新商品の開発・販売など、地域活性化につながる明るい話題が多い年でもありました。

平成21年度も下半期に入り、現在は平成22年度の予算編成作業に入っているところでありますが、平成20年度後半以降の景気後退の影響により、企業収益の減少に伴う法人税の減収が見込まれます。また、政権交代により、各種施策方向転換や行政刷新会議による事業仕分けなどにより、今後の地方行政も、さらに厳しいかじ取りを強いられることも予想されております。

しかしながら、行政には、住民の多種多様なニーズに即応したサービスや、住民福祉、自主的、主体的な地域づくりなどに積極的に取り組み、さまざまな施策を着実に進める大きな役割が課せられております。来年2月にはいよいよ予科練平和記念館が開館します。このような地域特性を最大限に活かし、さらなる阿見町の発展のため、引き続き努力してまいりますので、議員各位には、なお一層の御指導、御協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

ただいまは、千葉議員の副議長辞職、また議員辞職というような話がありました。これは、いろいろな形で来年に予定される大きな動きと関連しての話と思います。千葉議員には、3期途中でということでもありますけれども、これまでいろいろ町政に対して御協力をいただきました。感謝申し上げます。

今年も残すところあと十日余りとなりましたが、これから年末年始にかけて、寒さも一段と厳しくなっております。どうか、議員各位が健康に十分御留意されまして、よいお年を迎えられますとともに、ますますの御活躍を御祈念申し上げます。閉会に当たりましてのあいさつといたします。

どうもありがとうございました。

閉会の宣告

○議長（諏訪原実君） それでは、議員各位には終始熱心に審議を尽くされ、ここにすべてを議了し、滞りなく閉会の運びとなりました。議員各位並びに町長を初め執行部の各位の御協力に深く感謝を申し上げますとともに、今後とも御自愛、御健勝を祈念をいたします。

これもちまして、平成21年第4回阿見町議会定例会を閉会といたします。
どうも御苦労さまでございました。

午前11時34分閉会

地方自治法第 123 条第 2 項の規定により署名する。

議 長 諏訪原 実

署 名 員 柴 原 成 一

署 名 員 浅 野 栄 子

参 考 资 料

平成 21 年第 4 回定例会 議案付託表

付託委員会名	議案番号	件名
総務常任委員会	議案第 88 号	阿見町長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定
	議案第 91 号	について
	議案第 92 号	阿見町附属機関の設置に関する条例の一部改正について
	議案第 94 号	阿見町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について
	議案第 98 号	阿見町公共施設の暴力団等排除に関する条例の一部改正について
	議案第 99 号	阿見町手数料徴収条例の一部改正について
	議案第 108 号	平成 21 年度阿見町一般会計補正予算（第 6 号） 内 総務常任委員会所管事項 H 2 1 地経交第 1 - 1 号行政バス購入について
民生教育常任委員会	議案第 91 号	阿見町附属機関の設置に関する条例の一部改正について
	議案第 92 号	阿見町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について
	議案第 96 号	阿見町立学校給食センターの設置, 管理及び運営等に関する条例の一部改正について
	議案第 97 号	阿見町立図書館の設置及び管理に関する条例の一部改正について
	議案第 99 号	平成 21 年度阿見町一般会計補正予算（第 6 号） 内 民生教育常任委員会所管事項
	議案第 100 号	平成 21 年度阿見町国民健康保険特別会計補正予算（第 3 号）
	議案第 104 号 議案第 105 号	平成 21 年度阿見町介護保険特別会計補正予算（第 3 号） 平成 21 年度阿見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第 3 号）
産業建設常任委員会	議案第 89 号	阿見町農業委員会の委員の定数に関する条例の制定について
	議案第 90 号	阿見町農業委員会委員選挙区設定条例の制定について
	議案第 93 号	阿見町工場誘致条例の一部改正について
	議案第 95 号	阿見町都市公園条例の一部改正について
	議案第 99 号	平成 21 年度阿見町一般会計補正予算（第 6 号） 内 産業建設常任委員会所管事項
	議案第 101 号	平成 21 年度阿見町公共下水道事業特別会計補正予算（第 3 号）
	議案第 102 号	平成 21 年度阿見町土地区画整理事業特別会計補正予算（第 3 号）
	議案第 103 号	平成 21 年度阿見町農業集落排水事業特別会計補正予算（第 3 号）
	議案第 106 号	平成 21 年度阿見町水道事業会計補正予算（第 3 号）
	議案第 107 号	土地の取得について

閉会中における委員会（協議会）の活動

1. 委員会（協議会）の活動

平成21年9月～平成21年12月

委員会名	月 日	場 所	事 件
議会運営委員会	11月18日	全員協議会室	<ul style="list-style-type: none"> ・議場音声映像システムの改修について ・請願及び陳情の取り扱いについて ・議場への国旗掲揚について ・その他
	12月1日	第2委員会室	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回定例会会期日程について ・その他
総務 常任委員会	10月6日	全員協議会室	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度町行政施策及び予算要望について ・その他
民生教育 常任委員会	10月15日	全員協議会室	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度町行政施策及び予算要望について ・その他
産業建設 常任委員会	10月7日	全員協議会室	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度町行政施策及び予算要望について ・その他
行政改革 特別委員会	10月26日	全員協議会室	<ul style="list-style-type: none"> ・12月提言について ・その他
	11月10日	全員協議会室	所管事務調査 <ul style="list-style-type: none"> ・発注標準金額及び格付等級区分について ・同一入札参加業者による下請けについて ・一般競争入札対象工事の県内状況について ・提言書内容検討
議会だより 編集委員会	10月21日	第2委員会室	<ul style="list-style-type: none"> ・議会だより第122号の発行について ・その他
	10月30日	第2委員会室	<ul style="list-style-type: none"> ・議会だより第122号の校正について ・その他
	11月16日	第2委員会室	<ul style="list-style-type: none"> ・議会だより新年号について ・その他
全員協議会	9月25日	全員協議会室	<ul style="list-style-type: none"> ・正当な理由なく長期にわたり議会に出席しない議員の取扱いについて ・その他
	10月23日	全員協議会室	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞報道について ・その他
	11月16日	全員協議会室	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度町行政施策及び予算要望について ・その他

	11月24日	全員協議会室	<ul style="list-style-type: none"> 阿見町職員の給与に関する条例等の一部改正について 阿見町工場誘致条例の一部改正について 土地区画整理事業の進捗状況について 地域防災計画について その他
	11月26日	全員協議会室	<ul style="list-style-type: none"> 阿見町農業委員会の委員の定数に関する条例の制定について 阿見町農業委員会委員選挙区設定条例の制定について 霞クリーンセンターの維持・管理費について 阿見町長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定について 地域防災計画について その他

2. 一部事務組合議員活動状況

組 合 名	月 日	事 件	議決結果等	出席者
土浦石岡地方社会教育センター一部事務組合	10月19日	全員協議会 <ul style="list-style-type: none"> 土浦石岡地方社会教育センター一部事務組合監査委員の選任の同意について 平成20年度土浦石岡地方社会教育センター一部事務組合会計歳入歳出決算の認定について 土浦石岡地方社会教育センター一部事務組合の解散について 		浅野栄子 難波千香子
		第2回定例会 <ul style="list-style-type: none"> 土浦石岡地方社会教育センター一部事務組合監査委員の選任の同意について 平成20年度土浦石岡地方社会教育センター一部事務組合会計歳入歳出決算の認定について 	原案同意 阿見町 難波千香子氏 原案認定	浅野栄子 難波千香子

龍ヶ崎地方衛生組合	10月21日	<p>全員協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成21年第2回組合議会定例会提出予定案件について 談合事件の経緯等について その他 		大野孝志 吉田憲市
	10月30日	<p>第2回定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> 龍ヶ崎地方衛生組合議会副議長選挙について 龍ヶ崎地方衛生組合監査委員の選任について 平成20年度龍ヶ崎地方衛生組合一般会計歳入歳出決算について 平成21年度龍ヶ崎地方衛生組合一般会計補正予算（第1号） 平成22年度龍ヶ崎地方衛生組合分賦金割合について 	<p>稲敷市 井戸賀吉男氏 取手市 小泉眞理子氏 原案認定</p> <p>原案可決</p> <p>原案可決</p>	大野孝志 吉田憲市
	11月5日 ～6日	<p>研修視察</p> <ul style="list-style-type: none"> 視察先 山形県東根市外二市一町共立衛生処理組合クリーンピア共立 		大野孝志 吉田憲市
牛久市・阿見町斎場組合	10月13日	<p>全員協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成21年第2回組合議会定例会の議案説明について 斎場運営状況報告について 利用者アンケート調査結果報告について その他 		細田正幸 小松沢秀幸 久保谷実
		<p>第2回定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成21年度牛久市・阿見町斎場組合一般会計補正予算（第1号） 平成20年度牛久市・阿見町斎場組合一般会計歳入歳出決算認定について 	<p>原案可決</p> <p>原案認定</p>	細田正幸 小松沢秀幸 久保谷実
	11月16日 ～17日	<p>研修視察</p> <ul style="list-style-type: none"> 視察先 栃木県宇都宮市斎場 悠久の丘 栃木県日光市斎場 日光聖苑 		細田正幸 小松沢秀幸 久保谷実